



新聞切り抜きに見る 女の16年 II メキシコ会議前夜 1973~1974



事実に基づいて真実を考える——あごろ

- 1号<女が働くこと> ￥200
●資料 働く女は過保護か ●調査 共働き実態
●意見 女が働くこと 松谷みよ子ほか (品切)
- 2号<女性と能力> ￥200
●調査 働く女性の地位向上をめぐる はか
- 3号<主婦の解放> ￥200
●調査 団地の主婦の解放意識
●討論 主婦の解放 ●解説 二分二乗法
- 4 / 5号<何かしたい主婦のために> ￥300
●記録 何かしたい主婦のためのセミナー
●壁を破った人々 ●資料 2つの差別裁判
- 6 / 7号<運動をすすめよう> ￥350
●報告 解放への道——海外の女性たち
●資料 各国の母性保護 ●討論 運動をすすめる
- 8号<子殺しを考える> ￥380
●資料 世界各国の妊娠中絶立法例
●討論 性の二重性をめぐって (品切)
- 9号<働く女と主婦の接点> ￥430 (品切)
●論文 働く女と主婦の接点 神田道子ほか
●調査 働く女と主婦 ●討論 人口抑制と産む性
- 10号<女と法> ￥700 (品切)
●記録 名古屋放送女子若年定年制
●資料 法律の中の女性 ●討論 産む性と法律
- 11号<女と教育> ￥750 (品切)
●論文 主婦が学ぶということ 伊藤雅子
●調査 教科書の中の女性差別 ●討論 女と教育
- 12号<メキシコ会議と世界行動計画> ￥750
●記録 国際婦人年世界会議とトリビューン
●資料 世界行動計画、ILO活動計画ほか
- 13号<国際婦人年国内集会と行動計画> ￥750
●記録 国際婦人年国内集会
●調査 国際婦人年 ●討論 メキシコ会議
- 14号<女の記録入選発表> ￥750
●隣がこわい 佐多稲子 ●アメリカ考察 水田珠枝
●新女大学研究 エリザベス・マウア
- 15号<職場の中の女性差別> ￥750
●調査 日本の著名企業100社にみる男女差別
●概説 女子労働市場の現場 正木直子 (品切)
- 16号<女と結婚> ￥750
●文化人類学から見た日本の結婚・祖父江孝男
●討論「結婚の幻実」●随想 私と結婚 (品切)
- 17号<女と生涯学習> ￥780
●生涯学習への提言 ●女子成人教育の問題点
●調査 婦人学習グループ ●ルポ 女が学ぶ所
- 18号<いま女性解放は> ￥1300
●討論 日本の女性運動をどう展開するか
●ルポ いま職場でたたかう39人の女たち
●資料 女性差別に関する国連条約ほか (品切)

- 19号<女にとって子どもとは> ￥800
●論文 日本近代の国家と母性 中島 邦ほか
●資料 優生保護法改訂をめぐる経過 (品切)
- 20号<女性解放と男女雇用平等法> ￥1300
●論文 女性史におけるウーマンリブ 水田珠枝
●論文 女性解放論の模索と反省 田中寿美子
●資料 労基研報告 雇用平等法案ほか (品切)
- 21号<子と母の関係を問う> ￥1100
●論文 親ばなれ子ばなれ考 伊藤雅子 ほか
●調査 著名企業144社にみる女性の就労状況
- 22号<男女平等と母性保障> ￥1200
●保護派と平等派の接点を求めて
●いま女の働く場は——現場からの報告
- 23号<女たちは、いま変わる> ￥1500
●コペンハーゲン会議と女性差別撤廃条約
- 24号<女と戦争> ￥1500
●ふたたび戦争を起こさないために
- 25号<女と情報> ￥1500
●つくられる女からつくる女へ●情報化社会と女
- 26号<女がモノを言うということ> ￥1500
●情報化社会の中での自己確立を目指して
- 27号<いま平和を支える> ￥1500
●女たちの発言と行動の記録
- 28号<産む産まない産めない> ￥1800
●優生保護法をめぐる考察と運動の記録
- 29号<子どもがあぶない> ￥1400
●危ないのは子どもだけか…問題の本質をさぐる
- 30号<均等、平等、保護> ￥1600
●実質的平等、結果の平等を問う均等法を考える
- 31号<均等法、派遣法、そして……> ￥1600
●均等法以後、どう変わるか、何をすべきか
- 32号<記録ナイロビ会議> ￥2000
●国連とNGOの2つの会議 ●2000年への戦略
- 33号<新聞切り抜きに見る女の16年> ￥1800
I. リブの台頭(1970~72) ●女性記者座談会
- 34号<有縁の女・無縁の女・選択縁の女> ￥1800
<あごろ>15周年記念特集
●アグネス・真理子 花の応援団
- 35号<新聞切り抜きに見る女の16年> ￥2500
II. メキシコ会議前夜(1973~74) ●女性記者座談会

新聞切り抜きに見る女の16年 II

1973～1974

メキシコ会議前夜



一九七三年一月、ベトナム和平交渉に関係四か国が正式調印、八年に及んだベトナム侵略戦争は終結への一步を踏み出したが、「昭和元祿」に酔う日本では、「日本列島改造」ブーム、地価暴騰、物価高騰の嵐となった。

同年秋、第四次中東戦争が勃発、石油の三〇パーセント供給制限と三〇パーセント値上で、深刻な構造不況が世界を覆う。日本でも、石油不足、電力の制限で景気は悪化、失業、レイオフ、まずパートと女性から解雇や賃金の遅配、欠配が始まる。戦後初めて実質GNPが前年を下回り、「消費は美德」から「節約は美德」へ世相は一転した。

女たちは政府を糾弾し、各地でデモや集会を開催。七四年夏の参院選では、野党は自民に七議席差と追い上げ、保革伯仲が実現した。空前の金権選挙といわれるなか、女性議員は立候補十八人中八名、市川房枝は二百万票を得て全国区二位当選と健闘。革新パワーは年末には田中政権を退陣に追いこみ、新しい時代を拓いた。

女たちは優生保護法や刑法改悪反対、就業差別訴訟、買春根絶、有害食品追放、靖国法案阻止と多岐にわたる問題で抗議グループを結成、共闘を進めたが、国際婦人年前夜の欧米諸国の動きはほとんど伝えられず、夜明け前の重さに覆われていた。しかし、この時期、女性問題関係の新聞記事は急増、女性がモノを言うこと、行動することが市民権を得はじめた。今日の女性運動の原点は、ほとんどこの時期にみられる。

新聞切り抜きに見る女の16年 II メキシコ会議前夜 (特集 34)

AGORAZEIN

新聞記事のうしろ側——女性記者に聞くII——

有馬真喜子・東浦めい・深尾凱子・松井やより・矢島翠

4

一九七三年

・風潮	45
・物価高・モノ不足／抵抗する消費者たち／ 欠陥商品・食品公害／合成洗剤	
・進出	56
・集会・活動	58
・集会・活動／売春防止法／キーセン観光／リブ／ 母親パワー／主婦パワー／グループ	
・労働	69
・看護婦／保母／内職	

・保育・教育	93
・保育所・幼稚園／育児／教育／家庭科共修	
・からだ	99
・妊娠／中絶／ピル	
・意見・投書	101
・相談	106
・人	108
・ひと／賞／訃報	
・本	114

一九七四年

法・制度・裁判	74
裁判(女子定年制/森永ミルク中毒事件/赤ちゃんあっせん事件/K子さん事件)	
制度(労基法/優生保護法改正案/育児休業制)	
調査・統計	88
労働/くらし	

風潮	145
物価狂乱・不況/抵抗する消費者たち/欠陥商品合成洗剤	
進出	157
集会・活動	160
集会・活動/怒れる主婦たち/リプも怒る/グループ/国際婦人年	
労働	171
看護婦/内職・パート	
法・制度・裁判	178
裁判/優生保護法/刑法改正/その他	
調査・統計	184

あこら読書室	266
めじゃあなりすとのめ	270
あこらのあこら	271
編集後記	272

繁栄のかけに	117
子捨て/子殺し/世相/福祉の貧困/ボランティア/公害・薬害/戦争のきずあと	
海外	124
中国/ベトナム/イギリス	

保育・教育	192
育児・保育/保育所/富士学園/教育	
からだ	199
妊娠/中絶/出産	
意見・投書	202
相談	212
人	214
ひと/賞/訃報	
本	229
繁栄のかけに	237
子殺し/母子心中/世相/福祉の貧困	
海外	247
韓国/シンガポール/中国/アメリカ	

AGORAZEIN

新聞記事のうしろ側

メキシコ会議前夜 (1973~74)

女性記者に聞く

有馬 真喜子

横浜女性フォーラム館長
(元フジテレビキャスター)

東浦 めい

茨城県立婦人会館館長
NHK解説委員

深見 凱子

読売新聞編集委員

松井 やより

朝日新聞編集委員

矢島 翠

文筆業(元共同通信記者)

司会 / 斎藤 千代

あごら編集部

斎藤 きょうはお忙しいなか、ほんとうにありがとうございます。

昨年、私の十五周年記念の仕事の一つとして、これまで集め続けてきた女の記事の切り抜きを『新聞切り抜きに見る女の十六年』として刊行することにし、第一分冊として、一九七〇年から七二年の動きを追ったものを『リブの台頭』というかたちで出しました。ことは第二分冊として『メキシコ前夜』のタイトルで、七三~七四年の分をまとめてみました。

前回、一つ一つ記事を読み返しながら、記事になった方々のことと同時に、記事を書かれた方々のご苦労を思い、『新聞記事のうしろ側』という話し合いを設けましたところ、たいへん好評でしたので、今度もジャーナリストの方々をお迎えしたわけです。

今回は、メキシコ会議を取材された皆様にお願いました。毎日の安東さんと、当時サンケイにいらした宮部さんがおいでになれなくて残念ですが、こんなに大

勢いらしていただいて感激しております。

ただ残念なのは、若手の方々もお見えになるはずだったのが、皇居の待機で、どなたもおいでになれなかったこと。何となくオバン世代の集いみたいになりました(笑)。メキシコを取材されたなつかしいお顔ぶれの再会で、皆様がいま一番お話しになりたいのは「メキシコ会議」のことだと思いますが、今夜はあえて「その前夜」にしばっていたきたいと、編集部から勝手なお願いを申し上げます。実は、七三、四年に何があったかな、

と考えたとき、この切り抜きを再編集するまでは、私はほとんど思い出せなかったのです。まだ子育てに追われていたうえ、石油ショックで紙が大暴騰し、私のような零細出版社はパニック状態。いろんなショックで大変だったなあと、そんな個人史を思い出しました。

ところで、その当時の新聞を見ますと、石油ショックの翌年の春闘で、大企業の賃金は軒なみ三〇%アップになっているのですね。その少し前からの列島改造で、

地価暴騰、資産格差拡大の中で、大企業と零細企業の格差もグンと開いていることに愕然としました。

当時は、これに対する怒りがなかったのですけれども、今日と非常によく似ている現象を見ると、構造的な部分がはっきりと見えてくる、そんな思いを深くしました。

モノに対する信仰が否応なしに深まっていく中で、それまでは「子捨て」だったのが、このころから「子殺し」に変わっている。コインロッカーが流行語になっ

アメリカでは家政学会もリブ旋風

矢島 私は七四年の八月から二年間ニューヨークにいました。ウォーターゲートの直後ですし、ベトナム戦争がほとんど終わりと向かう、たいへんおもしろい時代でした。

だいたいニューヨークにいますと、国連が取材分野の一つになるのですが、あ

たのはこの時期だったのだなあと、胸にこたえました。

国際的には、南北問題が注目を集める一方、ベトナム戦争をやめるといってやめないと、ウォーターゲートとか、世の中が大きく変わる前兆が見えていた時期のような気がします。

矢島さんはこのころニューヨークにいらしたので、私たちよりもマクロな流れをごらんになってらしたのではないでしようか。

のころは、ベトナム戦争で解放勢力側が最終的に勝利を収めた時代、だから、第三世界側の弱さとか、対立や分裂とか、危機がまだ出て来なかったころで、喜びにあふれていた時代ですね。第三世界の力がたいへん強くて、国連は、建て前として一国一票ですから、そういう新しく

加盟した小さい国々の票がものを言っていて、その第三世界の力というのが大きくクローズアップされていた時でした。

いわゆる新経済秩序、先進国と途上国の経済格差をなくす新しい秩序が必要だという主張を、特にメキシコのエチエベリア大統領が先頭に立って出していた。

国連の主たるパワーである男性たちによって、「国際婦人年世界会議」も、その流れの中で位置づけられてしまったくらいがあったと思うのですね。

で、実際の婦人会議でも、私は残念ながらことに、トリビュン（民間会議）のほうはあんまり拝見できなかったのですけれども、国連本会議のほうは、やはり新経済秩序を目ざす途上国の発言というのがたいへん大きく前面に出て、そっちのほうに引っぱられた、という印象があります。

斎藤 民間会議のほうも南北問題にショックを受けました。

東浦 会議のとき、ほかの資料はなんにも手に入らないのに、エチエベリア大統領

領の新経済秩序ばかりは、ダートと椅子の上に配られててね、それがまず印象的でしたね。

斎藤 松井さんは、そのちょっと前にアメリカにいらしたのですか。アメリカのリブはすごいっておっしゃってた記憶があるのですが。

松井 私がそのちょっと前ぐらいに行ったのは東南アジア……。アメリカは七〇年ごろですよ。ウーマンリブがピークだった。

深尾 「前夜」で、私 思い出すのは、

七三年、七四年ごろのアメリカの状況です。例えば七三年は、コロラド州で行われたアメリカの家政学会の総会に出席するためにアメリカに行ったわけです。日本有家政学の先生たちといっしょに。したら、その家政学会のゲスト・スピーカーに、あの女性運動の闘士のロビン・モーガンが招かれていたんです。有馬 ええつ、モーガンが！ そうだったわけ……。そうだ、私、あのときの深尾さんの記事を読んだ覚えがあるんだわ。

深尾 そうですか。それでね、そのころ日本ではまだ、家政学というと言っちゃ悪いけど、お豆の煮方とかワイシャツの襟がどうかなど、そういう感覚で、家政学の中に女性運動の視点なんかまったくないときに、アメリカでは、家政学会にああいう女性運動の闘士がやって来て、もう、ものすごい熱気なわけ。それで『Sisterhood is powerful』っていうあの著書を、ペーパーバックでこんなに持ってきてね、それをみんなが争って買うのね。

有馬 彼女、この九月に、横浜女性フォーラムのオーブニング・シンポジウムに来てもらった。

深尾 そう？ そこでアメリカの女性運動の現状と、そのころの日本の、まだ眠ったような現状との差というのを、いやとていほど見せつけられましたね。

斎藤 七三、七四年は、日本では田中さんたちのリブとか中ピ連とかが……。

深尾 ええ、それはそうなんですけれど、まだ一部の人でしょう。ところが、日本



深尾さん

の家政学といったらまるで保守の代名詞みたいな時代に、アメリカでは、家政学会でそういうような進歩的な視点で討論するんですね。

矢島 そうね、だから七〇年代の初めというのは、アメリカの女の運動が、一部の過激な、家庭を否定して、外に出ろという、そういう一方的な見方から抜け出して、一般の人の間に普及していった時代だと思っんです。で、ちょうど、ERA——男女同権を保障する憲法修正案が、七二年に通った。そのあと十年間、結局批准する州の数が足りなくて、駄目になってしまったけれど、ちょうどそのERAを通そうという旗のもとに団結して、

全米女性会議NOWなんかが、たいへん、支部を増やしてた時なんですね。だから、ほんとに普及と定着の時期という感じがしました。

六〇年代からのベトナム反戦、人種差別反対運動や対抗文化の盛り上がりの中で、アメリカの、確かに一部の人の間では、意識革命があった。そしてその最良の部分で、女の人たちが受け継いだ、という感じが、インタビューなんかしてる

右に傾いたアメリカでの女の運動

松井 そのアメリカの女たちだけど、私、先週ニューヨークに行ってる、女性の会議に出たのですよ。もう失望落胆、アメリカって、ここまで落ちたのかという……率直に言ってるね。

私、おとし、ワシントンで女性ジャーナリスト会議に行ったら、「いかにしてトップになるか」っていうエリート指向ギンギラギンで、まるで男と同じ権力を

と、すぐするわけ。それまでの「私はアメリカ人でござい」という、そういう思い上がりから抜け出して、女なら誰でも、共通の問題を話し合おうとする態度が出来ていた。

そして、たいへんオープンなんです。ほかの人種に対して、ほかの文化に対して、開かれた態度を持ったという点では、女の運動の中の人たちが目立っていたと思います。

狙う感じでいってた。

こんどは、国際的な女性売買に反対する会議で、壇上にバンと書いてあるの。

“U.S. Conference on International Trafficking in Women”と書いてあって、“Protest global sex trade!”って。ところがそこで話していることは、やれ、インセスト（近親相姦）、レイプ、ホモセクシュアル、もう、フィリピンと

か韓国の人が基地売春のことをバンバン、バンバン言ってる。アメリカを非難したって、なんの反応もしないの。私の知り合いで、東京のかけこみセンター（H E L P）にいたカロラインとか、前にタイやフィリピンで活動していたルースという女性は「恥ずかしい」って、もう たまらなくなってる。マイクのほうに行ってる。「なんで私たちアメリカ女性はリスボンズ（反応）しないの。アジアの女性の生の声を聞こうとしないの」って。私もう、ほんとに驚いちゃった。どうしてこうなったのかって。

矢島 いまアメリカでは、「リベラル」ってのは悪口になってきたのですね。

松井 ものすごい右傾化ですよ。ブッシュが大勝するはずよ。

シャーロット・バンチっているでしょ、フェミニストの。彼女なんか「こんな人たちと一緒にやる気ない」って、こんどはかわらなかつたそうよ。彼女はペルーに行ったり、前に日本にも来てアジアのことなんか知って、「グローバル・

フェミニズム」を唱えてるから、「どうしようもない」って嘆いていたわ。

二年前のワシントンでの会議が、マスコミの、普通の働く女の人なんか眼中にないわけ。どうしたらマスコミで成功するか、という発想。今回はもっぱら個人的な話ばかり。黒人とかメキシコ系とか、そういう人は全然来ていないわけよ。で、ブラックとかアジア系の人たちが来る女性の会議だと、経済や社会構造的なことを言うけど、マルクス主義的な、革命的なことをガガーンと言ったり、そうなるフェミニズム的でなくなっちゃう。だから驚いちゃった。結局、最近のアメリカの女性運動は、エリート的男女平等を言う人たち、他人の問題にこだわる内向きの人たち、両方とも白人女性が中心だけど、それに黒人やアジア系の女性も入った社会派というか、ラディカルな人たち……。こういう三つの流れがあるみたい。ただ、シャーロットのように、第三世界の女性ともつながるグローバルな女性解放をやっているのはほんの少数。

とにかく、アメリカって「病める社会」だ。なあって、今度行つてつくづく感じちゃった。三百人ぐらい来ていた女性たちの中に、レイプや近親相姦の被害にあった人が何十人っているの。十何年経つてみて、アメリカのあの輝かしい女性解放運動はどこへ行ったのかと思つたわ。

矢島 七〇年代初めてのは、最良の時期だったわけよね。

東浦 私、おとし、ニュー・メキシコに行つたけど、もっと、はるかに健康な感じがしましたよ。カソリックの女の人たちが進歩派と保守派と二派に分かれてガンガンガンガンやりあつたりね。それから、カソリックの中で女を扱う姿勢がまるっきり保守的だ、っていうようなことをはつきり言う男の神父さんがいたりして、そういう意味では私は……。あるいは、過去にニューヨークにあったものが、だんだんだんだん地方に行き、ニューヨークのほうがより保守的になつたというか……。

松井 そうなの。ニューヨークのボルノ

反対運動の人たちが中心になって開いた会議だったのですよ。だからポルノについては、ものすごくギャツと反対してたのですけれどね。でも、表現の自由の問題がいろいろあって、権力に利用される面があるのに気づいていない。日本では嫁ぎ女性の問題をやっているフィリピンのリザ・ゴーさんなんか、「米国が海外でやっているひどいことに目を向けないなんておかしい。内向きになって、政治的なことを避けようとしている」って怒っていた。涙を浮かべるぐらい。

東浦 だから、土地によってずいぶん違うでしょうね。私、いま時々茨城で仕事をしてますけど、茨城は、いま、東京の



東浦さん

十年前か十五年前ぐらいの感じで……。深尾 日本みたいな小さい所でさえ、例えば東京と九州では違うんだから、あんなアメリカみたいに広い所だったら全然違うでしょうね。

斎藤 私たちもいま全国に十四の拠点がありますけれど、東京と十年違うって、地方の人たちは言ってますね。

東浦 そう思いますよ。

松井 絶対違う。ほんとに。

斎藤 十年より、ほんととはもつとあるけど十年って言うんだ、っていうくらい。

日本の女は十五年前と変わったか

斎藤 その一方、東南アジアの花嫁は、東京が一番多いんだそうですね。NHKでやってましたね。東京が絶対的な嫁不足だ、って。地方はまだ家とか財産とかあるけど、東京のニュー・プアー層で、親が同居だったりすると、もう来ない……。松井 この間も私、驚いちゃいましたよ、

松井 妹が、夫の仕事の関係で秋田にいたのですけどね、息がつまりそうで、ものが言えない、って言うの。ほんとに封建的だ、って。

斎藤 『あごら』みたいな悪い本をなんで作るのか、って、東北の書店から電話で怒ってきたことがある（笑）。

東浦 自治体がフィリピンからの花嫁を斡旋したりするところもあるんだから……。それが人権問題だと思わないような土壌ってのは、まだいくらでもあるわけですものね。

それで。韓国人の女性を専門にやってる結婚仲介業者のところに行ったら、その人、全然恥ずかしいとも思わずに言うわけなの。「これ見てください」って、バーンとアルバム見せられる。「ほら、この男、こんな男に日本の女の人、嫁に行きますか」って言うの。「この男、一メー



松井さん

トル五十センチしかないんですよ。中卒ですよ。こぶつき、つまりお姑がいて、日本の女の人、誰が来ますか」「見てください、こんな美人の韓国の女性が来てるでしょう。この男、手が一本ないでしょう。でも来てますよ、私が片腕になりたいて、これ、大学出た女性ですよ」だって。もう、何か異様な感じ。学歴差別なんです。中卒の男性はもうほとんど、結婚紹介所で申し込みを受けつけないんだって。

齋藤 これもTVニュースで見たのですけど、今は求婚者が、男六に対して女が四だとか……。

松井 そう、男性の結婚難なのよね。

深尾 国際婦人年「前夜」と今と、ある面では革命的に変わってますね。

齋藤 変わりましたね。たしかに変わってる。

東浦 でも、国際化国際化と言われる中で、人権思想とか、そういうものについては変わってない。

齋藤 その点では変わってない。日本の女の人が一番変わってないのは、人権思想でないかと思えますね。

矢島 それだけではないんじゃないですか、それは（笑）。集団主義というのか、モノトーン主義というのか、周りに合わせるっていうのじゃないですか。わが道を行くっていうのは、なかなか今、難しいでしょう。

齋藤 そういう部分もありますが、若い人はずいぶん個性的になったという感じが私はしますけどね。

矢島 いや、個性的だけど、集団の中に入ると、そうだと思ふのよ、私は。天皇報道なんかも、全く変わらないと思うんですよ。

齋藤 天皇報道のなだれ現象はショックですけど、東浦さんなんか、どうお思いになりますか。私たちの世代に比べたら、いまの若い人たちは個性的ですよ。

松井 私、全然個性的だと思わない。今の若い人たちは全く無個性。逆じゃないですか。

有馬 昔とおんなじよ。

松井 驚いちゃうのよね、私。

東浦 ただね、現象的にはおもしろいことがあるんですよ。『笑点』という番組があります。あれで、最後に大喜利をやります。そこで司会の円楽が「ご主人」って最初言ってるね、あ、こう言うって抵抗のある人がいるかもしれない、「旦那」と言いましょう、って、スツと変えたの。落語のこういう席でね、「主人」というのが抵抗があるっていうことをサラッと行って、それがサラッと通じるという意味では、かなりの変わり方だと思う。これ、十三年か十四年前には、落語家の誰が、そんなこと言ったかなあと思うのね。

松井 変わった点と変わらない点と、両

方あるからでしょう。何が変わったのか、
どういう方向で変わったかという、あ
んまり喜べない。社会的関心とか責任感
とか、そんなものはダサイ。モノがあふ
れているので、外見だけは個性的になっ
ても、アタマの中は全く没個性……。と

にかく、日本の若い女性たちの幼稚さは、
アジアの同じ年代と比べて目をおおう。

教育水準が高い国だなんて、ウソですよ。
東浦 流れとして、ああいう落語家みた
いな、大衆と接近してる人たちがそうい
うことを言うようになったということは、
やっぱり大衆レベルで、流れとして「主
人」という言葉を使いたくない、という
人が増えたせいかな、なんて思ったりし
たの。

矢島 NHKの用語みたいなのじゃない
の？

東浦 NHKじゃないのよ。

矢島 そう、それじゃほんもの……って
言っちゃ悪いけど(笑)。

有馬 円楽っていう人がそういう人なの。
そうでしょう、あの人、わりに、時代の

動きっていうのをちゃんと知っていて…。
東浦 先取りする個人の問題かしら。

有馬 あの人、ほら、落語協会の例の問
題の時なんかでも、わりに孤立した立場
とってるじゃない。

深尾 いや、必ずしもそうじゃない。二
年ぐらい前に『週刊読売』の座談会に出
てもらって、私が司会したのですけど、

テーマは「おみそ」だったの。おみそと
か自転車とか、いろんなスポンサーつき
の座談会をするんだけど、その時彼が来
て、このごろの女の人はちゃんとしたお
料理をしない、とか何とか言うから、私
はまた例によって、しかしまあお料理は、
女の人だけがするもんじゃなくて、男
の人もどんだんやったらいいと思います
よ、って言ったの。そしたら、とても真
面目に、ムキになって、「いや、いや、

いや、やっぱり男は仕事で忙しいんです
から、これは奥さんにかんばってもらわ
なくちゃいけないですよ」って、ゆずら
ないの。男は仕事、女は料理、ってゆず
らなかったわよ。だから、私もあのテレ

ビ見てたのですけど、二年前、あんなこ
とやってた円楽さんが、あ、そういうふ
うになったかな、ちょっと変わったな、っ
て思った。

東浦 「メキシコ前夜」以前に、私は番
組もつくっていて、そのあと七一年に解
説委員室に来ただけで、解説委員は周
りが男だらけ。男の人三十人の中で女一
人だけでしょ。全然、男女平等って言え
る雰囲気じゃなかったですよ。すでに法
律で、基本的には男女は平等である、あ
とに残っているのは、差別じゃなくて区
別なんだというのがコンセンサスでし
たね。番組制作の現場でも、それから解説
委員室の現場でも。

斎藤 七二年の二月に『あごろ』の創刊
号が出来て、NHKの梶谷さんが本名で
書いてくださったら、NHKの方たちに
驚かれましたよ。梶谷さん、よく本名で
書いたねって。

一同 へええ。

深尾 それは『あごろ』みたいな雑誌に
本名で書いたからいけないってこと？

ほかの雑誌だったらいいけれど。

斎藤 そういう意味です。

東浦 私はあまりそういうことはなかったわねえ。『あごろ』に書くのが何しようが。結構、いろんなものを書いていただ。

言論機関としてのNHKのオピニオンとして、やっぱり男女は役割の区分であって、建て前的には、法律でも何でも全部平等だから、そのほかの部分は差別ではない、と、少なくとも男は思ってたね。

斎藤 七五年の国連の標語が、男女に区別はあるけど差別はあっちゃならない、って、たしかそうでしたね。

有馬 私は六八年からニュースを始めたのだけど、あのころは女の人でニュースやってるの、あんまりいなかったわね。女性のニュースキャスターっていうの、なかったでしょう。

斎藤 海外にしばらくいて このごろ帰って来た方が一番先におっしゃるのは「あ、日本にも女性のニュースキャスター

がいるんですね」って。とてもびっくりなる。

有馬 当時を考えると、いまは夢のごとくに増えていますよ。みんなの目につくものの中で一番変わったのは、この分野かもしれない。

放送では、技術も変わりました。七五年のメキシコ会議の取材に行ったときはVTRはなくてフィルム、それも白黒だった。衛星中継は値段が高くて、そう簡単にはできないから、航空便にフィルムを託して。七三、四年ごろは、ちよっ

あごろの女の事件

松井 私、この切り抜きのゲラを見て、なつかしいと思ったのは、私がかかわった事件ね。あごろ、個別の女の事件にずいぶんかわったんだな、と思ってね。K子さん事件、結婚しないで産んだ子どもを勝手に取り上げられ、裁判でも「働かぬ母は子どもの養育に不適当」と負けて、

とした街頭インタビューも大変でした。

放送なんて、ああいうコンサバティブな世界で、女性の取材記者も増えてきてね。

斎藤 でも放送は、新聞社よりは新しいんですよ。

矢島 そうですね、長い間のしがらみがないから。

東浦 どうかしら。古いんじゃないかしら。放送に出てる人は今でも「女の子」だもの。「美人の女の子」だもの。

結局自力で奪い返した事件……。それから、連見さん事件もありましたよね。毎日新聞の記者が米国との秘密協定をばらした機密漏えい事件で、情報を流した外務省の下っ端の女性が、社会的にひどい侮辱を受けた。両方とも、女をバカにするなという怒りが湧き上がって、ずいぶ

ん身を入れた。それと、キーセン観光反対運動を、あのころ始めたわけ……。そういう個別の事件をすうっとやってたなあっていう感じね。

斎藤 結婚改姓とか石油タンパクとか、個別の動きがずいぶん出てますね。東京ではリブ・センチターやピンク・ヘルが衝撃を与えている。でも、東京と地方の落差というのが、アメリカと日本の落差ぐらいありますね。だから、地方のある一部を見るとよんでいるように見えるかわっていた、と、私は見るのですけど。

松井 ただ、八五年のナイロビの婦人会議なんかに行って、私を感じたのは、やっぱり日本の婦人団体は、世界からとり残されてると思ったのね。

東浦 私もそう思うな。

斎藤 でも、変わってますよ、やっぱり。私はずっと八十八団体(国際婦人年日本大会の決議を実現するための連絡会)につきあって、大したもんだと思って感心してるんですよ。

松井 グローバルな視野がない。日本は世界一の貿易黒字国、海外投資国、経済援助国になった。世界の十大銀行は日本の銀行でしょう。これだけ経済大国になって、海外にもすごい影響を与えているのに、例えば女性が多い消費者団体なんかも、あまりにも関心がない。アパルトヘイトで黒人が苦しんでいる南アフリカとの貿易で日本はトップになった。欧米の女性たちは「南ア製品は絶対買わない」というようなキャンペーンをやっている。熱帯林を日本が一番破壊しているのに、熱帯林を守る運動が拡がらない。斎藤 海外のフェミニストたちに、日本人は利己的だという指摘をよく受けて、つらい思いをします。経済の成長に反比例して、男女を問わず、日本人が自己中心的になっていくのは、ほんとうに残念ですね。無知・無関心は、今日では犯罪的なことだとも思う。それが政財界の腐敗を助長しているとも言える……。これは、私たち運動する側の非力にも責任があると思いますが、一朝一夕に改まらな

いこの重さは、島国で、海外に出た経験が少ないということもあると思うんです。

まして女は、つい最近まで、ほとんど十キロ四方が生活圈で、自分の周囲にしか目がいかなかった。そこからまだ抜け出していないという感じがしますね。ナイロビなんかでも、とってもおもしろいところがたくさんあったのに、かたまって一緒にごらんになるだけだから、もったいないなあと思いましたよ。例えば、売店がたくさん出てましたでしょう。あれ、一つ一つ、女の団体が小店を出してたのね。あそこでちょっと何人かに話を聞いたって、すごくおもしろかったのに。消費者団体の方がいらしたら、それこそ手づくりのものを出してるし、何か話し合いができたと思うけど、そこに目を向ける余裕がまだない。言葉の問題もあるとは思いますが、売店にいる人は「売り子」と映って、そこに「女の仲間」がいる、という感覚が、まだ育っていない。東浦 言葉の問題かどうかわからないけれど、ナイロビでたまたま民間の人たち

がホテルを追い出されるという事件があったでしょう。それで、そのホテルの一部屋に各国の人がみんな集まったの。

当事者でなきゃいけない、記者は入っちゃいけない というのに、私 もぐってたわけ。で、ひよっと見たら日本人の誰もいないのね。それで外に出て来たら、ロビーに、こんな大きなひょうたんを抱えて、すごく幸せそうな日本人のおばさんがいたの。そこで、「今、あそこで、泊まる人が追い出されるっていうんで、みんな集まってますけど、ご存じですか」って言ったら、「いや、ツアーのバスが待ってますから」って。恐らくそういうことには関心もなかったのかも知らない。せっかくナイロビまで行きながら、その場で各国の人が「政府に追い出されるのはけしからん」って言って、その「場」の問題を討議してるところに、日本人がだれもいなくなっちゃったっていうのは、私ちよっとびっくりでしたね。

矢島 それは女性団体だけじゃなくて、全般の傾向じゃないかな。

東浦 そうでしょ。

矢島 国際化っていうことが言われてるけど、日本が経済大国になって、日本の中でいろいろおもしろいことができるし、それで足りてしまう。外国には観光と買い物に行きやすいんでね。自分たちとは違う人たち、違う国のことを、ほんとうに知ろうという姿勢がなくなってきたんじゃないかしらね。

東浦 まさに、子どもぐらいの大きなひょうたんを抱えてたから、おかしかった。有馬 ヨーロッパやアメリカの、心ある、いわゆる援助組織なんかつくってる人たちに比べても、格段にとり残されてるという感じがしますね、日本の婦人団体は。松井 全然、門外漢みたいにな……ところが実際に数としては、海外に出る女性はそのすごく多いですよ。日本人一千万人海外旅行時代はもう目の前ですよ。自治体はいまお金があるでしょ、だからやたらに女性たちを、海外視察だ、研修だ、って送り出すわけ。私のところにも、アジアに行きたいからどうのこうのっ

ていろんな手紙が来るのよ。ニューヨークにインタナショナル・ウィメンズ・トリビュン・センター (International Women's Tribune Center) っていうところあるでしょ、国連広場に。あそこに行ったら、「きょう三時半に日本の女性団体が来ます」と言うので「ええっ？」っていう顔してたら、東京のどこの区の婦人団体を、近畿日本ツーリストか何かがまとめて連れて来るわけ。全部そういうような感じなの。パンコクとか、その他アジアのいろいろな所でも「日本からあまりに次々と見学に來られて困る」と迷惑そうに言っている。例えば出稼ぎ女性を支援しているグループを訪ねても、そのあとサポートするわけでもなく、自治体にレポートを出して終わり、という場合も多い。日本人はウンザリ！ と言われる。斎藤 海外派遣がどんな形ででも増えたのは、とてもいいことだと思うんですけど、国際的な問題意識とつながらない面はありますね。これは女だけではないけど。それと、年配の女性は若い人たちと

つながらない。若い人は若い人で、オバ
ンとは組みたくない、という感じで、ほ
んとに小さいグループをたくさん作って

は消えていく。彼女たちが組みたがらな
い私たちオバンにも問題があるんだと思
いますけど。

日本では共通語にならなかった「フェミニズム」

東浦 あこのころの、ピンクのヘルメット
かぶった中ピ連のような、ああいう主張
の仕方っていうのは、いつの間にか消え
ましたね。あれは何だったんでしょう。
やっぱり一種の、世間をゆるがすデモン
ストレーションだったのかしら。

矢島 あまりにも少数派だったから、あ
あいうふうな過激な行動をとらざるを得
なかったのじゃないか。突出したことを
言おうとするね。

深尾 あれは、でも、メキシコ会議後で
しょう。

斎藤 前ですよ。

有馬 七二、三年ごろじゃない？

斎藤 ええ、ちょうど優生保護法の改悪
で。

深尾 女性党を作って、選挙に十人ぐら
い立候補したでしょ。あれはメキシコ会
議後ですよ。

東浦 女性党はだいぶ後だけど、その前
にやってたでしょう。あの優生保護法の
……、ピル解禁という問題。

斎藤 女性党という発想はすばらしいけ
ど、思ったほど女たちの支援が得られな
かった。女だけがピルを使うのではなく、
女の体をいためない方法を考えようとい
う流れのほうが強かったのだと思います。

《中ピ連》には、プラス面とマイナス面
がありましたね。松井さんなんか、あの
ころピルのこと、同人誌みたいの作って
一生懸命やってらしたけど、そういう地
道な運動までひとくくりにされて嘲笑さ

れたという弊害はありましたね。

松井 女性解放についてのまともな関心
を、どれだけそらしちゃったか……。こ
こを先途と、ものわりにするとうふ
うになっちゃって。何かっていうと、ウー
マンリブといったらあの人、というふう
になっちゃうでしょ。だから私は、今か
ら考えると、やっぱりネガティブな役割
しかなかったのではないかと思う。

斎藤 「リブは怖い」というのが、悪い
イメージになったのは残念でした。男
が九九%を占めるマス・メディアの書き
手たちは、女性解放に寄与するための記
事を書くわけではなく、おもしろおかし
く書き立てる。男性にとって脅威であれ
ば、意識的にマイナス・イメージを広げ
ますからね。取材に行って、いい気持ち
で話してくださった方が、後になって、
なんだ《へあごら》って、リブだそうじゃ
ないか、リブなら、もう載せないでく
れ、って言われたこともありましたが、
ね。

東浦 リブとかフェミニズムとかいう言

葉が、みんな曲解されて。

矢島 まだ、フェミニズムっていう言葉はなかったんじゃない？ 日本では使わなかったわよ。

東浦 フェミニストっていうのがあったでしょう。

一同（口々に） フェミニストっていうのは「女好き」というような、違ふ意味で使われてたでしょう。

矢島 フェミニズムって言葉が日本に入ってきたのは、わりと後ね。もう七〇年代も終わりがろじゃないかな。

東浦 いや、そんなことないですよ。

松井 いや、使わなかった。

有馬 使っていない。使われてない。

松井 アメリカでは、最初からフェミニズムって使われてたのだけだね。

矢島 日本では使われなかったね。

有馬 渥美さんが雑誌をやり始めたのはいつですか。

斎藤 あれは七〇年代の終わりごろ。

矢島 ああ、『フェミニスト』つくったのはね。

斎藤 『フェミニスト』も『女エロス』

もヒットしたし、商業誌の『私は女』などもずいぶん大きなインパクトを与えたと思うけど、みんな廃刊になって、『フェミニスト』という言葉も定着しなかった。微力な『あごら』だけになったのが、残念だし、寂しいですね。『新しい地平』

どう変わったかが問題

矢島 もちろん、変わった部分もあり、変わらない部分もあり、一直線じゃなくても、こう、らせん状に進んでいけばいいんだけど……。

ただ、全然変わっていない、って言う。と、やっぱり言い過ぎですね。私の娘なんか見ると、子どもがいて働くことに、なんにも抵抗を感じてないのね。私には罪悪感めいたものがすごくあったけど。子どもを置いて働きに出るのは悪い、と言われ、自分も心の中で、子どもにすまない、と思う気持ちを捨て切れない……。

や『この道ひとすぢ』など、あのころのとてもユニークなミニコミも、なぜか終わってしまった……。

ただ、ああいう運動は、決して線香花火的なものではなかった、と、私は思います。次の時代を、やっぱりつくっていったという気がするんです。

それが、いまの若い母親には全くないです。感心する。やはり、意識はたいへん変わったと思う。

東浦 お嬢さんは、もう働いていらっしやるの？

矢島 そう。子どもを保育園に預けてね。斎藤 私は六〇年に保育所づくりの運動をしたとき、「そんな、アカみたいなことやって」と言われましたけど、そういうのが、ほんとになくなりましたね。孫の時代にならなければ……と思っていたことが、娘の時代に実現したな、という

実感があります。

矢島 ほんとに変わりましたね。

松井 だけど、女子高校生なんかの意識調査を見ると、やっぱりお母さんは家にいて、自分が結婚するときは専業主婦がいい、って言う人が圧倒的に多いわね、今でも。

斎藤 そういうのもいるけども……。

矢島 いるけども、変わったことは確か。斎藤 自分の生き方を堂々と、人の顔色見ないで主張できるようになったっていうのは、私は事実だろうと思うけど。

東浦 それから、層の厚みは増えたのじゃないですか。前はNHKの中で、ディレクターなんか、結婚してたら勤まらなかったですよ。夜も仕事をしてたし、徹夜もあるしね。基準法があるので手当ては出なかったけど。でもこのころは、ディレクターもみんな結婚してますものね。結婚して働くのは当たり前で、昔の人はかわいそうに、とかいう感じです。

斎藤 アナウンサーとかキャスターで結婚する人も増えましたね。

東浦 アナウンサーは、昔からわりあい結婚しやすいのよ。線表勤務で休ませてもらえろし。

斎藤 だけど、結婚しても独身みたいな顔をしていたのが、今は……。

東浦 NHKは全部、姓を変えなくちゃならないでしょ。途端に変わっちゃうかわかるんです。ところが今は、姓を変えるのがいやだなんていうアナウンサーが出てきたりして、NHKは役所みたいなどころだから、少しすったもんだしてるけど。

それと、姓を変えたくないという女の人が結婚前に話し合うというケースは、たしかに昔より増えたのじゃないですか。いま、ちゃんと話し合ってるんだ、なんてね。

私たちのころは、姓が変わらないのは恥ずかしいとかね。やっと私も姓が変わるようになりました、なんて挨拶状も来たりして(笑)。

有馬 そんなに、堂々と言えない時代だったろうか、あのころは。

斎藤 それは、言えなかったですよ。

東浦 男女同権は、少なくとも、あんまりおっぱいには言わなかった……。

松井 「国連婦人の十年」の、前と後とは、ずいぶん違うなあとは思っわよ。ある程度、「国連婦人の十年」が、お墨付きになったっていうのかな……。

東浦 そう、それもあ。

松井 外圧神風よ。日本はいつもそうだけど。中からはなかなか変わらない。

有馬 それはあるけどね、七三、四年とというのは、私たちが育った時代とは違って、わりにいろんなこと言ってたんじゃない？

矢島 いやいや、言っていない。

深尾 それは女性差別だ、とかいうような「差別」というような言葉をね、七三、四年には、はっきり言わなかった。

有馬 「差別」って言葉は言っていない。

深尾 それが七五年を境に、差別だ差別だって、堂々と言って、堂々と書けるようになった。

有馬 それはあるわね。「差別」ってい

う言葉は言わなかったし、そういう認識は少なかった。

深尾 「男女差別」って言葉をね、陰ではこそそそ言ってたかもしれないよ。しかし原稿の中できっちり書いて、それがパツと通らなかったでしょ。

斎藤 『あごろ』の読者でも、家では、夫にみつからないようにカバーかけて読んでたり。

矢島 でも、『あごろ』なんて、何のことかわからないじゃない（一同爆笑）。

東浦 ちょっと怪しいとは思われるかもね。『婦人倶楽部』じゃないから（笑）。斎藤 表紙に、女性の地位向上とかなんとか書いてあるでしょう。ですから……。集会に出るときは同窓会に行くと行って、それが公言できるようにしたの、八〇年近くになってからですね。

東浦 そうね。あのころ、そういう集会に来るということを夫には言えないからお友達と会ったって言ってだまかし、うそついて来た、っていうんで、私、ものすごいショックだったわ。一生、とに

かく生活を共にしましょう、って、愛情をもって暮らしているべき若い夫婦が、なぜ、自分の夫に自分の出先もはっきり言わないで、隠して女の集会に来なければならぬか、私は非常にショックでしたよ。

斎藤 そういう、男と女の関係は、もうドラスティックに変わったと私は思う。少なくとも都会では。

矢島 そうですね、変わったと思うな。若い夫婦なんか見ると、ほんとに、役割を分担してますよね。

松井 K子さん事件のように、母親が働いていると、子どもを育てるのには不適当とか、まだ、女性に対してそんな判決文が出てたころでしょう。

矢島 外国ニュースでも、リブのことを扱うとき、例のブラジャーを燃やした、とか、そういうひやかし半分の取り上げ方だったわ。

東浦 そうそう。

矢島 そのぐらいのことが、小ぢな、海外こぼれ話みたいな記事に出るだけ

だったから。

深尾 それに、新聞社のことを言えばね、七三、四年には、女性記者を全然採らなかったのですよね。で、読売新聞社の女性の記者を数えても、あの人、あの人、あの人って、五本の指で終わっちゃったけど、今は百人近くいるわけ。

松井 八〇年代になってからでしょう。女性をわりと採るようになったの。

深尾 そう。七〇年代の終わりからですね。

斎藤 放送局もそうでしたね。フリーの人は採るけども、正社員は絶対採らない。有馬 まだ契約社員。その代わり、あのころのほうがちゃんとやってた、と思うところがあるのは、中でやっぱり、ものすごくねばり強い組合の闘いがありまして、非常にきちんと続けられていた、というふうに思いますよ。女性をきちんと、正社員で採用すべきである、とか、同じような扱いにすべきである、とかね。そういう闘争みたく組合の運動というのは、今みたいな姿じゃない。もっと非

常に折り目正しく、きちんと行なわれてたと思う。

私は、これは女性に限らないけれど、組合活動のような民衆の側からの発言はむしろ後退し、ものわかりがよくなりす

若い世代に期待できるか

松井 いま難しいのは、男女ともに若い世代の、ふわふわした、ただよっているような、捉えどころのなさっていうか、いわゆる世代のムードってあるでしょ、いま。だから、女性が特にというんじゃない。男女ともに若い世代のある種の、当時と違う気分みたいなものを感じるわ。東浦 でしょうね。

斎藤 でも私は、男がふわふわして、すごくいいなあと思ってる。企業の会議なんかに行きますとね、男のちょっと年配の人たちが、今ごろの若い男は困る、って言うのね。結婚するとソワソワして、早く家に帰るって、まじめに怒るわけ。

ぎていると思う。すぐ、五五年体制は古いつか言われるけれど、そういう筋目を通す姿勢がないと、いつの間にか巻き込まれている。

私たちから見ると、ほんとにいいことだと思っただけ。

だから、必ずしもふわふわでなくて、そういう人間の基本的なものを大事にしようとするところが、かなり一般化したのじゃないですか。

松井 そうなんだろう。私、自分勝手になった、っていう感じなのよ。自分さえよければ、世の中のことなど、どうでもいいっていう。

有馬 私もそう思うわ。あんまり何も考えていない。

斎藤 なるほど。足もとを大切にするのはいいけど、そのわりに、人権意識が変

わってないというところはありますね。有馬 自分は大事にするけれども、ひとを大切にするっていう気持ちは、ほんとに少なくなったのじゃないですか、昔より。

東浦 見栄がないもんだからね、今のほうが。昔はちよつと見栄があったから、英語の本なんか読んでる人は、前に年寄りが来たら、紳士として立たねばならぬと思ったかもしれない。今は平気じゃないの。英語の新聞なんか読んでたってなんだって……。私、年とった母を連れて歩くと、ほんとにくやしいのよ。

松井 そうやって、会社の奴隷にならないで、自分の好きなことするっていうのが、例えば家庭を大切にするのならいいけど、おしゃれして、コスメティックね、ファッションね。まあ、会社の奴隷になるよりはいいかもしれないけれど、消費文化にまったくどっぷり浸かって、女以上の消費者になってるんですって、若い男性が。『メンズ・ノンノ』とか、男の流行をあおり立てる。

深尾 しかし、中年の男性の、うだつの上がらない汚さを見てみると、若い男の子たちがきれいになってるっていうのは、私はいいなあと思う。

松井 中身の無さが……。外側のお化粧してる男の子見るとね、中身のからっぽさが見えていやになっちゃうわけ。

矢島 中身が無くて汚いのと、中身が無くてきれいなのでは、きれいなほうがいいじゃない。

女男格差がひろがった

東浦 良くなった、って言えば、離婚に寛容になった、っていう感じはしない？

松井 シングルに対して寛容になったってことは確か。私も離婚したけど、昔ほどは「売れ残り」とか「出もどり」という目で見えなくなった。農村はどうか知らないけど……。

女の人の意識は上がったのに男の人の意識は旧態依然で、うんと差がつい

斎藤 私も、男が装うようになったのはとてもすてきなことだと思うけど。

深尾 汚いより、私もいいと思う。

松井 私、なんだかつまんない感じがしちゃうの。今の若い男の子たち、全然、個性とかそういうものがなくて、完全に流行に乗ってるだけでしょう。商品になってる感じなのよ、自分までね。

矢島 企業の奴隷として……。

松井 そうよ。

ちゃった……。

斎藤 それはありますね。

松井 男の結婚難の問題だって、まさにそうだと思うのよ。女が求める相手と、男が求める相手と、全然違うから、そう なっちゃうのね。

斎藤 女がしっかりしてきて、そのわりに男が取り残されてるんですよ。

松井 そうそうそう。

斎藤 そういう男のところに行きたがらない女が増えるわけで、それはいいことなんじゃないですか。

有馬 そうですね。

斎藤 やっぱ、結婚難なんてことが、一番世の中を変える……。

矢島 そういうこともあると思う。

東浦 でも、フィリピンから、すぐお嫁さんが来るんじゃ、あんまり変わらない。斎藤 花嫁輸入はもちろん問題ですけど、そういうことが話題になって、以前のようにな「手鍋下げても」で女が来る時代じゃないというPRにはなってますね。

松井 だけど、着飾るっていうのは、恐ろしいなって思うのよ。『Esprit』（ヴァンサンカン）とか「クラッシー」とかって雑誌に、女子大生が、ブランドのゴルフバッグ持って、ハワイにゴルフツアーに行くのが出てたけど、異常ですよ。アメリカだってヨーロッパだって、学生が旅行するっていったら、ナッパザック背負って、汚い格好して行くのが普通でしょ。日本はマーケットとして狙われて

るっていうのか、せいたく品を売り込む
ニューヨーク市場っていうのか……。で
も、それで日本のファッション産業は
もってるのよ。それも日本のGNPを増
やして、経済大国になっているわけだけ
どね(笑)。

矢島 七〇年代の初めにアメリカに行っ
てたいへん印象を受けたのは、『Ms』(ミ
ズ)などの編集部を取材していると嬉し
くなるが多かったのだけど、その一
つに、男の役割の見なおしという主張が
あった。男たちを、作られた男らしさか
ら解放すること、それに手助けするのが
女の役目だと。だから「こういうような
PRしてます」って見せてくれた写真で



矢島さん

は、男が赤ん坊を抱いて、すごく優しい
顔をしているの。そういう写真を見せら
れてほんとうに愕然として、いいなあと思
ったのね。そういう風潮が日本にも
入って来て、男がきれいになったり、ふ
わふわとなったりしている、と見ていい
のか、それとも違うのか……。

斎藤 奥さんが赤ちゃん抱いて、大荷物
持って、っていう光景はなくなりました
よね。それはやっぱり大進歩だと思う。

深尾 このごろは、男が赤ちゃん抱いて
るコマージュシャルがずいぶん増えましたね。
前田日明という有名なプロレスラーが赤
ん坊背負ってるコマージュシャルがあるわね。
コマージュシャルにそれが現れるっていうこ
とは、やはり、かなり……。それから田
村正和が赤ちゃん抱いているコマージュシャル
もこのごろ目につきますね。

有馬 〈横浜女性フォーラム〉のオーブ
ニング・イベントのポスターもそうだし
た。

斎藤 若い人たちが、友達が結婚するな
んていうと、おそろいのエプロンをブレ

ゼントするなんて、よく聞くでしょ。そ
れが当たり前になってきている。

東浦 役所が変わったなあって思う。婦
人週間などはずうっと、女の人の能力を
いかに社会に役立てるか、というような
テーマをやってきたわけよ、七〇年代に
ところが八八年のスローガンは「個性が
性を超える」でしょう。変わったなあっ
ていう感じがしたわねえ。とにかく、ど
うやたら女の人は、おくれればせながら
男に伍して、社会のお役に立ってるかって
いうようなことばかりやってたのだか
ら、六、七〇年代は。

有馬 七〇年代、女の人たちの動きの中
で、いわゆる女性問題というのか、そうい
う形での運動がほとんどなかった時代が
あるでしょ。ある人たちは消費者運動で、
ある人たちは社会教育……。

松井 キーセン観光反対運動を始めたの
が七三年。

有馬 七三年か。そんなふうにかくさん
の問題があって、それぞれ関心のあるも
のに取り組んでいたけれど、その中に、

しかし、婦人問題っていうのがあんまりなかった。

松井 そうね。ただ、事件としては、滋賀銀行の事件とかね、ああいうのがあるって、優生保護法もあったし、菊田医師の赤ちゃんあっせん……。このゲラ見たら思い出したけど。

有馬 あれ、あのころだったのですねえ。とにかく、私、七五年にメキシコの世界婦人会議を取材に行ったとき、最初に

「前夜」に婦人会議が新聞記事にならなかったのは

斎藤 ところで、ひとつジャーナリストの方に伺いたいんだけど、世界婦人会議のことが、七三年、七四年、日本ではほとんど全然話題になっていないのね。どうしてでしょう。

有馬 あれはね、婦人会議が話題になっていないというより、六七年に差別撤廃宣言が通るでしょ。それから七二年に決まるんですよ、世界会議は七五年とい

ワルトハイムさんの演説があったじゃない。「人類の半分に對する差別は、人類に對する不正である」っていうの、あれにはショック受けたねえ。

東浦 それから、スウェーデンのパールメさんが首席代表で来たのはすごかった。有馬 すごかったわねえ。記者会見で、

「女性の社会参加、男性の家庭への参加」というのは対（つい）のテーマだ」って言ったわね。

うのが。だけどそれが、伝えられてないんですよ。

斎藤 新聞記事にボツンと、よそごとのように出たのが七四年の六月。十二月十八日に衆参婦人議員懇談会の方々が三木首相に「政府は来年の国際婦人年にもっと力を入れるように」と申し入れたら、「はじめて聞きました」って。首相も知らなかったのね。

有馬 それは女性特派員がいなかったからだろうし、恐らくそういうことって、あんまりちゃんと気がついていなかったのじゃないですかね、取材する人たち。矢島 七四年ごろは、国連を取材していても、婦人年のことはあまり浮上して来なかった。

斎藤 最初は、コロンビアで開催の予定だったわけですね。

矢島 そうそう、コロンビアから変わったのですね、メキシコに。

松井 ほかの国では、結構出てるわね。

東浦 あのところも日本は、国連婦人地位委員会に、代表が行ってるわけなんですよ。

有馬 労働省からです。だけど、今のようにならぬに伝えようとする努力はなかったと思います。

斎藤 その辺で情報が流れていたら、もうちょっと記事になったのかもしれない。深尾 ただ、情報が流れたとしても、それを、あ、おもしろい、と思って採り上げて記事にするのは、その決定権を握っ

女たちが語る“湾岸戦争から未来へ”

深い痛みと重い課題を残した湾岸戦争。私たちなりの総括をしたい。

世界の女たちは、この戦争をどう受けとめたか。ホンネの話も聞きたい……。

イラクはいま“脳死状態”。ミルグ・食糧・医薬品のないなか、弱者から どんどん死んでいます。湾岸戦争は終わったところか、これからが始まりです。

日本に住む世界各国の人びとと、語り合う一日、ぜひお出かけください。日本人、外国人を問わず、知り合いの方にも、声をかけてください。話し合いはすべて日本語で進めます。

- 日時 5月19日(日) 10時～5時
- 場所 新宿区立西戸山婦人会館分館(新宿区高田馬場3～40～3)
(JR または 西武新宿線 高田馬場駅下車 徒歩8分)

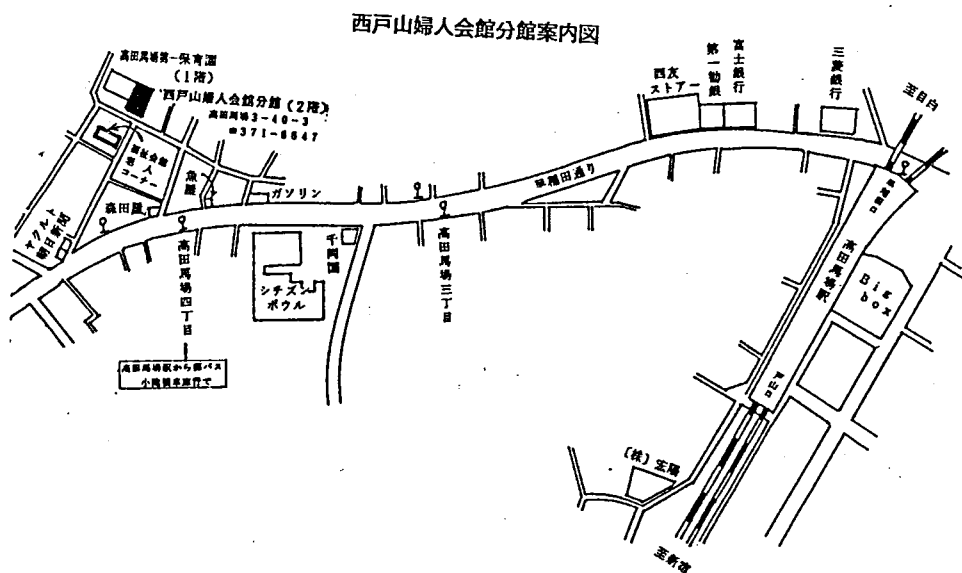
●プログラム

午 前 報 告 「イラクとイスラエルを訪ねて」
(斎藤千代、田宮友恵、辻 美幸、長島治美)

午後 討 論、〔司会 しま・ようこ〕

- ・「私にとっての湾岸戦争」
(パレスチナ・ヨルダン・米国等, 各国人)
- ・「私たちはいま……」(会場討論)

- ・参加費 500円
・主催 <あごら> “自立の心理学”グループ
〒160 東京都新宿区新宿1-9-6 ☎03-3354-3941



ているのは男の人だから。

東浦 人間も少ないから、拾えないの、忙しくて。

深尾 「えっ、婦人年？」なんて言うのよね。「環境年」なんていうのは、ずいぶん取り上げられましたけどね。

東浦 「環境年」も「人口年」も。

有馬 だって、「婦人年」なんて、われわれだって知らなかったものね。

松井 アメリカのウーマンリブの女性の行動がバーストと入ってきたのが七〇、七一年でしょ。その中間の時間がちょっとね。

有馬 谷間。

松井 谷間っていうのか、個別の問題を取り上げるといふ時期だったのじゃないかな。

斎藤 女の人の関心が、石油ショックと物不足騒動、インフレに集中して……。松井 トイレットペーパーの買いだめがすごいですね。

深尾 ただ、「国連環境年」があつて、次に「人口年」、その後に「婦人年」というのがあつたのは、非常に論理的に

なつてよかつたんじゃないかしら。とい

うのはね、事務局長のシピラ夫人が、こういう演説してるのね。「人間も地球上の大切な資源だ。そして、この人的資源の半分は女性だ。だからそれを浪費しているかぎり、地球の将来の繁栄はないだろう」っていうふうになつて。つまり、環境とか資源とか、そういうものがずっと討論されてきた、その続き、路線上で、婦人問題について演説したんですよね。だから、とてもわかりやすかつた。

斎藤 ただ、女の人たちの側では、「人口年」の次に「婦人年」が来るということとは、人口問題がらみで、また、女の産むことを管理されるんじゃないか、っていう疑問を、当時持つてましたね。

有馬 あ、そう。

東浦 そうじゃないのにね。

一同（口々に） ふーん。初耳だなあ。

斎藤 一部の人は持つてたの。何しろ優生保護法の改悪案が上程されて疑い深くなつてたから。

矢島 国連を取材してた側として、その

「前夜」にもう少しキメ細かく婦人年のことを報道すべきだったと思います。

ただ、あの年は、石油ショックを背景に、アラブの勢力が高まつて、PLOがパレスチナ人の正式代表に認められて、アラファトが国連で演説したんですよ。PLOは国連オブザーヴァーの資格も得たし。

もう一つ、新経済秩序を憲章化したものの採択もあつた。第三世界が団結して、国連の討議の方向を変えつつある、という感じがあつたのね。騒然とした中に、「婦人年」はまだ埋もれている状態であつた。……なかなか、目がそこまで行き届かなかつた。

斎藤 アメリカにいらしたら、あのころは特にウォーターゲートとベトナムで大騒ぎだったでしょう。

矢島 そう。両方のショックのあとで、米国のいう国のシステムはまだ大丈夫なんだ、と、自分で自分を励ましているような時期で。

松井 「国際婦人年」のメキシコ会議で、

私、一番印象に残ったのは、何といつても、南北の対立みたいなのがあるのすごくあったでしょう。第三世界の女の人と先進国の女性の運動との対決みたいなものがあつたわけですね。それをすごく印象深く感じた理由というのは、私は七四年に初めて東南アジアに行つて、ちょうど東南アジアの女の人のことを連載してね、そのことがこの切り抜きにも載つていて思い出したのだけど、それでキーセン観光反対運動をやつたりとか、少しづつアジアに対して女性たちの目が向き始めてたころだつたでしょう。だからその

やはり「前夜」の動きはあつた

東浦 妙に輪郭のはっきりしない婦人運動という点については、疑問があるんじゃないかなあ。

有馬 そうですよ。あの石油ショックがすごかつたしねえ。

斎藤 女の人たちが自衛的に、たとえば

後行つて、南と北のそういう対立があるんだなあつていうことがよくわかつたのじゃないかと、いま思えば感じますけどね。

東浦 特にね、七五年の婦人会議の場所がラテンアメリカだつたからねえ。

松井 そう。

有馬 どうしても、そこが起点になつちゃうのね。七五年の鏡に照らさないと、七三、七四年のことが出て来ないという感じじゃないのかなあ。

斎藤 じゃ、今度は鏡に照らして、見直しましょうか。

「ちふれ」の化粧品作るとかね、そういう動きは活発でしたね。

松井 石油タンパク作るのを阻止する、

なんていうようなこともあのころあつて、私書いたの覚えてるし、それからPCBの問題とか、けっこう環境問題が後を引

いてたわねえ、まだね。

深尾 琵琶湖の問題なんかも……。

松井 合成洗剤の追放運動もね。

東浦 たいへんな高まりで。女の人の中心になつて……。

斎藤 サリドマイドにしても、森永ひ素ミルクにしても、あのころまだ揺れてた。判決が出始めたところで。ただ、高度成長でいいのになつていうブレイキが、かなりかかり始めた時期ではありますね。

深尾 でも、反対にこういうことが言えるかもしれない。七二、七三、七四と、ずうっと婦人問題が出てきちゃうと、七五年に、ある意味で爆発的に「国際婦人年」を起点としてウワツと盛り上がりてきた、あの爆発力がなかったかもしれない、散発的に出ちゃうと。かえつてそれがなかったの、突如、何か新しい、よくわからないけど夜明けだ、みたいに なつた……。

松井 まだ、ウーマンリブという新しい女性解放の思想の衝撃が、ずっと持続してたから、いろんな形で個別の問題にか

かわる女性っていうのが、いろんなところにあったと思うのよ。だから、私なんかも、当時書いた記事といたら、みんなそういう個別の闘争の關係の記事が多いわけよね。へ徑一ちゃんの死を無駄にしないで保育を考える会なんて保育所問題とか、男女の定年差別問題の判決……

斎藤 優生保護法改悪反対には、伝統的な婦人団体まで立ち上がったし、夫婦別姓の提唱も始まっていますね。

有馬 個々にずっとありましたね。
東浦 放送界では、テレビの顔の話。もう年とってくるから、とかつてアナウンサーがおろされて……。

斎藤 ああ、NTVの村上さん事件。

東浦 あれは大きかった。

有馬 あれは七五年。

矢島 それから、三十歳定年……。

斎藤 名古屋放送ですね。六九年からの法廷闘争で、七四年に勝訴しましたね。
東浦 個々には多かったんだ、ものすごく。

松井 新しい女性解放思想にふれた女の

人が、自分の問題で具体的な問題提起し始めてる、っていう、そういう時期なのね。

斎藤 だけど考えてみたら、賃金格差なんて、あんまり大声で言えなかったですね、当時はまだ。

深尾 そういうことが全部、世界婦人会議で行動計画の中に、解決すべき事項として盛り込まれたのね。

松井 家庭科男女共修の運動が起こってる、っていう記事も、このへんからずいぶん出て来てるわよ。それも、個別の問題提起として始まったのね。

有馬 リブが、日本には正しく入らなかったのだけれども、しかし問題提起として主婦の心をゆさぶった、っていうことはあると思うんですよ。

それは、ベティ・フリーダングが、あのころあんまり売れなかったけれども、女の人の生き方はこれでいいのか、っていう本を書いてそれが翻訳され、じわじわ読まれて、生きがいとかああいふ疑問が出て来たのが七〇年代前半か、そのくら

いじゃないですか。

松井 ベティ・フリーダングは早かったでしょ、六〇年代じゃない？ あと、ケイト・ミレットの『性の政治学』が翻訳されたのもその時期……。

有馬 私は六四年に行って、ベティ・フリーダングのあれが出たっていうのを聞いて、買って帰った記憶がある。

深尾 アメリカで出たのは六三年よ。私、まだその時は留学生としてアメリカにいました。

松井 翻訳の題は『女性の神秘』じゃなくてね、『新しい女性の創造』だったの。

有馬 少なくともあそこで問題提起があってね、『女の一生、これでいいのか』と『子育て後の人生、これでいいのか』っていう。で、日本で、生きがいがあるの、ないのと言いだめたのは七三、四年ごろと違いますか。

松井 あの本そのものは、ほとんど日本で知られなかったのよ。それで、ウーマンリブが起こってきてから、そういう本

があつたんだ、ってことが知られるようになったわけ。

斎藤 ただ、主婦はウーマンリブに、最初すごいアレルギー示しましたよね。

有馬 そうでした。リブには、ものすごいアレルギーでした。あの人たちと私たちは違っている感じで。

矢島 あのころは、まだ主婦に時間がない

買春だけは変わらない

松井 キーセン観光反対のときは、主婦

の反応が一番ものすごかったのね。ということは、今まで自分の夫がそういう所に行っていることを知らないでいた。初めて知った、とかって言ってね、東京都のテレホン・カウンスリングに何千てかかって来たらしいわよ、その問題について。どうしたらいい、とか、夫がバンコクに行ってるんですけど、とか、ソウルに行ってるんですけど、とかね。

斎藤 それまでは、旅先で何やってるか

くて、今みたいにカルチャーセンターとか、おいしいものを一緒に食べに行きましよう、って言うことでできなかった時代だったからね。ゆとりがなかった。

東浦 それにまた、目につくリブの運動っていうものが、私たちでもちょっとドッキリするぐらいの……。

有馬 すさまじかったわねえ。

がわからなかったのね。

松井 そう。だから、すごいショックだったらしいわよ、やっぱり、初めて知って斎藤 だけど、そのちょっと後になると、まあそういう所でプロとやるのはい、っていうふうに、だんだんなってくるのね。

矢島 そうお？

松井 一番の心配は、病気だけは持つて来ないでほしい、っていう、そういう反応よ。だって、抗議に行ったとき、主婦

が日本交通公社に、キーセン観光反対と一緒に抗議に来たのはいいんだけど、とにかく病気だけはうつされたら困りますから、って、被害者意識のようなこと言うから、びっくり仰天して、「えっ？」っていう感じだったの。日本の男たちに体を売らなければならないアジアの女の人たちの気持ちなど、考えもしないのよ。そういう反応があるのよ。

斎藤 夫のアジア旅行のカバンに、妻たちがスキンを入れるようになったなんて、当時話題になりましたよね。でもそれは今もあまり変わらない。この間BBCの『世界の結婚』というのをNHKでやってましたけど、日本の、ひどいのが出ましたね。特殊な女性と遊ぶのはかまわないって女の側が言う……。

松井 そういう男の意識って、変わったかしら。変わっていないでしょう。だって、これだけ性産業がすごいでしょう。フィリピンの女性だけでも何万人と来てるのだから。そういう女性に対する需要がどんどんふくらむんだって。そんな国は日

本だけです。

斎藤 戦前っていうのは、よく知らないけど、それでも戦前に比べたらよくなったのでしょうね。

矢島 しかし数の問題ね。全部が全部そうじゃないでしょう。違う部分も増えるのだけどね。

東浦 地域にもよるしね。それからその人間の育ち方で、自分があんまり人権を守られた暮らしを知らない人たちは、ひとの人権を踏みにじるのも平気だなんていう感じがすることあるの。

松井 けどそういうのは、育ち方とか教育とかに関係なく、誰でも行ってますよ。東南アジアへも国内のセックス産業にも。知らないだけよ、女性たちが。

婦人相談員してる人から聞いたのだけど、客としてどういう人が来るかっていうと、病院の先生とか学校の先生とか、とにかく教育受けた人が来てるって、売春婦の人が言ってるそうよ。

有馬 なんとか侍従が、そのような所で亡くなったとか……。

松井 だから、教育レベルなんて、なんの関係もないのよ。

東浦 ないかしらね。だけど家庭のしつけは、かなりあるんじゃない？

松井 いま、男の子に、女の人を大切にしないさい、って教育してる人なんて、聞いたことないわ。母親たちがもっとそんな教育してるんだったら、こんなに買春国にならないでしょう。

斎藤 いや、教育してる人もいますよ、してる場所ではしてますよ。

松井 日本のスポーツ新聞のあのひどさ。女性の裸のセックスシーンが満載されている。電車の中などでも正々堂々と、みんな開いてるでしょ。

若い世代はほんとに変わったのか

斎藤 ただ、そういう中でも、新しい流れはありますね。この前へあごろんにおもしろい投書が来たの。上野千鶴子さんの本を読んで、「上野さんは二十代を軽

東浦 昔は陰でやったわよ。

松井 人前で、今はおおっぱらよ。アジアへ行くと、飛行機の中で、日本の男たちが大声で買春のこと話してるわよ。全く恥ずかしげもなくね。

斎藤 あれと漫画本を車内で読むのには、海外から来た女性たちがショックを受けてますね。しかも紙面にちゃんと、デートクラブの広告がいっぱい出てる。

松井 女性の体をこれほど平気で広告に使ったり、テレビに裸が出ている国は日本ぐらいよ。だから私、全体の流れとしては、ほんとに人間が「モノ化」されてるってことをものすごく感じるの。

蔑してるけど、二十代は言挙げしない、けど実行してるんだ」って。「それが三十代の目に映っていないのか」って、長い手紙が来たのです。



有馬さん

有馬 何を実行してるんですか。

斎藤 男女平等ってことを。つまり、まず家庭の中の平等ってことを、何よりも実行してる、って。

松井 何パーセントいるのが問題かどうか。

有馬 数は増えてるでしょう。われわれの世代よりは。

斎藤 増えてますよ。

矢島 それはそう思う。

斎藤 何百倍、何千倍になってるんじゃないですか。

有馬 だけどその平等は、ほんとに半徑三十メートルですね。横浜の女性センターなどで見てますと、日曜日には実に

たくさん、若い家族づれが来るんです。

それはいいんですよ、とても。ところが、周りで人が何をしていようと、どうしようも、全然平気。大理石の床の上をガラ

ガラガラガラ乳母車押して、親子三人だけ、その世界だけが移動して来るっていう感じ。その周りの人に気を配るとか、

ひとと一緒に何かを高めていくことをするとかね、そういうことは、ほんとなにみたいですね。

斎藤 そういう傾向は世論調査で出てますね。前は、社会正義のために何かやるとか、社会に貢献したい、とかっていうのが一番だったのに、今は、家庭の幸福というのが圧倒的に多数で…。

有馬 あれでは、家庭の中の男女平等って、何の意味があるのか、って思っちゃうわね。そうなっちゃうと拡がらない。

矢島 でもまあほんとに徹底すれば、それから外に拡がっていけばいいんじゃないかな。

斎藤 そう思いますね。

東浦 それが徹底すれば、よそに行って

女性を買うなんていうのはしなくなるはずでしょ。

矢島 そうですね、それはなくなるのかもしれませんね。

斎藤 減ってるんじゃないですか。

松井 減ってないですよ。私はこのごろその問題をやっていると、どうなっちゃってるのか、という感じ。ますます増えてますね。ということは、そういうことに対して、無反応になってるわけね。

例えば何百万部売れてるっていう少女漫画の中身見たらスゴイ。ポルノチックな漫画を、どこかに行って買って読むなら別ですよ。そうでなくて、ふつうの女の子でも誰でも、もう、売り込まれる雑誌にポルノが入ってるの。そういう、女の子に対して暴力的なのとか、女の子が男の子に気に入られるように着飾って、っていう、あの漫画ね。だから、カナダの友達で、日本の少女漫画を研究してる人があきれ返っているわけ。ローティーンの中学生ぐらいの女の子が読む

漫画が、もう、すさまじいっていうわけ。

これが何百万部って出てるわけですからね。はっきりコマーションリズムなの。売れば何でもいいわけ。

斎藤 あれは、六〇年代からすごい。

東浦 それは経済成長と一緒にしよう。

斎藤 そうですね。ピッタリ一致してます。

松井 とにかく儲かればいい、という、日本の商業主義のあくどさね。歯止めとかが全然ないでしょ。

斎藤 私たち、六〇年代に下請けの仕事で『巨人の星』とか、白土三平の漫画とかやってたのですよ。で、男の漫画は編集してもおもしろいの。ところが少女漫画もやってほしいということ、その時に言われたことが「これは『ヤングレディ』とか『週刊女性』の読者になる人をつくるための漫画だから、そのつもりで」って。それで、少女漫画はちょっとお断りしたの。それが六五年ごろのことなんです。そのあと、どんどんひどくなりましたね。

女の雑誌は変わったか

松井 それから、大人の女性の読む雑誌がどんどん出てるでしょう。『HANA KO』とかなんとか。カタログ雑誌、モノの消費のための雑誌ばかり出てるでしょ、女性の雑誌でも。

有馬 『マリ・クレール』なんかはいいわ。『オレンジ・ページ』はちょっと…。斎藤 『クロワッサン』なんかも、はじめのころは女性路線で、「あ、いい雑誌が出たな」って感じだった。だけどやっぱり売れなかったのですってね。で、このころ路線を変更したら、グーッと売れるようになったのですって。

深尾 編集長、変わったのですか？ そう、変わったの。やっぱりね。

松井 『日経ウーマン』、私、創刊号見たけど、それにはさみこんだハガキね、二千何百枚とか回収したのですって。それくらい、やっぱり働く女の人向けの雑誌

誌というものが初めて出て、反響があったんでびっくりしたって。

斎藤 それ以後も、五百通はコンスタントに来るって。日経の人が感激してましたよ。日経で出してるあらゆる出版物の中で、『日経ウーマン』ぐらい反響のあるものはないって。

矢島 それはやっぱり、さっき松井さんがおっしゃったように、ステイタスを求める女性のための雑誌じゃないの？

松井 そうでもないの。わりとブラクティカルなのね。共働きとかふつうの働く女の問題を、ハウツーに取り上げた^{*}りしている。「出世のため」^{*}っていうんでもないのね。

深尾 アメリカの『Working Woman』であるでしょ。あれとかなり似たようなんですね。

有馬 あれの提携誌じゃないんですか。

深尾 一時『くらばーゆ』が『Working Woman』と提携してたのですが、最近やめたとか。私は『Working Woman』取ってるんだけど、『日経ウーマン』を見ると、かなり作り方が似てるな、っていう感じ。

斎藤 日経で企画した人の話では、男性に読ませるために作ったって。

深尾 ああ、いかに女を使うか……。

斎藤 そのほうが、絶対、市場があるって。女だけだったら、そんなに十五万も売れないでしょ。

矢島 それはそうですね。

斎藤 私たちが均等法の本つくったときに、すごく残念だったのは、新聞に小さく出たら、男が買うんですよ。売れるのはありがたいけど、困る。全部こちらの手のうち書いてあるのに、男がものすごく熱心に読んで、女の人は読まない。ほんとに、紙の弾丸のつもりで作ったのに、残念な……。

深尾 でも、いいじゃないですか、男が読んでくれるっていうんです。

斎藤 いや、対策を講じるために読むんです。均等法の抜け穴を羅列してあるの、人事部とか総務課とかいうところから一斉に注文が来たの。

深尾 無関心なのよりはよろこばしいことですよ。

有馬 矢島さん、『Ms』は三十万ぐらいですか？

矢島 私がいたころは、たしか、四十五万って言ってた。

有馬 日本では、どうしてあのマーケットが成り立たないんだろう。不思議でしょうがないの。

矢島 それほどいい雑誌とも思わないけど。

有馬 だけど日本の、『オレンジ・ページ』だの『クロワッサン』だのっていうのに比べたら、やっぱり全然違うでしょう。『Working Woman』とか『Savvy』とかね。

松井 だけど、それは日本の全体の水準の低さですよ。

有馬 日本の？

松井 あらゆる面において。私、この間も感じたのだけど、『最底辺』という西ドイツのベストセラーね、ドイツ人のジャーナリストがトルコ人労働者になってルポして出稼ぎの問題を扱った本が二百八十万部も売れてるのよ。そんな本が日本で、二万八千部売れたら上の口ですよ。

有馬 二万八千部なんて売れないわね。

松井 日本では売れないですよ、そういう、人権とか環境問題がテーマでは。結局、お金もうけにつながる雑誌とか本が売れるわけよ。価値観が問題なのよ、日本人の。

斎藤 ただ、『Ms』は、アメリカだから売れるんじゃないですか。八〇年のコペンハーゲンで、フェミニスト出版社の集まりがあったのだけど、どこの国でも、みんなお金がなくて大変だという話ばかりでしたよ。初刷りは、ドイツでもフランスでも一千部だと言っていました。もうかった、って話をしてるの、アメリカの人だけでしたよ。

松井 だけど『Ms』も、完全に、ふつ

うの女性雑誌に墮してしまっただけで聞きましたよ。

深尾 こちらも編集長が替わりましたからね。

有馬 でもアメリカでは『Working Woman』や『Savvy』なんかも売れてるでしょう。日本だったら、働く女の人の雑誌『日経ウーマン』というのがやっとなか出ないかっていう程度。働く女の人の雑誌が成り立つ土壤があると思えないもの。

斎藤ほんと。それは、私たちが『あごら』出して、よくわかる。

有馬 『あごら』が、もっと売れるはずよね、土壤があれば。

斎藤 全然売れないんです(笑)。

有馬 どうしてでしょうね(笑)。

矢島 消費主義がすべてを圧倒しちゃうのよ、日本じゃ。

斎藤 今なんか、フェミニストの雑誌では『あごら』だけでしょ。出し始めのころ、追いかけるようにして『女エロス』が出たり『フェミニスト』が出たりね、

いろいろあったのがみんなつぶれちゃって、結局、残る一つとなって、じゃ、その人口が『あごら』に來たかっていうと、來ないんですよ。全体に、そういう層が減った、っていう感じがします。

そういうふうには燃えてた人たちが、ひとりのようには燃えなくなつた。やっぱり、ある程度、お金が豊かになつてきたら……。

深尾 それと、燃えていろいろと要求していたものが、ある程度受け入れられるようになってきたから、あんまり目くじら立てて言わなくても、という雰囲気になつてきた……。

斎藤 それはたしかにありますね。

松井 それと、部分的には、企業社会の中に女の人が吸収されて、今までだったら運動的なものにエネルギー燃やしてた女性たちが、ある程度、会社なり企業なりで、やつてるでしょう、ビジネス関係の女の人がこのごろ活躍し始めてるでしょう。深尾 アメリカの『Ms』が変わつてきたというのも、それじゃないですかね。

東浦 全体として保守化……とも関係あるわね。

松井 つまり、前は、現状を変えよう、っていうものすごく大きいエネルギーっていうのがあつたでしょ、アメリカでもいま、そういうエネルギーがある程度吸収されてしまつて、現状をとにかく守ろう、強いアメリカをいかにして回復するか」という保守的なムードになつてゐる。東浦 それと、自分の地位も上がることでできるから。かつては、上がるころがなければ、それを突き破らなければ何ともならんと思つたけど、今は努力によつて、かなりポストも上げることができ……。



有馬 嘆かわしいことかしら。喜ばしいことなんじゃない？ むしろアメリカのほうが、そういうドライブがあるっていうこと自身……。

矢島 健全なんじゃないですか。

有馬 日本でも、もっとあればいいのになと思うけれどね。

深尾 自分で、偉くなろう、昇進しようという努力が報われるのは、悪いことではないでしょ。

松井 それは一部の女性よ。アメリカでは、置き去りにされた人に対しては、それこそ非情・冷酷ですよ。都会ではホームレスの人が道端で寝ている。

深尾 それはやっぱり、ものには過程ってものがあるって、行くべき人は、ある所まで行くでしょう。

松井 ひとを突き飛ばして行くでしょ。

だから、突き飛ばされた人は、かなわないのよ。そういう実力主義の社会で、それなりにやって行ける人はいいけれど、取り残された人は、ほんとに……。社会保障とかいう考え方も非常に薄いしね。

深尾 よく言われるでしょ。日本ほど、そういう意味では、平等社会はない。あの意味で、すごいお金持ちもいなければ、あんまりひどい人もいないって。

矢島 だから、共和党の政策が弱者切り捨てを強調してるわけよね。レーガン時代に、それが推進された。

深尾 アメリカ人も、それを望んでる人が多い。

東浦 ある種のと追いやってるかもしれないわよ、日本。

松井 だから最近ではニューヨークとか言ってる土地を持ってる持っていないで、差がすごいでしょ、そういう土地を持つてるニューヨークに対していろんな商業作戦が……。海外で土地を買いなさいって、すごいでしょ。海外投資のハウトゥの雑誌まで出て、ものすごく売れてるとか。

斎藤 その反面、何か、学生が生氣がないですね、日本は。

深尾 子どももそう。

矢島 子どもね。ほんと、くたびれたような顔してる。



有馬 若い女性もそうなのよ。朝の電車によく寝てる人が多いの。若い女性って働いてる女性もね。アメリカのあいう「ジョブ」のような本が日本では売れないっていうのはね、何ていうのかな、いつもみんな、どこか性別役割分業でね、やっぱり女は家庭だっていうので、本気で仕事でプロモートしようと思う気がないのよ。責任を持とうとかね。そういうエネルギー、全然ないように思いますよ。まあ、ほどほどに働いて、ほどほどに月給もらって、結婚か出産で家に入るか、定年までいるにしてもほどほどでいい、と。何か、とってもそういう人が増えてるみたいな感じがするのね。

だから、働く問題、なんていうのを正面から取り組むなんていうのは駄目なんですよ。

松井 ダサイのよ、もう。

有馬 それよか、気軽な雑誌でグルメ情

ゆり戻しも始まった？

斎藤 どうも悲観的な意見ばかり出るの

で、少し楽観的なことを言うと、女差別だけじゃなく、一般にいろんな差別につ

いての意識は高まったような気がするの。

アジア人蔑視みたいなのも、まだまだ問題は山ほどあるけど、やっぱりこの十五年で変わったと思うのだけ。

矢島 私も変わったと思う。ほんと、ほんと。それはやっぱり松井さんのような人たちの功績かもしれない。

松井 あーあ（嘆息）。私、留学生ともよくつきあってるけども、下宿を捜すの、どれだけ大変かと思う。アジア人には貸さないのよ。白人にはOKで。ほんとに

報とか見てるほうがいい。

斎藤 私は、それはとてもいい傾向になり得ると思うけど。「働け働け」よりは、私は救われる……。

相変わらずよ。

斎藤 それでも、ちょっと前とは違うと思いますよ。口にしにくくなりましたよね、ふつうの人が。

矢島 そうね。韓国人に対する態度が

違ってきたでしょ。

斎藤 ええ、台湾人とか中国人とかもね。

深尾 今まだひどいかもしれないけれど、十年、二十年前に比べれば、少しはよくなったんじゃないですか。

松井 もう一つここで問題なのは、日本人でないから、っていう、そういう発想が強く、日本人以外の人たちを、国内でも国外でもバカにする態度をとる。

東浦 自信が出てきたからね。

松井 もういろんな人がいますよ。なんだ、アジアの人々はちゃんとやらないからだ、怠けるからだ、というふうに言う人、いっぱいいますよ、本音としてね。口であんまり言わなくても。

有馬 口で言ってる人もいるものね。で、馬鹿にするのね。働かないとか、頭が悪いとか。そして、日本人はどんなにすばらしいかっていうのをね……。

松井 いまは、アジア人どころかヨーロッパ人、アメリカ人まで馬鹿にして、日本人が一番すごいようなこと言ってる人が多いもの。

東浦 それと同じことを言えば、女の人に対する揺り戻しって言いますか、もう平等は結構だ。

斎藤 ありますね。

東浦 もうこれだけ十何年か言わしてやったのだから、もうたくさんだ、って。七五年以前の論調っていうのは、女の人意見は、自分の身の周りのことしか言わん、大所高所からものを言うことがで

きない、というようなことが批判の種になってたわけよ。女子と小人は養いがたし、というような感じでね。

ところが、ついこの間、ちょっと愕然としたのは、ある男性講師が、また、昔と同じようなことを言ってるの。「福祉の問題なんかにしても、このごろは、男の自立だ、というような狭い次元だけではいかものを言わない。これはけしからん。新しい地域福祉のあり方みたいなものを、女ももっと考えるべきだ」というようなことを、かなり進歩的だと言われていた男の人が言いだし始めているわけ。その理由を考えると、結局、女性の攻撃はもう自分のところまで迫ってきている。「お前、自立しろ」と（笑）。生活自立をする気は毛頭ない男の人たちが、今や反撃に移り始めたのではないかな、という気がする。

要するに、それまでは、はい、ご無理ごもつとも。男もやっぱり、生活的自立を少ししないといかんかな、と思ったけど、どうも自分はそんなことやる気もな

いし、次の世代の問題として受け取っていたのに、どうもそうじゃない。今までの日本を支えてきたのは、男女の役割分工でこれだけ経済社会が成功してきたのだという自信が裏打ちになって、やっぱり「自立」なんて言われるのはもうごめんだ、という感じが、多少、男の中に出てきてくるような気がしてしょうがないの。これは私の被害者意識かもしれませんが。

深尾 私は反対に、「男の自立」とか、なんとかかんとか言っても、男の人があんまり受け入れないで反発していたのが、

女が職場に出たことで評価が変わってきた

斎藤 企業では、とにかく女の人をうまく使った企業、一番典型的なのが生保業界だけど、それがすぐもうかつてるわけでしょう。そして、国鉄みたいに全然女の人を入れなかったところがポシャって……（笑）。

高齢化社会になってきて、男の人やっぱり長く生きなければならぬ、奥さんも病気になるかもしれない、先に死ぬかもしれない、みたいなことが、現実にとんだん目の前に出てきたでしょう。だから、あ、これはいかな、やっぱり自分も、いわゆる自立という意識をもたなくちゃいけない、っていうことが、現実感としてわかってきた男の人が増えたなあ、っていうことをつくづく感じますけど。

東浦 そうかしら。両方あるかもしれないね。

矢島 なるほど。でも国鉄は、そのほかにもたくさん条件がある（笑）。

斎藤 もちろん構造的な問題が基本ですが、国鉄はほんとに女の人を入れなかったでしょう。あれはとっても影響していると思いますよ。あんまり人が言ってい

いけど。

有馬 製鉄会社とか。

松井 つまり、女の人を安くこき使ったということね。

斎藤 製鉄とか建設業界も女性の採用が少なかったけど、国鉄のように看護婦以外は採用しない、なんてことはやってない。あの男性中心主義思想が身を滅ぼしたと思いますね。

女の人を安く使って大成功したのは、生命保険なんか、まさに典型……。

松井 そうなのよ。女性保険外交員の犠牲の上に……。

斎藤 それで大成功したということで、おそかりし……、というふうに思っているところがとても多いのは事実だわね。

ただ、今後の問題は、女を登用する代わりに、アジアの女を安く使うわけですよ。均等法が通ったら、たぶんアジアに顔を向けるだろうと思ったら、その心配どおりになってますね。

だけでも、女を使ってみたら、すごく役に立つということは、これは皆さん、

口を極めておっしゃいますね。長い間ほんとに借しいことをした、と。

松井 でも、平等に使うという意味ではないでしょう、もちろん。

斎藤 いえいえ、登用してみると女が優秀だ、っていうのは、企業のトップクラスの方が口々におっしゃいます。男女の賃金格差や昇進格差はまだまだひどいけど、確実に是正され始めています。

深尾 それから、女の人が開発した製品というのが続々ヒットしている。例えばリンクルガード、スプレーするだけで洋服のしわをとる製品とかね……。

斎藤 文房具なんかも、どんどんいい製品出してるの。だから、新製品開発は女、っていう……。

深尾 女の発想がお金になるということ、は、現実に出てきているのね。

斎藤 お金になるものについては、これは女を使わなきゃならん、というのが、もう一般化しています。

松井 つまみぐいじゃない？ やっぱり。安く使う……。

深尾 いや、そう悪く悪く考える必要はないと思うのよ。

東浦 私の職場の茨城は、女の人々の登用率がビリから二番目よ(笑)。何しろ「日本経済がここまで来たのは、やっぱり女の人を区別してきたからですよ」って、はっきり言われたもの。

深尾 あんまり被害者意識で、悪く悪く解釈してちゃ損だっていう気がするなあ。東浦 「女を使わなくなってるすむんですよ。ごきげんとして、男女平等の賃金払ってまで使う必要は、ほんとうはないんですよ」って、公的な席で言われた。

松井 この前なんか、世界でも日本の女性の地位は三十四位とかって言われたけど、やっぱり社会的な参加っていう点では、日本はおくれていますよ、すごく。だって具体的に、日本の女性で、例えば海外でいい仕事について、ほんとうに男とおんなじに扱われていた人が、日本に帰ってきたら、なんにも仕事が見つからないの。これほど壁の厚い国ないですよ、ほんとに。そういう意味ではまだまだだね。

斎藤 その一方で、海外に行ったことで売り込んでいる女の人が、とても増えたね。

有馬 それはもう増えていますね。

斎藤 日本の学卒では、大企業の幹部コースにはなかなか採用されないけど、海外にいた経験があると……。

松井 そりゃね。プラス・アルファがなきゃ使われないわけ、女は。言葉ができるとか、何か特別の技能がなきゃ駄目なんですよ。

深尾 最近外国の大学を出た女性っていうのは、めっぽう就職率がいいでしょ。

東浦 アナウンサーなんか、けっこうそれがはやってきたでしょう。

矢島 それから、外資系の企業が増えてきたことも、ひとつの理由ね。

有馬 あれも、男の子はしっかり勉強させなきゃいけない、っていうんで連れて行かず、女はまあどうでもいいや、っていうんで連れて歩く。結果的に、連れて歩かれたほうが得をしちゃったというケースが多いみたいね。

深尾 やっぱり人生は長いものさしで計らないとね。

松井 国際化してるからね、企業も。どうしたって、そういう外国語のできる社員っていうのが必要になってくるのね。

深尾 やっぱり変わったわよ。私なんか変わったなあっていうことのほうにばかり、目が行くけど……。

松井 どこを原点として変わった？

深尾 国際婦人年以前と以後。

有馬 変わってますよ、そりゃ全然。ただ、変わってるけど、変わらないものもたくさんある。

松井 全然変わってない分野も、うんとあるわけよ。

斎藤 一番変わったのは、日本が官僚主導の国だから、国際婦人年以降、おおっぱらに女性差別撤廃のいろんな催しもできるし、発言もできるようになったこと。

矢島 ええ、それは大きいですね。

松井 変わらないのは、男の意識。

矢島 いや、それは変わってる部分もあるわよ。若い人は変わってるわよ。

有馬 女も変わってない。

深尾・斎藤 変わってますよ。

松井 何も変わってない。

東浦 主婦だって、すごい主婦もいますよ。主婦も多様化してきてるから。

斎藤 そう、多様化してる。で、もう賢い人は、どんどんどんどん自分ひとり歩いてる。

深尾 だから、いま、「個性は性を超える」んですよ。

松井・斎藤 ほんとにそう、そのとおり。

深尾 だから「主婦は」とか「男は」とか「女は」とか、いつまでも言ってるのはつまんないんじゃない？ そういう議論って。

松井 でも、まだ、当たる部分があるから困っちゃうわけ。

有馬 だから、まだ、われわれの存在価値がある（笑）。

斎藤 ただ、前は情報がないから、自分は家庭の中ばかりいて、世間知らずだ、って気持ちがあったけど、今は働いている人よりもテレビなんかを見てて、いろん

東浦 それから、行動するという場合には、主婦の限界っていうのがあるわね、どうしても。特に日本の場合は。旦那が企業に勤めてるっていうようなことだと、間接に旦那の足を引っ張ることに、即、つながっちゃう。逆に、勤めてる女の方は、忙しくて出かけられないし、旦那たちと同じような環境にあるわけでもあるし。

松井 きょうだって、実は、お昼に数寄屋橋の交差点で、「熱帯林を守ろう」って、ゼッケンつけたりなんかしてチラシをまいてるわけ。だけど半分が外人なのよ。日本が一番熱帯林を壊して、最大の熱帯木材の輸入国でしょ。ところが、三十人ぐらいやってるうちの半分以上が、赤ん坊連れたアメリカ人の女の人とか、みんなやってるわけよ。私、もう情けなくて。取材する側も、日本のマスコミは私とTBSぐらい。外国のプレスの人たちが「日本の新聞記者の人たちはなんで関心がないのか」って。きょう、世界じゅうで一斉に、熱帯林を守る行動をやっ

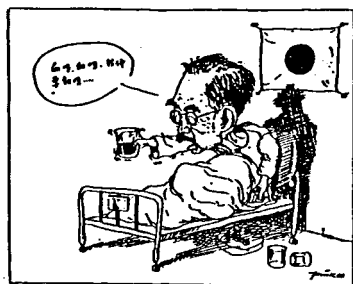
るわけなの。

深尾 日本の新聞記者はみんな天皇のほうで忙しくて、熱帯林どころでないのよ。東浦 政府だって、外務大臣まで国連の会議に行かないんだから、ね。だから、女だけの問題じゃないんじゃないの。

矢島 それに関連して驚いたのは、NHKの国際放送で、天皇の体温やら血圧やら、全部報道してるんですってね。知り合いのイタリア人の若い女性が翻訳してるんだけど、むしろ国辱じゃないかと思うの、関心を持たない人にはばかばかしいあの数字を海外にまで報道するなんて日本人にとっても重要なことは世界の他の国々にとっても重要だと思ひ込んでいる。だから彼女は抗議したんですって。こんなこと、イタリア人は誰も関心がないって。そしたら上司の日本人に、いや、関心があるから流せて言われたって。松井 日本の情報っていうのは、ものすごくたくさんあるようにいて、海外での情報とのズレがあまりにも大きいわけよ。だから天皇の情報に関しても、ホンコン

の漫画で、ベッドに天皇の顔した老人が寝ていてその後ろに日の丸がかかっていて、コップをこう出して、「もっと血をもっと血を。私は血が欲しい」って。どれだけの血を流したか、っていうことでしょう、アジアで。それに対して漫画が出てるわけです。

矢島 私はいまマスコミの外にいるから、一読者として言わせていただくと、はじめに危篤状態になったとき、NHKのテレビで、右翼が三人くらい宮城前に行って土下座してるところを映していた。ところがたったの三人だから、画面にはむしろ彼らの周りを十重二十重に囲んでる報道陣が映っちゃう。その人数のほうが



香港「快報」(9月29日付)より
——「血を、血を、もっと血を飲みたい……」

強烈な印象なのね。それ見てゾーッとして、あくる日の新聞開いたら一斉に天皇報道で……。戦争中に逆戻りしたかと思ったわ。たいへん悲しかった。

松井 実際にそうなのよ。戦争中に似てる。だから私、昭和の初め、戦争にどんな突っ走って行ったというプロセスが、今度よくわかったの。新聞記者だって、心の中でこんなの馬鹿らしいと思ってるのに、言えない、書けない、って言ってる。戦争中だって、おかしいと思ってる人もいるのよ。だけど言うのがこわいわけ。今も同じ状況なのよ。なんとも言えない怖さですよ。私だって何も言えないでしょ、そういうことなかな。例えば、アジアのマスコミが天皇の病気をどうとりに上げているかを調べて記事にしたけど、結局ボツよ。アジアの国々では、天皇の戦争責任を改めてとりに上げたり、今の日本人の自粛とか反応がこわい、と書いたりしているのよ。

深尾 矢島さんは、天皇訪米のときの報道のあり方に失望して、通信社を辞めた

のでしょ。

矢島 それは全くおんなじだったのよ。

あのときは、もっと扱いも小さかったけど、全部で百二十人ぐらいの記者が動いたわけよ。随行記者と、向こうにいる特派員を含めてね。そしてお互いに、ほかの社に負けまいと。よそが出してるからうちも出す、全くの相乗作用でね、そして内部では、みんな、こんな記事つまんない、とか、馬鹿にしてる、とか、お膳立てしてあるおせち料理だとか言いながら、文面はきれいな言葉や並べて、送ってるのよね。アメリカで偶然、その日が晴れたら「天皇晴れ」だとか言ってる。私はそれで、がまんできなくて辞めたのだけど。戦争中、子どもだったころ、あの皇国思想の美々しい漢語を連ねた新聞記事、ほんとうに信じ切って、裏切られた。あの記事を書いていた記者たちも、これと同じだったのだ、と、その時はじめてわかったのね。そしたら十何年後に、全くおんなじ状態になったから、ぞっとしてしまふ……。

斎藤 同感ですね。このごろのマスメディア見てて、ものすごく恐ろしいという感じがする。

矢島 そう。マスメディア見ているかぎり、日本は変わってない、という感じがするわ。

斎藤 そうしたら結局、一番変わってないのはマスメディア、つてのが、きょうの話のオチじゃないの（笑）。

矢島 もちろん、女性に關しての報道や表現については、もちろん変わってるわよ。やはり差別はなくなってきたと思う。昔は例えば、母子家庭の子どもが非行に走ると、母子家庭という「異常な」家庭だから、とか書いて平気だった。女が何かはつきり主張すれば「赤い気焰」と書かれるのがおきまりだった。たしかに、そういうことはなくなつたのよ。ただ、全体の姿勢として、何か事が起これば——特に天皇のこととなると、一斉にこう、ダーッと同じような紙面を作るのは、十何年前を通り越して、戦争中と同じだと思う。

斎藤 紙面を作ったり電波で報道を流す側にも危惧と怒りを感じますけど、たとえば「記帳」や「自粛」が報道されるとわれ先に時流に乗る。そういう日本人にも絶望に近い失望を感じますね。ということ、女も含めて、やっぱりまだ日本人が自立してないってことでしょね。私、新聞とテレビの料金を払ひ運動を提唱しようかな、なんて思ったりしたけど、まずは我が身を反省します(笑)。

ごめんなさい、今夜は皆さん、一番おっしゃりたい昨今の問題やメキシコ会議の話がテーマじゃなかったので、さぞかし腹ふくるる思いで……。申しわけありません。

天皇制や政治腐敗の問題については、マス・メディアは、そしてミニコミは、今こそ何をなすべきか、一度、腹を割って話し合いたいですね。そして、私たちの行動をしませんか。

今夜は遅くまで、ほんとうにありがとうございました。(88・10・31 夜)

「自分史」原稿募集中 WANTED

12回連載 1回1600字
女性に限る 薄謝進呈
問い合わせは編集部迄03(402)3238



週間 1ヶ月送料共650円 半年3900円 見本紙贈呈
東京都渋谷区神宮前3-31-18 ☎03(402)3238
振替 東京8-196455 婦人民主クラブ

さべつ・おんな・はたらく・がつこう
アジア・たべもの・せつけん・げんぱつ

女がげんきになる 婦人民主新聞

1973



「列島改造」ブーム、国を挙げての投機熱は、物価大暴騰、目の玉の飛び出るような地価上昇をひきおこした。秋の第一次オイルショックで物不足とインフレはさらに加速、姿を消したトイレットペーパーや砂糖を追って人々は狂奔。怒り心頭の女たちは買い占め商社の摘発、物価Gメン、不買運動、生協活動と、抗議の先頭に立つ。

「優生保護法」国会再審議に、女性三十団体は団結して抗議行動、〈中ピ連〉はピル解禁を叫ぶ。売春ツアー根絶、未婚の母K子さんの親権訴訟、と女の共闘戦線が広がり、エブリン・リードはじめリブの来日も相次ぐ。

名古屋放送女子三十歳定年、日産自動車定年差別、日本信託銀行男女差別賃金など、労働権をめぐる法定闘争の支援活動も活発に。

十年ごしの水俣病訴訟など、四大公害訴訟はすべて企業の過失が断罪され、インフレと公害を焦点に、地方選挙には革新が力を見せ、六大都市の首長はこの年すべて革新系となる。札幌地域で初の自衛隊違憲判決が出たのもこの年。都営ギャンブル全廃、シルバースhirt登場、労災保険法一部改正、実子特例法審議、前年の『あこら』に続き、フェミニスト誌『女エロス』創刊、英国で平等法成立、英米でMsが公認となった。八年ごしのベトナム戦争は米軍の撤退宣言にもかかわらず依然泥沼。チリでは軍部が米国と結んで人民政府を倒し、金大中氏誘拐はKCIAの臭いと共に迷宮入り。世界の暗雲は重い。

【ブーム】女性解放ゼミ、主婦サークル、おふくろの味、ハイセイコー

【ことば】未婚の母、若年定年制、出産定年、頸肩腕症候群、じっと我慢の子であった、そんなに急いでどこへ行く

【論争】育児休業、ピル、生理休暇、出生前胎児診断、幼保一元化、二分二乗法、フリーセックス

【賞】石牟礼道子・マグサイサイ賞、市川房枝・水谷八重子・朝日賞、宮城まり子・吉川英治文化賞、天羽道子・キワニス文化賞、山本道子・郷静子・芥川賞、高橋たか子・田村俊子賞、幸田文・女流文学賞、有吉佐和子・森たまバイオニア賞

【本】石牟礼道子『流民の都』 秋山清『情熱の人・高群逸枝 自由女論争』 ケイト・ミレット(藤枝澪子訳)『性の政治学』 久布白落実『魔娼ひとすじ』 石垣りん『ユーモアの鎖国』 グループ闘う女『告げる朝』 草の実会『道・母たち』 日本子どもを守る会『子ども白書』 あごら『壁を破ろう』 小松左京『日本沈没』 山崎豊子『華麗なる一族』 樋口恵子『女性の適職-仕事と私』

【TV】子連れ狼、刑事コロンボ

【歌】神田川、てんとう虫のサンバ

【映画】日本近代女性のあゆみ、仁義なき戦い、日本沈没、ジョニーは戦場へ行った

【物価】牛乳1本 32円、豆腐1丁 50円、天ぷらそば 100円(スタンド)、米 10キロ 1,600円

【雇用者の平均月収】男 143,736円、女 76,324円

【女子の平均勤続年数、平均年齢】 4.7年 32.2歳

【月間平均労働時間】 169.2時間

【雇用者中の女子の比率】 33.0%、うち有配偶者48.3%

【物故】徳永恕(1.11) ジョンソン(7.22) 大橋広(2.20) パール・バック(3.6) 大仏次郎(4.30) 関鑑子(5.2) 吉屋信子(7.11) 恩田和子(7.11) ジョン・フォード(8.31) パブロ・カザルス(10.22) 小泉よね(12.17) 浪花千栄子(12.22)

1973年の主な出来事

1. 1 老人福祉法改正施行。70歳以上の医療無料化
 - 4 *台所用洗剤の発ガン物質使用禁止
 - 5 *朝日文化賞に市川房枝、水谷八重子
 - 8 タイ警察、20人の現地妻を持つ玉本敏雄を逮捕
 - 9 東京・神奈川・埼玉・千葉の住民 372人、定数不均衡で総選挙無効を提訴
 - 11 中国に35年ぶりに日本大使館開設
 - ” * <後妻の会> 設立呼びかけ
 - 13 田中首相、共産党議長と会談（憲政史上初）
 - 18 *芥川賞に山本道子と郷静子
 - 20 都営大井競馬廃止
 - 22 * <売春問題ととりくむ会> 結成（22団体参加）
 - 27 森永砒素ミルク事件、厚生省が再調査開始
 - 29 *主婦代表、厚生省に石油タンパク食品製造禁止を要請
 - 30 *主婦連、地婦連など、公取委の安売り特売規制に抗議
- この月 *企業の結婚相談所誕生

2. 1 環境庁、土呂久の慢性砒素中毒を公害病指定
- ” 浅間山、12年ぶりに爆発
- 2 ドル売り激化し、東京外為市場閉鎖
- 3 *K子さん、働く母は子育ての資格がないかと法相に抗議
- 4 ~ 5 *無認可保育所第3回全国集会（20都道府県から300人）
- 8 *K子さん差別判決最高裁で確定
- 9 都営大井オートレースも廃止
- 10 公労協、スト権奪還統一半日拠点スト
- 14 円、変動相場制に移行、1ドル 277円22銭に
- 16 * <働く母、未婚の母、差別裁判に抗議する会> 結成
- 20 * <全国婦人税理士連盟> 法制審議会に二分二乗法を要望
- 22 *女性8人殺しの大久保清に死刑判決
- 25 * <東京の保育と幼児研究会> 母も保母も共に労働条件が悪すぎると集会

この月 2月の卸売物価、1.6%上昇（日銀発表）

- *阿蘇の縫製工場主婦従業員賃上げストで要求貫徹
- *劇団民芸で女性演出家がデビュー
- *中教審5段階職階制に女性教師反発
- *全国チェーンストア労働者職業別会議「レジ病」を告発

1. 1 拡大EC発足（英、アイルランド、デンマーク新加盟）
 - 7 ビマルコス大統領新憲法で無期限在位可能に
 - 13 日ソシベリア経由新空路開設
 - 16 ニクソン大統領北爆中止を命令
 - 22 *米最高裁、妊娠3か月以内の中絶を自由化
 - 27 バリでベトナム和平協定調印
 - 28 午前8時南ベトナム全土で停戦発効
- この月 *スウェーデンで父親も4か月の産休、給料90%支給／結婚、婚姻を簡易化した婚姻法改正
- *米国で幼児向けリブの歌レコード
 - *ニューヨーク州で結婚保険法立法化

2. 1 米軍ベトナム戦犠牲者4万6千人と発表
- 2 *ロンドンで「性による苦情処理局設置法案」打ちりに抗議、500人がデモ
- 9 仏・東独、国交樹立
- 12 米ドル10%切下げ
- ” ベトナム捕虜相互交換始まる
- 13 上海の人口1,082万、世界最大の都市に
- 14 *男女差別禁止法案英国第二議会通過
- 15 キッシンジャー訪中
- 21 ラオス、パテト・ラオ和平協定
- ” イスラエル、リビアの旅客機を撃墜
- 26 ベトナム和平、パリ会議閉く
- 28 *米政府出版局『政府刊行物用語集』にMsを加える

この月 *第1回全米女性政治協議会

- *米国大統領顧問にアン・アームストロング女史
- *リヒテンシュタインで女性参政権のための憲法改正否決

3. 1 * <差別裁判に抗議する会> 集会 (婦連会館)
 - 2 * 宮城まり子に吉川英治文化賞
 - 6 * 慶大女子職員74人、生理休暇で賃金カットは違法と提訴
 - 8 * 国際婦人デー中央大会開催/広島で女性差別反対デモ
 - 9 生活関連物資の買占め、売惜しみに対する緊急措置法案閣議決定
 - * 自民党優生保護法改正案、国会提出を決定。女たち5,000名の署名を集める
 - " 衆院予算委、円・商品投機・土地で集中審議
 - 12 * 東京高裁、「女子の55歳は男子の70歳に相当」と日産自動車の50歳定年制に適法判決。女性たち抗議行動に立ち上がる
 - 13 国鉄順法闘争に怒った6000人、国電車輦と上尾駅を壊し、高崎線運休
 - * 有吉佐和子に森田たまパイオニア賞
 - 20 熊本地裁、水俣病訴訟で患者側全面勝訴判決
 - 22 * 東京地裁、日産自動車の定年差別に違法判決
 - 24 * 日本信託銀行労組、男女差別賃金で提訴
 - 29 * 高橋たか子に田村俊子賞
- この月：アキコ・カンダ「女を踊る12か月」公演 (ジャンジャン)
- * 全女子高校生、家庭科4単位必修に。共修の声あがる。
 - * 草加市でゼロ歳児家庭保育制度スタート
4. 2 地価上昇前年比33.3%の暴騰 (建設省発表)
 - 4 最高裁、尊属殺人罪は違憲の新判例
 - 6 * <滋賀地評主婦の会>、無公害洗剤を発表
 - 10 北富士演習場、自衛隊に使用転換
 - " 首相、小選挙区制を表明。全野党審議拒否
 - " * 森永砒素ミルク被害者36人、森永と国に4億1400万円の賠償を請求
 - 12 祝日法改正公布・施行 (振り替え休日実現)
 - 16 * <差別裁判に抗議する会> シンポジウム
 - 17 * 菊田昇医師、10年間に100人の養子をおっせん
 - 21 新潟水俣病共同会議、昭和電工の補償妥結
 - 23 * 日中友好婦人代表来日、日本の婦人団体と交流
 - 25 最高裁、公務員・公社職員の争議権否定判決
 - 26 中央公害対策審、二酸化窒素等の環境基準改定答申

3. 1 欧州通貨危機再燃
 - 2 <黒い9月> スーダンのサウジアラビア大使館を占拠
 - " ドル売り再燃で東京外為市場閉鎖
 - 6 パール・バック没 (80歳)
 - 8 北アイルランド住民、英領残留賛成
 - 10 スペイン・中国、国交樹立
 - 11 EC蔵相会議、マルク3%切上げ決定
 - 17 カンボジア全土に非常事態宣告
 - 19 EC6か国、共同変動相場制に移行
 - 29 ニクソン米大統領、ベトナム戦争終結宣言
- この月 * 全米オープンテニス選手権の賞金初めて男女同額に
4. 6 スウェーデン、北朝鮮を承認
 - 8 パブロ・ピカソ没 (91歳)
 - 9 パレスチナゲリラ、ニコシアのイスラエル大使公邸と空港を襲撃
 - 10 イスラエル、レバノンのゲリラ基地を報復攻撃
 - 12 鄧小平、副首相に復活
 - " 仏と北ベトナム、国交樹立
 - 13 フィンランド、北朝鮮と韓国を承認
 - 16 米空軍、ラオス爆撃再開
 - 23 <赤いクメール>、プノンペンを包囲
 - 27 ウォーターゲート発覚
 - 30 ニクソン、法律顧問デーンらを解任

5. 2 *関 鑑子(うたごえ運動主宰者)没(73歳)
 - 6 ハイセイコー, NHK杯も制し10連勝
 - " *K子さん実子を取戻す。育ての親K子さんを告訴
 - 7 *婦人6団体, 小選挙区制反対で自治相に抗議
 - 10 * <定年制の男女差別をなくす会>呼びかけ
 - 11 * 優生保護法改正案, 国会に再提出。女たち, エブリン・リードを囲み, 「世界の女性よ団結を」!
 - 12 * ウーマンリブ団体, 優生保護法改正反対で厚生省につめかける。脳性マヒ者協会も抗議
 - 15 日本, 東独と国交樹立
 - " 丸紅社員ら, ヤミもち米 100億円買占め
 - 16 政府, 小選挙区制国会提出を断念
 - 22 江東区, 杉並区のゴミ搬入を実力阻止
 - 23 * 東京地裁, タイピストの職業病に慰謝料をの判決
 - 25 中村衆院議長「野党をごまかした」発言
 - 26 増原防衛庁長官, 防衛問題での天皇発言公表
 - " * <東京都消費者連合会>などの団体, 合成洗剤に使用のABSの危険性を訴える
 - 29 中村議長, 増原長官辞任
-
6. 6 全国の運転免許者30,037,613人に
 - 11 東京湾の魚介類から暫定基準を超えるPCB検出(都総合調査)
 - 12 高校生が朝鮮中高級学校生徒を襲撃
 - " 国士館大生と朝鮮学校生, 乱闘
 - 13 殖産住宅東郷会長, 36億円脱税で逮捕
 - 16 日本, 国連分担金米ソに次ぎ3位に
 - 20 この半年間の地価上昇率は全国16%, 6大都市は23%
(日本不動産研究所発表)
 - 21 昭和電工, 新潟水俣病全面責任を認める
 - 24 厚生省, 水銀汚染62水域発表(魚の売行き激減)
 - 30 * 優生保護法改悪を阻止する全国集会(明治学院大6分科会)

5. 1 FBI, ホワイトハウスを捜索
 - 3 英, ヤードポンド法を廃止, メートル法を採用
 - 7 ワシントンポスト, ウォーターゲートで受賞
 - 11 西アフリカ6か国, 600万人が瀕死, 国連へ食糧空輸を呼びかける
 - 14 スカイラブ1号打ち上げ, 太陽電池など故障
 - 17 米上院, ウォーターゲート公聴会開始
 - 18 ブレジネフ西独訪問(戦後初)
 - 22 ウガンダ, 英系企業を接収
 - " 南ア, アフリカ人労働者に一定限度のスト権
- この月: *仏政府, リブの圧力に堕胎禁止法改正を約束
- *デンマーク議会, 妊娠2か月以内の中絶を合法化

6. 1 ギリシア, 王制廃止, 大統領制共和国に
 - 7 *西独下院でポルノと売春の自由化へ
 - 13 キッシンジャー, 北ベトナムと和平協定合意
 - 16 ブレジネフ初訪米(22日, 核戦争防止協定)
 - 20~29 *ジョグジャカルタで国連アジア婦人問題セミナー「婦人の地位と家族計画」米英ソも参加。日本は不参加で問題に
 - 23 韓国と北朝鮮の国連同時加盟提唱, 金日成は反論
 - 27 中国, 15回目の核実験
 - 28 ナガスクジラ3年以内に全面禁漁に
- この月: *米国で世界フェミニスト大会準備会議

7. 4 * K子さん、略取傷害などで書類送検（大阪地裁）
 - 6 投機防止法（買占め、売惜しみ禁止）施行
 - 7 出光石油化学徳山工場爆発事故で83時間炎上
 - 8 水俣病補償交渉妥結。2年間の座り込み解除
 - ” 都議選でみのべ与党初めて過半数に
 - 9 * <地婦連>20周年記念大会開催(2,500人参加)
 - 12 * 生産性本部トップマネジメントセミナー講師に田中里子を招く
 - 17 自民若手、青嵐会結成
 - 20 パレスチナゲリラ、日航ジャンボ機乗っ取り
 - 24 日航機ゲリラ、リビアで乗客解放し投降
 - 30 * 「産める社会を、産みたい社会を」優生保護法改悪を阻止する全国集会

この月：東京都、養育家庭制度発足

8. 7～9 * <家庭科教育者連盟>家庭科共修を討論
 - 8 金大中、飯田橋から白昼連行される
 - 9 週休2日制、人事院勧告
 - 13 金大中、帰宅、日本の主権侵害の声高まる
 - 16 自衛隊員の「合祀違憲訴訟」、口頭弁論始まる
 - 18 * 第19回日本母親大会（参加3万人、史上最高）
 - 22 政府管掌健保赤字 600億に
 - 23 金大中事件にKCIAと、田中伊三次、発言
 - 27 愛媛伊方村住民、原発反対訴訟
 - ” * 全国保育研究協議会で幼保一元化論争
 - 29 公取委、再販制度廃止決定（安売り規制新設）
 - 30 * 総理府調査で「フリーセックスは好ましくない」が7割
 - 31 * 石牟礼道子にマグサイサイ賞/天羽道子にキクエス社会公益賞

7. 1 米議会カンボジア爆撃停止を大統領に要請
 - 3 欧州安保協力外相会議ヘルシンキで開催（参加35か国、デタント確認）
 - 6 バングラデシュ独立後1年半で5000人テロで殺害されたと発表
 - 10 モザンビークでポルトガル軍が現地人400人を虐殺と英技師が暴露
 - 16 ニクソンの録音テープ発覚
 - ” 中国機モスクワ乗り入れ実現
 - ” カザフ共和国で高速中性子増殖炉操業
 - 17 アフガニスタン王制廃止、共和制宣言
 - 18 ニクソン、物価統制強化
 - 21 仏、ムルロア環境で核実験（24日、ベルーカ抗議、仏と断交）
 - 30 英サリドマイド裁判、132億円の補償
- この月 * ノルウェー女性会議が育児中の母親の減税要求

8. 2 中国、批林批孔運動始まる
 - ” イラン、欧米の石油施設を国有化
 - 6 米機カンボジアの村落を誤爆、50人死亡
 - 12 多国籍企業10社の年商は中小80か国のGNPを超えると国連指摘
 - 15 米、カンボジア爆撃を停止
 - 19 パキスタン大洪水、死者1,000人以上
 - 21 チリ全土で反政府スト
 - 24 中国共産党十全大会で鄧小平ら旧幹部復権、林彪・陳伯達を永久除名
 - 28 第三次印・戦争の捕虜ら送還協定
 - ” メキシコ中部で大地震(死者1,000人)
 - ” ソ連、サハラフの政府批判を非難
 - 29 ニクソンに録音テープ提出命令

9. 5 金大中現場で韓国書記官の指紋発見

〃 *幸田文に女流文学賞

7 札幌地裁 長沼ナイキ裁判で「自衛隊は違憲」の判決

8 *日本医師会、看護婦最低賃金制委員会の発足を明言

10 *労働省、1年間の育休制普及、周産期の労働制限をと
第一次報告

15 *婦人職場指導者セミナー、育休は賛否両論

15, 17 セクト内ゲバで死傷者

17 スマトラで救出の元日本兵婦国（失明状態）

20 ベトナム民主共和国との国交文書に調印

〃 衆院本会議、北方領土返還要求

20 * <差別裁判の会> 竹内判事の訴追を国会の委員会に請
求

21 * 婦人団体「韓国を日本の赤線地帯にするな」運動開始

22 * 無休の育休法は不安と、女性たち意見交換会

22 * 連見判決 求刑（東京地方裁）

25 通産省、初のエネルギー白書を発表

28 * NOWの国際部長来日、日本支部設置と世界フェミニス
ト会議（75）を呼びかける

この月 シルバーシート、国電中央線に初登場

* 川崎の看護学院 主婦学生の入学・在学を認める

* 主婦の<労力銀行>大阪に誕生

10. 1 通産省、石油安売り13社に販価凍結を指導

5 米空母横須賀入港、母港化反対のデモ

〃 * 全国革新市長会「福祉を語る革新市長と婦人のつどい」

6 * <母と女教師の会> 20周年記念全国集会開催

9 * 大阪地裁、K子さんに子を返せの判決

10 田中・コスイギン、領土問題を含む平和条約交渉の確認

12 * 母親連絡会など合成洗剤不使用運動

21 * 滋賀銀行山科支店の元女性行員、9億8千万円詐欺

23 * <中ビ連>、家族計画討論会に押しかける

〃 江崎玲於奈にノーベル物理学賞

26 * 生活学校の主婦たち、ビン、缶、家電製品等の回収を要求

28 神戸に革新市長。六大都市、すべて革新系に

31 トイレレットペーパー買占め騒ぎ、パニック拡がる

この月 家族高額療養費者制度発足、月3万円以上は公費負担

9. 1 リビア、外国石油の持株51%を国有化

3 バングラデシュ、非同盟諸国に加盟

5 第4回非同盟諸国首脳会議（63か国）

6 エールフランス、パリ北京間空路開設

8 サハロフ博士、危機を訴える

11 チリでクーデター、アジェンデ大統領
死亡

12 ラオス政府とパテト・ラオ、臨時民
族連合政府樹立を合意

14 ガット東京宣言、新国際ラウンド

17 * 英国政府、就職差別撤廃法案を発表

18 国連 東西両ドイツの加盟を承認

23 アルゼンチン、18年ぶりにペロン大
統領復帰

24 ギニア・ビサウ共和国独立（旧ポル
トガル領ギニア）

この月 * AP通信社の女子社員、幹部や海外
特派員に女性が少ないのは不平等と
連邦雇用平等化委員会に訴える

10. 2 韓国で金大中事件の抗議デモ続く

6 第4次中東戦争始まる（エジプトと
シリアがイスラエルを攻撃）

14 タイで10月革命、サヤン文民内閣へ

16 湾岸6か国、原油70%値上げ宣言

〃 キッシンジャーにノーベル平和賞

18 イタリア共産党「歴史的妥協」提唱

20 アラブ産油諸国、イスラエル支持国
への石油輸出停止を決定

〃 ウォーターゲートで司法長官辞任

21 国連安保理、中東停戦決議案可決

23 メジャー各社原油価格30%上げ通告
（第一次石油ショック）

30 米ソ、中東停戦監視の派兵不参加

〃 米下院 ニクソン弾劾調査を開始

11. 2 金鐘泌韓国首相来日, 金大中事件で謝罪
" 大阪でトイレットペーパー買いだめ騒ぎ
6 広告ネオンサイン消灯, 大型店営業時間短縮
8 *第12回全国消費者大会開催。50団体, 物価暴騰に憤る
14 関門橋開通。全長1,068m
瀬戸内晴美 仏門に
" *エールフランスの日本人女子社員条件つき解雇に反対して提訴
16 政府, 石油・電力消費の10%削減自粛を要請
17 *中央児童福祉審議会「家庭保育の重要性」を強調
20 デパート・スーパー, 30分開店繰り下げ
" <日本消費者連盟>, 不買運動で抵抗
27 公取委, 石油連盟と元売り13社を独禁法違反で強制調査
28 森永砒素ミルク事件徳島地裁で結審。責任者1名のみ禁固3年
29 熊本市の大洋デパート出火。死亡103人
この月 各地で紙・洗剤・砂糖などの品不足騒ぎ
各地で合成洗剤追放の動き広がる
12. 3 *三井造船「出産退職制」無効で和解。第2子退職制は存続
4 *厚生政務次官に石本 茂さん
10 三木副総理石油危機打開特使として中東へ
静岡地裁女性判事
11 *女子47歳定年解雇無効の判決
14 愛知県豊川信用金庫でデマによる取付け騒ぎ
*国立がんセンター看護婦, 増員要求座り込み
15 水不足で全国の発電量, 平年の71%。
18 三木特使, 石油供給でエジプト大統領と会議
22 国民生活安定緊急措置法, 石油需給適正化法を公布, 施行
25 *羽田で<アジア婦人会議>ほかキーセン観光反対デモ
この月 卸売物価狂乱, 前年同月比29%上昇
大蔵省, 50年度税制改正で相続税, 贈与税を大幅引下げ, この月 *イタリアで中絶権獲得へ女性がデモ, 座り込み
配偶者控除を大幅引上げ
健康保険法改正, 家族給付5割から7割に
厚生年金法改正, 5万円年金スタート。
拠出額は2.5倍に
*NOWの国際部長来日, インパクトを与える。
11. 5 OPEC, 原油25%減産を決定
7 エジプトと米, 国交再開
" 国連大学, 日本設置決定
8 パキスタン, ASEANから脱退
11 イスラエルとエジプト, 停戦合意
25 ギリシャ軍部無血クーデター (キジキス将軍が大統領に)
28 アラブ諸国, ポルトガル, ロードেশア南アの3か国への石油輸出を禁止
29 プレジネフ, 対印経済協力協定に調印
30 タイで第1回アジア学生会議 (6か国参加)
12. 3 米惑星探査機, 木星の写真を電送
" 韓国, KCIA部長を解任
6 *米大統領にフォード就任
11 チェコと西独国交樹立
17 ローマ空港でゲリラ, PAA機爆破, 32人射殺 (18日クウェート空港で投降)
18 OPEC現行石油価格を破棄, 変動制とする
19 *韓国金浦空港で梨花女子大生ら, 妓生観光反対の抗議デモ
20 スペイン, フランコ首相バスク独立運動のテロで爆死
21 ジュネーブで中東和平国際会議 (国連主催)
25 OPEC, 日本など友好国には石油必要量を供給と宣言
29 インドネシア, 日本向け石油80%値上げ通告
*英国<独身女性と扶養家族全国協議会>老人扶養の独身女性に社会保障を要求
*米国で初の女性坑内婦誕生

風潮

「たかが女子寮」の誤算

女子大生、犯人逮捕

十二日未明、東京・杉並区、東京女子大内の学生寮に忍び込んだ男が、十数人の寮生たちにつかまえられた。

男は「女子寮だと思って油断したら……」とボヤイテいる。

(1・12朝日)

企業が結婚相手探し

三菱グループが「結婚相手も三菱で」と、コンピュータを使った結婚紹介に乗り出した。

三菱系全従業員中の独身者八万人と従業員の子女が対象で、カウンセラーとして活躍するのは、幹部社員の人たち。

(1・13朝日)

「日本近代女性の歩み」

日本女性の百年を映画に

平塚らいてうを軸に、時代の先覚的女性を社会の移り変わりとともに紹介した映画が完成。

「生きるとは 行動することである」というらいてうの言葉も考えてみようと言っている。

16ミリカラー41分。問合わせ先 学研映画事業部(1・14朝日)

二十歳の実感

喜び薄い大人への成長

昨年一年間に二十歳になった東京の女性二百五人に、その生活と意見を聞いたアイデア・バンクの調査がまとまった。

二十歳になった実感は、残り少ない青春へのあせりや無感動

派が目立つ。酒の経験者九八％、喫煙経験者五六％。最大の関心事は「結婚」で、全体の六割以上が二十三―二十五歳までと言う。そして十年後は「主婦業や育児に専念」と、家庭におさまっているイメージを描く人が全体の七割。(1・15朝日)

婦人専用車廃止論再燃

「もはや戦後は終わった」

「それこそ時代逆行」何やら憲法改正論議めいた論争が国鉄首都圏本部で繰り広げられている。火ダネは国電中央線の「婦人子供専用車」。戦後二十六年走り続けた「女の電車」だけに、存廃論もかましい。

(1・21毎日)

*

代わって「シルバースーツ」が国電中央線の快速・特別快速電車の婦人子ども専用車を廃止。代わってお年寄りやからだの不自由な人たちのための優先席が

お目見えした。1号、4号、10号車の最後部六席ずつ、合わせて十八席。「シルバースーツ」がその呼び名。(8・14朝日)

*

強くなった(？)女性より老人・身障者、という国鉄の方針で廃止が決まっていた中央線の婦人子供専用車が、三十一日、二十六年間の務めを終えた。

この専用車は、戦後の混乱期に、弱い婦人や子どものために設けられたもの。(8・31毎日)

「パターン」売れ行き上々

三十代ミセスの街着を中心に

「ホームソーイング」という新しいことばで昨年登場した家庭洋裁用のパターン(型紙)

の売れ行きが予想以上に好調。

業界は、ことし本格的な販売態勢に入るようだ。(1・29朝日)

主婦モニター、花ざかり

国や地方自治体はもちろん、

ラジオ、テレビ、企業などの主婦を対象にしたモニター制度は花ざかり。発言力の強くなった女性の意見を無視できなくなったと同時に、企業のイメージアップなど、新手法のPR作戦。主婦にとっては、社会進出のチャンス。(1・30読売)

ミニだと足が太くなる？

いや、パンタロンのほうが：冬、ミニスカートでは寒いので、寒さをカバーするため栄養分をとり、脂肪を脚に固まらせて防備する……という意見がある。一方、ミニは脚に神経を使うから、緊張して細く締まるといふ論も。

パンタロンばかり愛用していると、脚を出すのがおっくうになる。これは緊張がゆるんだ証拠かも……。 (2・2サンケイ)

男は仕事、女は結婚？

二十五年も前にずいぶん流行

した「集団見合い」をもう一度、と東京・中野の結婚相談所サロン・ドゥ・アムールがお見合パーティを企画。七日までの申し込みは、女性八十三人に対して男性二十三人。(2・8朝日)

聖バレンタインデー

女性の積極度は

きょうは聖バレンタインデー。女の子が男性に愛を打ち明けてよい日だそう。横浜のデパートが首都圏のOLと女子学生の求愛の方法と意識を調べた。結果は「おおむね積極的だが、男性からの告白を待つ」というところ。(2・14朝日)

女性史なぜ読まれる

女性史への関心が高まっている。「女性上位だ」「いや、女はまだ弱い」といった議論とは別に、女性のたどってきた道をふり返り、女性の生き方を考えようとする人々が増えているよ

うだ。(2・26日経)

育児専念か 共働きか

「育児は自分の手で」と、共働きを否定した投書(4日)に対して「女性が労働や生産から逃避することは、本来の姿ではない」と鋭い反論(8日)。この育児論争をめぐる連日賛否両論が寄せられた。

否定派は、男女分業論、スキ

ンシップ論が論拠の代表。肯定派は、女が働くのは不可欠の要素という労働権利論や、生活上働かざるを得ないという共働き不可避論が代表。

是非論とは別に、双方とも保育所などの施設・施策不足を強く指摘しているのが目立った。

(2・28朝日)

夫婦げんかの「音量」も規制？

神戸市の「市民の健康を守る条例」に基づく騒音・臭気の規制基準を審議している市環境保

全審議会生活環境部会が最終報告をまとめた。

快適な市民生活を妨げる一定以上の騒音をシャットアウトするため、市独自の生活騒音基準を設け、苦情の多いクラーナなどの設備による騒音や、アパートで隣家から壁を通じて聞こえる騒音なども規制の対象にしたもので、審議の後、四月から実施の予定。(3・1読売)

女の本、ブームに

ウーマン・リブが触発したのか、研究書、女性論、女性史、女の生き方ハウツーものなどが数十冊出版されているが、売れ行きは現状肯定ものが目立つ、と樋口恵子さん。(4・6朝日)

ふえている男の化粧

男は本来汗臭いもの、ほこり臭いもの、と決まっていたが、近ごろでは、男性化粧品の売上実績が示すように、男の化粧が

増えている。父親は九割以上、中学生にも愛用者が増えているようだ。

ある学者によると、大昔は化粧は男性のものであって、地位の低さを示すものだった。男のおしゃれは家父長権の確立とともに減り、女性の専売特許となったのはごく最近のこと。

「男が化粧するなんて」という考えは、どうやら男性中心社会の産物らしい。(7・21朝日)

はなやかに

女性のユニホーム

紺か水色の上っぱりといった、働きやすく、よごれを防ぐ機能面だけを考えた伝統的ないわゆる事務服は消えてしまった。代わって、各企業のPR用ユニホームが、女子社員の求人対策や定着策と相まってお目見えし始めた。デザインがはなやかになり、今やユニホームは企業の顔でもある。(8・4朝日)

世は移れども変わらぬ娘心

美容師が見た花嫁気質

今年中に百万組のカップルが生まれ、来年はピークと言われているが、時代は変わっても、嫁ぐ心は相変わらず複雑らしい。京都の美容師で十二年間花嫁の晴れ着姿を作ってきた市田ひろみさんによれば、式の前に美

顔術などで何回か美容室に来て親しくなると「このまま結婚してもよいかしら」「私は間違っているのではないかしら」と不安を口にしたたり、当日になっても「死ぬ気で結婚」「親のために」と悲壮な娘さんもある。嬉しさと不安の間を揺れ動いているのがよくわかる、とか。市田さんは、仕事を通して気づいた花嫁への助言を、近く出版の予定。(9・13朝日)

企業サービスで

母と子に教育と健康を
企業の社会的責任とカ利益の

還元などが言われ、社会福祉的事業に手をつける企業が増えている。東京ガス不動産(株)では、新会社「東京ライフサービス」を設立、「子どもと母親の教育と健康のために」と、コミュニティ施設づくりを始める。

企画中の事業は「幼児学園」「子どもと母親の教室」「水泳教室」「玩具コーナー」「レディスサロン」等。(10・13毎日)

スカートの長短は

女性が主体的に選択?

ミニスカートが日本で流行しだしたのは、六、七年前。当時は顔をしかめる向きもあったが、いまでは、胸が長く足の短い日本女性には一番よく似合う、という定評さえ出来た。

三年ほど前、繊維業者たちが鳴り物入りでマキシなどのロングスカートをはやらせようとしたが、女性たちはミニに固執。これは女性たちが、押しつけファッ

ションに対して、自らの主体性を取り戻した形と言われた。

だが、この秋、女性のスカート丈が長くなったのが目立つ。これは業者ベースに身をゆだねたのか、それともミニに飽きて新しいものを望む主体的な選択の結果なのか。(10・15朝日)

おふくろの味、ブームに

都会には「田舎料理」「家庭料理」などの看板をかけた「おふくろの味」専門店が盛況。食生活が洋風化・高級化し、家庭からおふくろの味が姿を消しつつあるせいか。(11・5朝日)

女性犯罪急増の

背後にあるものは

近ごろ女性の犯罪が目立っている。女子銀行員が七億円も使い込んだり、赤ちゃん殺し、捨て子などなど。

犯罪白書によると、女性の犯罪が増えているのは、先進国に

共通の傾向のようだ。

このような傾向は、女性の社会進出と無縁ではないと思われる。都市化・工業化が急速に進んでいる社会のヒズミのシワ寄せを、女性は一層つよく被っている。女の犯罪の背後にあるものは男だけでなく、現代社会のかかえる問題そのものであると言えよう。(11・11読売)

主婦が選んだ

四十八年の十大ニュース

ある銀行が東京・京阪神地区の主婦五百二人を対象に行なった調査結果は次のとおり。

①石油不足②熊本「大洋デパート」火災③主婦の日用品買い占め④魚のPCB汚染⑤電力ピンチ⑥金大中事件⑦米買い占め騒動に食糧庁乗り出す⑧コインロッカー利用の子殺し犯罪⑨大豆ショックで豆腐値上げ⑩水俣病裁判で原告勝訴。

(12・26朝日)

「物価高・モノ不足」

食料品値上げ

新春の台所を直撃

新春早々、しょうゆ、牛乳、清酒、コンビニなど各業界は、原料代や人件費の上昇のため値上げをするという。

インフレムードの中で物価問題

は、まず食料品から赤信号がつきだしたが、農林・大蔵各省では「企業の良識にまっほかない」とお手上げの状態。役所の無策に不満の声が高い。

(1・5朝日)

牛乳値上げ本決まり

一本 三十二円に

値上げの理由について、酪農家は「飼料の値上げや公害処理費急増のため」。メーカーと販売店は「人件費や諸物価の高騰による」と。

(2・3朝日)

「ちふれ」は百円据え置く

市販二年目の決算報告。物価値上げに猛反対している地婦連が値上げするわけにはいかないと、苦しいコスト高の中、がまんして据え置き。(5・29朝日)

*

中身減量、実質値上げ

百円化化粧品「ちふれ」が、とうとう一〇・五〇%減量という実質的値上げに追い込まれた。

「石油寒波」で原料・容器資材が五月に比べて一五%以上値上がりし、しかも品不足とあって、十一月には昨年同期の六〇%しか製品をつくれなかったという。(12・6朝日)

トイレットペーパーに行列

紙不足が神奈川県で異変を巻き起こし、特にトイレットペーパーやティッシュペーパーは爆発的な売れ行きで、大手スーパーの中には、開店前に行列が出来、店のほうで整理券を発行

する騒ぎ。「消費者が情報にあ

おられているのではないか」と店員は首をかしげている。一方、チリ紙交換の古新聞紙などの値も昨年の倍になっているという。

(11・1朝日)

主婦の心は大ゆれ

在庫十分の塩にすら不安

政府の「節約令」が出た十六日、不足するはずのない食品や日用品の買いだめ騒ぎが、首都圏のあちこちで局所的に起こり、九州や北陸の一部では、塩に数千人が殺到する騒ぎとなった。

塩は専売品。値上がりも欠乏も全く考えられないが、ついても用に大量の塩を買い込んだ人を見て「さては塩が」といいうわさになったとも言われる。しかし、降ってわいた石油制限とその背後でジワジワ進行するインフレへの不安がその背景にあり、笑えぬ騒ぎと言えよう。

専門家たちは「政府はこの際、

大衆が信用できる情報や対策を早めに。消費者も目先の情報に安易に踊らされないように」と警告している。(11・17朝日)

モノ不足騒ぎ

洗剤・砂糖に飛び火

トイレットペーパーに始まったモノ不足騒ぎは、各地で砂糖に飛び火。川崎市のある団地のスパーでは、九日、突然洗剤が全部売り切れ、続いて十二日には砂糖が店頭から消えた。騒ぎは団地近くの商店に波及して売り切れが続出。

洗剤は月初めに入荷が少なくなったとき、たまたま石油不足のニュースとタイミングが合って大騒ぎとなり、砂糖は、値上がりしたことが品不足と見られたためらしい。(11・17朝日)

浦和でも主婦暴走

モノ不足に血まなこ五百人
二十日朝、浦和市のスパー

の洗剤売り場に、在庫品百八十個に対して主婦五百人がつめかけ「品物が足りない」と騒ぎだし、浦和署員が出動して、ようやく解決した。

開店前から行列を作った主婦たちに整理券を発行したが、主婦たちはそれをたらい回しにして次から次へと「売れ」と追って騒ぎとなったもの。

(11・20朝日)

〔抵抗する消費者たち〕

食品の苦情相談がトップ

埼玉・春日部消費生活センター開設以来半年間に、消費生活をめぐって百十三件の苦情相談が持ち込まれ、二百六十四件の製品検査をした。(1・12朝日)

どれが買い得?

単位価格の表示も必要

「主婦たちの多くは毎日の買

い物の中で、品物の値段は変わらないが内容量が減っている巧妙な値上げや、見た目の大きさはあまり変わらないが量がまちまち、どれが本当に買い得か迷ってしまう、といった経験をしており、約三分の二の主婦がユニット・プライシング(単位価格表示)を望んでいる」このような商品の単位価格表示に関する実態調査が、このほど主婦連合会でまとまった。

(1・23朝日)

「使い捨て」にサヨナラ

主婦連「浪費への挑戦」

二十四日、主婦連開催の「消費者セミナー」のテーマは、「浪費への挑戦」。

公害やゴミ戦争を背景に生まれた高度経済成長への反省が、主婦連にも及んだわけ。その運動も、重点を、商品の機能や規格のチェックから、商品の耐久性の要求へと大きく転換する。こ

とになる。(1・27サンケイ)

カッコよさより乗り心地

乳母車に安全マーク

昨年八月発足した「財団法人製品安全センター」は、日用品安全基準づくりの第一号として、三十日、「乳母車の安全基準」をまとめた。(1・31毎日)

モシモシ! お買得品教えて

「電話一本で その日の野菜や魚の値動き、お買い得情報が得られます」四十八年度政府予算案に基づき、横浜市内でも「消費者情報テレホンサービス事業」が実現するが、農林省の委託でこれを受け持つ「横浜市内婦人団体連絡協議会」は、近く地域婦人団体や消費者団体にも協力を呼びかけ、運営委員会を設置する方針。(2・1朝日)

とにかく安い!

東京・五反田の東京卸売セン

ターで三日開かれたある婦人用品店主催の「冬季謝恩大バーゲンセール」は、午前九時の開場時に約四千人、正午までにざつと一万人の女性客が押し寄せて大混雑。物価高の圧力をギリギリまでかけられた女心が、わずかのスキ間を見つけて、なりふりかまわず噴き出したおもむきがあった。

(2・3朝日)

熊本県婦連、ジャンボ生協設立

相次ぐ物価値上がりに対抗して共同購入組織づくりに取り組んでいる「熊本県地域婦人会連絡協議会」は、「県地域婦人会生活協同組合」の設立計画を固めた。四月早々にも発足する段取り。会員が全員参加すれば、約十七万人の「マンモス生協」となる。

品質の保証された食料品・日用品・下着類などを共同購入し、安くてよい商品を会員に通信販売する。

(2・10熊日)

二十七円トウフ

主婦連 半値セール

台所を直撃する値上げ攻勢に主婦連では、東京・四谷の主婦会館でトウフの半値セールの始めた。こんな値段でも立派に売れるはず、と、消費者の立場から挑戦するのがねらい。

(2・17読売)

不用品交換会 盛況

「横浜コンシューマーズクラブ」主催の不用品交換会が二十三日開かれた。入札値は市価の五割、詰めかけた主婦は約二百人。主婦たちの間から「物が多すぎて困ってます。この種の行事をもっと開いてほしい」という声も聞かれ、大量消費時代の一面をのぞかせていた。

(2・24朝日)

*

ジョニ黒、真珠のネックレス、調味料、と五百点が山積み。売れ残り九十三点、売上三十万五

千円。一割が消費者活動資金として寄付された。(2・26読売)

もう、ワリバシ使いません

木材の値上がりで発奮

札幌市の大河原静江さんは、外出の時もハシを持ち歩く。

「一年間に使うワリバシの木材で2DKの住宅が一万二千戸も建つ」という話を聞いて思い立った。カマボコの板もムダ、と近く業界に申し入れる考え。

(3・25朝日)

熊本でバザー

家庭の不用品、飛ぶ売れ行き熊本県婦連が初の物々交換セールを実施、一日で大半の品物が買い取られて大成功を収めた。

最近の主婦は消費ムードに乗せられてぜいたくになり、各家庭に不用品が山積しているのではない。これを交換し合って使えば、品物も生きてくる。これに加えて、地方の産物などを

市価より安く売れば、この物価高の折、互いに助かるし、ゴミ公害対策の一助になるのでは、という構想から計画された。

県下の各都市婦人会で、それぞれ「商品」を集めたところ、家具・衣類・花の苗など二千元あまりとなり、県婦連では、将来は郡部でも開きたいと語っている。

(7・4熊日)

消費者の手で商品テストを

基金カンパを呼びかけ

危険商品、ごまかしの横行、石油タンパクなど、わけのわからないものがますます増えている現在、主婦の不安はいっぱいである。本来、国で商品テスト体制をつくれればよいことだが、それが無い現在では、消費者がやらなければならない。しかし商品テストは、高価な機器を必要とするので、巨費を要する。主婦連では「消費者自身の手によるテスト」をモットーに、一

億円を目標として基金のキャンペーンを呼びかけている。

(7・29毎日)

「安売り禁止令」に

怒りの主婦パワー

消費者団体が三年越しに廃止を要求してきた再販制度について、公取委は二十九日、同制度の実質的な全廃を決めた代わりに、特売を規制しようという思いもよらない方針を発表。

物価高に逆行する「業者の頭なでなで」と、主婦連・地婦連などは早くも他の消費者団体に働きかけ、安売り規制廃止運動を盛り上げようとしている。

(8・30読売)

「生活のムダ」総点検

メーカーの責任追及

「消費者も使い捨て文化におどらされ過ぎてはいないか」と全国地域婦人団体連絡協議会が、資源の有効利用をにかけて、一

日から「生活のムダを見直す運動」を全国的に始めた。メーカーの責任も追及する。

(10・1朝日)

呉服も産直方式で

婦人有権者同盟

日本婦人有権者同盟が呉服の展示会を始めたのは四十六年から。中卸（なかおろし）問屋と契約、毎年春秋の二回、七百点前後を展示、利用者にはもちろん、「定期的なお客さんはありがたいお得意」と問屋からも喜ばれている。

(10・6読売)

「均質牛乳」の正体追及

主婦連「牛乳問題研究会」

夏・秋の飲用牛乳不足シーズンにピンチヒッターとして登場した「均質牛乳」は、牛乳の種類名のように聞こえるが、実は普通乳の成分をまねた加工乳。

約五十人の会員の追及に、農

林省・厚生省の役人は「需給の

バランスをとるため」「商品名の一部と解釈している」など、苦しい答弁。

(10・25読売)

共同購入で二・五割安

活躍する「渋谷消費者の会」

玉ネギ一キロ五十四円、ジャガイモ五十七円など、洗剤からカバ焼きまで超特価販売している「渋谷消費者の会」(福井輝子会長)は発足二年、冷凍食品

にまで手を広げようとしている。購入先と値段が折り合えば、トラックで乗り込み、主婦の「確かな目」で品物を吟味して買う。「作業は大変。でもただじっとしていたのでは、生活は守れません」と会員たち。

(10・26読売)

公団、安売り店に立ち退き要求

主婦たち 反対の署名運動

愛知県春日井市高蔵寺ニュータウン・高森台団地で、天井知らずの物価高に挑戦、自ら野菜を

仕入れて、市価より三割も安く売っていた主婦の店が、規則をタテにとった住宅公団のクレームで立ち退きを迫られている。

主婦や団地自治会は「公団の申し入れは住民生活を侵害するもの」と、撤回要求の署名運動を始めた。「規則」か「住民の利益」か、をめぐって、団地内は騒然。

(11・3中日)

物価暴騰、憤り結集

全国消費者大会

第十二回全国消費者大会は、八日朝から都内全電通ホールなど六会場で開催。主婦連、生協連、日本消費者連盟など五十団体、約千五百人が参加した。

同じ日、消費者米価値上げを

審議する米価審議会が開催中。

国鉄、私鉄、電気、ガス、郵便と、公共料金だけを見ても値上げ攻勢はすさまじく、灯油、食品、学用品と、家計への圧迫は計り知れない。各会場につめ

かけた主婦たちの表情には、こ
らえ切れなくなった怒りや不安
がはつきり読みとれた。

「異常な物価高に苦しむ消費
者が、今年ほど憤って集まった
大会はかつてない」と大野大会
事務局長。(11・8朝日)

「買いだめ」やめよう

主婦連などもアピール

トイレットペーパー、洗剤に
始まった一連のモノ不足騒ぎに、
異常な買いあさり品不足をあ
おり立て、価格をつりあげる悪
徳業者を儲けさせるだけ、とい
う気運が、消費者の間で高まっ
てきた。

二十日、「不買での対抗」を
日本消費者連盟が呼びかけたの
に続き、主婦連、地婦連など、
消費者五団体が二十一日「消費
者自身が値上げ犯人に利用され
る買いだめ行為をやめよう」と
のアピールを発表、同団体二千
万人の会員に自重を呼びかけた。

また、〈全国消費者団体連絡
会〉(二十消費者団体加入)も

二十四日に緊急幹事会を開き、
便乗値上げや売り惜しみを摘発
するための消費者Gメン結成な
どを決める予定。(11・22朝日)

売り惜しみ・値上げに自衛

埼玉地婦連で買い控え運動

埼玉県地域婦人団体連合会は
「消費者がチエを出し合って隠
れているモノを引っぱり出し、
値上がりを防ごう」と機関紙や
口コミで同県下四百の地域婦人
会に呼びかけ、不用品交換会を
毎月一回開くなど、日用品につ
いて大幅な買い控え運動を推進。

「消費者も自分たちがバニッ
クの共犯者になっている実情を
反省し、またこれに関連して、
あきビン・あきカンを回収し、
メーカーに返して再利用を促す
など、便乗値上げ防止にいろん
な手を打つことを検討中」と同
会長の話。(11・25朝日)

モニターを経験して

消費者意識を自覚

「主婦がほんとうの消費者意
識に目ざめるには、モニターを
経験するのがいちばん」と言う
のは、この道四年目の保坂朝子
さん(四〇)。公正取引委員会
の仕事で、例えば自然食ブーム
にからめて「天然」「純粋」等
の言葉についてどう思うか、と
いったアンケートに答えたり、
街頭に出ておとり販売の実態を
調べたり、料金やヤミ協定の実
態調査をしたり。現在は公取委
モニターの経験者たちで自主グ
ループを結成、各種の公聴会に
出たり、調査も手がけている。
「このバカげた物価高を打ち
破るため、なんとかして不買運
動を成功させたい」のが、今の
最大目標。(11・26読売)

名古屋で主婦決起

力合わせて行動を

消費者運動が比較的弱いと

いう名古屋でも、異常な「値上
げ寒波」に、団地の自治会で、
生協で、生活防衛の闘いの輪が
広がっている。

二十六日、久屋市民広場での
「物価値上げ反対生協組合員
のつどい」には、古新聞を折っ
たカプトをかぶった主婦たちが
子どもの手を引き「インフレ、
ストップ」売り惜しみやめて」
と叫んでデモ行進。「こんなこ
とは初めて。とてもじつとして
いられないから」と。

十九日、三菱石油名古屋支店
では、別の主婦たちが支店長に
面会、灯油について抗議行動を。
その他、中部電力や東邦瓦斯
などに公開質問状を提出、「今
年中は値上げしない」と回答を
得るなど「暮らしを守る行動」
を展開している。(11・28毎日)

市長を囲み婦人の集い

物価めぐって鋭い質疑

一宮市では、市長と婦人が直

接話し合う「市長を囲む会」が

二十七日開かれ、約八十人が参加した。主婦たちの質問は、最近の異常なモノ不足・物価高に集中し、「市はもっとやるべきことがあるはず」と厳しく追及した。

同市では二年前から各地域の市民と市長の懇談会を開いてきたが、今年七月で全地域を終わったため、今度は婦人、青年、老人など、市民各層ごとにキメ細かく話し合って市政に反映させることになり、この日、まず婦人から初会合をもったもの。

(11・28毎日)

高物価に乳母車デモ

愛知県春日井市では「物価値上げに抗議する婦人のつどい」が公園で集会、市内の中心部を乳母車をつらねてデモ、市役所では「市も黙って見てないで、打てる手は打て」の決議文を手交。

(12・1毎日)

値上げのカラクリ調査中

名古屋地婦連

これほど短期間に、しかも公然と値上がりしたのはなぜか……。名古屋地婦連は十五人の物価調査員を繰り出してトイレットペーパーの価格調査を。

(12・1毎日)

各地で安売りバザー

地婦連主催のバザーが九日大府市で。新品は市価の半値、中古品は、子ども用衣類なら三、四枚組みで百―百五十円と破格の超安値。

春日井市の藤山台団地集会場では食器七割引き。物価高への抗議がねらい。売上金の一部は、高物価の中、苦しいやりくりをしている施設へ寄付する。

(12・9毎日)

「ガラクタ市」に主婦殺到

十一月、東京・東久留米市で開かれた同市「市民生活を守る

課」企画の不用品バーゲンセー

ルに約四千人の主婦らが殺到した。市民から募集した衣類・家具・車など約三千点の品はわずか一時間でほぼ売り切れたという大盛況だった。(12・12朝日)

生活バニック

立ち上がる主婦パワー
節約や生活の知恵だけではもう無力、もっと広く手を組まなければ。主婦パワーが各地で目立つようになった。

東京都内各区の消費生活勉強会、消費者モニターと消費者の会などでは業者との対話集会や勉強会を開き、買いあさり自粛運動も開始。(12・13読売)

「主婦は踊らされるな」

生協集会、品不足に抗議

東京都生活協同組合連合会は十二日、都庁前広場で、物価値上げ・品不足に抗議する緊急集会を開き、関係省庁や業界に陳

情。この集会には主婦たち二百

人が参加し、政府の無策、大企業買い占めや売り惜しみを強く戒めるとともに、消費者物価を九月時点で引き戻すことなどを訴える決議文を採択した。

(12・13読売)

検討します、努力します

物価、実りなき回答

①現在のインフレが終わるまで消費者米価・国鉄運賃の値上げをやめよ②モノ不足解消のため、大企業の買い占め・売り惜しみを厳しく取り締まり、生活必需品の確保、生産と流通の適正化を図れ③製品の原価、在庫・在庫量を国民に公表し、投機的につり上げられた価格のもとに価格に戻せなど六項目の要求をつきつけていた十八の婦人団体の切実な訴えに対する政府回答は、「慎重に検討する」「最大限の努力をする」など、冷たい決まり文句。

無為無策そのもの、と憤慨した十八団体は、二十一日、緊急集会を開いて、新たな抗議行動を起こす。
(12・19読売)

〔欠陥商品・食品公害〕

主婦ら厚生省に

石油タンパク禁止を要請

二十九日、主婦代表二十人が厚生省で、石油タンパク食品の製造禁止を迫り、回答を求めた。

「厚生省は石油タンパクを安全と認めているのか」「食品衛生法に安全性の確認のない新食品の販売を禁止する条項がある石油タンパクを禁止する意思はあるか」
(1・30毎日)

*

主婦ら厚相に初の直談判

「石油タンパク食品の製造禁止を求める連絡会」の世話人・大高節子さん(四五)らメンバー十一人が二十日、国会内に斎藤

厚相を訪れ、「石油タンパク食品の製造・販売を中止してほしい」と訴えた。(2・20朝日)

*

石油タンパク全面ストップ

企業追い込んだ消費者

猛烈な反対運動が起こっている石油タンパクの企業化をめぐる中、先発企業の鐘淵化学工業は二十日「社会的な同意が得られるまで、企業化は無期限に延期する」との態度を表明、大日本インキ化学工業も「石油タンパク飼料の企業化を断念し、生産計画を放棄する」との態度を明らかにした。(2・22朝日)

こっそり合成着色料

はでな「有害色素等一切使用しておりません」という表示が目立っている。消費者の食品添加物への関心が強くなっているため、不使用表示で商品のイメージを少しでもよくしようというわけ。

添加物ゼロの印象をねらう商品が多いので、注意して読みましょう。
(2・1読売)

おもちゃや食品包装品から

溶け出す毒物

第二のPCBと言われるフタル酸エステルが、塩化ビニール製のおもちゃや食品包装用の合成樹脂製品から簡単に溶け出すことが、兵庫県立神戸生活科学センターの調べでこのほどわかった。

同センターでは、これらの使用を早急に規制する必要があると警告している。(2・10朝日)

PCB? 魚は安全か……

多摩ニュータウンで青空会議

厚生省が「魚類の一週間の摂取許容量」を発表して以来主婦たちの間に起こった不安と動揺を鎮めようと、六月三十日午後一時から、東京都多摩市のニュータウンで、多摩市商工会

主催の「食生活における魚の位置づけについての主婦の集い」が開かれた。

山口敏夫厚生政務次官、田辺

弘也国立衛生試験所食品部長、

近 寅彦厚生省技官らが出席、

若い主婦との間で真剣なやりとりが続けられ、山口次官は「市場を通った魚は大丈夫」と何回もタイコ判を押したが、「干物は安全か」「水俣のように十年後に影響が出ないか」と、主婦たちの不安は消えないようだった。
(7・1朝日)

*

PCB・水銀から守ろう

川崎市母親大会で宣言

六月二十九日、川崎市多摩区の市立多摩市民会館で開かれた第十八回川崎市母親大会に、約四百人の母親が参加、深刻な問題となっているPCB・水銀汚染、公立高校増設問題などを真剣に話し合った。

今年度の活動方針や決意表明

が述べられた中で、公害問題が中心となり、「魚さえもダメと言われたら、子どもに何を食べさせたらいいか」「生まれてくる子どもには心配ないか」などの声があった。

最後に「私たち母親は、物価の値上がり、公害の広がりから命と暮らしを守っていいこう」との大会宣言を採択した。

(7・30朝日)

*

厚生省「魚安全宣言」

消えない不信と混乱

厚生省が、市場に出る魚介の安全宣言を行なった。しかしこの宣言、「漁獲量が少ない」などの理由で、基準をオーバーしたメヌケなど六種類をも、同時に規制から外してしまい、かえって混乱を巻き起こした形。

特に、六月以来対策がほうっておかれた妊産婦・乳幼児への不安を改めて募らせた、との声も強い。

(10・19朝日)

貸しおむつで奇病

商標のインキに疑惑

生まれたばかりの赤ちゃんの体の色が急に青黒くなる病気が北九州市を中心に多発している。

六日、診断した小児科医や大学教授らが集まり協議した結果、血液中のヘモグロビンに化学物質などが作用して起きた「メトヘモグロビン血症」とわかった。いずれも貸しおむつを使用していたことが共通しており、実態調査と早急な対策を北九州市衛生局に申し入れた。

(7・7朝日)

「合成洗剤」

台所用洗剤の安全性に

やっと法のワク

手が荒れる、肝臓障害を起す恐れがあると消費者団体や一部学者から疑問符がつけられていた台所用中性洗剤について、

厚生省は四日、品質規格と使用上の基準を初めて決め、メーカーに発がん物質の使用を禁じた。

(1・5読売)

「中性洗剤」の害、

自主編成の家庭科で

中性洗剤による公害が問題になっている折から、熊本・白田市北部中学校の諫元正枝教諭は一年生の家庭科の授業の中で、洗剤問題を自主編成、いわゆる「公害授業」を実践した。

中性洗剤の有害性について理論的学習や実践を行なうとともに、生徒たちは被害者宅などを訪ねて実態を調査。これらの学習をもとに「中性洗剤の害から自分たちの健康を守るにはどうしたらいいか」生徒たちに母親とともに考えさせ、母親たちの学習会や無公害洗剤の共同購入などを実現させた。運動はさらに広がっていく勢い。

(3・30熊日)

合成洗剤で湿しん

島根県庁食堂の従業員四人が資生堂の「クリーナ」を使ううち、両手のほか顔や目などもはれ上がり、湿しんあとのあとが黒く変色、かさぶた状になった。

資生堂側では「使用量を誤ったため」と弁明しているが、ABS（アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム）による被害と見られ、肝臓障害などの不安もある。

(4・12朝日)

合成洗剤の危険性訴える

「東京都消費者連合会」へ日本婦人会議へ浦和主婦の会」などの団体が二十四日、有楽町の読売ホールに約千人の主婦たちを集めて「洗剤問題特別講演会」を開いた。

多摩川がABS洗剤のため、けい光を発するほど汚れている実態や、子ネズミの奇形から、人間への影響を警告。

岡山の中学校の先生は、仲間

といっしょに小売店にせっけんを置かせる運動が広がっていることなどを報告した。

(5・26朝日)

健康脅かす合成洗剤の

不使用運動を

〈東京母親大会連絡会〉が中心となって、二十都道府県から約二百人の主婦が集まり、十二日、東京麹町の主婦会館で「洗剤について話し合う会」を開催。三重大医学部 三上美樹教授、川崎市高津保健所の小林 勇さん、京都市衛生研究所の藤原邦達さん、日本石鹼洗剤工業会の近藤邦成技術部長、環境庁水質規制課の技官が出席、それぞれの立場から合成洗剤について説明した。

(10・15朝日)

合成洗剤追放!

主婦たち地道な活動

洗剤バニックの一方で、合成洗剤追放の動きが高まっている。

安全性の問題として、手あれ、しっしんに始まり、催奇性、発がん補助、肝臓障害、コレステロール増加などが疑われている。東京都で学校給食の野菜・果物の洗浄に使用をやめたのをはじめとして、横浜市、兵庫県などでも、学校給食を中心に、合

成洗剤追放の動きが見える。また田無市では、市職組がせっけんを広める運動を始め、粉せっけんだけを販売することに決めたデパートも出現した。主婦たちの合成洗剤追放の輪は広がっているようである。

(12・4朝日)

進出

全国初の女性館長

国際学友会留学生寮

小林好子さん(四七)は、一日付で国際学友会京都留学生寮の館長となった。開館以来七年間に迎えた留学生は、六十か国から六百人。「とにかく自由に生きたい。結婚も子どももまっぴら」と言う小林さん。毎年、寮生の誰かが熱烈なファンになるという。(1・24サンケイ)

女性演出家誕生

劇団民芸の渾大防一枝さん

民芸入りは昭和三十四年。文芸部で欧米の戯曲の翻訳や演劇事情の研究に取り組んでいたが、二月公演「リトル・インディアの百合の花」で演出家としてデビューする。きっかけは、昨年民芸が上演した「日本改造法案」で演出助手のチーフに起用されたときの

「ひたむきに仕事に取り組んでいく」(宇野重吉談)姿勢を評価されたもの。(1・30サンケイ)

警視庁にもウーマンリブの波?

数寄屋橋など、東京の四つの盛り場の交番に、十五日から婦人警官十二人が正式に配属された。一一〇番を取り扱う警視庁の通信司令室にも十一人。

来百年を迎える警視庁、男っぱい職場にも、ようやくウーマンリブの波というところか。

(2・16朝日)

第四回ママさんバレー

優勝は長野県代表

東京・千駄が谷の東京体育館で開かれた第四回全国家庭婦人バレーボール大会(日本バレーボール協会、朝日新聞社共催)は、熱戦の末、四日、長野県代表の「下諏訪いずみ」が、神奈川県代表「大島チーム」を破って優勝した。(8・5朝日)

ふえてきた生活俳句

男性しのご女性の俳人

十年ほど前まで女性俳句人口の約三〇％にすぎなかったが、現在は男性をしのぎ六〇％に。作品も、写生句よりも、たくましい生活句がいちじるしく増えている。中でも、働く女性が増加したため、職場関係の作品が多くなった。(8・11朝日)

ママさんのホッケー大会

男顔負けのファイト

さる二十日、東京・駒沢運動公園で、日本で初めての全国ママさんホッケー大会が開かれた。スティックを振り回し小さな球を追って走るホッケーは、最も男性的なスポーツの一つ。それだけに、主催者の日本ホッケー協会でさえ「はたして試合になるかどうか」といぶかっていたが、試合後、関係者から一様に「もれた言葉は「やるう」」

ホッケー協会では、主婦に

合った特別ルールを作り、本格的な普及に乗り出す方針だ。

今回参加したのは富山県小矢部市、岩手県岩手郡岩手町、鹿児島県薩摩郡樋脇町の各ママさんチーム。結果は、岩手町一樋脇町が0-0の引き分け。小矢部一岩手が1-0。(8・29読売)

看護学院に主婦学生

川崎市立高等看護学院に、夫も子どももいる二人の准看護婦さんが入学。

これまで同学院二部の入学は二十五歳以下の独身に限られていて、在学中に結婚しても退学させられたが、今年度の募集から、年齢制限はなくなり、結婚をしていても、子どもがいてもよくなった。男性の入学さえ認めるそうである。

看護婦不足を補う一番いい方法、と同学院事務長の言。

(9・6朝日)

女流囲碁 実力七段 誕生

二十八年に五段になってこのかた、現役女流棋士としてはずっと「はじめて」の道を歩いてきた杉内寿子さん。こんどの昇段は十七年ぶり。三十二年から十年間、三人の育児のため休場したが、石田芳夫青年との対戦に勝って復調の転機になった。(9・20朝日)

女優の保護司誕生

保護視察中の青少年を訪問したり相談相手を務める保護司は全国で約五万人いるが、このたび、芸能人では初めて、女優の木暮実千代さんが保護司となった。

木暮さんは十六年前から「群馬県大胡少年の家」の後援会長を務めており、「社会を明るくする運動」などでも熱心に活動している。東京保護司選考会の審査をパスしたもの。

(9・21朝日)

女教師の増加続く

校長への昇進も

文部省のまとめた「昭和四十八年度学校基本調査」によると、毎年増え続ける女の先生は今年も増え、小・中学校では新任教師の八割が女性。また、最近では校長のイスへの進出も目立っている。(9・23毎日)

婦人警官、凶悪犯を逮捕

一宮市防犯課少年係の河台清恵巡査は、七日、同僚とアベックを装って張り込み、強盗犯人逮捕に成功した。

愛知県警が凶悪犯逮捕に婦警を使ったのは初めて。今後婦警を活用したいと評価している。

(10・8毎日)

津島に初の婦人警官

愛知県津島署に婦警さん二人がお目見え。ソフトタッチで街頭指導などに当たる。

(10・19毎日)

若い女性消防士活躍中

愛知県常滑市と渥美郡田原町の両消防署で、若い女性消防士が子どもと主婦専門の防火指導に活躍し、子どもからは「お姉さんみたい」、主婦からは「細かい点まで気がついて」と非常に好評である。

常滑市では、県下のトップを切り四十六年から採用、いま五人が予防係などではほとんど毎日市内を回り、防火の効果をおげている。

田原町では、二人の女性消防士を予防課に配属。「熱心で、時には反対にハッパをかけるほど」と上司。(11・5毎日)

婦人警官「これから

ビシビシやりますわヨ」

女性の交通巡視員百二十九人全員が十一月一日、正式の警察官に。五日から警察学校で特訓。来年二月には卒業、婦人警官として活躍する。(11・10朝日)

横浜市「乳児医療問題協議会」

委員に女性も五人

医師会の反対にあつて実現が困難になった横浜市の零歳児医療費公費負担事業を再検討するこの協議会の委員二十三人が四日決まった。

学識経験者・医師会・市民からの代表それぞれ七人ずつと、市側の代表二人で構成されるが、市民代表は七人中五人が女性。乳児問題だけに、育児経験のある女性が多い。(12・5朝日)

厚生政務次官に

看護婦出身の石本さん

石本 茂さん(六〇)は日中戦争の初めごろ、従軍看護婦として上海沖の病院船で決死の活躍をし、戦後は引き揚げ船で勤務した。

その後、厚生省国立病院課、国立がんセンター総婦長、日本看護協会長など、この道四十年の経歴。(12・7朝日)

集会・活動

〔集会〕

労働省・厚生省への要求を採決

全自労 全国婦人部集会

二月二十日・二十一日、東京

でへ全国自由労働組合連合会

婦人部代表による集会が行なわれ、婦人日雇い労働者の苦しい立場が報告された。

現在、失対労働者約十三万人

のうち六割を婦人労働者が占めている。その要求を、失対事業

の存続、失保の改善、大幅賃上

げなどについては労働省へ、ま

た、老齢年金の増額、老人医療

の拡充、日雇い健保の改善実施

などについては厚生省へ、それ

ぞれ要求することが採決された。

(3・9婦民)

「女性の自立」をテーマに

第十四回全国婦人の集い

同盟が主催する「第十四回全国婦人の集い」が七百五十余名

の参加で開かれた。

年齢の高い人、働き続ける女性が増えている中で、男女の賃

金格差、差別定年、保育所など

の問題が話し合われた。

(5・23朝日)

地婦連 二十歳の記念大会

地婦連(全国地域婦人団体連

絡協議会・山高しげり会長)は、

九日、日比谷公会堂で全国代表

二千五百人の参加のもとに「二

十周年記念全国地域婦人大会」を開いた。(7・10毎日)

第十九回日本母親大会

身近な問題に熱気

十八、十九の両日京都で開かれ、参加者三万人、かつてないマンモス集会になった。

第一日は二百五十八の会場に分かれて開いた分科会が、どこも満員。分科会は、大別して教育、くらし、平和、母親運動の進め方、の四つ。その内容は、幼児教育、知恵おくれの子ども、婦人学級、婦人の生きがい、さらに都市問題、日米安保条約までと盛りだくさん。

今年の特徴は、二十代、三十代が八割と若人が増えたせいかわるい雰囲気だったこと。未婚女性も三分の一を占め、熱心にメモをとっていた。しかし、初参加の四十代の女性は、若い人が多いのに感動した、と言いながら「母性保護の分科会では、

生休・産休などの細かい話ばかり。問題の根本にある政治について、なぜ話し合えないのか」と批判。(8・20朝日)

幼稚園重視で混乱

第十七回全国保育研究協議会

二十七日から三日間、岡山市で開かれた同集会には全国から約千七百人の保母さんが集まり、七つの分科会で討議。最も注目されたのは「幼稚園と保育所の一元化問題」

まず、五歳児が保育所から幼稚園に移るケースが多いが、幼稚園では保育時間が短く、共働き家庭の子どもは家に帰っても一人で留守番というわけで、新

たな問題が出てきている。一方、幼稚園と保育所の格差は開くばかり。幼保一元化の試みもあるが、管轄が、文部省と厚生省に分かれているため、前途は多難、と発表。分科会では① 児童庁のような機関を新設して行政を

統一② 保母と幼稚園教諭の免許を統一③ 保母にも研修機関を保障、の三項目を、国への要望として決議。(9・1読売)

革新市長会

福祉をテーマに婦人と集い

全国革新市長会は五日と六日の二日間、横浜市で「福祉を語る革新市長と婦人のつどい」を開く。去る二月の京都集会で宣言した「国のナショナル・ミニマムと抜本的改革と自治体の行政機能の強化」など四つの課題を中心に、これからの革新都市での福祉行政の進め方を話し合う。(10・2朝日)

風船割りなど楽しく懇親会

蒲郡の生活改善グループ

農村の母子五百人が、蒲郡の市民体育館で。(10・3朝日)

〈母と女教師の会〉全国集会

「母と女教師の会」二十周年

記念全国集会(主催・日教組)が六、七の両日、東京で開かれ、約千五百人(三分の一が母親)が参加した。二十周年を記念して初めての全国集会。主催者側の奥山えみ子婦人部長は「多難な七〇年代をどう歩むか、改めて母親と女教師の連帯を図る場にしたい」と。(10・7読売)

*

教育の現状改革へ努力

〈母と女教師の会〉二十周年、全国から約千五百人が参加し、六日、東京・九段会館で「二十周年記念全国集会」。市販テストや教科書など、さまざまな問題を抱えた今の教育をどう考えていけばいいのか、集会の中心は「今日の教育の問題と婦人」がテーマのパネルディスカッションだった。(10・8朝日)

生活が人間をつくる場

「生活即教育展」

「生活こそ、すべての人間の

教育の場」と主張し続けた羽仁

もと子さんの生誕百年記念展が自由学園で。子どもの自立への

第一歩は、年齢に応じた管理能力を身につけさせること、その方法は……など、具体的な展示が印象的。(11・1読売)

共働き、家事は家族協業で

働く女性が家事をどう処理しているのか、古くて新しい問題だが、この永遠の課題にも、いくらか時代の変化が訪れている。

出版関係・官庁・学校などで働き続ける女性が集まって作っている「働く母の会」(会員約三百人)が、十一月の例会で「共働きの家事」の問題を取り上げた。(11・24朝日)

〔活 動〕

沖繩の施設におむつを

名古屋の主婦たちのグループ

へともしび」では、沖繩の重症心身障害児施設「沖繩療育園」で、おむつが不足していることを知って呼びかけた。

旅館などで古ゆかたを大量に提供してくれるところはないかと探す一方、そのゆかたでおむつを作るボランティアをも募っている。(1・5中日)

〈後妻の会〉をつくろう

まま子いじめもしないのに白眼視されたり、相続争いに巻き込まれたり深刻な悩みも、後妻という立場の遠慮から、相談する相手もない。それなら、同じ立場の者同士で問題を解決していこうと、東京都板橋区高島平二ノ三三ノ五ノ三〇六△三睦会が、後妻の会の結成を呼びかけている。(1・11朝日)

この体、愛児にどう説明……

「身障者同士で結婚し、成長期の子どもを持つおあさんの

会をつくりましょう」と呼びかけているのは、東京都渋谷区伊東とう子さん(二九)(031四六六1六九六三)。自分自身もそうした母親の一人。

「この子たちがやがて親の体に気づいたとき、どうなるのだろう」そうした悩み、不安を持つ人たちと話し合い、励まし合えたら、という。(2・21朝日)

へ徑一ちゃんの死をムダに

しないため保育を考える会
昨年十二月、保母不足の無認可保育所で死んだわが子へのつぐないに、国の貧しい保育行政を告発したい、と両親の東健治さん・秀実さんが呼びかけたもの。(3・29朝日)

小選挙区制反対

婦人団体動く

七日午後、江崎自治相に抗議。申し入れたのはへ日本婦人有権

者同盟」へ主婦連合会」へ日本青年団体協議会」など六団体で構成されたへ選挙法改正運動協議会」の代表。(5・8朝日)

ふつうの女の祭りを……

二人の主婦が計画

「女よりやっぱり男が好きなの、当たり前。女から、当たり前。女たちへ。女だけで二泊三日のお祭りをしませんか」と、二人の主婦が呼びかけた。

一人は京都市に住む二十五歳。夫(二四)は学生、月の実質生活費は三万円。もう一人は尼崎市の二十七歳。夫(二四)は会社員で十一か月の赤ちゃんがいる。ともに結婚一年余り、独身時代からのつきあい。

祭りは、淡路島の寺で自炊、費用は交通費別で二千元。昼は海水浴でもごろ寝でも自由、夜は世間話。独身も、子連れも、おばあちゃんも、女性ならみんな歓迎。

この企てへの賛否はカンカンガクガク。享主族がこれと同じプランを立てても、反応はゼロだろうが……。(7・14朝日)

「インドの子らに鉛筆を」

女性詩人が呼びかけ

金子恵美子さん(三七)は、車いすの詩人。中学三年の時、眼病を治すために打った注射で下半身がきかなくなつた。

昨年、不自由なからだでインド旅行に参加。インドの広さ、深さに引き込まれ、その厳しい貧しさに胸を打たれた。中でもハダシの子どもたちが棒切れで地面に、字や絵らしいものを夢中で書いている姿が目には焼きついた。

帰国後「インドの貧しい子どもたちに、鉛筆一本でも、私たちの善意をこめて送ろう」とパンフレットを作って、五千枚を学校や会社に配った。

鉛筆や現金が集まってきてい

る。鉛筆は、東京のインド大使館に相談して送りたい、と金子さんは言う。

また金子さんは、インドの風土と人を詠んだ詩集「褐色の長い道」を近く出版、その印税も鉛筆にするつもりだ。

(7・26朝日)

*

演奏会に 善意続々

金子さんの詩「裸の大樹」の演奏会が、九月八日、長野県松本市で開かれるが、「会場は無料で貸します」「鉛筆を持って演奏会に行きます」「私の商店の従業員にも鉛筆のプレゼントを呼びかけます」等々、同市民たちから温かい援助や励ましが続いていいる。(8・17朝日)

資金が足りない

身障児の保育所建設に募金

若い女性が中心になり、保母やホームヘルパーの仕事を通じて「障害児がわけへだてされな

い保育所づくり」を五年ほど前から目ざしているへ土と愛子供の家 保育所建設準備委員会」が、いま、資金不足のため前途を危ぶまれている。

最初この運動を始めたのは若い女性数名。その後サラリーマンも参加して十名に。アルバイトでためた資金も約五百万円に上った。

熱意を聞いた横浜の老人が土地を無償で提供してくれたが、建設費や備品代を合わせて約二千万円が必要。横浜市の補助金約七百万円を見込んでも八百万円足りない。同グループでは一人でも多くの協力を求め、同時に建設会社などにも「趣意書」を送って援助を要望しようとしている。(8・3朝日)

「おぎゃー献金」

十年目で三億六千万円

母親が赤ん坊のうぶ声を聞くときの幸福を、不幸な子どもと

その母親にも分け合おうと、鹿児島県の産婦人科医師遠矢善栄さん(六六)の提唱で、善意の輪「おぎゃー献金」が誕生し、全国に広がって十年目、三億六千万円が集まった。九月二十二日には誕生地鹿児島で記念大会が、十月二十日には東京で全国大会が開かれ、さらに運動の輪を広げる。

献金は、全国の身障児施設と障害児の発生予防に関する研究に贈られる。今年度は北海道、宮城県、長崎県などの八施設と静岡県三島市の国立遺伝学研究所の「羊水調査に関する研究」に、合わせて約二千万円が贈られた。(9・6朝日)

一宮で働く婦人が座談会

尾張地方の繊維企業の寮母や、

百貨店・機械工業などに働く婦

人代表五十人が参加。各職場の

問題点など、活発な話し合いをした。(10・17毎日)

採用に男女差別をやめる……

横浜市役所の内部で最近ウーマンパワーが火をふき始めた。高卒の一般事務吏員の採用に差別があるというのだ。市側は、「内容上、男でなければできない仕事も多いので」と、歩み寄る気配はない。(11・1朝日)

養護施設の再建願って

焼け跡に保母さん「ろう城」

横浜の養護施設「伸愛学園」は九月末、火災でほとんど全焼、子どもたちは着のみ着のまま他の施設へ分散収容された。

保母さんたちは学園を再建して子どもたちを呼び戻そうと手を尽くしたが、学園側から全員解雇の通知。市の民生局へ救済措置を要請したが「職員と施設の両方で話し合うほかない」と、冷たい。ついに三十一日、「再建要求をかちとるまで」と、焼け残りの部屋にたてこもった。

(11・1朝日)

*

焼け跡の保母さんを激励

「伸愛学園」の焼け跡にたてこもった保母さんたちに激励の電話や手紙・カンパが集まっている。

現場を訪ねた人々は、日本の福祉政策の貧しさを一様に悲しみ怒り、重い足どりで帰って行くが、国も自治体も知らん顔。

「やる気さえあれば焼け残った二棟でやる」一年配の訪問者が理事者側の態度に憤慨。

保母さんたちにはカネも力もない。あるのは、かなしいまでの愛情だけである。

(11・6朝日)

国鉄はベビーカーの

乗り入れを禁止するな

十日午後「国鉄のベビーカー乗り入れ拒否に抗議する会」の人たちが、国電の新宿・東京駅間に乗り、国鉄本社で抗議した。

(11・13朝日)

「バリ転動はイヤ！」

スチュワードス造反

エールフランスの日本人スチュワードス三十九人は、バリの本社から通知された雇用契約の条件変更に対し、同社を相手どり、十四日、東京地裁に地位保全の仮処分申請の訴えを起こした。

「来年元日からバリに住居を持って勤務することを条件とする新しい雇用契約を結びたい。拒否する者は解雇する」というのは条件つき解雇通知である、として訴えたもの。

(11・15朝日)

「ねむの木学園」に

全国から三千三百万円

女優、宮城まり子さん(四四)

がつくった、静岡県小笠郡浜岡町の肢体不自由児養護施設「ねむの木学園」へ全国から寄せられた寄付が三千二百九十三万円に達した。この基金を基に、来

春、新しい施設が着工される。

(12・23朝日)

〔売春防止法〕

「売春問題ととりくむ会」結成
沖縄を重点に二十一団体参加
「売春対策国民協」と「沖縄の売春問題ととりくむ会」を統合して結成。

売春問題がより深く複雑になっている現在、赤線の業者を対象にした売春防止法は、このままでよいのだろうか、と社会党の田中寿美子さんは訴えた。

(1・25読売)

意識改革と法の不備是正を

売春防止法が出来て、今年は十八年目。表通りからは追放された売春だが、形を変えて生き続け、「赤線復活論」も時々姿を現している。

そうした意識の面の改革と法

の不備の改正に取り組み、「第二段階を迎えた売春」をなくそうという目的で、二十二日スタートした。〈日本基督教婦人矯風会〉〈日本婦人会議〉〈日本婦人有権者同盟〉など二十一団体で構成されている。

(1・29サンケイ)

〈売春問題ととりくむ会〉

昭和二十三年に売春防止法が施行されて、今年は十五周年。この一月に二十二の婦人団体が集まってこの会(事務局長・高橋喜久江)をつくったが、きっかけは昨年の沖縄復帰だった。

本土の売春法も適用されずに戦後の歴史を歩いてきた沖縄の売春が、本土復帰を機会に、大きな社会問題として浮かび上がった。経済階層を見ると、三十年代の初めは「貧困のため」が五三%だったが、四十三年以降は一二%と減り、代わって「遊び」が一二%から二二%に増加、

動機も「自分から進んで」が約八割になっている。

東京都民生局の清水みち子婦人部長は「性の許容度が広くなったいま、売春問題はますます捉えにくくなっている。男性にも本気で考えてもらわなければならない」と。(5・31朝日)

〔キーセン観光〕

韓国での「男性天国」許すまじ

観光会社にも反省促す

日本から韓国への観光客は、この一、二年急増している。七〇%以上が男性で、韓国女性を「性の奴隷」にするもの、との声もある。

〈日本キリスト教協議会(NCC)婦人委員会〉は二十一日、日本人男性観光客の韓国での行動を批判、それを助長する観光会社には反省を求める声明を出した。

〈婦人民主クラブ〉その他いくつかの婦人団体は「隣国を日本の赤線地帯にするな」という運動を始めた。(9・22朝日)

「妓生(キーセン)観光」視察
婦人団体の二人ソウルへ

〈日本基督教婦人矯風会〉の高橋喜久江さんと〈日本キリスト教協議会〉の山口朋子さんの二人が一週間訪韓、帰国した。

日本の売春問題に取り組んできた高橋さんは「底辺の人たちに強い反日感情が流れていることを肌で感じた。いま日本人の一人ひとりが自分のしていることを自覚しなければ。生命をかけて発言している韓国女性に応えるためにも、日本の男性に強く呼びかけていかなければと痛感した」(12・8朝日)

妓生観光に抗議デモ

韓国・梨花女子大生
十九日、梨花女子大生ら二十

余人が金浦空港で、日本人観光客の前に「買春観光反対」のスローガンを突きつけて抗議デモ。今年韓国を訪れた観光客は十月五日現在で約五十二万人。その八割が日本男性で、キーセン遊び目あての客が多いとされている。(12・20朝日)

「キーセン観光反対」

羽田で女性デモ

二十五日朝、羽田空港で約四十人の女性が、ソウル行きの旅行者たちを買春観光抗議行動を行なった。

これは、二十六日の日韓閣僚会議反対の意味もこめたデモンストレーション。〈アジア婦人会議〉〈婦人民主クラブ〉〈入管体制を知るための会〉その他クリスマスチャングループ等の主婦・OL・女子学生などで結成した「キーセン観光に反対する私たちの会」が、韓国での運動に呼応したものの。(12・25朝日)

〔リブ〕

あがれリブ風

リブセクターのお正月

本来、生きる楽しみであり、素朴な喜びであったはずのお正月をとり戻そうと、ヘリブ新宿セクターが、リブ正月を計画。屋は種々のティーチン、夜はグループの腕自慢が独創的な料理講習会を兼ねて食事つくりに励む。とかく運動不足になりがちな正月を返上して、手作り風あげ大会も。(1・1婦民)

第二回女性解放ゼミ開催

新日本文学会主催で開かれたゼミ「いま、主婦とはなにか」(講師・樋口恵子さん)は、女性論ブームを反映して押スナ押スナの盛況。さすが足りずに、半数はゴザの上。中年の男性はチラホラで、若い、働く女性・

女子学生・共働きの圧倒的。問題をかかえている新しい層の真剣な表情があふれていた。

(3・9婦民)

リブは「タダの女の敗者復活」

第三回新日文・女性解放ゼミ

講師はウーマンリブの闘将・田中美津さん。優雅なマキシンスカートで会場の敷物の上にどっかとあぐら。「リブは敗者復活の居直り」と、裸の個人史をさらけ出しながら、「生産者の論理」への反逆を、たたきつけるように語った。(3・30婦民)

許すまじ！ 女性差別

広島でデモ

婦人民主クラブ広島支部では、三月八日の国際婦人デーで「許すまじ、女性差別」を基調に、集会とデモを行なった。

生後二か月から六十五歳までの女のデモは、勤め帰りの人々の注目を集めた。(3・30婦民)

「楽しいことは本質だ」

関東リブ合宿

舞台は伊豆諸島の式根島。生後七か月から六十五歳まで、一都十三県から参加した百人近い人たちは、八月の四泊五日、潮の香をかきながら、文字どおりハダカのつきあい。

朝は浜辺で新体道に、心も体も解きはぐす。そして夕焼けに空が輝くころから、大ティーチンが始まる。テーマは「自由な女とは」などなど。女性解放は、一杯やりながら、浜辺で。

(9・7婦民)

へ中び連

家族計画討論会に押しかける

二十三日午後五時すぎ、東京虎の門で開かれたへ日本家族計画連盟主催の「産児制限を考える」討論会に、ピンクのヘルメットをかぶった女性の一団、約三十人が「ピルを解禁せよ」と押しかけた。

当惑顔の保健婦さんたちとの

「避妊・家族計画論争」は結局かみ合わないまま、午後六時ごろへ中び連が退場し、討論会は約一時間おくれて、やっと始まった。(10・24朝日)

へこむうむ ただいま満員

「子どもが生まれたというだけで親が生き難くなるようなのはいやね」「それに、子どもがいると、毎日何となく流れていっちゃうでしょ。自分を支えるものが子ども、というんじや、自分のためにも子どものためにもよくないわね」

東京、杉並の一角に、わが子べったりから離れて暮らす、母と子の共同体へこむうむがある。乳飲み子を抱えて働けない母や未婚の母、離婚した母たちが、物心ともに助け合って生活している。

前途は多難だが、活気に満ちている。(12・12読売)

〔母親パワー〕

がんばる給食おっちゃん

分校の子らに新鮮な食事を

山形県真室川町西郡のおっちゃんたちは、毎週一度、腰まで雪をこいで里の本校に下り、分校の子どもたちの給食材料を運ぶ。

十二月から三月までは雪に閉ざされて車が通わないので、母親たちが三人一組になり、保存のきかない魚、肉、とうふ、生鮮野菜などを背負って、往復十六キロの山道を運び上げるのである。

「給食を始める前は弁当を持って来ない子が三分の一もいた。村の食生活は、冬は特に貧しいので、給食はやめられない。そのため、母親の労力は大変なもの」と、分校の皆川竜男先生は語っている。(1・16朝日)

「自転車天国」実現

お母さんたちの提案で

静岡県富士宮市淀川町のお母さんたちが、市や警察に提案していた「子どもたちの自転車天国」がお目見えした。

この「天国」は同町を通る都市計画街路の田中―青木線(千五百メートル)のうちの約五百メートルで、ふだんは車がいっぱいいる場所。学校のグラウンド開放も、行事が多くて遊べない子どもたちを「のびのびと遊ばせたい」お母さんたちの熱意がやっと実ったもの。

「天国」は日曜日の朝九時からお昼まで。一応夏休みいっぱいまで終わるが、みんな「もっと続けましょう」と話し合っている。(8・22朝日)

公害から子を守れ

母親たちが二つの集会

ぜんそく児をかかえる母親たちが集まって悩みをぶつけ合お

うという「公害から子どもを守る母親の集い」が九日、川崎市の二つの会場で行なわれた。

両会場には、先生や保母、保健婦を含め、それぞれ二、三十人が集まり、悩みや疑問などを話し合った。一番気がかりな教育問題についての母親たちの訴えに、先生たちから体験をまじえた熱心な説明があった。

両地区とも、今後もこの集いを続けることを申し合わせた。

(9・10朝日)

母の力で交通安全

多彩な活動、もう五年

「川崎市高津区交通安全母の会」が千五百人の母親を集め、スタートして五年、結成以来順調な発展を続けている。毎月一度道路に出るの街頭監視、標識掃除、自転車教室開催などを続け、しりすばみになる奉仕団体が多く中で、根気強い多彩な活動ぶりが注目を集めている。

モットーは①無理をしない

②金をかけない ③会議を開いたら、必ず誰かが何かをするよう決める ④一人では何もできない。みんなで協力しなくては ⑤会員には、役員など、何か責任を与えるの五原則。

二十一日から始まる秋の全国交通安全運動を前に、「お母さんの手づくりの黄色いハンカチを子どもに持たせましょう」という運動を、いま展開している。

(9・19朝日)

北富士演習場の撤去を

叫び続ける忍草のお母たち

「忍草母の会」は「忍草入会組合」とともに、戦後二十七年、北富士演習場の撤去を求め続けてきた。

昨夏、日米間の協定が期限切れのまま時が過ぎたが、山梨県知事は政府の財政援助と引き換えに暫定使用協定に調印。そしていま、政府は演習場内の二百

十ヘクタールを、大企業とつながる団体に払い下げるといふ。

お母たちの怒りは鬱積し、富士山麓梨が原に農民ゲリラが出没すると報じられた。「毎日でも弁当しよって、梨が原で弾丸とめて、死んでもかまわねえよ、何でもする」(「北富士闘争」第八号より)

富士山麓の原野に入会地の回復を願って執念を燃やしてきたこの農婦たちがいる限り、日本はまだ、あきらめたものではない。

(「北富士闘争」の発行所は東京都杉並区高円寺北2-33-4 静和荘6号) (10・13朝日)

ママさんの努力で

歩道橋が完成

愛知県稲沢市の公団のママさんたちが、保育所・幼稚園・学校に通う子どもたちのために一年半の陳情請願を続け、やっと完成した。(10・13毎日)

「園庭の日照権奪うな」

母親ら建築着工阻止

「幼稚園の庭の日照が奪われる」東京・台東区の同善幼稚園の隣に出来るマンションをめぐって業者とPTAのママさんたちが対立、(反対の会)では九十人を動員、スクラムを組んで土砂の搬出を阻止、工事中止を約束させた。(10・25読売)

飛行場撤去の市民集会で

主婦が切々訴える

騒音公害などのため名古屋空港の撤去を求める第七回春日井市飛行場撤去促進市民集会が二十五日開かれ、地元市民三百人が参加。その代表者が「増便する民間機、夜間に訓練飛行する自衛隊機の騒音で眠れず、子どもはおびえている」など、悪化する騒音被害を訴えた。

また「運動の進め方を再検討しよう」と、これまでの運動に対する反省の発言も主婦から出

て注目された。(11・26毎日)

「主婦パワー」

主婦がゴミ内容を調査

横浜市内の主婦らで構成している(横浜コンシューマーズクラブ)が、市清掃局の資料をもとに、市内の大型ゴミの調査結果をまとめた。

年間に出る不耐消費財は、

ふとん・マットレス二万七千枚、イス・机・テーブル四万八千個、タンス一万三千、畳一万二千枚、洗たく機八千七百台、冷蔵庫五千四百台、テレビ一万四千台、自転車九千二百台。

(1・13朝日)

地主や家主の法外な要求に

主婦たち 民法を学習

家主から突然追い立てをくったり、地主に法外な契約更新料を要求されたとき、あなたなら

どうしますか?

川崎市の主婦渡辺アイ子さん(五二)は「法律を知らない」と泣き寝入りをする事になる。勉強しなくては」と考え、有志とハマザーズ・スタディ・サークルをつくり、月二回、民法の勉強を続けている。

(1・26朝日)

地婦連の田中さん

経営者に講義

長野県の軽井沢で開かれている日本生産性本部主催のトップマネージメント・セミナー(経営者講習会)で十二日、全国各地婦人団体連絡協議会の田中里子さんが消費者代表として初めて講師に招かれた。

田中さんは、企業経営者に消費者運動の基本的な立場と今後の方向を述べ、「人間性回復を忘れてはダメ」と、言葉やんわり、内容きびしく主張。

(7・13朝日)

主婦の「労力銀行」誕生

主婦たちが、余暇と労力を預金し、出産・育児・病氣、年をとって働けなくなったときなどに、その預金をもとでに助け合うという新しいボランティア組織が大阪で生まれた。

提唱者は関西に住む評論家、水島照子さん。相互扶助が目的で、奉仕時間を点数に換算し、必要に応じて余暇と労力を貸したり借りたりできる。

会員制で、各自の預託、引き出しのほか、月一百分の会費と二百分の時間を銀行に寄付し、純粹のボランティア活動も行なう。(9・11毎日)

「主婦大学」二十五年

「主婦連」が主催して東京で開いてきた「主婦大学」が、今年で二十五年を迎える。

同大学は「主婦にとって、これだけは知っておきたい」という、その時々々の暮らしの問題、

社会の問題をテーマに、年一回、数日間開いてきた。

開校は二十四年八月十五日。各回のテーマを見てゆくと、主婦の関心の推移がうかがえる。

毎回テーマとして、政治、経済、社会問題等の硬派と、人生論、随想等の軟派の両方を扱い、三十年以降は、身近な国内問題だけでなく海外へも目を向け、講義内容も次第に高度化している。(9・18毎日)

処理困難なゴミ

企業が下取り、回収を！
空きカン、ビン、プラスチック類から家電製品まで、処理困難なゴミは、下取りなどの方法

で企業が回収せよ！(勸新坂城町運動協会の提唱で地域活動が続けている「生活学校」の主婦たちが、処理困難なゴミの回収と再利用について全国の実態を調査、二十四日、その結果がまとまった。特に住民の苦情が集中

したのが家電製品の処理で、市町村の六割までが「困っている」。同協会ではこの調査を資料に、二十六日、官庁・業界の関係者と対話集会を開く。(10・25読売)

「主婦は四苦八苦です」

高田さん園遊会で直訴
天皇・皇后主催の秋の園遊会で、主婦連の高田ユリ副会長が天皇に直訴した。「物価高の上に品不足、魚にはPCB、くらしの不安はなくなりません」
天皇は「あ、そう、良識ある政治が行なわれてほしいものですね」(11・1読売/朝日)

自民党支持の主婦の集いで

田中首相を「つるし上げ」
二十日、千葉県船橋、市川、習志野などの住宅地からバス十四台、五百八十人の主婦を引き連れて自民党本部に押しかけたのは、自民党船橋支部組織副委

員長の稲葉澄子さん(四四)。「列島改造論の撤回を宣言せよ。インフレと社会不安について、首相は責任を明確にせよ」と主張した。(12・25朝日)

「グループ」

趣味を高めて一生の仕事に
自分の好きなことに没頭できれば幸せだが、結婚してからも未婚時代の興味や趣味を持ち続けるのは難しい。

最近、共かせぎでなく、家庭にいながら趣味を一生の仕事にまで高めていくという新しい主婦のあり方が目立ち始めている。そんな女性たちのグループの一つが「染織春秋会」。二年前、横浜の主婦斎藤孝子さん(三〇)らを中心に作った、手織り・手染めのグループである。会員は女性ばかり十二人。

(1・29日経)

親と子のよい映画の会

子どもたちによい映画を見せよう、と、七一年夏、清水市内のお母さんたちが「清水 親と子のよい映画をみる会」の第四回上映会を開き、ソ連映画「がんばれーかめさん」に千人以上が集まった。(2・8朝日)

国語教科書を読む会

作家の郷静子さんや母親・教師が中心になって、子どもたちによい教材を与えたいと、二年半前から続けている会。

ある例会のテーマは、横浜市内の中学校の先生が二年生に読ませた、有島武郎の「小さき者へ」。この本を取り上げた意図や、授業での子どもたちの様子など報告した後、参加者全員による自由討議。

郷さんは「教科書を批判することは簡単ですが、それよりも実態はどうなっているのか、じっくり研究しようという地味

なグループです」(3・13毎日)

映画「マヨコに雪が降る」

親子映画の第八作。原作は青森県出身の作家、北島八穂さんの童話「耳のそのさかな」

雪深い過疎の農村に住むマヨコの両親は、山々の樹々が色づくころになると、出稼ぎのため家を離れる。留守番役の祖母との語らい、いろり火のぬくもり、四季の自然なども、たつぷりと画面に取り入れられている。

(6・19朝日)

「PCBのえほん」

子どもたちに本当のことをコピーライターやカメラマン、デザイナーという仕事は、時に公害企業の広告などを請け負うことがあるが、二十五名のメンバーが中心の「コンシュートピア創造群」というグループは、全国各地の公害被害者や住民組織などと連絡をとりながら、公

害追及の絵本をつくっている。

石油タンパクやゴミなどをテーマに六シリーズを作り上げた。七作目は農業を内容とした絵本。B5判十六ページ百五十円。

(6・27朝日)

血の通った施設目ざして

「ふくしわかめ」を売る母たち
東京・江戸川区の障害児の母親八人が、子どもたちの将来のために、わかめ売りを始めた。

からだの不自由な人たちが閉ざされた所で生活するのではなく、健常者といっしょに生活する、そんな共同体を理想に「グループ若芽」を作って一年余、収益も百万円を超えた。「障害者の問題って、親だから、肉親だから、ということじゃないと思う。健常者みんなに、もしも自分が、と思っはしい。そしたら、自分ならどう生きたいだろう

か、って、障害者の気持ちがかわかってくると思うんです」

ファイトに満ちてわかめを売り歩く母親たちの顔は、きょうも明るく力強い。(10・6読売)

子どもの本を読む母親の会

幼児期に読書の習慣をつけるには、母親が上手に読み聞かせるのが一番と、四十六年以来、絵本を教科書に読み方を勉強している母親のグループが愛知県常滑市にある。

会員は現在二十三人。月一回、市立図書館に集まって練習している。(10・8朝日)

絵本をテーマに話し合う

サークル「空地」

読書会といっても主婦はまとまった時間が取りにくい。そこで、絵本を選んで、読んで、おしゃべりをして、楽しむ。サクのない広場という意味で名づけた「空地」。出入り自由だが、常連も数人。会費は百円。会費がたまったら、作者を囲んでの

読書会で仕上げを、と夢をふくらませている。(10・17朝日)

作家を囲んで話し合う

浦和市の読書グループ
埼玉県の読売ブック・クラブ

労働

職業を持つ婦人のための

政策を各政党に聞く

〈日本有職婦人クラブ〉(会長 長影山裕子、会員六百五十名)は四日午後、東京で総会を開いた。全国から参加の会員百二十人は、評論家・有馬真喜子さんの司会で五政党の婦人議員と懇談会を開催、議員側は自民党・石本 茂、社会党・田中寿美子、公明党・柏原ヤス、民社党・萩原幽香子(以上参議院)、共産党小林政子(衆議院)の各氏、いず

と浦和市読書グループ連絡協議会は、十一月二十日、結成一周年を記念して「渡辺淳一氏を囲む会」を開いた。会員百八十人中七十人が参加して、熱心な質問が続いた。(12・3読売)

れも、党の婦人局長、婦人部長たち。

会場には共感の拍手や笑いの声がいしきりにあがり、働く母親への対策が、打ちとけた雰囲気です討論された。

各党の有職婦人への政策は男女差別の排除や、出産育児などの母性保護が共通に挙げられ、今後の目標として、企業内保育所などに努力(自民)、出産費の国庫負担、産休期間中の生活保障、有給制の育児休業制度の実

現(社会)、つわり有給休暇(共産)等が挙げられた。

(2・6読売ほか)

女性教師と五段階階級制

中教審の打ち出した五段階の階級制と、その布石としての教員給与の一〇%アップに対して、婦人教師たちは「男女差別につながるもの」と、闘う姿勢を固めている。(2・8毎日)

レジ係は くだくた

職業病まで発生

チェンストア労組中立会議、一般同盟、全繊維同盟流通部会所属の主な労組が先月愛知県蒲郡市で「全国チェンストア労組職業病担当者会議」を開き、各社のレジスター係の実態を話し合っ、統一要求をまとめた。①レジ作業時間を一日四時間以内にする ②レジの連続作業時間は最高一時間以内に ③袋詰め係を別に置く ④軽いタッチ

のレジに換えるなど。

(2・8朝日)

スーパのチェッカー

頭痛、手にしびれ…と訴え

スーパーマーケットに働くチェッカーたちは、一日中レジスターをたたき続ける結果、肩やくび・腕に激痛を覚える人が続出。「病気になるたらおしまい。予防するため、一日も早く作業基準を定めて」と、八日代表が労働省を訪れて訴えた。

これに対して労働省側は、チェッカーの労働安全の指導が遅れていたことを認め「健康を守るための作業基準を作る」と約束した。(2・9サンケイ)

「賃上げの約束守れ」

熊本で主婦従業員らスト

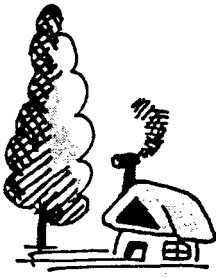
阿蘇町の縫製工場で「ママさん従業員」たちがスト。四時間で解決したが「阿蘇のウーマンパワー」と話題になっている。

ストに突入したのは東部阿蘇縫製工場。従業員の内九割が女性で、その七割が農家の主婦。

騒ぎの発端は、同社の労組が社長との団交で賃上げを要求、会社側は約束していたにもかかわらず、一方的に実施延期を要求したため。

総評のオルグも駆けつけるなど、騒ぎは拡大しそうだったが、会社側が全面的に折れて正午前に妥結、全員職場に復帰した。

ストに参加した主婦は「決めたことを守らなかったから、労働者の権利を行使したまで。筋の通らない会社の条件には、今後とも団結して闘います。農家の主婦だから、と負けてはいられません」
(2・18熊日)



窓口や札勘定の女子行員に

職業病認定

静岡労基局は静岡銀行の県内十二支店で女子行員十九人が申請していた「頸肩腕症候群」を職業病と認定。

「訴えの起因に『業務外のもの』によるという医学的な反証がない以上、職場環境に問題がなくても、職業病に認定して患者の救済を優先させる」という新しい考え方を出している。

(3・27毎日)

新戦力にミセス・パンチャー

近郊団地に「分室」

パンチカード作成コストの高騰に悩まされている電子計算センター・菱光センターが、千里ニュータウンに進出、団地に住むパンチャー経験者をパートタイマーとして活用する新手の人集め作戦を編み出した。情報産業に団地の主婦が一役買おうという、業界でも初めての試みとし

て注目されている。

分室開設に成功した同社の相田社長は「問題は家庭に入っている経験者をいかに動員するかにあったが、ニュータウン内に機械を設置することによって、通勤に都合よく働く時間を提供したことが受けた」と。

(4・30日刊工業)

婦人労働問題の

専門家二人来日

アメリカから婦人労働問題の専門家二人が来日中。労働省の婦人局長カルメン・ローザ・マイミー女史と、労働組合論が専門のコーネル大学教授アリス・H・クック女史。

マイミーさんの来日目的は、日本の労働省婦人少年局と提携して四十九・五十年度の二年間に行なう「働く女性の地位と役割」についての共同研究の打ち合わせ。「法律はあくまでも現実の差別をなくしていくための

道具にすぎない。出発点である職業教育訓練の差別が、現実の差別をつくっている」と語る。

クックさんは七つの国を回り、政府の役人や女性政治家、労働組合や婦人団体のリーダー、働いている母親たち、の三つのグループの人たちを訪ね歩いた。

コーネル大学に「働く女性の問題」の講座を設けた時、資料が少なく、働く女性の実態がほとんどわからなかったため。「働く女性の差別をなくす一つの力ぎは、労働力不足と、政府の姿勢や施策の改善、保育所の増設同時に女性の側の教育程度が高まること。女性自身の意識改革と、政府や労働組合への働きかけが必要」と、各国を回った感想を語った。
(9・20朝日)

*

「世界的に低い女性の地位」

とクック女史

世界の働く女性の実情を調査したクック教授の感想は「社会

主義国でも資本主義国でも、働く婦人の問題はあまり変わらな
い。女性の職種が限られている
上に、賃金が安く、昇進・昇格
のチャンスも少ない。しかも家
庭に煩わされ、夫の協力が少な
い」

ただし例外は、政府が「男女
ともに家庭を担うべき」とう
たっているスウェーデン。男の
子にも料理・洗たく、女の子に
も木工を教え、婦人労働にも積
極的で、主婦の有給訓練もある。
結論は「女性差別解消の条件
は、労働力不足、女性の自覚と
圧力、そして保育所を増やすこ
と」

(9・20読売)

研修とは安い労働力か

指導も特別実習もせず:

「日本に研修に來たのに低賃
金で働かされるだけ。私たちは
だまされた」ーシンガポールの
少女たちがこの夏、故国の新聞
に送った投書がきっかけで、二

十三日夜、調査団が来日した。
企業側は「働くことが研修なの
だ」と反論しており、同地にあ
る日本人商工会議所が「実態を
見た上で考えてほしい」となっ
たもの。

(10・25朝日)

広がる頸肩腕症候群

キーバンチャー、チェッカー、
保母などの婦人労働者を悩ませ
ている頸肩腕(けいけんわん)
症候群と呼ばれる病気は、一応、
労働省によって職業病として認
定され、労災保険で認められる
数も毎年増え、主婦や大学生等
にも広がる傾向を見せている。

しかし、まだ定義さえはつき
りせず、十一月七日開催の日本

災害医学会のシンポジウムでも
これがテーマになったが、統一

したまともにならなかった。

ともかく静的な筋緊張に傾き
すぎると起きやすいので、同じ
姿勢を長く続けられないよう、労働
条件の改善と職場の快適化が早

急に望まれる。(11・16読売)

「男の産休」に

各区でヤミの上積み

東京都では、東京都労連の要
求「男の産休」を二日間認め、
十月中旬からスタートした。

ところが、都労連と並行して
行なわれた各区と都職労区支部
の交渉で、世田谷区は三日、品
川区は二日、大田区は一日を上
積み。そのほとんどが区職労と
区理事者側の「ヤミ協定」とい
うのが特色。(12・15朝日)

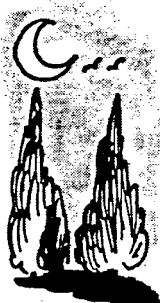
〔看護婦〕

看護婦酷使を改善せよ

埼玉県春日部労働基準監督署

春日部市立病院で手術室看護
婦を酷使していることが労基法
違反に当たるとして、十九日、
田中俊治市長に是正を勧告。

(1・20朝日)



看護婦さん不足の対策に

通信教育で受験資格

厚生大臣は、深刻化する看護
婦不足解消対策の一環として、
通信教育制度の採用によって国
家試験の受験資格を与え、準看
から正看へ昇格する道を開く意
向を固め、すでに準備段階に
入った。

早ければ五十年代にも実施に
踏み切りたいとしている。

(8・18毎日)

看護婦さんも最低賃金制へ

看護婦不足を給与面から解決
するため、日本医師会は「看護
婦最低賃金制委員会」を近く発
足させることを、八日、福島市
で開かれた東北医師会連合会総
会に出席した武見太郎会長が明
らかにした。(9・9朝日)

看護婦さん獲得作戦

看護婦の不足から病院閉鎖に追い込まれている病院が激増し、ベッド不足はますます深刻化している。夜間勤務や結婚・育児などのため、看護婦の離職率が高く、養成が追いつかないのが実情。このため厚生省は「退役看護婦」のカムバック対策として「ナースバンク」（来年度計画）、看護婦の質の向上を図るための「看護大学校」と「国立看護婦研究センター」（五十一年度オープン目標）の設立計画を打ち出した。（9・25朝日）

訪問看護婦制度を計画

（財）家庭生活研究会（佐藤直子会長）では、せっかく資格を持ちながら家庭に引きこもっている潜在看護婦を新たに研修させ、産婦や在宅病人・身障者等のいる家庭を訪問して主婦の負担を軽くする「ビジティングナース制度」を計画。（10・18朝日）

潜在看護婦のなげき

求職中の看護婦です。職場を与えてくれるならナースバンクに入りたいと思いますが、私が働ける職場があるでしょうか。たいてい、月に十日前後の夜勤があり、大病院では、夜勤なしは全部パート扱いです。保育料などを考えると、どうしても計算に合いません。

政府は潜在看護婦の活用をと言いますが、潜在したくなくても潜在しなければならぬ状態におかれているのです。

（10・25朝日）

増員要求で座り込み

国立がんセンターの看護婦さん 十四日、築地の国立がんセンター病院で、看護婦さんたちが増員を要求して座り込んだ。患者から激励文やカンパの支援が寄せられるなど、闘争は「病院ぐるみ」となった。

（12・15朝日）

【保 母】

保母さんは「半病人」

川崎市の市立保育所での、保母の労働条件などに関する健康調査結果が十四日まとまった。

〈川崎保母会〉と川崎医療生活協同組合大師病院が共同で実施したもの。キーバンチャーなどの頸肩腕症候群等が次々に職業病に認定されていく中で、取り残される保母の生活や健康の実態を、まず明らかにしよう、との狙い。（2・15朝日）

保母も 働く母親も

共に労働条件に悩み 現場の保母と父母が一緒にあって新しい保育のあり方を考えようという「東京の保育と幼児教員研究会」が二十五日開かれた。

現在は二重保育を必要とする

人も少なくないが、保育時間を延長すれば、同じく働く女性である保母の労働過重となる。対立する問題をめぐって「なぜ、こうまでして働き続けなければいけないのか、長時間保育の子がかわいそう」「一度辞めて再就職すると、労働条件が悪くなる」等、意見が交換された。

保育問題研究家・橋本宏子さんは「働くお母さんの立場が一番よくわかるのは、働く婦人である保母。労働強化にならず、お母さんたちの希望がかなえられるよう勤務条件を工夫し、先頭に立つて働きかけてほしい」と助言。（2・28読売）

不当に低い給与

公費補助はどこへ 東京・田無市のサムエル保育園は昭和四十五年開園。園児八十七人の私立保育園。都の給与基準は月額四万二千元だが、同園では一万六千元から三万円、

一日休むと千円カットされる。現在九人働いているが、昨年中で十三人の保母が辞めた。

父母と保母が園長と話し合おうにも雲がくれ。市も「早く手を打たなければ」と困り顔。

(3・13朝日)

*

園長が保母などを告訴

労働条件の改善問題をめぐり、園当局と保母・父母が対立していたが、内藤園長が保母と父母を相手に、名誉毀損で百万円の損害賠償を求める訴えを起こした。

(5・20朝日)

*

保母さんが集団辞表

「待遇がひどすぎる」として集団辞表を出したのは、東京・田無市の私立サムエル保育園の保母さん七人。

給料は低く、生理休暇をとると賃金カット、産休をとればクビという実情。保母さんたちはこれまでもたびたび待遇改善を

要求してきたが聞き入れられず、

今年二月には保母や父母の一部が市に請願し、給与条件などが一部改善され、平均給与が税込み三万七千七百円となったが、それでもまだ、都職員と比べると約七千円は低い。

都では、今年度から私立保育園の保母にも、都職員なみの給与が支給されるように補助金を出している。

しかし園長は「七人のうち保母の資格のある者一人には、見合った給料を払っているが、無資格者六人には、今の補助金ではとても払えない」と言っている。

(9・14毎日)

保母の「腰痛」は職業病

盛岡労基署が認定

川村モモ子さん(二六)は主としてゼロ歳児の保育を担当しているが、中腰の姿勢が多く、レントゲン撮影の結果、腰の骨が曲がっていた。(6・7河北)

施設の保母に職業病認定

労災適用の訴え実る

静岡県の重度精薄児施設へ小羊学園で働く保母の本間とし子さん(二三)から出されていた頸肩腕症候群、疲労性背腰痛症の職業病認定申請に対し、浜松労基署は一日、「労働環境に伴う職業性疾病」と認めた。福祉施設職員の職業病認定は全国でも珍しい。(8・2朝日)

〔内 職〕

一日五時間、月収一万円

「内職をしている人の六〇％近くは、一日平均五時間近く働いて、収入は一か月平均一万円足らず。しかも一七％の人が、その仕事の原因と思われる災害や病気を経験しており、工賃が安いとか仕事の量が一定しないとかいった仕事への不満を持つ人は九〇％にのぼる」―内職に

関する実態調査の結果。

(8・16朝日)

一日二百七十円でも

物価は毎月のように大幅に上がるのに、内職の賃金ではいまだに「五十銭」という単位が通用する、と嘆くのは、内職を経験した家庭婦人ならだしものこと。

横浜のある主婦もミシンししゅうを始めたが、時間はかかり、神経の集中を要するこの仕事の一時間に対する賃金は九十円程度。勤めに出れば一時間二百五十円にはなるといいうのに、家庭でできる仕事となると、労働内容に比して安すぎる。しかし外に出られないとなれば、一日三時間でも働いて生活費にと思う。ああ、ゆううつ。

(主婦・35)(11・30読売)

法・制度・裁判

〔裁 判〕

「職業病に慰謝料払え」

東京地裁で判決

NHKで長年タイピストとして働いた伊東満子さん（五九）は、職場を離れたあとも、頸や背中、腕などに痛みがあり、四十四年秋、治療費・慰謝料などの損害賠償を求める裁判を起していた。（5・24朝日）

離婚した夫婦の子は母へ

最高裁、父親方の上告棄却

京都に住むA子さん（二八）は、離婚調定の際に子どもの養育者はA子さんと決めていたにもか

かわらず、勝手に子どもを連れ去って養子縁組みをした父親と祖父母を相手に「子どもを引き渡せ」と裁判を起こしていたもの。

京都地裁は「養子縁組みは無効、母親が養育すべきである」として、A子さんの主張を認めていた。（5・25朝日）

女子大生の

赤ちゃん殺しに猶予刑

出産した赤ちゃんを殺して寮のゴミ箱に捨てた、元東洋女子短大生A子（一九）に対して、三十一日、東京地裁藤野博雄裁判長は「犯行は憎むべきだが、未成年者であり、周囲の人たちの注意と理解があれば、このよう

なことには至らなかったと思われる」と、求刑より軽い懲役三年執行猶予四年の判決を言い渡した。（8・1朝日）

「夫の霊、利用させない」

「妻の意思を無視し、自衛隊で殉職した夫の霊を勝手に護国神社に合祀したのは、憲法二十条に保障された信教の自由を侵すものだ」と、中谷康子さんが

（隊友会山口支部連合会）と国を相手どって起こした「合祀違憲訴訟」の口頭弁論が、十六日開始された。

この日、三十六枚の傍聴券をめぐって百名近くの人々が早朝から並んだ。

康子さんは「夫の霊を自分以外の人に祀ってはしくない、という叫びが、法で保障できないというのか」「夫の霊が軍国主義復活の道具に利用されるのは耐えられません」と、声をつまらせた。（8・31婦民）

「出産直後の異常出血死は
医院の重大な過失」

出産直後の多量の出血がもとで死んだ婦人の家族が、産婦人科医院の院長と医師を相手取って損害賠償を求めている裁判で、東京地裁の鈴木潔裁判長は、二十六日、院長らに総額約七百五十万円を支払うよう、判決を言い渡した。（9・27朝日）

保育器で未熟児四人失明

「子どもが失明したのは保育器の中で多量の酸素を与えられたため。定期眼底検査をしなかった病院側の責任」と、静岡市の家具販売業 大池俊治さん（四二）ら、市内に在住する四人の未熟児網膜症の子どもを持つ父母が、病院の母体である日本赤十字社、静岡市、静岡県厚生連の三者を相手どって、総額一億三千二百万円の損害賠償請求を、八日、静岡地裁に出した。

（10・8朝日）

「出産退職制」無効に

出産退職制により解雇は無効である、と、三井造船を相手に裁判で争っていた高槻市の末浪和美さん（二九）が同社と和解し、職場に復帰することになった。しかし同社には、第二子出産退職制を盛り込んだ労働契約が依然として残っている。

（12・4朝日）

「女子の定年制」

「定年差別は違法」

東京高裁判決

「女性の生理的機能水準は一般に男性より劣り、女性の五十五歳は男性の七十歳ぐらい。五歳ぐらいの差をつけても不当ではない」と、東京高裁（谷口裁判長）の判決。

訴えていたのは埼玉県所沢市の中本ミヨさん（五四）で、訴えられたのは日産自動車会社。

中本さんは日産に吸収される

前からプリンス自動車工業に勤め、同自工の定年は男女とも五十五歳だったが、合併後、労働協約で旧日産の定年制が採用されて男五十五歳、女五十歳となった。中本さんは、昭和四十四年で満五十歳なので定年退職になる、と通告され、「日産の決めた定年制は不合理で公序良俗に反し、無効だ」と地位保全の仮処分を東京地裁に申請したが棄却されたため、東京高裁に控訴していたもの。（3・13朝日）

働く女性たち憤慨

東京高裁の判決めぐって

〈日本有職婦人クラブ〉（会員六百五十人）の会長影山裕子さんは東京高裁の判決に「なんとという時代錯誤、絶対に許せない」とカンカン。判決の根拠に引用された資料は、労働省婦人少年局が十年ぐらい前に編集した「女子の定年制」の一部。「生

物学的な立場から、定年の決め

手になるものはない」という趣旨。労働省では「たぐさんの中からあのデータだけを取り出されて」とびっくり。

労働省の四十五年の調査によると、定年が最も集中している年齢は、女子は五十歳（四〇・四％）、男子では五十五歳（五三・八％）。

労働省では「昨年から施行の勤労婦人福祉法第五条をもとに行政指導の効果をあげたい」と言う。

第五条は、勤労婦人の能力の有効な発揮を妨げている諸要因の解消を旨としている。

（3・15朝日）



「定年差別は違法」

東京地裁（岩村判決）で逆転

男性より五歳早く定年退職を通告された中本ミヨさんが日産自動車を相手に起こしていた雇用関係存続確認訴訟で、東京地裁の岩村弘雄裁判長は、二十三日、「性別によって定年の年齢を分けるのは不合理」と、中本さんの主張を認める判決を下した。中本さんは、別に、同じく日産自動車を相手どって、地位保全などの仮処分を東京地裁に申請したが、棄却され、東京高裁もこの十二日、中本さんの訴えを退ける判決を言い渡したばかり。この日の「岩村判決」は、高裁判決に真つ向から対立する形で、女性の定年が社会問題となっている時だけに、この二つの判決は、今後も論議を巻き起こしそう。

（3・23毎日）

定年に男女の差をつけるな

定年制の男女差別が、働く女

性を大いに憤慨させている。東京高裁が「女子の五十五歳は男子の七十歳ぐらゐに当たり、男子より生理的機能が劣る。勤続年数を重ねても、企業への貢献度は向上しない」として、男性より五年早い五十歳で会社から定年を通告された女性の地位保全などの仮処分訴訟を退けたからである。

ところがその判決から十日余りで、同じ女性原告の雇用関係存続確認等請求訴訟で、東京地裁は高裁判決と全く逆の判決を下したのである。

労働能力は、地裁の判決も示しているように、知識、経験、体力、職種など、いろいろな要素で判断すべきもの。生理的機能だけで比較することは納得できない。

働く女性への理解を妨げている問題はいろいろあるが、女性自身も、批判を打破する努力に欠けていた点を反省する必要がある。男性と比較されても決

してひけをとらない、という職業人の心構えが強く望まれる。

(3・28毎日「社説」)

三十歳定年の壁越えて

名古屋放送の檜崎さん

女子三十歳定年制を実施している名古屋放送を相手どって、檜崎庸子さんは三十歳の誕生日を前に、解雇禁止の仮処分を名古屋地裁に申請していたが、同地裁は二十五日、この申請を認める決定をした。

「七年も一生懸命働いてきたのに、なぜ、女であるというだけの理由ではうり出されなければならないのかと思うようになりました」と言う檜崎さんは、東京支社でたった一人の組合員だったが、民放労連東京支部の人たちの支援が、大きな支えとなった。

「仲間と手をとって合えばやりとげられるのだ、というのが実感。三十歳定年制を不服として現在裁判を続けている二人の先

輩の職場復帰や、定年制廃止の問題などにも影響があると思い、責任を感じました」

(5・31朝日)

女子の四十七歳解雇は無効

女性の勝訴が定着

「レジャー産業の女子従業員は若さが必要」と、女子定年四十七歳(男子は五十七歳)を主張する伊東市の伊豆シャボテン公園を解雇された五人の女子元従業員への提訴に対し、静岡地裁沼津支部の永石泰子裁判官は、その申請を認め、十一日、解雇無効の決定を言い渡した。

女子の定年差別は、これまで東京・神戸・千葉地裁などで無効判決が出ており、女性勝訴が定着してきた。

(12・11読売／朝日)

〔森永ミルク中毒事件〕

厚生省が再調査へ

「森永ミルク中毒事件」発生直後、和歌山県で、現在問題になっているMF印以外のMC印・ML印からもヒ素を検出していたのに、当時の厚生省が無視していた」とへ森永ミルク中毒の子どもを守る会が調査に乗り出し、厚生省も問題を重視して二十七日、再調査へ踏み出した。

(1・27朝日)

秋にも「十八年目の決着」

徳島地裁刑事部で審理がつづいている森永ドライミルク中毒事件の差し戻し審は、十七日の被告人質問で実質的な審理をすべて終了した。

三月十三日に論告、求刑、五月十五日には弁護側の最終陳述があり、結審。(2・17朝日)



禁固三年を求刑

森永ドライミルク中毒事件差し戻し審の論告求刑公判が開かれ、三十年夏、人工栄養の赤ちゃん百三十人が死に、約一万二千人の中毒患者を出したわが国最大の食品公害事件の「十八年目の求刑」となった。

検察側は、元森永乳業徳島工場長と同製造課長の二人の責任について厳しく論告、両被告に禁固三年を求刑した。

(3・13朝日)

未確認患者を認定

十八年間に、行政からも森永側からも切り捨てられてきた被害者に、やっと救済の手が差しのべられた。

厚生省の委託で確認作業を続けている大阪府調査委員会は、第一次分として十八名を認定。今回確認されなかった人についても、引き続きくわしく調べるとのこと。

(3・29朝日)

対立のまま結審

本日の最終弁論で、四十五年二月初公判を開いたこのやり直し裁判は、三年余の審理をすべて終えた。

被告の弁護側は「納入された薬剤がヒ素の混入した粗悪品であったことは予測できず、過失はなかった」と、改めて無罪を主張した。

判決は十一月二十八日午前九時半。

(5・15朝日)

患者の女子短大生自殺

徳島市の女子短大生八木敏さん(一九)は、十二日、自室で首つり自殺をした。

敏さんは森永ヒ素ミルク中毒の後遺症に悩む認定患者。二十八日開かれる同中毒事件の差し戻し審判決を目の前に、忘れたと思う「被害者」という名のらく印を改めて思い知らされ、自ら命を断つたらしい。

(11・13朝日)

「事故は未然に防げた」

製造課長に禁固三年

徳島地裁の野間礼二裁判長は、最大の争点だった予見可能性について「具体的に危険を特定できなくとも『危険が絶無だとして無視するわけにはいかない』という程度の危機感があれば足りる。このような不安感・危機感こそ、結果の予見可能性にはかならない」とし、同工場従業員が規格品発注義務と化学的検査義務さえ尽くしておれば、事故は未然に防げたはず、と断定した。

工場長に対しては「第二リン酸ソーダの発注・使用は、前工場長(技術系出身)時代から引き続いて行なわれている製造技術上の日常業務であったため、指導監督するというようなことを、事務系工場長の被告に期待することはできなかった」として、無罪を言い渡した。

(11・28朝日)

「赤ちゃんあっせん事件」

「中絶より他人の実子に」

菊田医師、十年間に約百件

宮城県石巻市の産婦人科医師

菊田 昇氏(四六)は、生まれつきの赤ちゃんと、子どもがいない夫婦に「実子」としてあっせんしていた。「生まれてくる赤ん坊も助かるし、産みの母親も、子どものほしい側も喜んでいいる。出生届を出す際の書類に手心を加えたことは法律にふれるところもあるが、それは覚悟の上」と同医師。その数は十年間に約百人ぐらいいで、ほとんどが妻として届けられている。この行為に対して、賛成論者は「不幸な赤ちゃんの事件が多いこのごろ、むしろ法律がこういうことを奨励すべきだ」とし、一方、反対論者は「出生証明書の文章をいつわってまでやるべ

きではない。情報提供が限度」との意見。
(4・21朝日)

「子が欲しい親」の立場から

この先生の勇氣ある処置に感心しました。私たちは結婚十二年、子どものないわびしさを味わってきました。もしこの先生を知っていたら、お願いしたかもしれません。

昨年、里親の許可を受けましたが「いつになるかわからないし、あったとしても何年かして実の親に返してほしいと言われることもある」と言われ、喜びもつかの間、また振出しに戻ったような気持ちです。

この先生の処置について「自分でお世話せず、公的な所で……」という意見もあるようですが、里親にしても、地区の福祉司さんの考え一つで、里親になれたりなれなかったりするそうです。福祉司さんの人員が少ないということも問題です。国も、

ぜひ考えていただきたいと思います。(主婦35歳 4・23毎日)

「違法、やむを得ず」

菊田医師、信念の証言

二十四日、参議院法務委員会に参考人として出席した菊田医師は「生存可能な子どもが死にさらされているとき、何らかの方法で助けられないものか、と考えた。方法がないなら、法を犯すのもやむを得ないと判断した」と述べ、さらに「時代に合った法改正を検討してほしい」と要望した。

質問に立った玉置和郎氏は、「今回のケースは刑法に定める緊急避難に当たり、生命を守る立場から処罰は免除されると考える。がんばってほしい」と激励し、法改正に取り組む姿勢。

佐々木静子氏は ①なぜ養子縁組みの合法手段をとらなかったのか ②法の上から二セの実親は不安定な立場にある ③腹

は借りもの、という古い思想がある、など、厳しい質問を展開した。
(4・24朝日)

養子を育てて思うこと

周囲は干渉しないで……私ども夫婦は子どもが出来ず、生後一か月の赤ちゃんを養子にした。私たちは養子ということにこだわりはないが、成長したときの子どもの気持ちを思うとたいへん不安になってくる。

子どもには、親子関係がうまくいっているときに、親の口から教えたいと思っている。そのためには、周囲の方々もヤジ馬的にならず、静かにしてほしい。親が育てる喜びも苦しみも、実子と養子に変わりのあるはずはないと思う。

欧米のように、養子を育てていることへの、周囲の干渉がなくなるような方向に、運動をもっていったほうが自然だし、本来の姿だと思う。

(主婦 32歳 4・27毎日)

「子の幸せ」と板ばさみ

「罪と罰」に法務省苦慮

「表ざたにならなければよかったのに」というのが法務省幹部の困惑の声。ウソの届け出は、一部の地方では慣習として行なわれているが、見て見ぬふりをしている。

しかし、堂々と行なわれている違法行為を見逃すことは、法治国として示しがつかない、という建前と、幸せな家庭に土足で踏み込むことはできない、という現実との板ばさみ。

このかねあいを、どのように処理するか法務省も苦慮している。
(5・5朝日)



実子特例法の立法化を：

横浜の医師グループ起つ

横浜市内の開業内科医師五人の集まり「五人会」は、四十六年七月の保険医総辞退騒ぎのとき、医師と市民の対話を通して医療制度を考えていこう、と出来たグループ。「法的には違法だが、同じ医者として、真意は理解できる」と、「実子特例法の立法化を推進する会」を結成した。

(6・22朝日)

「実子特例法」の私案

横浜の医師らが発表

実子と養子を差別しない特例法の制定を目ざしている医師たちが私案を発表。「実子特例法の適用を受けるのは、一定年齢(十五歳未満)の子に限る」など十三項目。

(6・27朝日)

菊田医師を頼りに

未婚の母が捨て子

「だれかに上げて」と札幌の

十九歳のOLが、赤ちゃんを段ボール箱に入れ、手紙を添えて、菊田医師の病院の庭先に置き去りにして行った。

四月の「あっせん事件」以来、生まれたばかりの赤ちゃんを抱えて病院に転がり込んで来たり、子どもが欲しいという相談などで、菊田医師のところには、電話や来訪者が月に四、五件あるという。

(10・1朝日)

「あっせん事件」の

事実を直視すべき時期

K医師がこの十年間に約百人の新生児を、子宝に恵まれない夫婦にあっせんしていたという事件は、各方面に衝撃を与えた。「若い女性の無責任を助長」

「くさいものにフタするだけ」といった批判がある。しかし現

実は、母子心中に走っていたかもしれない者の生命を救ってきたことになるのではなかろうか。社会は、この事実を直視す

る時期にきていると思う。

(10・3朝日)

「K子さん事件」

働く母、未婚の母は

子育ての資格がないか

「奪われたわが子を取り戻してください」―大阪・堺市の女教師K子さん(二八)が、三日、田中法相あてに直訴状を出した。

未婚の母として立派に育てよう

と産んだ赤ちゃんを、相手の

男性の関係者に連れ去られ、他人夫婦に実子として引き取られてしまったのだ。

裁判所では「産みの親は未婚の身、しかも仕事を持っているので母親失格」という理由で棄却。現在家裁で親権の所在をめぐって係争中。その審判が迫ったため、直訴という手段に出たという。

(2・5朝日)

子どもの幸せはどちらに

「実の子を返して」と堺市の女教師K子さん(二八)が法相に直訴した事件で、育ての親のSさんの「合意の上で養子にした、それが子どもの幸せ」という主張が大阪地裁で認められ、最高裁で確定した。

だが「実の母のもとで育つのが子どもの真の幸せ」というK子さん側の意思も固い。

(2・9朝日)

働く母差別の判決に抗議

K子さん事件に関心を持つ女性たちが、市川房枝さんらの呼びかけで、十六日夜、東京渋谷区の神宮前区民館に集まり「働く母、未婚の母差別裁判に抗議する会」をつくった。

(2・17朝日)

法相への陳情など決める

「抗議する会」は一日夜、婦選会館で集会。二百人近くが参

加し、上京したK子さんを囲んで話し合った結果、田中法相に

「人権擁護の立場で 善処してほしい」と陳情することを決めた。
(3・2朝日)

働く母親への攻撃

男性本位の性道徳

〈抗議する会〉は「シンポジウム・K子さんの問題を私はこう考える」という会合を開き、小沢遼子さんや吉武輝子さん、中島通子さんらもまじえて二百人余りが参加。

「①K子さんが働いているため子どもを育てる環境として不適 ②教職にありながら、教子との間に私生児を産んだような女性に、母親としての愛情があるかどうか疑わしい」とする大阪地裁堺支部の判決は「全女性に対する不当な差別と攻撃」であり「女性の側にだけ男性本位の性道徳を押しつけるもの」と考える点で一致し、会

場の声が集中した。

「性差別は家庭や体制の問題ともかわかる」とし、男性への呼びかけも、という男性の声もあった。
(4・17朝日)

育ての親が産みの親を告訴

「子どもが無理やり連れ去られた」と六日、子どもを養育している母親が大阪・富田林署に告訴。K子さん側は「親権に基づく正当な行為」と主張、七日正午前、同署に出頭した。

なお、養い親のA子さんは、追いかけるとき、足などにけがをした。
(5・7朝日)

「子どもを見たくて

発作的に取り返しした」

富田林署の調べにK子さんは「実力で取り戻したのは望ましいことではないが」と言っており、また「A子さんにけがをさせたおぼえはない」とも。

子どもは支援グループの人が

東京へ連れて行った。

(5・8朝日)

「子どもが戻ったから」

K子さん、訴え取り下げる

十九日、K子さんは親権に基づく幼児の引き渡し請求の訴えを取り下げた。「子どもを抱きたい一心のもの。引き続きわが子を保護下におくことは違法不当なものではない」と代理人。Aさん側は同意せず、形の上では裁判が続くことになる。

(5・19朝日)

略取傷害、道交法違反で

K子さんを書類送検

養い親の告訴に基づいて調べていた富田林署は、K子さんと共犯者を「相当処分」の理由をつけて大阪地検に書類送検。

(7・4朝日)

竹内裁判官の訴追を請求

〈働く母、未婚の母差別裁判

に抗議する会〉は二十日、大阪地裁堺支部の竹内裁判官について「憲法の精神に反した考えをもち、裁判官として不適当」として、国会の裁判官訴追委員会に訴追請求することを決めた。

(9・21朝日)

「実力奪取は不当」

大阪地裁の判決

三歳の坊やをめぐり、未婚の母と育ての親が争っていた人身保護請求事件で、大阪地裁の石川裁判長は、九日、育ての親の「子どもを引き渡しの訴え」を認めた。

K子さんと子どもは出廷しなかった。
(10・10朝日)

〔大久保 清〕

死刑求刑前橋地検

わずか十一日間に八人もの女性を次々に殺し、殺人死体遺棄、

婦女暴行罪などに問われていた大久保 清(三八)の公判で、広瀬哲彦検事は「残忍、人道無視の行為」として死刑を求刑。

(1・8朝日)

死刑判決―前橋地裁

二十二日、水野裁判長は「巧妙、冷酷な殺人」として死刑を言い渡した。(2・22朝日)

死刑確定

控訴提起期限の九日午前零時を過ぎても控訴しなかったので死刑が確定。(3・9朝日)

〔制 度〕

妻の地位向上へ民法改正を

〈全国婦人税理士連盟〉

このほど、法務大臣の諮問機関である法制審議会の民法部会に「夫婦が築いた財産の半分を妻の持ち分と認めさせ、離婚や

相続のときに妻が不利な扱いを受けないようにしたい」と、民法改正要望書を正式に提出した。

(2・20毎日)

夫婦の財産は共有制がよい

―千人の調査で七割が

このほど〈全国婦人税理士連盟〉は、法制審議会に「夫婦が築いた財産の半分は妻のものとし、その地位を向上させるよう民法を改正すべきだ」との要望書を出した。

千人を対象とするサンケイの調査でも、女性の七十二%、男性の六七%がこの主張に共鳴。賛成の理由は「妻には内助の功があるから」三二%、「家庭内の妻の座を安定させるためによい」二四%など。

(2・23サンケイ)

養育家庭制度発定

里親制度は、もともと養子縁組を目的としているのではな

く、一定期間、家庭で子どもを育ててもらう「養育」が目的。しかし現状は、里親として登録されているものの大部分が養子縁組みを希望し、実際に子どもを預かって育てている人はわずかである。一方、乳児院や養護施設で育てられている子どもは、アメリカとは逆に、日本では圧倒的に多い。

現在の法律では、里親より実親の権利が強く、問題の起こることもあり得る。そこで東京都では、新しく「養育家庭制度」を発足させた。児童福祉法が本来期待する養育を目的とする里親の社会的重要性を人々に訴え、協力を期待する制度である。

(7・6朝日)

出産給付の増額を

出産で一週間入院すると、都市部では十万円前後、かなりの負担である。「もどし」はわずかばかり。自由診療が建て前な

ので、費用には地域差があり、病院によっても違う。

国会で出産給付の増額を含む健康保険法改正案の審議が大詰めを迎えているが、果たしてこれで十分だろうか。

(9・12朝日)

新税制で「妻の座」優遇

配偶者控除を大幅引き上げ
大蔵省は五十年一度税制改正で、相続税と贈与税を大幅に減税するが、特に配偶者控除を大幅引き上げの方針。(11・30読売)

〔労 基 法〕

労使で食い違う改正要求

働く女性の数さえ把握できなかった昭和二十二年に労基法が施行されてから四半世紀。現在、雇用者として働く女性の数は一千百万人(五三・七%は既婚者)を超えた。

頸肩腕症候群、冷房病等々、いま、現場の女性たちは次々とからだの不調を訴えている。

「労働条件を国際的水準にまで引き上げるよう、労基法そのものを全面的に改正しなければならぬ」と社会党の田中寿美子さん。総評も同盟も、そのために地道な努力を続けている。

一方、経営者側は、技術革新が進んで職場の環境が変わり、労働力不足が深刻な現在、労基法は実情に合わない、特に女性には「過保護」ではないかと、改正の意見書を労働省に提出。同じ「改正」でも、基準を大幅に引き上げようとする働く側と、生休の規定の削除や、女性の時間外労働の制限等を緩和せよという経営者側との開きは大きい。

(3・5朝日)

生理休暇で賃金カット、法廷へ「既得権の擁護」に男性職員も戦後ずっと有給で認められて

きた二日間の生休が、労働協約や就業規則の改定で無給となったことから「労基法第一条に違反」と、慶応大学に働く七十四人の女性が昨年十一月告訴、今年一月から裁判が始まった。

経営者側の意見は「生休の乱用で、財政負担が大きい。同一労働同一賃金の職場で、女性にだけ二日間の有給休暇があるのは不当」というもの。

「男も他の条件をがまんしたのだから女もがまんしろ、という言い分に従っていたら、男も女も、せっかくの既得権を取り上げられてしまう」と、いま、男性職員もまきこんで闘っている。

(3・6朝日)

生休、有給規定の明示を要求

労使関係の争点に

昭和二十二年に労働省の初代婦人労働課長になった谷野せつさんは、それ以前から、戦前ひどい労働条件の下にあった日本

女性のために、レベルの高い労基法を作ろうとするGHQとともに法案づくりの準備に努力、世界にほとんど例のない生休の規定は、難航の末労基法に組み入れられた。

しかし、以来ずっと生休は、それを女性過保護の典型とする経営者側との争点になっている。労働省の調査では、生休を請求した人は二・八%（昭和四十六年）。総評は合理化が強化されてきた現在、生休二日有給の規定を明示することを要求している。

働く女性の先輩として谷野さんは「完全に男女平等の時代が来たら、女性は、本当に生休を取ったほうがいいかどうか、考える時が来るでしょう。その判断は各個人にまかせればよく、法律から削除する必要はない。むしろ、この規定が何の効果もない時代が早く来てほしい」

(3・7朝日)

産前産後休暇

それに見合う動きも……

労基法では、出産前後各六週間と定めているが、西欧では各八週間の国も多い。人手不足を背景に、条件・環境は改善されていくだろうが、「女性は、問題のある労働力」と見られるおそれもあり、また、改善される処遇に見合った働きを要求されるようになるだろうともいう。

(3・8朝日)

若年定年制性差別的

労働条件の禁止事項を

労基法に

名古屋放送の「女子三十歳定年制」をはじめ、類似の制度を持つ企業は多く、裁判に持ち込まれている例も多い。

男女の従業員が同じ仕事を担当することがあっても、男子は年齢とともに、より高度・複雑な仕事を担当することになるが、女子はいつまでも、比較的単純

賃金差別

かつ定型業務なので、賃金が年功的に上昇するのに対して業務は全く変わらないため、仕事と賃金との間に不均衡が生じ、三十歳ぐらいになるとこの矛盾が拡大される……というのが企業側の論理。女性労働者は、常に男性労働者の「補充的労働者」と見なされている。

また若年定年制ではないが、男女の定年に五十歳の差をつけている企業は極めて多い。

労働省の調査によれば、女性の場合、結婚を定年とする制度または慣行のある事業所は六・四％、出産定年は三・四％、また女子の定年を四十歳未満としているのは一・二％。

総評では、労基法に、性別による労働条件の差別を禁止する条項がないために、これらの差別が堂々と横行していると考え、「禁止条項の明記」を労基法改正の重点の一つとして闘っている。(3・10朝日)

労基法では明確に禁止

丸山美津さん(四九)は、戦時中に東芝機械沼津事業所に入社した。男性が次々と応召するため、会社は必要に迫られて女性を採用、技術者としての養成もした。戦後、男性が復員しはじめると、女性は事務職か男性の補充的な仕事にしか採用されなくなったが、技術者としてがんばった。

ところが、同事業所の昇給協定に「女子従業員は、二十三歳以上には二十二歳を適用する」というただし書きを見つけ、何度か足を運んだ沼津労基署の勧告で、該当する女子従業員約百三十人に、とりあえず過去二年分の男子賃金との差額が精算され、ただし書きも削除された。

山本和子さん(四九)は、昭和二十三年鈴鹿市消防本部に就職したが、賃金差別に気がついたのは四年以上経ってから。四十

七年、津地裁に憲法一四条および労基法四条違反として鈴鹿市を訴えた。

労働省の調査(昭和四十六年)によると、女子の賃金は男子の四九・三％。特に四十歳―四十九歳では四四％と大きく差をつけられる。(3・12朝日)

時間外労働と深夜業

女性同士で意見対立

労基法で女性の残業と深夜業が制限されていることに、賛否両論がある。働く女性の足かせである、と、電電公社高円寺電話局長の影山裕子さんは制限否定論者。

電電公社の場合、影山さんは通信部の係長に一女性を推薦したが、深夜の故障に女性係長がとんで行ったら労基法違反になる、ということでは通らなかつた。これでは、いつになっても視野の広がるポストにつけない。女性も制限をはずすべきだ、と

言う。

これに対して総評の婦人部担当幹事、山本まき子さんは「労基法は最低の基準。この制限をはずしたら、大多数の未組織労働者をもっと悪い条件で働かせることになる」「労働時間が短くなくても賃金の下がらない状態を、そして深夜業などがなくなる社会を」と言う。

看護婦さんの「夜勤闘争」は十年近く続いている。人事院が判定した月八回の夜勤を月六回にし、必要最少限にとどめる、というのが自治労の要求。

本来なら、男女とも夜勤はするべきでない、という点で、どちら側の意見も一致する。

さしあたり、一日の時間外労働を一時間以内とし、深夜業の例外規定をもっと減らすことを目指す総評の山本さんは「最近男性も女性なみにすべきという考えが受け入れられるようになってきたところに、大

きな時間の流れと、労働に対する考え方の変化を感じる」。

(3・13朝日)

『優生保護法改正案』

厚生省、改正案を

無修正で再提出

「経済的理由で中絶するのはダメ」厚生省は優生保護法改正案を今国会に提出することを決め、九日自民党総務部会で了承された。

この法案、昨年の国会にも提案されたが、猛反対に遭い、審議未了のまま廃案となった、いわくつきのもの。早くも「無修正のまま再度改正を図るとは、われわれを無視するのとはなはだしい」との声が高まり、再び激しい論議が交わされそうだ。改正のポイントは、現行法で認められている「経済的理由」による中絶の項を削除すること。

その代わり、胎児が重度の精神・身体障害になる恐れがある場合は中絶を認めるの二点。

(3・10各紙)

再提出に怒り

リブ団体、街頭で反対署名運動

〈中絶禁止法に反対し、ビル

解禁を要求する女性解放連合〉

の榎 美沙子さん(三七)たちは、昨年十二月から街頭署名運動を進め、いま五千人の署名が集まった。「法律でしやるのではなく、中絶を防ぐための条件をととのえ、教育していくことが先決」と、この署名とともに国会に陳情する。(3・14朝日)

中絶禁止よりビル解禁を

〈中ピ連〉の榎 美沙子さん

〈中ピ連〉というのは〈中絶

禁止法に反対し、ビル解禁を要

求する女性解放連合〉の略称。

榎さんひとり、素手で始めた運動だが、いま、会員は二百人。

アメリカではビルが正式に認められて十一年。中国でも七年。

「ビルはホルモンによって疑似妊娠の状態になるので、避妊効果は一〇〇%。日本でも月経困難症や生理不順の薬としては店頭で売られているのだから、副作用を不許可の理由とするのは矛盾している」

「日本では年間二百万人が中絶。大部分が、子どもを二、三人抱えて避妊に失敗した主婦。真剣です」

(4・13毎日)

優生保護法改正案反対

厚生省ヘリブ旋風

十二日朝、霞が関の厚生省前に、優生保護法改正案に反対するウーマンリブ団体の若い女性約三十人がつめかけた。ピンクのヘルメット、ゼッケン姿の数人が、登庁する役人や通行人にビラを配りシュプレヒコール！やがて女性群の代表と山本二郎衛生課長が話し合いを始めた

が、論議がかみ合わない。課長が「約束の三十分が過ぎた」と退室を急ぐと、女性たちはすばやく「実力阻止」。バ声飛びもみあいの中で、大学の「大衆団交」なみの会見になった。

(5・12朝日)

脳性マヒ者協会も

厚相あてに抗議文

重度の身体障害者の集まりである日本脳性マヒ者協会へ青い芝の会は十二日、厚生省を訪れ、「優生保護法改正案は、障害者の生存権を否定するもので許せない」との厚生大臣あての抗議文を、担当の精神衛生課に手渡した。

(5・12朝日)

「中絶禁止は歴史に逆行」

来日のリード女史語る

米国における中絶自由化運動の草わけて人類学者でもあるエブリン・リード女史(六〇)が、日本での婦人団体による優生保

護法改正反対運動を盛り上げるため、このほど来日。十一日夜と十二日午後の二回にわたって開かれた女性グループのティーンで「世界中の女が団結しよう」と共闘を呼びかけた。

今回の法改正について「いまだ中絶をきびしく禁止する法改正なんて、国際的スキヤンダルです。日本が暗黒時代に逆戻りしようとすることに、ほんとに驚いた」と、鋭く批判。

(5・14朝日)

中絶自由化への闘いを

エブリン・リードさん語る

アメリカのへ全米女性堕胎行動連合会(WONNAC)の創立者の一人で、中絶禁止反対運動の先頭に立って闘ってきたエブリン・リードさんを迎えて、十二日夜「アメリカの女性解放闘争を聞く」集会在、東京・品川で三百人余りの男女を集めて開かれた。この集会でリードさ

んは、アメリカで中絶の合法化を勝ち取った経過とその社会的な意味などを、二時間にわたって次のように語った。

「堕胎の権利というスローガンは一九六八年、リブの波が起ると同時にへ全米女性機構」(NOW)が最初に考え出した。保守的な世論の第一の突破口は一九七〇年、ニューヨーク州でロックフェラー知事が、州内での堕胎の自由を認めたこと。この運動を進める統一団体として一九七一年、WONNACの事務所を開設し、あらゆる運動を行なって勝利へつなげていった。

自分の体を自分が管理することによって、女性自らを啓発し、社会的にも文化的にも自立して生きることにつながる。だからこそ同時に ① 国営の育児センター設立 ② 男女の賃金格差の解消 ③ 妊娠から出産までの費用の保障 ④ 男女平等をう

たう憲法修正の批准獲得などの運動を進めているのだ」

(5・15朝日)

優生保護法改正の

意図と問題点

優生保護法改悪阻止に、主婦団体からリブ・グループまで、女性たちが共同戦線を張ったのは、中絶禁止で一番困るのは女性だから。年間の中絶数は、出生数に近い二、三百万、一般の主婦にとって切実な問題なのだ。もう一方の反対勢力は家族計画関係者。「望まれない子の出産は、かえって社会問題を引き起こす。中絶を減らすにはピルや避妊具の普及のほうが先決。それに、世界中が人口を減らすとするとき、日本だけが増加策かと疑われる」

また障害者の団体は「障害者差別につながる」と抗議。総反撃の中で、政府が再上程を強行したのはなぜか。直接的

には、宗教団体へ「生長の家」と結びつき、来年の参院選でその票をアテにする一部自民党議員が動いたからだと言われ、自民党内にも反対の空気は強い。

各国の中絶法制を厳しいいほうから緩いほうへ分けると、

① 全面禁止 ② ス페인、アイランド、フィリピン等。母体の生命が危険でも許されない。

② 医学的理由のみ認める ③ フランス、西ドイツ、アルゼンチン、パキスタン等。母体の生命または健康を守る場合に限る。

③ 医学的理由に生活状況なども加味して認める ④ 日本、北欧、イギリス、インド等。

④ 社会的理由だけでよい ⑤ 東欧、フィンランド、シンガポール等。

⑤ 妊婦の意思だけでよい ⑥ ソ連、中国、ハンガリー、最近の米国等。

以上のうち③④⑤のグループは「中絶自由化の国」と言える。

わが国がもし法改正をするよ

うなことがあれば、最も厳しいカトリック国でさえ中絶規制の緩和が政治問題化し、世界的に自由化が急速に進んでいる趨勢の中で、現在③または④のグループに属する日本が②に逆戻りすることになる。

米国では最高裁が今年一月、「中絶禁止の州法は憲法違反」という歴史的判決を下し、一挙に中絶が最も自由な⑤のグループに入った。中絶是非論は、宗教的、道徳的、哲学的な立場に立って多様化し、コンセンサスが得られない状況なので個人の選択にゆだねざるを得ず、一方的に法律を押しつけるのは、個人の基本的権利の侵害だと判断したのである。

中絶については、法と道徳論を切り離す時代に入りつつある。優生保護法論議は、国民、特に女性の手に取り戻すべきである。(松井やより記者 5・15朝日)

優生保護法改正案をめぐる

この法律は昭和二十三年、戦時中の「国民優生法」を基に制定された。二十四年、貧困や食糧難などの社会的要求から「経済的理由」による中絶をつけ加えた。経済的理由による中絶は年間二百万件以上と推定される。

宗教団体へ「生長の家」等は、この法律が中絶を増やし、母体の危機、生命の軽視、性道徳の乱れを招いている、と改正案に火をつけた。四十四年、厚生省の人口問題審議会は「出生率を回復しないと、労働力がますます不足する」と中間答申、産業界の要請も加わって、改正案の動きが具体化してきた。

しかし改正案をめぐる、婦人団体から学者まで批判の声が強く、大論議を巻き起こしている。

◆ 婦人団体「母体保護に名をかりた国家の母体管理」と反発。総評婦人部長山本まき子さんは「産む産まないは個人の基本的

権利。生活水準が向上したから経済的理由を削るというが、低賃金、物価高、住宅難、保育所不足などの現実的な環境を無視している。法改正よりも、それらへの対策を今すぐ……」

二十二の婦人団体で作っている「優生保護法改悪阻止実行委員会」や「婦人有権者同盟」ほか七団体は、厚生省への申し入れや抗議、デモ、集会等を。

◆ 障害者団体脳性マヒ者の団体「青い芝」は「生産に役立たない障害者を胎児のうちにまっ殺しようとする改正案は、障害者の差別・まっ殺につながる」と強く批判。

◆ 日本家族計画連盟(古屋芳雄会長)は「国民生活は無視」と、反対声明。理由は ①中絶の最大の動機は経済的理由。これを削るべきでない ②改正されればヤミ中絶に頼り、費用が上がる ③望まれない子が増えて社会問題になる ④基本的人

権である出産に政治権力が介入するおそれがある ⑤中絶を減らすには、徹底した母子保護、家族計画の普及・指導が必要。

◆ 学者たち主として人口問題の視点から「生活環境は限界。人口の抑制こそ課題」と、厚生省に意見書を送るなど、積極的に論争の渦に飛び込んでいる。

国立遺伝学研究所の松永部長は「日本は出生率が減ったが死亡率も下がり、毎年百万人以上人口が増え続けている。早急に必要な人口増加抑制策に逆行する法改正は疑問」と意見書。

公衆衛生院の村松部長は、日本人口学会のシンポジウム「人口静止をめぐる諸問題」で「今後の人口増加は危機を招く要因となる」と問題提起。日本の生態系はすでに極限の状態であること、また、日本が意図的に人口増強策をとるように見えると、他国に侵略の不安を抱かせるおそれがあり、人口増加はできる

だけ抑える必要がある、という。

また、慶応大学の飯塚教授は、法改正以前に打つ手があるはずとして、ピルやIUDについて考え直す必要を指摘。

国際家族計画連盟西太平洋地域事務局長の片桐さんも「国際会議のたびに日本は再び人口を増強して侵略するのではと、疑いの目で見られ、ピルやIUDなど有効な手段が許可されていないことを、その証拠とされる。世界的な時代の流れに逆らう改正は、日本を孤立させる」と。

中絶の自由化は世界的な課題として、緩和の方向に進んでいる。アメリカの最高裁は、一月、「中絶禁止の州法は憲法違反である」と判決を下した。中絶を女性のプライバシーの権利とする運動のリーダー、全米墮胎行動連盟のエブリン・リードさんも過日来日して「カソリック教国でさえ、中絶について世論が揺れ、フランス政府は五月、五

十二年も続いた「墮胎禁止法」の改正を約束した。

日本が世界の流れに逆行するのは、再び暗黒時代に返そうとする動き。婦人運動の中から、この問題にマトをしぼって闘う組織を作っていく必要がある」

(5・26―28毎日)

優生保護法

改悪を阻止する全国集会

この五月国会に再上程された優生保護法改正案は、幅広い層の反対運動の中で、今国会では審議未了のまま廃案になりそうな公算も強まっている。あくまでも改正案そのものを永遠に葬ろうと、二十八婦人団体から成る「優生保護法改悪阻止実行委員会」が、六月三十日、七月一日の両日、「産める社会を、産みたい社会を優生保護法改悪を阻止する全国集会」を開いて全国に呼びかけた。

最も多くの参加者が関心を

持ったのは「墮胎罪・優生保護法を通しての女の生Ⅱ性を考える部会」で、反対運動を通して叫ばれ続けた「産む産まぬは女の権利」を改めて問い直すことに。時には怒号もまじり熱気あふれる集会だった。(7・2朝日)

「育児休業制」

有給の育児休暇がほしい！

女教師の声

一九七一年現在、女教員のうち既婚者は七四%を占め、育児休暇法案が再び脚光を浴びている。

「有給」でぜひ法制化を、と、現場教師のねがいは切実。

(4・13朝日)

一年間の育児休業制の普及を

労働省 第一次報告

「勤労婦人福祉法」の育児休業努力要請を具体化するため労

働省は「育児休業に関する研究会議(西 清子座長)」と「母性の健康管理に関する専門家会議(古谷 博座長)」の二つの会議を設けて調査研究を続けていたが、十日、第一次報告が提出された。

前者は「育児休業は出産後一年間が適当」「一年以上になるとカンが鈍り、技能が遅れる」「休業中の生活安定のため公的な資金の貸し付けなど経済援助を確立する一方、企業に対して

も助成措置を検討すべき」など。後者は、妊娠中および出産後の婦人の ①健診時間確保 ②勤務時間変更 ③時間外・深夜労働制限 ④必要に応じ、補食時間・休憩時間を設ける、などの企業指導が必要だと報告。

労働省では二つの報告をもとに、各地の婦人少年室を通じ、育児休業制が普及するよう、行政指導していく方針。

(9・11読売/朝日ほか)

育児休業を考える

無給の現状に不安

十五日から始まった「働く婦人の福祉運動旬間」中の催しの一つとして、婦人職場指導者セミナーが、このほど東京・芝の中退金ビルで開催され、勤労婦人福祉法に盛り込まれている育

児休業などを中心に、話し合いが行なわれた。主催の育児休業

を実施している伊勢丹デパートと電電公社、組合側から総評と同盟などの人たちが出席、働いている女性約九十人と意見の交換をした。(9・23朝日)

調査・統計

現代っ子は「非社会派」

東京都の調査から

二十三日発表された東京都のアンケート調査「青少年の社会性の発達」によれば、いまの子どもたちは、家庭や学校など周囲の環境に同調しない「非社会的」(無関心、逃避的、うちとけないなど)傾向が強いという。特に「カカァ天下」の家庭の男の子と、「夫は夫、妻は妻」と

いった分業型の家庭の女の子とに「非社会性」が強く、子どものはうは親をけむたく思っているのに、親のはうは「うちとけてくれている」と甘い見方をしている。

調査の対象は、都内の小学校三校(五年生)、中学校二校(二年生)、高校三校(二年生)の児童・生徒計一、二二六人とその母親。(1・24朝日)

「捨て子」の

「原因」と「年度別推移」

東京・品川児童相談所が二十六年度―四十五年度の二十年間に扱った捨て子の調査によると、捨てた原因は、

(1)保護者不在(生別・死別)

36・5%

(2)貧困

19・7%

(3)夫婦不和

12・4%

次いで、酒ぐせなど「素行不良」「内縁関係のため」「未婚のため」など。

また、東京都中央児童相談所の調査による「年度別推移」は、

43年度 一一三人

44年度 一〇八人

45年度 六七人

46年度 七七人

47年度(48年1月現在)

一〇二人

(2・16朝日)

た家出人は、男四、四七七人、女四、五三三人。

警視庁は家出人の早期発見のため、写真入りポスター五千枚をつくり、都内に掲示することとした。

これまでは家族が自費でつくって配布していたが、全国で初めて、警察の予算でつくり、配布する。(3・10朝日)

「婦人の日」を前に

政府が意識調査

女性から見れば、男女はまだまだ不平等。六割が「差別を感じている」が、女性の多くは、自立できる体制づくりを望んでいるのだ。

政治に対しては、物価対策、保育所等の施設の整備などを望んでいるが、その割には、政治や経済、社会問題についての関心が薄く、結婚や家庭、身の周りのことなどに関心が強い。

「家出人」初めて女性上位に
東京で昨年搜索願いの出され

(4・9朝日)

性の自由化進みそう

しかし「好ましくない」

総理府広報室が「風俗・性に関する世論調査」の結果を三十日発表した。それによると、過半数が自由化を予測してはいるものの、性表現が露骨になる傾向やフリーセックス賛成論が増えることに對しては「好ましくない」が七割以上。

また、三六%以上が婚約者同士のセックスを肯定しているが、配偶者以外とのセックスや完全なフリーセックスを認める人は共に五%前後。

テレビなどでの性表現は、国民の五五%が「多すぎる」。主なものは、大衆娯楽週刊誌(二二%)、女性週刊誌(一三%)、テレビドラマ(一二%)、ワイド番組(八%)など。(8・31朝日)

離婚の申し立ては女性が七割

前橋家裁が調査

群馬県内の四十七年度の離婚

総数は一四一七件。十年前のおよそ二・五倍に増えていることが、前橋家裁の調べでわかった。最近では「第三者に入ってもらわなければ、夫の身勝手な主張を押しつけられそうで」と、あえて調停に持ち込むケースが増え、女性側からの申し立てが七割を占めている。

離婚の危機が訪れるのは、結婚後一年から四年までが最も多く、年齢的には夫婦とも三十歳代。離婚成立の場合、子どもの九割までを妻が引き取っている。

動機としては、夫の「浮気」「暴力」の二項目で七二%。財産分与や慰謝料は五十万円どまり。五万円以下の安い慰謝料で離婚してゆく妻が二割にのぼっている。(9・3上毛)

百歳以上は全部女性

神奈川県

神奈川県民生部の調べでは、

県内で百歳を超えた人は十二人。

全員が女性で、最高は百三歳の金子イチさん。

なお、六十五歳以上の老人のうち「寝たきり老人」は五、七三六人、「ひとり暮らし」は六、七五五人もあり、福祉が叫ばれている中で、依然「孤独」を余儀なくされている人が多い。

(9・15朝日/神奈川)

働く若者の性意識調査

「婚前交渉」で男女に差

労働省学習センターが、若い労働者の性意識に関する調査をまとめた。対象は電機や自動車労連、流通部門など、十一組合に所属する二十九歳までの独身男女四、三三一人。

そのうち「婚前交渉についてどう思うか」には、男性が「結婚にはセックスが大事なので賛成」が四七%、「いまの世の中では女性が損する」は一三・五%。これに對して女性は対照的に「賛成」は一二・三%、「損する」が三四・七%と出た。

フリーセックスについては、

「愛情に基づくものであれば自由」という支持派が、男六三・六%、女四五・八%と、ともにトップ。しかし「性の自由と放縦は混同できない」が四割近くでこれに続いている。

その他、男女の差がはっきり出たのは、現代の売春問題と言われるトルコぶろやモデルなどの問題。男性の四二%が認めるのに對して、女性は一二・八%だった。(10・30朝日)

老後年金式の生存保険

女性のほうが重い料金

昭和四十一・四十五年の生保の加入件数から見た男女比は、男七七%、女二三%。戦前は、女はほとんどゼロだったというから、飛躍的数字。女の実力が向上した証拠とも言える。

ところで「女性に限り全部三歳引き」をうたって売り込んで

いるのは、外資系の生保会社。

死亡率が料金算定の基礎になるから、長生きする女性が男性と同じでは不公平というのがある理由。アメリカでは十五年前から常識になっているという。日本でも三社がこの方式になった。

しかし逆に、老後年金の受けられる生存保険では、平均寿命が、女性七十五・二歳、男性七十・四歳（厚生省四十七年度統計）ですからと、チャッカリ五歳分高く料金をとっている。

この不公平に、女性は気がついていない。（12・3朝日）

〔労働〕

三十代の職業婦人は減る？

労相の私的諮問機関「労働者生活ビジョン懇談会」は一九八〇年代の労働情勢、労働者の生活・労働問題はどうかについて予測・調査し、結果を五日

発表した。

婦人の職場進出については、結婚初期の二十歳代後半や子どもがある程度成長した四十歳代の婦人の職場進出は増えるが、育児期、子どもの教育期に当たる三十歳代では現在よりやや減る。（1・6朝日）

「定年まで勤める意志」は

男八・六％、女〇・二％

東海銀行経営相談所が東京・大阪・名古屋で、同行の取引先企業百七十社を選び、四十八年度入社男女七百七十九人を対象に「新入社員の意識調査」のアンケートを行った。

それによると、新入社員の六〇％が会社に対して何らかの不満を持ち、その理由は「給料が安い」二二・五％、「休日や休暇が少ない」二二・七％。

会社に対する考え方は「収入を得る所」三五％、「自分を成長させる所」三四・四％、「自

分の能力を生かす所」二二・三％など。（1・25朝日）

家事労働の値段

NNW（総国民福祉）の試算から

六兆三千八百一億円昭和四十五年の全国の主婦の家事労働をお金で評価すると、こんなとてもない額になるという。一人当たり一週間の主婦業代は約九千円。この数字を女房族は喜ぶべきか、がっかりすべきか。（1・31日経）

職場の花か、戦力か、

女子社員の職業観と生活

ある会社が、このほど発表した社内未婚女子社員のアンケートによると、その六一％が現在の仕事について「満足でも不満足でもない」と答え、会社が自分の能力を十分に活用しているかどうかについても、六七％が「わからない」と述べている。女子社員の半数以上が仕事の

「ぬるま湯」につかっているということなのか。（2・13サンケイ）

働いていても

農村では婦人の地位が低い

農村の主婦の八二％が会社勤めを含めて働いているのに、家庭の中での役割や地位の点では、団地の主婦のほうが上、という結果が、労働省の「婦人の地位に関する実態調査」で明らかに。

家計費は、団地では九七％以上が妻の管理であるが、農村では六六％。結婚を当事者二人で決めた人は、団地では七八％、農村では三三％。（5・9朝日）

働く主婦が急増

総理府「労働力調査」

総理府統計局の、四十八年上半期の労働力調査結果発表によると、労働力人口（十五歳以上の就業者と、働く意志を持ちながら就業していない者の合計）

は景気拡大による労働需給ひっ迫により、大幅に増加。

中でも、主婦など中高年の女子労働力の増加が著しい。増加率を年齢別に見ると、二十五—二十九歳が一三%、四十—四十五歳が四・九%、五十五—六十四歳が四・七%。(8・16毎日)

内職、若い世代が圧倒的

群馬県職安が調査

時間に拘束されるパートより家庭にいて臨機応変の処置がとれる内職は、特に幼児のいる家庭では、主婦業との「両立」策として受け入れられている。

昨年度、群馬県内の職安で扱った相談件数は約一万五千件、うち女子の内職希望者は一万一、八九一人。年齢層は、二十代が四二%、三十代が三三%と、若い層がほとんど。多額の収入を期待せず、あくまで家庭第一の堅実型が多い。

内職希望の理由は「自分の小

遣いに」が三四%「家計の特別支出(レジャーなど)のため」が二四%で、「収入不足の補い」は一七%。(10・23上毛)

クック女史の

日本の働く婦人調査

アメリカの婦人労働問題専門家アリス・H・クック女史(七〇)は、働く女性について世界

七か国の事情を調査してきたが、日本でも二か月の調査を終え、

「日本の特徴は日本独特の年功序列型の会社組織と強く結びついている」と感想をもらした。

男女の雇用が完全に二重構造組織の日本では、女性は最初から生涯働くことは期待されず、女性に管理職への道が閉ざされていることも密接に関係。

一方、出産・育児のため一度家庭にひっこんだ女性が、これほど再就職しにくい国もない。

各国とも、学歴が高くなるほど勤め続ける人が多いのに、日

本だけが、大卒女子も二、三年で辞めるのが一般的だという不思議は、二か月では解けなかったという。

なお、日本で比較的勤続年数が長いのは、政府機関で働く人と、先生、電電公社で働く人などと報告。(11・3朝日)

四十七年度就職

女性が男性を上回る

労働省の雇用動向調査によると、就職者四百十四万人中、女性はい百八万人で、初めて男性を七万人上回った。

しかし常用は前年より一割近く減っており、臨時・日雇いが七・八%増えている。

一年以上無職で新たに就職した九十六万人のうち、女性が七十四万人を占め、四十五歳以上の中高年婦人層の職場進出が著しい。パートタイムは十三万人(前年比九・五%増)で、中・高年婦人の増え方が、一年前の六

倍近くになっている。

(11・4朝日)

進出企業は「男尊女卑」

熊本県が調査

熊本県労政課の県内立地企業実態調査によると、進出企業に就職した中・高卒男性の初任給は県平均を二千五百—七千三百円も上回るが、女性については、逆に県平均より七百—千四百円低い。

男女を合わせた中・高卒の初任給について見ると、進出企業のはうが県平均より千三百—三千七百円上回っている。五年前には二百—千二百円だったから、県平均との格差は開いてきていると言える。

ところが女性については、これが当てはまらない。中卒女性の場合、今年三月の県平均三万三千元に対して、進出企業は三万二千元。高卒の場合、県平均三万七千七百円に対して、進出

企業は三万七千円。

これについて、県は「女子雇用型は従業員百人以下の中小企業に多い。そういうところは、労働組合も結成されていないケースがかなりあるため、賃金が高くなる傾向がある」と説明している。
(11・14熊日)

〔くりし〕

店の推薦が首位

主婦たちの購買動機調査

「私たちはどんな動機で商品を買っているか」横浜市内の主婦たちで構成する「横浜コンシューマーズクラブ」は、食品や化粧品など六種類について実施した調査結果を、このほどまとめた。
(1・11朝日)

高福祉望むが高負担はイヤ

個人主義強い生活意識

国民生活センターが二日、全

国の主婦六千人の生活意識調査をまとめ、発表した。

公共施設や社会保障制度の充実を望む声が強いが、反面、近所づきあいや町内会や自治会など、地域集会への参加はほとんど、という調査結果。
(4・3毎日)

消費者運動―

効果は認めるが参加しない
全体の六割が「運動の効果はある」と認めるが、参加意欲は乏しいという、総理府の「消費者問題に関する世論調査」の結果が出た。

今後積極的な推進を望むのは、「生産地からの直接販売」「安全食品の普及」「商品テスト」「共同購入」
(5・3朝日)

収入も住宅も老後に不安

独身中高年婦人の実態

都内に十三万七千人もいる四十歳から五十四歳で、子どもが



いない独身中高年婦人について東京都婦人部が調査。戦争のために婚期を逸したり夫と死別した「戦争犠牲者」世代の婦人たちは、戦後二十八年経った今も、生活の不安におびえている。ひとり暮らし婦人の高齢化が進む中で、都も早急に対策を図ることにした。
(5・9朝日)

情報消費量は女性が上位
郵便・電話・テレビ・新聞・雑誌など、各種情報メディアによる情報の消費量は、圧倒的に女性が多い、という郵政省の調査結果が出た。

たとえば、一日当たりの「電話」は、男が六分、女が八・五分、「テレビ」は、男が八六・二分、女が三一七・九分という

具合。

年齢別では十代から三十代が圧倒的に多い。(5・11朝日)

三十五歳、女がひと思つくとき
女の三十五歳は、一番意欲に満ちているとき。三十代・五十代の主婦五百五十人を対象に行なったアイデアバンクの調査で浮かび上がった。

「何かしなくちゃ」と思い、身だしなみやおしゃれにも心が向く。だが、主婦が「母性」を最後の切り札にし、その夫のほうでは「オレが食わせている」を切り札にして攻防戦をする限り、この世代の主婦の大切なエネルギーは、パートという形で企業に利用されかねない。

「今後の四十年間を自分自身として生きるためには、母性をふつくり、個性的で創造的な仕事にエネルギーを注いでゆくことが大切」と、立教大学の室教授は警告。
(11・6朝日)

保育・教育

〔保育所・幼稚園〕

実質的にはゼロ・アップ

保育所予算

「福祉」が叫ばれている中で、保育所の予算は今年もみじめ。人件費、運営費など国が八割を負担する保育所の措置費は、前年の六五九億円から八一三億円に増加したが、物価や人件費の値上がりを見ると、実質的には大差ない。保育所建設費もそれほど見込みはなさそう。

働く母親のためのゼロ歳児保育は、厚生省が現在の定員八百人をせめて三千人にと要求していたのに、千八百人への増員が

認められただけ。(1・17朝日)

保育所…もう待てません

東京・公団高島平団地

入居が始まって以来は一年になる板橋区の公団高島平団地では、高物価・高家賃と相まって、保育所問題はいよいよ深刻化。これを何とか打開しようと、同団地自治会は団地の集会所を公団から借り、臨時の私設共同保育所へともしびへを、二月一日開設することにした。

(1・21毎日)

保育行政の立ち遅れを追及

第三回無認可保育所全国集会

二月四、五の両日、東京で開かれた集会に、全国二十の都道

府県から保母や父母約三百人が参加、五つの分科会に分かれて話し合った。

保母不足の無認可保育所で子どもを死なせた母親の訴えなど、保育行政の立ちおくれを追及する声が多かった。

(2・7朝日/2・8毎日)

ゼロ歳児の家庭保育制度

草加でスタート

埼玉県草加市は四月から、ゼロ歳児保育を広げるため家庭保育制度をスタートさせる。

これまで十二の保育所のうち、ゼロ歳児は二か所・十八人しか預かっていなかったが、新年度からは保育所を二つ増やし、ゼロ歳児を新たに二十四人受け入れるほか、共働き夫婦の要望に応え、一般家庭でも預かるようにする。

受け入れ希望の家庭を登録し、あずける人から一万二千円を限度に、収入に応じた保育料を取

り、市が一人六千円の補助をするという。預かる時間は八時半―十八時。

(2・28朝日)

個人保育続けて十一年

頼りにされる元看護婦さん

東京・杉並区の主婦神谷すみ子さん(四二)は、ゼロ歳児保育所がなくて困りはてた人たちに頼まれて、個人保育をつづけてきた。

乳児なら一人しか預からないが、近くの小児科医とコンビを組み、子どもの病気も早めに見つける、頼りになる保育ママ。同窓会が開かれて、十一人の子どもたちと親が集まった。今でもみんなが育児コンサルタントとして頼りにしているという。

(3・11朝日)

家庭内保育所の

ネットワークづくりを

核家族時代の若いママの悩みは、何かというとき、子どもた

ちの面倒を見てもらえる人手がないこと。そこで目黒区の名木純子さん(三四)は、核家族の助け合い運動ともいふべき家庭内保育所のネットワークづくりを思いつき、自宅で実験中。最初このプランを立てるとき認可の保育所なども見学し、いろいろな点で、ふつうの家庭で自分の子どもと同じように世話をするのが一番良いという結論に達し、これからは積極的にR家庭(子どもを預かってくれる家)を開拓していくつもりという。

R家庭の条件としては ①保育者は主婦で、子どもが二人以上あること ②住居は一戸建てか、高層ならば一、二階 ③育児に熱意があり、家族が健康で、ご主人の同意があること ④電話があること。(9・10読売)

「家庭保育室」厚生省案

無認可保育所を指定
婦人の職業が多様化し、また、

公立の保育所が慢性的に不足しているため、夜間保育や長時間保育など、小規模な保育所がますます必要になってきた。

このような事情を反映して、現在、無認可保育所が急増し、全国に二千四百か所以上もある。厚生省は、これらを認知して、事実上、無認可保育所を解消するため「家庭保育室」構想を打ち出した。これは、幼児六人程度を預かっている無認可保育所を「家庭保育室」に指定、国や県・市が補助するとともに「家庭保育室」を正規の保育所に結びつけてネットしようという構想で、四十九年度中に実施の方針である。(9・20朝日)

夜も保育する幼稚園

— 中国の記録映画完成

がつしりした家具が目につく
簡素で清潔な住まい。赤ちゃんを抱いた母親は優先的に乗車できる通勤バス。大学教授の夫よ

りも高給をもらう妻は工場労働者……。

中国の人々の生活を写した短編記録映画「私のお母さんは労働者」(カラー約四十五分)が十月完成、婦人団体などに貸し出される。問い合わせは東京都千代田区神田錦町三の二六 神田中央ビル内中国通信社。

(9・27読売)

ほふく室完備の乳児保育所

熊本市が開設

乳児保育施設が欲しい、という、働く婦人の要求に応えるため、熊本市は、近く市立乳児保育所を開設する。

保育児三人に保育さん一人。

保育時間は午前八時半から午後五時まで。働く母親の出退時に合わせて、前後一時間から一時間半ほど延ばして便宜を図る。

同市では、就学前児童のいる家庭の一六・五％に要保育児童がおり、これらの家庭の九七・

四％の母親が働いている。乳幼児専門の保育所は、現在二つだけ。あとは無認可保育所が若干あるのみ。(9・30熊日)

献身が支える無認可保育所
わが子の通う無認可保育所で、事実上保育が困難となった。これは、同じく働く女性として考えねばならない問題である。

これまで無認可保育所は、子どもが好きだ、女性にふさわしい、と理想にもえて保育所を職場に選んだ女性の「献身」に支えられてきた。保育さんたちは腰痛に耐え、コルセットをして早番・おそ番の超過勤務、低い給料、想像を絶する過酷な労働条件で無認可保育所を支えてきた。正当な要求を満たそうとするなら、無認可保育所は分解してしまう。(10・26朝日)

幼稚園—費用は大学なみ

ある幼稚園の入園料が去年は

二万円だったが今年は三万円。

何と一年に五〇%、一万円も増えている。その他、手数料・保育料などを加えたら、たいへんな増え方である。大学なみの園費を払って、果たして何が得られるのか。園児四十人に対して先生一人のすし詰め教室。六百人近くのあるマンモス幼稚園では、園庭遊びも交替制で。

そこである主婦は一大決心をし、子どもを入園させず自分身で教育することにしたそうだ。いろいろ問題も出ると思うが、がんばって続けていってもらいたいものだ。(10・27朝日)

「乳児期は保育所より家庭で」
中央児童福祉審議会が中間答申
厚相の諮問機関である同審議会は十七日、「当面推進すべき児童福祉対策について」中間答申をまとめた。

保育所問題では「心身の健全な発達のためには、乳児期の育

児は両親のもとで行なうのが望ましい」と強調、「そのための保障と対策が必要」としている。

保育方法としては、社会的な適応力を養うため、年齢の違う子どもをいっしょに育てる「混合保育」への切り替えを提案。

また、保育所不足の大都市では無認可保育所のうち五、六人を預かる小さなものを「家庭保育室」として認可し、助成を図る必要があると指摘している。

(11・18読売)

*

「中児審答申」に疑問

中央児童福祉審議会が「当面推進すべき児童福祉対策について」という中間答申をまとめた。

「家庭保育の重要性は改めて強調されなければならない」とか「母親が家庭において乳児を保育できるように保障するため、母親の労働面を改善する施策の急速な具体化」など、理想だけを追って現実を無視したような

答申には、働く母親の反発を呼びそうな表現があちこちに現れる。

勤労婦人福祉法でさえザル法と言われる現状で、労働面の改善を説くのは、気休め、言い逃れとしか響かない。

(宮下敏彦) (12・3朝日)

*

ふやせ保育所

母親には保障を

〈中児審〉が家庭保育の重要性を改めて強調したが、婦人の職場進出、核家族化、住宅難、集団教育など、保育の需要は多様化している。

現代モーレッツ社員の父親が子どもと接触している時間は平均十八秒。そんな家庭でも、家庭のほうがいよと言えるのか。
(一番ヶ瀬康子) (12・12読売)

四十万児分の保育所不足

認可保育所は全国で一万六二二六(うち私立は六〇六〇)、

保育児は一四五万八三二一人、

(うち私立五三万七三一人)、
保母は九万一二三八人(以上、厚生省 四十八年五月一日調べ)。

共働きはこの十年間に三倍に急増、現状では、保育に欠ける子どもが四十万人もいるものと推定される。また、運よく保育所に預けることができて、保育時間や施設の状態など、問題は大きい。特に産休明けの入園は、依然として困難である。
(12・2読売)

〔育児〕

障害児に適切な教育が必要

現状では多い在宅放置
心身障害のために幼稚園や保育所に入らず、学齢に達しても「就学猶予」になっている子どもがかなり多い。このため「心身障害の幼児にも保育の場を」という動きが高まっている。

一方、障害児を受け入れて
る施設では、療育の人手も設備
もなく、手さぐりの努力を強い
られている。(1・10毎日)

子どもの能力

伸びるも縮むも母親しだい
東京こども教育センターが昨
年一年間、二歳から五歳までの
子ども六百人に接触した実践記
録によると、子どもの体力・能
力が劣るのは、ほとんどお母さ
んの責任。母親の過保護が子ど
もたちの能力や根気の差を生み
出すという。

少なくとも二歳になったら、
自分の身の回りのことは自分で
させ、辛抱強く見守って、自分
でする意志を育てるべきではな
いか。(1・19サンケイ)



赤ちゃんはあおむけに――

うつ伏せすると、みにくくなる
赤ちゃんを寝かせるとき「う
つ伏せ」にするか「あおむけ」
にするかが話題を呼んでいるが、
欧米でも必ずしも「うつ伏せ」
一辺倒ではない。

米国のハル・ハギンス博士は
その講演で、「うつ伏せに寝か
せていると、鼻まがりや、そっ
歯・乱ぐい歯の原因になること
もある」と警告。背骨が真っ直
ぐになるよう「あおむけ」に、
とすすめている。

(2・2サンケイ)

〇歳―二歳児の家庭教育

横浜市が相談引き受け

活字や電波を通じて育児の知
識は豊富に仕入れながら、實際
の育児には手をやいている母親
のために、横浜市は十六日から
西区の市婦人会館内に「横浜市
乳幼児家庭教育センター」を開
設する。(7・7朝日)

情報過多で育児に悩む若いママ

三歳児を第二子に持つ母親五万
九千名を対象に、神奈川県社会
教育課が「悩み」を調査した結果、
母親たちに最も関心があったの
は「食事」で、「好き嫌いがある」
「足りない」など。次が「泣き虫」
「むし歯」「友達」「反抗的」など。
また、一般にどの程度のこと
を子どもに要求してよいのか、
育児書どおりにならないことに
不安がる姿が見られた。

(8・16朝日)

母乳で育児を

―育児の絶対条件として

わが子を母乳で育てる運動が
アメリカで広まり、あちこちの
国でも母乳育児が見直されて話
題になっている。

わが国では、母乳育児はたっ
たの三割だが、厚生省の最近の
疫学調査によると、人工栄養児
は、母乳児の二倍も赤ちゃんの
突然死がある。群馬大学医学部

の松村竜雄教授は、子どもの病
気とアレルギーの立場から、育
児の絶対条件として母乳主義を
力説する。(8・21朝日)

母乳ぎらいの母親たち

いまの若い母親たちは、子ど
もを母乳で育てることがきらい、
と言われているが、それを裏づ
ける調査結果が出た。先の日本
小児学会東海地方会で愛知医大
の久徳教授が発表した一万五千
人の母親のアンケート回答で
「人工栄養で育てたい」三九％
に対して「母乳で」は、わずか
二三％だった。(9・13朝日)

「赤ちゃん一〇番」盛況

女性ばかりで経営するヘタイ
ヤル・サービス(東京・赤坂)の
「赤ちゃん一〇番」が三周
年を迎えた。

電話を利用しての、この「二
十四時間秘書」は、専門知識を
持つ先輩母親十二人が答える育

児相談で、日本で初めての試みだが大盛況。自信喪失のママから種痘禍やPCB汚染などへの不安、医療への不満など、全国約二万の声が受話器から流れてくる。

(9・16朝日)

育児書はらんらん

母親こらんらん

つい数年前まで、新しい母親に小児科医がすすめる育児書は『スポック博士の育児書』と相場が決まっていたが、こらん、二年、一冊だけではどうも不安という層がぐんと増え、育児書ブームの中で、若い父母を戸惑わせている。

『ニューヨーク タイムス』

紙によると、過去一年間に、または近く出版の育児書は二十五冊以上もある。著者の職業も心理学者・精神分析医・小児科医・栄養学者・哲学者・自然食主義者とさまざま。

(9・30朝日)

【教育】

授業参観が減った！

「うるさい母親」を敬遠？

東京都内のある小学校は、二か月に一回あった授業参観を年三回に。「いまの先生は雑務に忙しく、その合間に授業をやっているような状況。恥さらしの場になるのがいやで……」と教頭先生。

しかし、本当は「うるさい母親」を敬遠して、というところか。

(6・12朝日)

性教育、悩みの教師たち

学校の方針を出せず

日本性教育協会主催の第三回性教育夏季セミナーが六日から八日まで京都で開かれた。

約六百人の参加者のほとんどは全国の小・中・高校の教師たち。ほぼ共通する現実の悩みは

①性教育に積極的な教師が少なく、孤立している場合が多いこと ②何を何年で教えるか、教師間で一致しないこと ③保健や理科など各教科との関連が難しいこと ④家庭との協力がうまくいかないこと ⑤性教育の方向がつかめないこと ⑥性差別の問題など。

性教育は不当な男女差別をなくし、個人の価値を引き出すものであること、などを確認した。

(8・10朝日)

教師と率直に話し合いたい

母親たちの願い

これまで学校は「教育のことは学校におまかせ下さい」と言ってきたが、親たちの学校への批判の目も鋭くなり、子どもの成績が悪いのは教科書が悪いのかもしれない、教え方が間違っているのかもしれない、と疑ってみる母親も出てきた。

自分の子どもがよくするため

には日本中の子どもがよくならねばならない。そのためにはどうしたらよいか、と考える母親が出てきたことは、喜んでいることだと思う。

八月に、さまざまな教育の会合に出席したが、母親たちの共通の願いは、教師とザックバラに話し合いたいということである。

しかし「先生は完全無欠でなければならぬ」という考え方がそれを妨げている。人間に完全無欠を要求するのは、人間でなくなれと要求するようなもので、これでは本当の話し合いができない。この辺から改めていこうではないか、ということになった。

(遠山 啓)

(9・3朝日)



テスト主義に反対通らず?

女教師自殺

十二月十八日午後九時近く、千葉市稲毛浅間神社境内で、灯油を浴びて焼身自殺している女性が見つかった。同市立千草台小学校教諭葛岡肇子さん(二五)。

夫の芳夫さん(会社員)の話では、葛岡さんは四年生の担任だが、この春転任以来「四年生ぐらいのうちは勉強も大切だが、よく遊び、からだを鍛えることのほうが先だ」とテスト主義を否定する方針を貫いていたため、「勉強がおくれ、よその生徒に負ける」と父兄から十日前にもつるし上げられ、「学校を辞めたい」と訴えていたという。(12・19読売)

〔家庭科共修〕

家庭科、なぜ女だけ

家庭科は小学校では男女共習、

中学校では、男子は技術、女子は家庭科の別習、高校では女子だけの独習、という変則的な位置づけになっている。「なぜ女子だけ必修なのか」という生徒からの抗議は、論理が明快で、私は困ってしまう。

思うに、女子のみに家庭科必修を望む為政者側の論拠は、女子に家庭・育児責任者としての役割を自覚させ、いまの体制に奉仕するような家庭づくりをさせようとする「必要」なり「要請」なりが根本にある。つまり、それぞれ異性を排除することで、子どもたちに固定的な男女の役割や人間像を定着させてゆこうとする意図がうかがわれる。

(都立戸山高校教諭 和田典子)

(4・9朝日)

「家庭科、なぜ女だけ」に同感
男女共学の都立高校に通っているが、一年生のときは男子が体育を週四時間、女子は体育二

時間と家庭科二時間です。二年になると男子は「芸術科」の音楽・美術・書道の中から選択して二時間の授業が受けられるが女子は選択の自由なく、その二時間を家庭科に当てられます。このカリキュラムは何とも不満です。

家庭経営における男女の協力は今後ますます必要になってくると思われますが、公然と、およそ封建的なカリキュラムが組まれているのです。多くの現場の女の先生方は、明らかな男女差別のこの教育を、どうお考えでしょうか。

(高校生 林 陽子)(4・13朝日)

「なぜ女だけ」を考える会を

教師と生徒が連帯して

私は学校の職員会議で「家庭科は男女共学でやるべきだ」と主張してきましたが「無理だ」という意見が多数です。しかし埼玉県の高教組婦人部では「男

女でやる方向で考えていく」とことが確認されましたし、教研集会などで話し合った先生方も、すべて共学に賛成でした。

そこで提案ですが、一つには女子が中心になって「家庭科を男女共学でやってほしい」と主張していくこと。もう一つは、なぜ女だけ、ということを考えていくこと。全国的女子中高生がこの問題を考える会をつくっていくことです。その会では、女性差別と闘っている教師と連帯していくことができると思います。(高校教員 中嶋 里葉)(4・24朝日)

家庭科教育者連盟

夏季集会開かる

七日・九日、京都市教育文化センターホールなどで開かれた同集会には、沖縄から北海道までの家庭科担当教師五百人が参加、熱のこもった話し合いが続いた。

パネルディスカッションでは、高校生・主婦・他教科の教師ら八名のパネラーが、家庭科の教師たちに、家庭科への批判や疑問を投げかけて注目された。

パネラーたちは「男性にとっても、生活は大切な問題。家族が明るく健康な毎日を過ごすための『家事』という作業を、くだらないもの、女の仕事、と決めつけるのは間違いではないか。男子生徒にも家庭科を」と主張した。

(8・9朝日)

「家庭科教育を検討する」集会ことしの四月、家庭科四単位が高校のすべての女子に必修になったが、その実態や内容をもう一度考えようと「小・中・高の家庭科教育を検討する」集会在、婦選会館主催で開かれた。

母親や現場の家庭科教師、学生など九十人が参加し「男らしさ、女らしさとは何か」という根にある問題をめぐって活発な

発言がなされ、男女共修に踏み切った京都府の例もあり、他で

もこれができないか、という提案もあった。(12・12朝日)

からだ

「低体重児」予防のために

山形県で共同調査

体重二千五百グラム以下で生まれる赤ちゃんは「低体重児」、いわゆる未熟児だ。これは新生児死亡の大半を占めるだけでなく、専門医による保護が必要で、種々の障害が残ることもある。

しかも低体重児の出生の割合は、現在でも減っていない。山形県置賜地区の三保健所では、その原因を究明して出生予防の対策を立てようと、共同調査を実施した。

(2・5朝日)

「出生前診断」安全に疑問

生れてくる赤ちゃんに先天性

の異常がないかどうかを調べる

「出生前診断」について、日本人遺伝学会遺伝相談ネットワーク委員会は「時期尚早」と警告している。

検査用羊水採取時の障害で胎児が異常児になっても、先天性の異常児と区別できない、胎児の安全性についてのデータが不足している、等がその理由。

兵庫県と静岡県では、すでにこの診断法を採用、実施しているが、愛知県では「医学的に、まだ問題が残る」として、実施を見合わせている。(3・9毎日)

婦人の無料検診制を

美濃郡都知事に要望

〈日本婦人会議東京都本部〉

の代表が美濃郡都知事に「婦人を対象にした無料の健康診断制度を取り入れてほしい」と要望書を手渡した。(6・1朝日)

中期の中絶に効果的

プロスタグランدين

事後避妊薬として注目されている「プロスタグランدين」は、わが国でも昨年から分娩誘発剤として許可された。

東京厚生年金病院では、この薬剤を妊娠中期の中絶に適用しているが、同病院では、この半年間に十七人がその適用による中絶を受け、全員が成功。

(7・17朝日)

妊婦がタバコを吸うと

乳児死亡が三〇%も高い

英国の慈善団体へ全国児童連

盟事務局が一万七千人の婦人に面接、死産ないし生後百時間以内の乳児死亡ケースについて調べた結果、喫煙女性から生まれた乳児の死亡率は、喫煙しない女性から生まれた乳児よりも三〇%も高く、また喫煙する母親から生まれた子どもは知能も身体も発達が遅れる、という結論に達した。(9・7朝日)

妊産婦の健康診断無料に

川崎市で近くスタート

これは、乳児と重度障害者の医療費無料化(すでに実施)とともにスタートさせようとしたが、川崎市と同市医師会との意見が対立したため、実施が遅れていたもの。このほど両者の間で話がまとまった。

診断回数は、妊娠中二回、産後一回。それ以上かかるときは差額を自己負担する。妊産婦が健康診断を受ける場合、医療費全額を一時立て替えて支払うが、

領収書を市に出せば、一回目は二千五百円、二・三回目は千五百円まで補助金が出る。

(11・15朝日)

〔ピル〕

人工妊娠中絶に代わるピルを

わが国は人工妊娠中絶に寛容であるが、心身の苦痛や不安、生命の危険にさらされるのは女性の側である。だから、確実に安全な経口避妊薬ピルの使用と普及が許されれば、こうした女性の不幸はなくなると思う、と、同志社大 竹中教授の意見。

(2・12読売)

ピルとIUDに

厚生省はまだ否定的

優生保護法改正案に対して、このところ「確実な避妊技術を普及させることが先決」という考えから、わが国でも、ピルとIUD

Dを許可すべきだとの声が強い。

厚生省内でも見解は不統一だが、IUDについては、現在わが国で約百万人が使っていると思われること、熟練した技術のもとに使用すれば、ひどい障害や合併症を招くことはまずない、ということから「検討すべき段階にきた」と前向きな姿勢。

ピルは、いま世界で千五百万人の女性が服用していると推定されるが、厚生省では「副作用に懸念があるので、さらに検討を要する」と、現段階では否定的。

(5・26朝日)

ピル禁止には疑問の声

WHOセミナー

世界保健機関(WHO)の西太平洋地域主催による「家族計画の医学的方法に関するセミナー」が十月二日から一週間、東京で開かれた。

マレーシア、フィリピン、オーストラリア、ニュージーランド

など、各国の専門家が、いま使われている受胎調節法について、医学的な立場から検討した。

(10・15朝日)

ひそかなブームの中で

「ピル」の勉強会

厚生省が「血せん症などの副作用が心配」と、まだ許可していない経口避妊薬「ピル」が、現実には、ひそかなブームを巻き起こしている。

少なくとも見積もって二十万人、一説によると百万人の女性が産婦人科医からこの薬をもらっていると言われ、品不足騒ぎまで起きるほど。

こうしたブームの中で、ヘルプ新宿センターでは「自衛のために、知識の深い医師と危ない医師のリストづくりをする」と同時に、私たち自身がピルについて専門的な知識を得ようと、勉強会をしています」

(12・1朝日)

意見・投書

〔女の気持ち〕

ふしぎなものの「主婦」

「主婦」とは何か？「広辞苑」

には「①主人の妻 ②一家を切り盛りしている婦人」とあり、

「主人」とは「①一家のあるじ

②自分の仕える人 ③妻が夫を指していう称」とある。

妻が夫を「主人」と呼ぶのは普遍的だが、夫は妻を「主婦」とは呼ばない。「主人」の持つ

②の意味にこだわっているのだが、妻は自分を主婦と称する。

それなのに、一人前の人間として社会に登場するとき、この肩書が問題になるのはなぜだろ

う。「主婦のまとめた本」「主婦

の開いた塾」など、主婦がある域を少し超えると、すぐ話題に

なるのはなぜか。「広辞苑」の

①の意味からすれば、未亡人は主婦ではないのか。

(半田たつ子) (8・6読売)

友情は女にとってこそ

亭主族のうち、ある種の男たちは、女房が、同性であれ自分

以外のものに目を向けて家庭以外の世界を持つことを拒絶する。

亭主族は「友情」を男の専売特許のように言うことがある。

が、平均寿命の長い女は、老後未亡人になるのが、ごく一般的と言える。

その老未亡人たちの幸福感、

充足感、自分の友達の多さ、

つきあいの深さに、まさに正比例している。友達づきあいや自

分の世界のない老女の晩年は、やたらと心さみしく、結果とし

てイヤみなバアさんになりがち。これ、亭主の横暴の結果である。

(樋口恵子) (10・3朝日)

かえりみて日本女性を思う

二週間の東南アジアの旅の間、わたしは現地の女性と何回も話し合うことがあった。英語もで

きないわたしに、彼女たちは親切に生き生きと応答してくれた。

しかしわたしが何よりも心を奪われたのは、話をし、手をさ

しめるとき、彼女たちの身辺にたちこめるふくいくとした「女の

情感」であった。色香とかエロスというのであろうその情感の

たゆたいは、同性なのに、わたしをやさしく包みこんでくれた。

ふり返って日本女性を考える

に、経済発展の余光を受けて、

近年、服装や化粧がはなやかに

なってきたと言われるが、

わたしにはその分だけ、人間としてのうるおい、女のエロスの

輝きが消えてきているように思われてならない。

資本主義発展が進めば進むほど、人間にとっていけばん大切なものー他の存在に対する、素

直であたたかい関心ーを失ってしまいつつあり、それに気づか

ないのは、島国に住むわたしたち日本人だけであるらしい。

(山崎朋子) (10・9朝日)

ハイミスという偏見

滋賀銀行事件の記事に「ハイミスの心のすきま」という悲しく

残酷な言葉を見た。女は仕事に情熱を持っていたても、二十代

後半でハイミスと言われ、離婚した女には「出戻り」のラク印

はたして女性が強くなったのか

(主婦28歳 10・26読売)

女の四十二歳

男性の厄年が四十二歳、女性の大厄が十九歳と三十三歳、と言われはじめたのは平安時代。めまぐるしく変わった社会の中で、いままおこの考えがかなり根強く残っているのは面白い。

「厄」という言葉を「危機」とか「何か変動が起きること」というふう置き換えてみると、なるほどこの年ごろに一身上の変化が起きることは、多くの人が経験していると思われる。

男性の「厄」が、人生の半ばを登りつめ、ふと気づくと下り坂、「これでよかったのだらうか」「これからどうなるのか」と不安を感じ、そこから派生する心理的葛藤に係しているとは仮定すると、女性の場合も四十二歳に、同じ理由での危機が生じないとは言えない。

子どもを自由に伸ばし個性を尊重しろ、と啓蒙された母親たちは、自分の個性や欲望充足を

がまんした。母親としての役割を果たして一息ついた四十二歳の焦りや迷い。つまりかずに乗り越えることが必要な、大きな試練である。

(深沢道子) (10・29朝日)

中・高年婦人よ、

もっと美しくなつて!

ロンドンでモームの喜劇「永遠の妻」を見て、バークマンの美しさに打たれた。五十八歳と聞いて、日本のその年ごろの人たちを思った。まず目に浮かぶのは、老いた農婦の姿である。外国人の中には、経済的繁栄の裏側にひそむ日本の旧体質を意地悪く見る目が残っている。こういう目を変えさせるためにも、日本の年をとった女性たちにもっと美しくなつてほしい。

(11・21朝日)

夫には半分だけ打ちこめ

若い娘が結婚を追いかけて失

敗するケースは相変わらずだ。日本ほど適齢期が短くしぼられている国はない。そしてこのことが、どれだけ女の幸せを傷つけていることか。

結局、女も経済力を持たなければダメ。一芸を持てば、どんな境遇になっても食べられる。結婚相手には全心を打ちこまず、まず半分は自分自身に打ちこんでほしい。

もちろん男にも問題はいっぱい。ペテラン女中でも雇うつもりで嫁さんをお願い。これではうまくいくはずがない。でも夫は仕事で気がまぎれるせいか、人生相談は少ない。

(福島慶子) (12・8読売)

真の解放を目ざそう

一九七三年は女たちにとって、解放されたと言われた「戦後」の実態が何であったのか、改めて対面させられた年であったと思う。女たちは衆愚性から抜け

出ることを目ざして戦後を歩みはじめたはずなのに、衆愚化した買いだめパニックを演じることで、その戦後史を自らみじめに閉じた。

しかし一方「K子さん事件」で代表される未婚の母差別反対の闘いが、今年をはじめ出て来ている。不況下、統制令が再び復活したいま、「とぼしきを憂えず、等しからざるを憂える」ことを、本当の主権者として、もう一度とらえ直したい。

(もろさわ・ようこ)

(12・28朝日)

「くらし」

妻の下着を洗たく

ー現代の男らしさ

友人Aさんは、仕事の面でも責任感の強い人だが、内助?の功も大したもの。「家内は夜勤で疲れてるからね」と、いつも

洗たくし、奥さんの下着も平気で干している。この優しさに、現代の男らしさを見る思い。

(1・27読売)

消費者運動は

グループづくりから

消費者運動に参加すれば物価が下がると思っている人は六三%もいる(総理府の世論調査)のに、実際に参加する人が少ないのは、自分は運動にはとても向かない、と思ひこんでいるためだ。

消費者運動は、何もデモに参加することではない。PTAのグループや気の合った奥さん同士、顔を合わせたとき、一言、商品の話をしよう。みんなそれぞれ買い方や使い方の情報を持っているから、話し合いができるはずだ。そして次の段階で、こんどは不要品交換会でもやってみよう。

グループは五、六人が手ごろだ

が、誰かと二人だけでも、一人よりはずっとよい。

(青山三千子) (8・27読売)

ああ、幼稚園に月一万円

入園金四万円、月謝七千五百円、バス代千円、給食費八百円、教材費三百円。

一年収百三十万円、四人家族でどうなることか……

(主婦28歳 12・10朝日)

月一万一千円の寡婦年金にも

インフレの波

物価高・物不足で、寡婦年金が一日ごとに目減りしてきます。これとパートタイムの給料三、四万円が全収入で、大学生の長男、高校生の長女と暮らしています。

皆さんは賃上げやインフレ手当を要求していらいっしゃるけれど、私たちは、いったいどうすればいいのでしょうか。

(主婦48歳 12・10朝日)

〔働くこと〕

女房族の仕事 見直した

私は胃の手術後、家庭で療養生活に専念中の者。妻が働きだしたので、私が家の中の女の仕事を担当している。

女の仕事は「三食昼寝つき」と高をくくっていたが、とんでもない、大変な仕事。どうぞ奥様方を見直して感謝の意を表してください。(1・3読売)

主婦の社会進出

まず足場固めて

家庭の外に生きがいを探して、職業や社会活動の場を求める主婦が多い。だが一足跳びのハイジャンプは必ずしも成功しない。「まず家庭を足場に、じっくりパネとなる勉強を」と、立教大学助教教授 室 俊司氏のアドバイス。(1・16日経)

「せぬ間」を大切に

一人前の職業婦人

男に比べて職業意識が薄いと言われる女子社員。結婚までの腰かけと割り切っている「職場の花」型は別として、職業人として生き続ける場合、女性には結婚・家事・育児としがらみが多いことも事実。婦人雇用調査研究会専門委員大羽綾子さんは「オフィスから離れたときも、緊張した心の糸をピンと張っておくことが、一人前の職業人として欠かせない」と言う。

(1・31日経)

開業保健婦の法制化を

二年前郊外に転居し、十二年間の勤めを辞めねばならなかった一保健婦。当地は交通の便も悪く、フルタイムの勤めはともできない。そこで、保健指導、健康相談、寝たきり老人のおふろの入れ方などの相談をしたいと思っても、助産婦には開業が

許されていますが、保健婦には許されていません。定年や、働きに出たくても出られない保健婦は大勢おります。開業保健婦の法制化はできないものでしょうか。

(2・12朝日)

女ゆえに差別……

勤続二十年六か月目に、夫の勤務等の事情で現在の地に越しました。勤めを続けたいと思い、当地の支店勤務を希望しました。後任に引き継ぎもしてから、専務に「転勤は認められない。一度退職して新規採用の形になるため、前任地での勤務年数は切り捨て。昇給も一年間は認められない」と言われ、一万円以上の減給になりました。

その後男性が二人転勤して来ましたが、勤続年数はもちろん加算され、給料もそのままです。定年は男女同じです。でも男は希望すれば残ることもできますが、女はダメです。

女ということだけで差別されることのないよう、私も働く一人として心から願っています。

(45歳会社員 5・20朝日)

〔産むこと〕

母性はどこに……

子殺し、虐待、子捨て……その最近の続発は、まるで爆発的な連鎖反応か悪疫の流行のよう。十九日の千葉・柏市に続いて二十三日も、またまた子殺しが習志野市であった。なぜ、こう無造作に繰り返されるのだろうか。母親の仕打ちは当然責められるべきだが、それだけですむ問題だろうか。

(2・24朝日)

中絶と母体

確実な避妊法の普及を

人工妊娠中絶に対する最もきびしい考え方は「胎児も生命をもつ人間であるから、中絶は殺

人であり、どんな理由があろうと禁止する」というもので、イタリア、スペインなど、主にカトリック教国で貫かれている。最も自由な立場はソ連や東欧諸国で、女性が希望しさえすれば許される。

英国や日本は中間的な立場。経済的・社会的理由で、母親の健康が損なわれるおそれのあるときに許される。

注目すべきことは「非合法中絶の危険から母体を守るため」、近年世界的に、法律をゆるめる方向へと変わりつつあることだ。イタリア、フランス、中近東などでは、現在でも毎年相当数のヤミ堕胎による死亡がある。

三か月未満なら、妊娠中絶も危険は少ないが、それよりも、効果的な避妊法の研究・開発・普及を真剣に考えるべきで、政府も、この方向に問題の解決策を探るべきであろう。

(我妻 堯)(5・8朝日)

男不在

母性同様に父性をも問えずに捨て、子殺し記事の見出しを見ていて気づくのは、非難が母親に集中していて、父親が全く登場しないこと。

明治六年の太政官布告「妻妾以外の婦女分娩したる場合、養育は婦女の責任となす」は、男の性的放縱を公認し、「結果の責任はすべて女」に押しつけてきたもの。

腹を痛めた子はいはいはずという「母性愛」を見いだそうとするならば、一方の当事者である男にも「父性」を見いださなければ片手落ち。

女たちは自ら手を下すことなく、男に押しつけるべきである。男たちをして、子捨て・子殺しを行わしめよ。その時はじめて、今日母性が論じられるレベルで、父性が問われることになるであろう。

(小沢遼子)(5・9朝日)

母性愛―「生さぬ仲」への

偏見をなくせ

カナダ北方のヘヤー・イン
ディアン社会では、四人目を
妊娠したり夫以外の男との関係
で妊娠したりした場合、その子
を引き取ってくれる人をあらか
じめ決めておく。子どもは、実の
父母が誰であるかを知らされる。
概念としての「母性愛」「父
性愛」には差がない。他人の子
どもをもらって育てている姿を
当然のことと見る例は、現代の
イギリス、アメリカの社会の一
部にもある。

菊田医師の「母性愛は産むこ
とによって本能的に生まれるの
ではなく、育てることの中で出
れてくる」という主張は新しい。
しかし、もらった子を養子とし
て堂々と育てなさい、と言えず
法的に「実子」とせざるを得な
かったところに、日本文化との
妥協を見る。「生さぬ仲の子が
当たり前に育つはずはない」と

いった社会の偏見を打ち破る強
さが欠けているのである。

母性愛は体験や学習によって
さまざまな内容を持ち得るもの
であり、父性愛もまた然り。そ
れほどに、人間性というものは
可能性に富んでいる。

女性の生き方が多様化するに
伴い「母性」の内容も多様化し
ていく。そういう過程で、「生
さぬ仲」に対する社会の偏見が
崩れ去ることを期待したい。

(原ひろ子) (5・10朝日)

養子と実子

まず、差別意識なくせ

未成年者を養子にするには、
「子のため」が条件。「家のた
め、親のため」では、家裁で許
可されないことが多い。

しかし、養子では肩身が狭か
ろうと、虚偽の出生届によって
養親の実子とする例があるが、
養子と実子は、法律上まったく
平等である。

未婚の母の場合など、戸籍に
キズがつく、と、その両親の末
子として出生届けをすることが

戦前から多かった。しかし「戸
籍にキズ」という意識こそ、家
名第一主義であり、旧民法で戸
主であった男性専権主義であり、
その片隅に母と子が押しやられ
ている感じである。出生の秘密
はいつしか本人にもれることだ
ろうが、真実がわかって揺る
がぬ信頼関係が樹立されてこそ、
親子と言えるのではないか。

養子縁組みに関与する人の善
意のみを信頼することは、現在
のモラルから見ではなはだ危険。
公共機関の関与が必要で、子の
福祉のためのみにこの制度が用
いられることが前提となろう。

一方、児童福祉法に規定され
ている里親制度は、実行者数が
登録人数の約十分の一にすぎず、
この制度がフルに活用される日
が一日も早いことを期待したい。
(佐々木静子) (5・12朝日)

中絶と社会―現 優生保護法
の幅ある運用を―

菊田医師事件の投じた波紋の
中で、出産する女性と男性のか
かり合い方、性知識の不足な
ど、見落とされた部分が少なく
ない。これらを見過ごして菊田
氏の問題提起に対応し、胎児の
生命尊重、中絶天国返上を旗じ
るしに掲げ、一方で優生保護
法を医学的問題と社会的問題に
整理し「経済的理由の認定」を
取り除いた形ですべての女性を
その枠内に追い込むとしたら、
想像以上の社会的障害、人間疎
外が現出するに違いない。ヤミ
中絶や産み捨てが今よりずっと
増え、現代人の権利ともいえる
避妊・中絶に対する極度の罪悪
意識が定着するおそれがある。

最近の年間出生数は二百万前
後、中絶数はそれを上回ると推
定されている。以前より安全に
なったとはいえ、中絶は最後の
手段。にもかかわらず、避妊技

術を身につけて事前に……とならないところに、わが国の男中心の社会機構が見える。

いま「産まない自由と産む権利」を主張し得る女性は、産む

相 談

大学で文学字びたい

五十歳の母親。毎日勤めのかたわら勉強し、暇をみつけては自分の人生航路を原稿に綴っている。文学を字びたいが、高等小学しか出ていないので大学に行けない。進学の道はないか。

(千葉・F子)

〔答〕大学にこだわることはない。通信教育や主婦の読書会、講演会など、勉強の方法はいろいろあると思う。小学卒で作家になった人はいくらもいる。

(小糸のぶ)

(1・15読売)

権利の保障のほとんどないわが

国で産まない自由を確保するため、現行優生保護法の幅のある運用を要求するのは当然である。(村松博雄) (5・15朝日)

夫が愛人を囲った

夫は五年前からろくろく家へ帰らず、たまに帰ってくると、クリーニングした服に愛人の姓がついていたりして頭にくる。知人は、そのうち帰ってくる、と言うが……。 (東京・S子)

〔答〕いま騒ぎ立てて引込み

のつかぬところに自分を追い込む危険は避けるべき。主婦であり母親である以上、明るい態度をくずさず、平静に様子を見守ることが大切。

(福島慶子)

(1・26読売)

水商売か再婚か

二十九歳の未亡人。夫の保険金は一銭ももらえず、子どもを保育所に預けて働いている。収入の多い水商売に入ったほうがよい。縁談もあり、迷っている。

(神奈川・K子)

〔答〕ご主人を突然亡くされて以来、独力で生活してきた自分に自信を持って。心を正しく、他人のことを考える生活をしていれば、必ず頼りになる人があらわれる。

(小山いと子) (2・10読売)

ギリギリの生活、ケチな夫

家のローンの返済や掛け金が多く、やっとの生活。夫は、私のやりくりが下手だと言って、ののしったり暴力をふるったりする。こんな生活なら離婚したほうがまし。

(群馬・A子)

〔答〕浪費で泣かされるよりはましと考えて、もう少しあなた自身の頭を働かせて。ご主人の

言動には、ユーモアをもって對抗すること。

(小山いと子) (3・2読売)

ウソの学歴が重荷

三十歳の主婦。結婚式のときに仲人から高校卒と紹介され、そのまま現在に至った。夫をはじめ周囲の人に高卒と思われ、悩んでいる。

(東京・N子)

〔答〕まず、ご主人に「私は中学卒なの」と言ってみること。そうすれば「なあんだ、そうなのかい」と大笑いでおしまいでしょう。機会を見て、真実を言っておくほうが、未長く心晴れた日々が送れる。

(福島慶子) (4・19読売)

入籍拒む 妻子ある彼

三十八歳の男と同棲。奥さんと、なかなか離婚しない。彼は「このまま暮らしていられたくないじゃないか」と言うが、人並みの家庭を作るには、どう

したらよいか。墮胎歴二回。

(神奈川S子)

〔答〕こんなすれっからしの中
年男とは、今すぐ別れるべき。
二十二歳の若さを生かして、新
しい人生を出直して。

(福島慶子) (7・4読売)

追いかけて来た彼と腐れ縁

恋人の子を墮胎。疲れはてて
戻ると、彼には別の恋人が。棄
てられるよりは棄てるほうが賢
明、と逃げたが、男は追いか
けて来て、元のもくあみに。こ
んな自分がいや。(東京・N子)
〔答〕とことん納得がいくまで
彼にすがりついていければいい。
恋する人間とはそうしたものだ
から。ただ、恋愛は恋愛。人間
としての責任を感じられるよう
な社会生活を送って。

(戸川エマ) (7・12読売)

パート勤めの果て、妻は……

結婚十八年、パートに出てい

た妻に男が出来て家出。私の実
印を持ち出して借金を作った。

私のことは「悪いところはない
が、ただ、いやになった」とい
う。

(東京・S生)

〔答〕奥さんにすれば、それな
りの不満があるのかもしれない
が、借金の支払いは拒否でき
し、慰謝料も請求できる。

(小糸のぶ) (8・4読売)

復縁後 再び私を拒む妻

結婚十五年、妻の浮気で一度
離婚し、復縁した。ところが再
び、妻が私を拒むようになった。
どうしたら、妻の気持ちを素直
に直せるか。(神奈川・S生)

〔答〕奥さんの真意はどうなの
か。復縁の時、今後は妻たる道
を尽くすよう厳しくクギをさし
たか。家裁に調停を頼むのも……

(小山いと子) (9・7読売)

里帰り中に離婚話

出産のため実家に戻ったら、

夫と夫の両親から離婚の請求。

くやしいので、一生、籍は抜く
まいと思っているが、どうした
らよいのか……。(新潟・I子)

〔答〕長期戦に備えて、手に職
をつけること。家裁に調停を申
し立て、養育費の問題などを解
決して、訴訟で離婚させられる
ことはない。

(鍛冶千鶴子) (11・6読売)

夫の愛人は未婚の母

結婚十年、子どもはないけれ
ど幸福な毎日を送っていたが、
夫に愛人が。彼女の子が夫にな
っている。夫は「もう少し待っ
てくれ」と言うが、いつまで待
てばよいのか。夫のためなら身
を引いてもいいと思っている。

(東京・H子)

〔答〕ご主人と話し合い、あな
たも立ち会ってハッキリさせる
こと。この人は誰にも渡さない
という一大勇猛心を持って。

(小山いと子) (11・30読売)

妻の金をアテにする夫

私の給料は全部取り上げて、
自分は半分も入れない夫。いっ
そ別れようかと思うが。

〔答〕二、三か月間、ご主人に
家計をまかせてみたら、どうで
しょう。生活の苦労がわかるの
ではないか。それでも妻を信じ
ない夫なら、離婚もやむを得な
いと思う。

(小糸のぶ)

(12・15読売)

子どもさえいたら……

結婚七年、子どもが出来ない
ため、夫につっかかる毎日。子
どもさえいれば、その世話に追
われて気もまぎれようというも
のを……。

〔答〕あなたは、子どもが欲し
いということに執着しすぎては
いないか。一度自分を解放する
ためにも、パートタイムでよい
から、外に出て仕事についてみ
たらいかか。

(鍛冶千鶴子) (12・25読売)

人

ひとと

「おもちゃ絵」につなぐ夢

アン・ヘリングさん

アメリカ人女性で東京に住むアン・ヘリングさんは八年がかりで、江戸時代から明治時代ごろまでの子どもたちが、絵草紙屋や駄菓子屋などの店先で買いた色刷り木版の一枚絵おもちゃ絵を集めた。「浮世絵などには見られない、ささいな日常の美の宝庫です」と収集に打ちこむヘリングさんは、いつか、日本の子どもも文化の文献として出版するのが夢という。

(1・3朝日)

日本家庭奉仕員協会創立

初代会長に飯沢節子さん

老人の日常生活の世話をすると同時に心の支えにもなっている家庭奉仕員の仕事は「女性の職業として最高」と誇りを持つ。長野県伊那市に生まれ、二十歳で洗礼を受けた。「老人ホーム主体から家庭奉仕員中心へ」を目標に三十五歳の奉仕員を結ぶ協会を作り、その初代会長となった。

(1・6朝日)

猿倉人形芝居を映画化―

高橋千代子さん・坂間雅子さん

明治中期、秋田県の寒村に生まれた猿倉人形芝居は、日本の人形劇発達史上、浄瑠璃からセ

リフ劇への橋渡しの役を果たしたと言われる。

この人形にほれた高橋さん・坂間さんの二人は、秋田県合川町の吉田千代勝さん一座の名人芸の記録映画を作り、東京新宿の紀伊国屋ホールで初公開。対象への愛情が全編を貫いている。「問い合わせは東京都渋谷区東四十二―三十さがみマンション一〇二号P O P 03―四〇七―二五五四」(1・6朝日)

おばあちゃん編集長

藤田美代さん(七六)

東京・霞が関で、隔月刊の同人誌「とき」の企画から原稿依頼・編集まで一人で切り盛りし、今月で四十号。新潟県生まれ。

(1・9朝日)

かるたの女王

山口県の沖美智子四段

新春恒例の小倉百人一首名人位・クイーン決定戦が十三日、

大津市の近江神社で。第十七期クイーンは、沖四段がタイトルを防衛した。(1・14朝日)

へねむの木学園をよろしく

宮城まり子さん、陳情

医師の手を離れ、家庭に戻された肢体不自由児の面倒を見ようと静岡県で「へねむの木学園」を独力で創設した宮城まり子さんは十八日、首相官邸に。昨秋、福祉予算のことで一人で陳情に來たので、政府予算案決定を報告したいと二階堂長官に招かれたもの。政治家はきらいという宮城さんも「国が不幸な子どもたちのことを考えてくれるようになってうれし」と涙を流していた。(1・19朝日)

身障の力を試したいと竹内さん

イタリアの施設へ奉仕活動に

脳性マヒで言語障害と左の手足が不自由な、東京・千代田区の竹内幸子さん(二九)は、ミラ

ノ郊外にある重度障害者の施設で奉仕活動をと、二十四日、単身出発。
(1・25朝日)

無名の画家の交流の場に

NYに画廊、広岡まりさん
渡米して六年、いまニューヨークの真ん中に小さな画廊(ミニ・ミュージアム)をつくった。

「自分が考えた宇宙をその小さな空間に創造してみたかった」と、夢は大きい。(2・1毎日)

目は奪われても耳と声で…

佐藤京子さん、電話交換手に
東京・中野区の社会福祉法人東京コロニーの佐藤さん(三三)は四十一年、スモンに。今はまったく目が見えず、下半身マヒで足を固定しないと車イスにも座ってられない最重度の障害者だが、電電公社が開発した盲人用の電話交換の中継機を使って電話交換手に。先月初給料を手にした。
(2・12朝日)

人形のかしらづくり二十二年
小久保ユキ子さん、女手一つで

「人形の町」で名高い 埼玉
県岩槻市で、夫の信夫さんを手伝っているうち身についた技術で、信夫さんの死後「プロ」として。「やさしい顔の人形」と評判。(2・14サンケイ)

女社長の

「かあさん」的労務管理
東京・豊島区南大塚にある写真植字機のトップメーカー「写真研」の社長は石井裕子さん(四六)。従業員千百人はどの中堅企業だが、その労務管理は、女性の感覚を生かしたユニークな家族主義。
(2・20朝日)

たぎる情熱を版画に

耳と口の不自由な山林さん
東大阪市に住む山林文子さん(六二)は、耳が聞こえない宿命を担った人。しかし母親カネさんの努力で字も覚え、自立の心

も学んだ。

十六歳から九年間日本画を学び、引き続き版画の指導を受けた。女の幸せはかえりみず、この道で身を立てようと、堅い心にも磨きがかかり、六年後には日本版画協会の会員に推された。その後多くの会に相次ぎ入選、三十九年にはノースウェストの国際版画展に入賞、四十七年、一陽会展の特待賞。「無欲で素直で気品がある」と、作品は評判。
(2・21サンケイ)

「女を踊る十二ヶ月」に意欲

アキコ・カンダさん
「女」を踊り続ける舞踊家、アキコ・カンダさんは「踊る」ということは体がリズムにひきつけられていくこと。呼吸にのること」

これまで踊り続けてきた女の愛と性、悲しみと喜び、そして情感と本能と……。これらの集約とも言える今回のシリーズ公

演を、いま渋谷のジャン・ジャンで。
(3・13朝日)

彫刻家 山家初枝さん

終戦後の混乱期、弟妹の面倒を見ながら「生活の苦しさ」、ただ流されていてもしょうがない、一番難しそうなことを」と彫刻に取り組み、四十一年までに日展入選七回の実力。人体の忠実なコピーにあきたらなくなつて、四十二年、五十歳の時にイタリアに留学、四年後に卒業。いま、銀座の現代彫刻センターで個展を。作品十八点は、いずれも力強いタッチのブロンズ像。
「日本では芸術思潮が生まれたいと言われるのは、コピーや追従が多いから。新しいことをやりたい」
(4・13毎日)

定年制の男女差別をなくす会

の準備をする影山裕子さん
三月十二日の高裁判決に触発されて、百八十人の識者に「定

年制の男女差別をなくす会(仮称)への賛同を求め、たちどころに、男性二十余人を含む五十数人から発起人OKの返事。

男女差別定年制は、このところ会社側敗訴のケースが多いが、影山さんは「司法界の体質の古さ、職場の古さが問題。労働組合もがんばってほしい」「この会は現代のかけこみ寺。男性も含む幅広い組織で、超政党でいきます」(5・11朝日)

女ひとり尾瀬を守る

長蔵小屋の平野紀子さん

二年前、雪道で遭難した夫の遺志を継いで。尾瀬の自然保護を訴えて夫・長蔵さんが観光自動車道路の建設に反対してペンをとった「いわつばめ通信」も九号からは紀子さんが受け継ぎ、いま十一号。

「賛成派からのいやがらせもあったけど、今は尾瀬の自然を守る運動が根づきました」と言

う三児のママ。(6・14朝日)

女の「さが」求め続ける

一の瀬元子写真展

四十三点、いずれもモノクロ。一人のヒロインを仕立て、これに男一人をからませて女の「性(さが)」の根源を表現している。西宮市出身、二十代の半ば。

(7・21朝日)

原爆病院に一千万円寄付

被爆老女・松重ハナさん

広島市に住む松重さん(七九)が原爆記念日翌日の七日、広島原爆病院に一千万円を寄付。同病院は、これまでも全国から寄付金が集まっているが、一千万円という高額は初めて。

(8・8朝日)

戦死したひとり息子を詠む

尼崎の小山ひとみさん

わが生のあらむ限りの幻や
送りし旗の前を征きし子

「朝日歌壇」によく選ばれる

が、いつも戦死したひとり息子
の歌。息子の幻と生き、幻と語
り合い、行商をしながら細々と
暮らしている様子がうかがえる。

貧しさの中に育てて成人せり
戦死せし子よ今日の食足る
という歌もある。

小山さんのほかにも、戦死し
た子を、夫を、詠んだ歌は「朝
日歌壇」に多い。

特攻隊に乗らむと

かの日聞きしゆえ

この汀 夫の眠れる海の果て
還らぬ息吹を求め手をふる

(8・15朝日)

生きがいの一人三役

画家・主婦・奉仕の三田さん

東京・狛江市の女子少年院で
絵画の指導をしている三田恭子
さん。学生時代に絵画クラスの
講師を依頼されて以来、十年に
わたるボランティア活動。女子

少年院は国の施設だが予算が不
十分なので、材料を持ち込んで
の奉仕である。

生徒の中には、夢のない暗い
絵を描いたり、すねて描かない
子もいるが、はっとするような、
素朴で、しかも魂のほとばしる
絵が描きながってあることもあ
るという。

このほど個展を開いたが、三
役を見事にこなしている三田さ
んの生き方は、生きがいを求め
ている主婦たちのひとつのモデ
ルのようだ。(9・20毎日)

主婦代表のディスクジョッキー

谷口佳世子さん

東海ラジオの「さん!さん!
モーニング」の司会に起用され

「お昼までには帰る」と子ど
もたちに約束して、半年間の出
演を認めてもらったという。

「家族に甘えたくない。自分
で選んだことですから」「主婦
代表として言いたいことはいっ

ばい。物価高、有害食品……とはりきる三十四歳、二児の母。

(10・19毎日)

東南亜公務員研修会議を

準備する加藤富子さん

東大卒、自治省の上級職試験合格職員の紅一点。

来春開かれる「東南アジア公務員研修会議」のテーマとして、

苦心の末「地域開発」を考えついた。日本をモルモット代わりに、開発の良い面、悪い面を検討できるという発想。

(11・9朝日)

瀬戸内晴美さん、仏門に

作家の瀬戸内晴美さん(五一)

は、岩手県平泉の中尊寺の貫主
今 春聴大僧正(作家 今 東光氏)の弟子となり、仏門に入った。

得度式は、十四日、中尊寺本

堂で行なわれ病氣中の今 大僧正に代わって、東京・上野の輪王寺門跡兼寛永寺貫主、杉谷義

周大僧正が戒師を勤めた。法名は寂聴。「長年の夢がかなってうれしい」と語った。

(11・14朝日)

九県一市で孤独死老人の

実態を調べる石黒ケイ子さん

調査は、四十七年中の孤独死

老人すべてに及ぶ。

「父に早死にされ、きょうだいい六人で、半身不随の母に仕送りをしてきました」という石黒さんは、この調査を、「誰が老人の死に水をとっているか、という問いかけ」だと言う。

高等小学卒業後、看護婦をしながら定時制高校を出、日本社会事業短大、明治学院卒。現在、全社協民生部副部長。

「人間みな老いるのに、老いに関心がなさすぎます」

(11・27朝日)

〔賞〕



朝日賞に二人の女性

①新派女優 水谷八重子さん

受賞の対象は、去る六月の国立劇場公演「滝の白糸」。旅公演を含めると、五百回以上も演じてきた役である。

この春、三支柱を失い、前途が心配された新派にとって、国立劇場は初の舞台。若手を率いて八重子さん(六七)は悲壮な決意で舞台に立ったという。

十代のときから常に主役の座、最近ヒロインを後進にゆずる傾向があるが、「お客様のご希望もあり、昼夜に一役は、やはり主人公に……」(1・6朝日)

*

② 婦運会館理事長

市川房枝さん

「わたしは勲章がきらいだけど、朝日賞は民間の賞だし、いただ

きましよう」市川さん(七九)の受賞の言葉。多年にわたり、婦人の地位向上と有権者の政治教育に尽くした功績で。

大正八年、二十代半はでわが

国初の婦人参政権運動の組織づくりに飛び込む。女が政治に参加できないくやしさに、幾夜も泣きながら六法全書をめくった。敗戦でやっと婦人参政権が認められてから、それを十分活用

できるようにと、婦人有権者の政治教育を手がけ、さらに理想選挙運動を起こした。

一昨年の参院選に敗れてからはかえって忙しく、全国をとり回す毎日。その若々しさを支えているのは、女性解放を求め続ける情熱と「女が政治を変えろのだ」という気迫。(1・8朝日)

芥川賞に二人の主婦作家

山本道子氏と郷 静子氏

第六十八回(四十七年下期)

芥川賞は、山本氏の「ベティさ

んの庭」と、郷氏の「れくいえむ」に決定。

二人とも二児のいる主婦作家。女性二人が同時に芥川賞を受賞するのは、今度が初めて。

(1・19サンケイほか)

第七回吉川英治文化賞

宮城まり子さんに

静岡県に身体障害児の養護施設「ねむの木学園」を創立して五年余。身障者への国の福祉の必要性や職員の待遇改善を訴え続けている。(3・3毎日)

第二回森田たまバイオニア賞

有吉佐和子さんに

各界のバイオニアとしてすぐれた女性への賞。

(3・14毎日)

第十三回田村俊子賞

高橋たか子さんに

対象作品は『空の果てまで』

(3・30毎日)

第八回モービル児童文化賞

おもちゃ絵研究家のアン・ヘ

リングさん(東京・杉並区在住)が受賞。日本の児童文学の翻訳や海外への紹介、英米児童文学のわが国への紹介などにも貢献した功績による。(4・23毎日)

石牟礼道子さんに

マグサイサイ賞

水俣病の現実をルポした『苦海浄土』の著者、石牟礼道子さん(四六)に、一九七三年度マグサイサイ賞(報道・文学・創造的伝達芸術部門)決定。

(8・12読売)

*

石牟礼道子さん

有機水銀の恐怖を報告

フィリピンで最も権威ある国際賞ラモン・マグサイサイ賞の七三年度授賞式は、三十一日午後五時半からマニラ市で開かれ、ジャーナリズム・文芸部門の石牟礼道子さんのほか、フィリピン、マレーシア、タイの各国からの五人と一団体に、記念メダルと賞金一万ドルが贈られた。

(9・1朝日)

第十六回婦人公論女流新人賞

稲葉真弓さんに

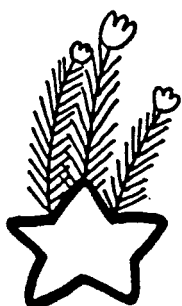
『蒼い影の傷みを』で受賞。

稲葉さんは愛知県津島市出身の二十三歳。(8・21毎日)

キワニス社会公益賞

天羽道子さんに

国際的な組織を持つ社会奉仕団体キワニス・クラブは、昭和四十一年から、民間の地味な功労者に社会公益賞を贈っている



が、第八回、四十八年度の受賞者は天羽道子さん(四六)に決定。表彰状と金一封三十万円、記念品が贈られる。

天羽さんは、社会福祉法人ベテスタ奉仕女母の家へいずみの家の奉仕女として、精神病や知能の低い売春婦の更生に、十五年間献身してきた。(8・31朝日)

第十二回女流文学賞は

幸田 文さんに

五日の選考委員会、幸田文氏の『闘』(新潮社刊)に決定。(9・6朝日)

対がん運動で表彰

渡部里子さん

渡部さんは、徳島県麻植郡にある人口八千人ほどの川島町で、町の厚生課に保健婦として採用されてから十六年、小柄なからで、町の人たちの健康を守ってきた。

特に、がん対策に力を注ぎ、

地元のいろいろな会合や組織を通して定期検診の必要性を、スライドや映写機を利用しながらできるだけわかりやすく説得。

むずかしい話の合間には、民謡の手踊りを指導したり、若い主婦には手芸やおしゃれの話を織りまぜるなどして、何とか町の人たちに納得してもらおうという工夫を重ね、PRに努めてきた。おかげで検診が徹底し、これまでに三人のがん患者が早期発見され、助かっている。その他、医療制度の合理化にも熱意を注ぐなど、地道な努力が実ったもの。(9・29朝日)

第二回全国短歌大会

朝日賞は伊藤千代子さん
たかぶれるデモの中にて

意外にも

覚えていたりと

吾娘(あこ)は寂しむ

四十六年五月から、五島美代

子さんについて勉強しはじめたばかり。満二年目の作で入賞した。

作品は月に約二十首。人前に出せると思うのは半分程度と言う。月一回の勉強会と月に一度の歌会には欠かさない。(10・7朝日)

第三回モービル音楽賞

邦楽部門に菊原邦子さん

野川流三味線組歌、地うた、
箏曲の伝承者として活躍している
大阪音楽短大教授。(10・12朝日)

〔訃報〕

徳永 恕さん 十一日 肺性心
不全のため死去、八十五歳。
明治四十二年、新宿の私立二

葉幼稚園の職員(のち園長)に就
任以来、保育・福祉事業に活躍。
昭和二十九年、名誉都民、昭

和三十七年度には朝日賞(社会
奉仕)を受賞。(1・11朝日)

大橋 広さん 二十日 午前零

時半、肺炎のため。九十歳。

明治三十九年、日本女子大を
卒業後、同校で生物学を教え、
昭和二十二年から三十一年まで
学長。三十年、大学婦人協会の
女性文化賞。(2・21朝日)

パール・バック女史 六日、ア
メリカ・バーモント州ダンビー
で死去。八十歳。

代表作として日本でも親しま
れた『大地』『息子たち』など。
一九三二年にピューリッツァー賞を、
一九三八年にノーベル文学賞を
受賞。(3・7各紙)

吉屋信子さん 作家。十一日、
直腸がんのため、七十七歳。

明治二十九年、新潟県生まれ。
大正八年、大阪朝日新聞の懸賞
小説募集で『地の果てまで』が
一等入選、翌年、同じく朝日新
聞に『海の極みまで』を発表し
て文壇に。以後、少女雑誌の花

形的存在。晩年は日本女性史に
深い関心を持ち、歴史小説『徳

川の婦人たち』『女人平家』を
完成し、なお創作への意欲を燃
やしていた。(7・11朝日)

恩田和子さん 元・全関西婦人
連合会理事長。心不全のため二
十日死去。七十九歳。

大正二年日本女子大卒、大阪
朝日新聞社記者として活躍。大
正八年、北陸・東海地方以西の
婦人運動を結果して婦人会関西
連合会を組織、婦人の選挙権獲
得運動などに取り組んだ人。(7・29朝日)

東 佐蒼子さん 元 日本女子
大教授。老衰のため一日死去。

大正十三年、日本政府派遣の
留学生として渡仏、フランス料
理の草分けの一人。『世界の馬
鈴薯料理集』『世界人はいかに
食べつつあるか』などの著書が
ある。(8・4朝日)

小林美代子さん 作家。十二月

十八日ごろ、睡眠薬で自殺。

遺書によると、高血圧で創作活動が思うようにはかどらないのを苦にして。

四年間ぐらい精神病院に入院していたことがあるが、その間の体験をもとに小説『髪の花』を書き、第十四回『群像』文学新人賞受賞。(9・3朝日)

清水静子さん(本名志つ) 浅草オペラのプリマ。十一日未明、老衰のため、八十歳で。

日本オペラの草分け・故清水金太郎氏(シミキン)夫人。大正の初めから昭和にかけて、三浦環・田谷力三さんらと帝劇や浅草・金龍館の舞台に彩りを添えてきた。数多い当たり役の中で、わが国初演のカルメン役はオペラファンの語り草に。

(9・12読売)

小泉よねさん 成田空港の建設に反対し続けてきた成田市三里

塚の農婦。十七日、すい臓がんで、六十六歳。

強制収用後も、公団が収用し忘れた高速道路わきの畑地約十アールで麦とサツマイモを作り続けた。「死んだら滑走路に埋めてくれ」が口ぐせだった。

(12・18朝日)

浪花千栄子さん 女優。二十一日、消化管出血で、六十六歳。テレビに舞台に「なにわ女」を演じてファンを笑わせ、泣かせた。

(12・24朝日)

草薙紀子さん 不治の心臓病と闘いながら七年前「限りある日を愛に生きて」など二冊の闘病記録を出した主婦。三十二歳。三十七年の手術で「あと十年の命」と宣告を受けたが、文通で知り合った夫と結ばれ二児をもうけ、同じ病に苦しむ人たちの「希望」となっていた。

(12・24朝日)

本

『日本の女 激動期の女人群像』

佐藤隆夫編

戦前、女は生まれたときから「戸主と娘」という管理関係に組み入れられ、「結婚」によって夫に従属し、「姑と嫁」「相続と跡とり」という「家」のワクにはめられて人間らしい面を押しつぶされ、戦後も「老後」の不安は解消していない。

本書は、新旧両家族法の下で生きぬいた家庭人の体験記二十二編を通して、苦しみ悩んできた激動期の女性像を率直に写真し出そうとしたもの。

(東出版) 東京都千代田区猿樂町一五一三 五八〇円

(1・4朝日)

みんなで作る教育雑誌

『ひと』創刊 遠山 啓ほか編集
編集会議を公開制にして、だれでも編集に参加でき、読者が書きたいことを書く、素人が創る雑誌こんな新しい試みの月刊教育誌『ひと』が創刊された。

発起人は、算数の水道方式で知られる遠山 啓さん等五人。

「もう、教育学者や教師が難解な仲間言葉で教育を論じ合う時期ではない。母親が子どもの教育の主人公として発言できるようにならなければ」と、この雑誌への母親たちの参加を願っている。

(太郎次郎社) 東京都文京区本郷三十一一(一) 1・16朝日

アイヌに半生を捧げた

帰化英人マンローの業績

桑原千代子著

昭和の初めから戦時中にかけて、北海道でアイヌの結核治療や生活改善に不遇な半生を捧げたN・G・マンロー（一八六三—一九四二）の伝記が近く刊行される。著者は埼玉県に住む四十九歳の主婦。（1・22朝日）

金子ふみ子獄中記

『何が私をこうさせたか』

朝鮮人アナキスト朴烈とともに捕らえられた、同志であり妻でもある金子ふみ子の獄中記。幼時から貧困と家庭的不幸の極限をなめつくしながら、社会に目を開いてゆく魂の記録。

（黒色戦線社 二〇〇〇円）

（2・19朝日）

老人雑誌「年輪」創刊

四主婦一年がかりの努力で

「老人向けの本がほしい」と

いう一主婦の投書がもとで、創刊にこぎつけた。隔月刊。

四人の主婦が、へそくりを出

してでも、とハラを握え、女の意地で仕事を軌道にのせた。半くろうとが一人、あとは素人ばかり。A5判68ページ。

創刊号は三千部、定価二百円、送料七十円。（東京都目黒区中目黒三三三二〇 木戸ロテルさん）（2・25朝日）

『ユーモアの鎖国』

石垣りんさんのエッセー集

表題作「ユーモアの鎖国」はか五十七編の随筆と、二十代初期の創作二編。

大正九年生まれ、高等小学校卒業後、日本興業銀行に就職。

「いまもお茶くみです」と笑う、そのさりげない言葉の中に、したたかな生活者の顔がのぞく詩人のひたむきな人生がおのずと浮かび上がってくる。（北洋社 八八〇円）（2・28サンケイ）

『女性の適職』

仕事とわたし

樋口恵子編

婦人の雇用者数は全雇用者数の三分の一、千百万人。職場での地位と給与は、男子に比べて一般に低い。男中心の社会的偏見を乗り越えて活躍している二十二人の「仕事とわたし」の手記をまとめたもの。（啓隆閣 六五〇円）（3・19朝日）

『流民の都』 石牟礼道子著

水俣病裁判で患者側は勝った。

著者が執筆や講演で訴え続けてきたものを集めたこの本は、告発調ではない。チッソの悪口も見当たらず、むしろ患者と話し合うチッソの社長に同情さえ。支援者たちが絶叫しても笑みを浮かべる患者たち。神々しくさえ思われる怨念を、熊本弁で語りかける。

（大和書房 一二〇〇円）

（3・26毎日）

『道 母たち』

明治・大正・昭和を生きる

草の実会編

母の思い出を綴った「母を語る」、自分自身のことを書いた「母として」、そして子捨て・子殺しなどから「母を考える」の三部から成る。

母の日を前に「母とは何か」を見つめなおす三十一編。

（東京都小平市美園町三七九 浜田さち子気付 二七〇円）

（5・12朝日）

主婦カメラマン 船越恵さんの

『日本の老人たち』

約百八十枚の写真に、老人からの聞き書きなどをつけ、さまざまなひとり暮らしの老人の実態を知らせている。

東北・都市・広島・筑豊の四章に分かれ、中心は都市に住む孤老の実態。具体例も多い。

船越さん（四六）が約五年間実態を追って撮り続けてきたも

の。今ではボランティアや会合にも打ち込んでゐる。

「国や自治体がやってくれるのはほんのわずか。地域の人たちが声をかけなければ。子どもは、小さいときから社会との連帯感をもつように育てたい」と訴える。A.5判・二〇四ページ。

（創樹社 九八〇円）
（7・12朝日）

『情熱の人・高群逸枝』

自由おんな論争

秋山 清 著

三十五年の長いあいだ、女性史の研究に打ち込み、巨大な足跡をのこした学者としての高群逸枝、その情熱に共感をもって書かれている。

学者・詩人・思想家であつた高群は、また論争の名手でもあつたが、その論争の焦点は、おんなの特殊性であつた。平等の上になお特殊性を承認し、それを生かすために形づくる社会、

目ざす意識、これを婦人意識の定義としたのである。女として人間として、いかに生きるかを考えるとき、衝撃的評論である。

（思想の科学社 九〇〇円）
（7・24朝日）

『女ひとりの生き方』

渡辺 圭 著

男性本位の社会で、女が主体性を持ち、愛と仕事を両立させて生きるには、どうすべきか。

「女だから」「女のくせに」といった観念から抜け出して、

プロ意識をもち、テレビリポーターとしての体験を生かしているいろいろな人に接し、さまざまな出来事に直面した思い出など、おもしろい。（主婦と生活社 四八〇円）
（7・24朝日）

『長崎に生きる』

―被爆乙女の手記

渡辺千恵子 著

女学校在学中に、動員先で被

爆。せきつい骨折で下半身不随となつた人が、床の上で一年がかりで書き上げた。青春を原爆に奪われた乙女の叫び。

原水禁運動に参加したのがきっかけで、「被爆体験の口を閉ざすことは原爆を許すこと。義務として書き続けた」

（8・3朝日）

『告げる明日』

―生き死にの手ごたえ求めて

グループ闘うおんな 編

「リブ？ あいつら、男にもてないからさ」と言われながら、

「現代の社会は 女たちにとつてエタイの知れぬ巨大な軟体動物でもあるのか、私はどの道を歩こうとしているのか、皆目見当がつかない。が、生き死にの手応え感覚のカンだけは見失いたくない」女たちの記録。

（連絡先〓東京都渋谷区代々木 四一二八―四一〇）
（8・18朝日）

『廃娼ひとすじ』

―久布白落実さんの自伝

著者は明治・大正・昭和と八十九年の生涯をへ日本キリスト教婦人矯風会を基盤に、廃娼運動と婦人参政権運動に捧げつくした人。戦前の日本婦人の無権利状態の貴重な証言を含み、著者の周辺の人々の得がたい横顔を伝えている。（中央公論社 一〇〇〇円）（8・20朝日）

『日本の母たち』

三枝佐枝子 著

水上 勉、貴ノ花、田中角栄、美空ひばり、その他各方面で活躍している人たちの母親に会い、今日を築くまでの育て方や、母としての心がまえをたずねた会見記二十八編。（中央公論社 六八〇円）（8・27朝日）

『娘たちのつづつた』

農村の母の歴史

千葉県の農村中堅青年養成所

六八〇円) (11・24朝日)

男性支配の根源をつく

に学んだ娘たちの記録。自分の母親のたどってきた生活をつづった三十五編と、詩と歌二十九編。(たいまつ社 八八〇円)

(10・20朝日)

『ある女の歴史』

現代女性史研究会 編

『女工哀史』の著者、故細井和喜蔵氏の妻で、共著者でもあった高井としをさん(七〇)の一生。岐阜市や愛知県の紡績工場の若い女子工員やOBたちの勉強会へ現代女性史研究会の手でまとめられた。(大津市瀬田橋本町つくし保育園内 福田ひとみ方) (10・24朝日)

『女の人生をイキイキ楽しむ』

十二のおはなし

大養智子 著

「恋のかげひきにつよくなること」「レディーであるように見せること」「主婦脱出につとめること」等。(じゃこめてい出版)

ケイト・ミレットが一九七〇

年にアメリカで発表するや一躍ベストセラー、現代ウーマンリ

ブの聖書とまで言われるようになった『性の政治学』が、藤村

滯子さんほかの手で完訳された。

(自由国民社 二一〇〇円)

(12・3朝日)

川喜多かしこさんの選択眼

『映画ひとすじに』

戦前の『制服の処女』『未完

成交響曲』戦後の『禁じられた

遊び』『第三の男』など、思い

出の名画の多くが、川喜多かし

こさんの選択眼で輸入された。

一人の若いすぐれた女性の選

択眼が、戦前戦後の日本の洋画の歴史を作っていたその記録。

(講談社 九八〇円)

(12・10朝日)

繁栄のかげに

『子捨て』

養女になって渡米

四十五年五月二十七日夜、横

須賀市衣笠のアパートにひとり

残されていた生後一か月ぐらい

の赤ちゃんは、小川ゆかりちゃ

んと名づけられ、四月にはアメ

リカ人の養女になって日本を去

る。その前に一度だけでもお母

さんにと、横浜市の養護施設中

里学園で呼びかけている。

(1・19朝日)

六人を捨て子

十四日夕方、東京・新宿のデ

パートに四人の幼児。「妻が家

出して、私一人では……。よろ

しく」という父親の手紙を持っ

ており、自宅にはさらに二人の

幼児が何も知らず置き去りにさ

れていた。捨てた父、家出の母、

今どこで何を。(2・15朝日)

*

父親は十五日未明、国電大久

保駅近くで行き倒れていた。肺

結核の疑いあり重体。母親は、

倉敷市の食堂で働いていること

がわかった。(2・15朝日)

だんらん、つかの間

母親は再び蒸発

蒸発した母親をさがし求め、

父親に連れられて幼い姉弟が大

阪から上京、やっとめぐり会え

たが、母親は再び蒸発。疲れた

父親は二十三日、ガス自殺した。

(8・12朝日)

理の父親にせっかんされて死んだ。

(2・18朝日)

〔子殺し〕

また、せっかん殺人

十九日午後、千葉県柏市で若い後妻が、五歳になる先妻の子を。

(2・20朝日)

三歳の長男を防火用水に
容疑者は静岡県天竜市の工員

の妻(二八)。精神異常で入院をくり返しており、発作的に投げ込んだらしい。

(1・27朝日)

えい児の死体発見

渋谷駅のコインロッカーに男児の死体。

(2・6朝日)

くず箱にえい児の死体

東京・浅草駅構内の婦人便所のくず箱に、紙袋に入れられた生後四、五時間の女の赤ちゃん。

(2・7朝日)

せっかんされて死ぬ

東京・北区、トルコぶろ従業員の女性の長男(二歳)が、義

四歳児、そそうして

千葉県・船橋に住む四歳の坊やが、三十五歳の継母にせっかんされ、頭部打撲、頭部内出血で死んだ。

(2・24朝日)

十七歳ママ「殺人」

スウィーツの店の中から、死後約二十日、ミイラ化した女の赤ちゃん。

(3・4毎日)

昔の男に似ていたため……

東京・葛飾区の二十五歳の女性が赤ちゃんを川へ。生まれた赤ん坊が、以前交際していた男性に似ていたため、思いあまって投げ捨てた。(3・7毎日)

東京・千代田区のカミバケツに

寒い朝、はだかの赤ちゃんが捨てられていた。生後二十四時間以内と見られたが、幸いに生命は助かった。(3・8朝日)

女子学生寮のゴミ箱に

東京・北区にある東洋女子短大学生寮で、管理人が赤ちゃんの死体を発見。生後一週間ぐらいの女の子。(3・9毎日)

*

十九歳の短大生逮捕

東洋女子短大の学生寮に捨てられていた赤ちゃんの母親が逮捕された。(3・10毎日)

紙袋に赤ちゃんの死体

東京・西武デパートの三階売り場に捨てられていた。生後一日ぐらいの男の赤ちゃん。

(3・13毎日)

コインロッカーに赤ちゃん

バラバラ事件のあった大阪駅

のコインロッカーから、今度は、

タオルにくるまれ、ビニール袋に入れられている赤ちゃんの死体を発見。死後約一か月。

(3・26毎日)

養子先でせっかんされ、死ぬ

稚内。五歳の一也ちゃん父親は、出稼ぎに行ったまま行方不明。母親は父親の実家に一也ちゃんを預けて別れた。

年寄りでは育てられず、知人に預けて養子にしたのが……。

(3・30毎日)

コインロッカーに

東京・国電錦糸町駅生まればかりの女の赤ちゃんの死体が見つかった。

(4・18朝日)

産み落として紙袋に

十九歳のホステスが自室の洗面所で産んだが、赤ちゃんは死亡。「誰の子なのか、わからな

い」と母親。(4・18朝日)

八王子の西武デパートで

四階婦人用トイレの用具入れから、生後四、五日の女の赤ちゃんの死体。(4・21朝日)

大阪駅のコインロッカーから

生まれたばかりの男の子の死体。同駅で今年三件目。(5・6朝日)

こんどは上野駅で

上野駅の時効品倉庫から、死後約四か月、生後二十日ぐらいの男の赤ちゃんの死体が発見された。(5・7朝日)

中学生が産み捨て

福井の中学生。自宅で産み落とした女の子を、処置に困って山中に捨てた。

この中学生はじん臓が悪く、本人も家族も、病気によるムクミと思ひ込み、妊娠に気づいて

いなかった。(5・8朝日)

冷蔵庫に赤ちゃんの死体

東池袋のサパークラブで歌っていた女性が預けて行ったもの。死後約五か月、ミイラ状になっていた。(5・14朝日)

*

流産したが、かわいくて

冷蔵庫に入れられていた赤ちゃんの母親(二三) 見つかる。(5・17朝日)

赤ちゃんが餓死

東京・江戸川のアパートで、一歳の女児。ミルクをあまり飲まなくなり、栄養剤を与えていた。そのうちに元気になると思っていた、という。子ども七人の生活苦か。(5・22朝日)

暗い出産 十八歳の女子工員

東京・目黒区にある会社の女子寮の便所で、検査工が出産。泣く赤ん坊の口をふさいでいる

うちに死んだらしい。二人部屋だが、周囲の誰も妊娠に気づいていなかった。(5・25朝日)

死産の子を物置に

母親が自首
横浜のAさん宅に下宿していたホステス(二一)が、六月十二日に産んだ赤ちゃんが死産で、処置に困り物置に隠しておいたと自首。(7・2朝日)

東京駅のコインロッカーに
新生児(男児)の死体が見つかった。(7・13朝日)

赤ちゃんの受難 果てず
またコインロッカーから、男の赤ちゃんの死体が発見された。へその緒がついたまま、ブルーのふろしきに包んであった。

さらに、東京・練馬区の路上で、買い物袋の中から、生後間もない女の赤ちゃん。発見が早かったので、生命はとりとめた。

現場は住宅地区内のゴミ収集場所。(7・19朝日)

東京・秋川のサマーランドに

地下にある女子更衣室のコインロッカーから、えい児の死体。(7・23朝日)

新宿駅のコインロッカーで

死後五、六日目のえい児の死体が発見。(7・27朝日)

カバンの中に乳児の死体

静岡県 の国道わきに、生後七、八か月の男児。死後十日ぐらい。(8・20朝日)

父親がわかると困る……

東京・池袋で、殺した赤ん坊を入れた袋を捨てたが、勤め先のバーのマッチから、二十三歳のホステス逮捕。(8・21朝日)

脳性マヒを悲しみ、父親が

職場から持ち出した青酸カリ

で一歳の長女を殺し、自分も自殺するつもりだったらしい。わびを書いた遺書を持っていた父親を京都で逮捕。(8・21朝日)

産んだ双生児を殺す

生活苦の元ホステス

父親がわからない上、生活が苦しく、生まれた双生児をフトンむしにして殺した元ホステスが、二十八日、深川署に逮捕された。(8・29朝日)

上野駅のコインロッカーに

死後約二十日の男の赤ちゃんの死体。(9・8朝日)

池袋駅のコインロッカーに

生後間もない男児の死体。今月四日に入れたらしい。(10・12朝日)

自宅の裏庭に二年間

当時五歳の早苗ちゃんは、そそうをしたためせっかんされて

死亡し、裏庭に埋められていた。静岡県小田原の夫婦が自首。(10・15朝日)

夜泣きでノイローゼの母が

東京・渋谷の1DKの公団住宅で会社員の妻(二四)が、一歳の女児を絞殺。(10・21朝日)

赤ちゃんを切りつけて

東京・新宿の日赤産院のトイレに、生後約三時間の女の赤ちゃんが、刃物で首や胸などを切りつけられて捨てられていた。(10・26朝日)

育児ノイローゼの母親が

東京・一歳四か月の長男を絞め殺す。生活苦もあったらしい。(11・10朝日)

生きたままカバン詰め

若い母親(二二)が愛人と折り合いが悪くなり、五月十五日、四歳の娘をカバン詰めにして秩

父の山の中に。(11・17朝日)

教育ノイローゼで無理心中

神奈川県逗子で、七歳の子の教育をめぐるノイローゼ気味の母親(三九)が発作的に殺したらしい。(11・22朝日)

先妻の子をいじめ殺し、

実子と心中を図る

横浜で先妻の子を殺したあと、実子と心中を図ったが、助かった。(11・24朝日)

灯油かけてわが子を殺す

千葉県柏市で、離婚を望んでいた母親が「デカイことをすれば別れてくれる」と思い、寝ているわが子のフトンの上に二リットルの灯油をかけて火をつけた。家は全焼。(12・28朝日)

〔世相〕

フランスで行き倒れ

昨年十二月十九日、ルアーブル市の歩道に、二十五歳ぐらいの日本女性が無言でズブぬれになって倒れていた。

ボツボツ日本語を話したしたが、記憶を喪失し、身元を確認できるものが何ひとつないという。(1・5サンケイ)

*

パリから送られて来た写真によって、鎌倉市のNさん(二二)と確認。昨秋、家族の反対を押し切って単身渡欧したという。記憶喪失の理由は不明。(1・6サンケイ)

作業中の主婦五人が下敷き

アルバイトの工事現場で九日、新潟県刈羽郡の県道拡張工事現場で作業中、崩れ落ち



たブロックの下敷きになり、二人が死亡。五人とも出稼ぎ農家の留守をあずかる主婦たち。

(1・9 毎日)

共かせぎの両親不在

二歳の坊や餓死

十二日朝、東京・世田谷の都営住宅で、祖母と孫の二人が死んでいた。死後一週間ぐらい。

祖母は病死、孫は飢えと寒さで死んだらしい。

共かせぎの夫婦が、子どもを祖母に預けっぱなしにしていたための悲劇。(1・12朝日)

孤独の死

八十日間訪れる人もなく

兵庫県尼崎市でひとりぐらしの炊事婦(四一)。「それにしても職場の人たちは」と、警察官も啞然。(2・6朝日)

また沖縄で殺人

コザ市に住むホステス崎間ト

シさん(四三)が、自宅の洋服ダンスの中で首を絞められて殺されていた。(3・9 毎日)

母さんも死んだ

青森県から出稼ぎ中

東京のビニール工場で五十九歳の女性が荷積み作業中、リフトの間にはさまれ胸を打って死亡。夫も一昨年、出稼ぎ先の栃木県で死亡した。(4・3朝日)

老人を死後一週間目に発見

東京・葛飾のアパートでひとりぐらしの男性(六七)。ガスの集金人が発見。(4・4朝日)

昔の教え子に乱暴

長野で中学教師(三七)が教え子をドライブに誘い、家に送る途中「社会探訪」と称しモデルに連れ込んで。(4・11朝日)

校庭開放、また裏目

十七日午後三時ごろ東京・成

城の小学校で少年野球を見ていた二人の女子中学生に先生ふうの男が近づき、「本を運ぶので手伝ってほしい」と言って図書館に連れ込み、カーテンを引き裂いた紐で手足をしばり、いたずらした。(6・19朝日)

病気の夫を毒殺

勤め先の愛人と共謀

群馬県桐生市内で愛人関係の男と共謀、病気で寝たきりの夫に毒薬を注射して殺しながらとばけていた人妻(二五)が、十二日、男とともに桐生署に逮捕された。(8・23朝日)

大金詐取し逃亡の元銀行員

別の男に頼って生活

滋賀銀行から四億八千万円を詐取して逃亡していた奥村彰子(四二)は、大阪市内のアパートにひそんでいたところを二十一日、滋賀県警の捜査員が逮捕。

〔福祉の貧困〕

福祉の春遠し広島で

脳性マヒの息子と心中

ほとんど動くこともできない三十八歳の息子を抱え、失対作業員として働き続けてきた母親は、七十歳を超え、子に寄りそうようにしてガスのせんを。

この日「福祉の向上を柱にした」という新年度予算原案を大蔵省が内示。(1・9朝日)

福祉の谷間で老女二人……

十五日夜、大阪市の真ん中で、死後二、三日の八十一歳の老女が見つかった。そばに七十五歳の妹が、衰弱して放心状態で座りこんでいた。身寄りもない二人は生活保護だけを頼りに、ガスも電気もとめられたまま寒い部屋で暮らしていた。

(1・16朝日)

(10・22朝日)

死んだ老姉のそばで一週間

二十六日、埼玉県で、七十六歳の老女が衰弱死。六十六歳の妹は姉の死をだれにも知らせず、一週間近くも遺体のそばに。身寄りのない二人は近所づきあいがない、生活保護さえこばみ続けていた。(1・27朝日)

死後一週間に発見

そばに知恵おくれの娘

東京・板橋区に住む広田伝吉さん(七六)は、知恵おくれの娘さん(四七)と二人ぐらし。

生活保護を受けていたが、寝たり起きたりの状態だった。死因は脳軟化症らしい。

(5・8朝日)

「ボランティア」

「オムツ一万枚」運動

静岡市の婦人グループ

静岡市三番町小学校と婦人会

の会員五百六十人は、福祉施設を慰問してオムツが貴重品であることを知り、この運動を推進、古くなったシーツやゆかたからすでに六千枚以上作った。

「あとひととき。わたしたち、特別なことをしているわけでも」と、会長・柴山すず子さん。(2・13朝日)

ボランティア族が急増

自由な立場で余暇活動

ボランティアへの参加者がここの二、三年急に増え始めた。

たとえば、東京・東村山市の重症心身障害児施設「秋津療育園」の場合、奉仕に訪れる人の数は、昭和四十五年度は五八〇人、四十六年度は一六九〇人、四十七年度は二二九〇人、四十八年度は、八月までで一〇四〇人。

マスコミで身障児問題が取り上げられるたびに、奉仕の群れがどっと押し寄せるが、掃除やオムツ整理などはお気に召さず、

子どもの世話をしたがる。そして、土曜日曜や夏休みにはめっきり減る。

「余暇が増え、生活に充実感を求める気持ちから、社会的な広がりのある行動に引かれるようになった。ボランティアは、その一番手ごろな目標」と、日本女子大講師・吉沢英子さん。

「富士新報福祉事業団」の枝見静樹理事長は「日本のボランティア人口は少ない。動機は一種のレジャー意識でも、この面に目を向ける人が増えるだけでも嬉しい」

(8・28朝日)

広がるボランティア活動

余暇を生かしてボランティア活動という人が増え、東京都やYWCAでは、援助や相談・啓発に当たっている。

ボランティア活動は「暮らしに余裕のある奥様の慈善」といった特別のイメージでなく

「普通の市民が隣人のために役立とうとする当たり前のこと」と受け取られるようになり、YWCAボランティアビューローへの登録者も、中学生から老人まで。しかし日本の場合、まだ地域に密着せず、施設中心。「今後は隣人愛に基づいたコミュニケーションケアの方向に」と同所の前田ケイさん。(10・4毎日)

「公害・薬害」

◆水俣病

十歳の少女が首相に直訴状

「水俣病を起こしたチッソのような悪い会社をつくらないう下さい。大人はどうしてこんな悪いことをするのでしょうか」

熊本県、水俣病患者の木下レイ子さん(三八)の長女真由美ちゃん(一〇)が十二日、不治の病にかかった母親や親類の苦

しみを訴えて、田中首相に「直訴状」を郵送した。

(2・13朝日ほか)

「チツソに全面責任」と判決

―患者側勝訴

提訴から三年九か月、患者発生から実に十七年ぶりの判決。

斎藤次郎裁判長は「いかなる工場といえども、その生産活動を通じて環境を汚染・破壊してはならず、いわんや地域住民の生命・健康を侵害し、犠牲にすることは許されない」と、総額九億三千万円の支払いを命じた。

(3・20各紙)

ユージン・スミス写真展

「水俣」生―その神聖と冒瀆

二年間水俣に滞在して取材した作品二百点を展示。朝日新聞社主催。

(4・9朝日)

◆ カネミ油症事件

死者に二万円だけ

手足がしびれ目がかすんで動けない患者たちが、無理をして失対労働でかせいでいる。国で生活費の面倒をみてほしい、と代表が斎藤厚生大臣に陳情。

(3・1読売)

◆ サリドマイド禍

予測できた禍

回収一年前に異常発見

広島市で開催の日本公衆衛生学会最終日の十四日、東大医療問題研究会の高橋暁正同大講師らは、これが問題になる以前に、都立築地産院で、サリドマイドを飲んだ妊婦三人が奇形児を妊娠して以来、妊娠初期のサリドマイド服用を中止した事実などを挙げ、危険性は十分予測できた、とする研究結果を発表した。

(10・15朝日)

ティエルシュ証言始まる

「販売前にわかってた」

十七日、東京地裁民事部園田治 裁判長の法廷で争われている同訴訟の第五十一回口頭弁論で、臨床薬理学の世界的権威、米国ワシントン州立大学のJ・B・ティエルシュ教授(六三)が原告側申請の鑑定証人として、薬物による奇形発生について、開発以前の教授自身の研究状況などを証言。

(10・17朝日)

〔戦争のきずあと〕

都内の原爆被爆者

今も息切れ・耳鳴り・頭痛

都の原爆被害者団体協議会世田谷同友会がまとめた被爆者の実態調査中間報告によると、都内の原爆被害者は八千二百人で、七百五十人が世田谷に住んでいるが、七割が不調を訴えている。

(5・27朝日)

反戦通信「たんば」八年目

八王子の会社員夫妻

会社員秋富繁夫さん(三六)

と妻の洋子さん(二九)が夫婦だけで発行してきた個人雑誌「たんば通信」はすでに八年目、四十号。八歳のとき八王子市で空襲に遭った繁夫さんの戦争体験は、焼け跡と空腹と貧乏ではないが、二度と戦争をしてはならないと思って始めた。

七〇年には「安保反対特集」で百十人からアンケートをとったりして、自分たちに何ができるかを模索。「挫折も絶望もせず、自分たちの「存在証明」として続けていく」と言う。六八年に長男誕生。仲間も三百人に増えた。

(8・15毎日)

二十八年目の戦争未亡人

のしかかる老後の不安

現在四十一六十歳ぐらいの女性たちは、厳しい戦時中に、青春時代を、あるいは幼児を抱え

海外

て過ごし、いま老齡への入口に。そして、ようやく子どもを育て上げた戦争未亡人は、核家族化の波に洗われている。戦争の影響で「社会的未婚」を余儀なくされた人の中には身寄りのない人もあり、「老人問題」はこの人たちの上に、さらに重くのしかかる。(8・15朝日)

涙で朗読、戦争体験を子らに

豊島区の「母親勉強会」

十六年つづいてゐる東京・豊島区の「母親勉強会」は十八日の総会で「終戦の思い出」をテーマに手記を発表し合った。

当時十九歳だった平井さんは「空襲のたびに病弱の母を背負って逃げ回った。薬もないと、往診にも来てもらえず、終戦の翌日、母は死んだ。わずかなマキを棺と一緒にリヤカーで二時間もかかって火葬場へ。なかなか燃えなかった」こみ上げるおえつで朗読は途切れがち。

勤評闘争の激しかった三十三年、校長と先生が対立、登校をめぐり生徒は迷った。相談されても母親もわからない。主体的に判断できる母親になろう、とスタートした「勉強会」。「二度と悲劇を繰り返さない努力も母親として大切な仕事」

(8・19朝日)

戦争体験語り伝える研究を

「こだまの会」

「体験のない私が戦争のこたさについて子どもたちに話すのに、体験した方はかえっていやがるのはなぜでしょう」戦後派主婦のこの発言をめぐって討論、「お説教調でなく社会問題として正しく伝えるには、言葉として問題をはっきり言えるようにならなければ」と結論。

読売新聞・婦人欄の投稿者グループ「こだまの会」では、作家の郷 静子さんを囲んで、熱心に話し合った。(9・5読売)

〔交流〕

本場の北京で大成功

松山バレエ団

中国で、本場の革命現代舞劇「紅色娘子軍」の猛練習をして、いた松山バレエ団が、十日夜、北京の天橋劇場で、全幕を見事に上演した。本場の舞台で、日本人が主役で演じられたのは初めて。(2・12朝日)

北ベトナムへ婦人訪問団

和平近しと言われながら、なおアメリカの爆撃が続く北ベトナムへ、十四日、支援活動中の日本の婦人訪問団が出発した。

日本婦人団体連合会会長・楠田フキ(七三)、ベトナム母子保健センター設立運動連絡会・医師・松原智恵子(四〇)、北海道平和婦人会・保健婦・中里淑子(四六)の各氏。(2・15読売)

来日の中日友好協会代表团

日本の婦人団体と交歓

二十三日夕方、千代田区の自治労会館で代表团の歓迎婦人集會が開かれた。

市川房枝さんは「きょうの集會を機に、中日両国の婦人の友好と連帯を孫・子の代まで」と歓迎の辞。さらに「中国への侵略は軍部や帝国主義者であったとしても、それを防ぎ得なかった責任を痛感、過ちを二度

と繰り返してはならないと思つ」

つづいて田中寿美子参議院議員は「国交が正常化して初めて迎えた女性メンバーの年代がひとまわり若返っていることが、

嬉しくもあり、感無量でもある中国では女性是完全に解放されているが、日本ではまだ、日々

が婦人解放の闘いの連続」

中国側から、代表団副団長の一人、李素文さんが「両国の国交正常化は両国の人民と女性の利益に合致、同時にアジアの平和に深い意味を持つ。私たちは女性解放は人民解放であることを、体験の中で学んできた」

最後に「両国の女性の交流を深め、さらにアジアと世界の平和樹立という新しい文字を歴史に加えていこう」という決意表明を行なった。(4・25朝日)

「子どもは王様」と

来日北朝鮮婦人代表

日教組の招きで来日している

北朝鮮の朝鮮教育文化職業同盟代表団一行七人中の婦人代表二人が北朝鮮の教育と女性解放について次のように語った。

「現在では、女性も 政治・文化・人民経済の各部門に、男性と平等に進出している。特に多く活躍している分野は、教育

・保健・商業・軽工業など。義務教育の学校では六割が女教師。

義務教育も、世界で初の十一年制となり、教育費は無償。

女性は結婚後も共働きを続けるので、職場にも地域にも託児所が完備し、男性もよく家事や育児に協力する」(7・15朝日)

「千二百件の男女格差を是正」

NOW国際部議長
女の賃金は男の五八%。アメリカでも女性の地位は低い。

全米に四百七十の支部、七万の会員をもつ元祖ウーマンリブ、全米女性機構(NOW)のパートネット女史が来日。「どこかの会

社でも秘書は全部女だから、情報は集まる。女の方で作らせた政府の平等雇用委員会に働きかけ、格差を是正している。二年後の世界フェミニスト会議には一万人を集め、宇宙中継で世界に流したい」と気焔。

*

(9・29読売)

「日本にNOWの支部を」

来日中のNOW(全米女性機構)の国際部議長、パトリシア・ヒル・バーネットさん(五三)は、世界各地でのNOW支部の組織づくりと世界フェミニスト会議開催(一九七五年の予定)を呼びかけた。

日本での感想「力のある女性がたくさんいるのにそれが力にならず、無数のリブグループも地道な活動をしているがバラバラな感じ」(11・29朝日)

育児は社会全体の責任

米国労働省婦人局長は語る
MS(ミズ)マイミーと名乗る

アメリカ労働省婦人局長が来日。「政府の役人がミズを名乗るのは一般的でないが、勇気を出して試みた。結婚しているかどうか女性の社会的地位のモノサシになる習慣をなくすために」と微笑。

来年度から二年がかりで「勤労婦人の地位と役割」について日本と共同研究するための訪日だが、アメリカの婦人労働の課題は、実質的な女性差別の解消。そのためには「教育・訓練の機会を男性と同じように与える。育児を社会全体の責任と考えて、政府・経営者・労組も責任を分かち合うべき」(9・29読売)

運動施設など完備

うらやましい北欧の女たち

大阪・帝塚山学院短大助教授松本迪子さん(体育学)は、一か月にわたってデンマーク、スウェーデンを回り、運動施設や職場体操の実態を見てきた。両

国とも体操が盛んで、うらやましいほどの施設とその管理。女性には汗を流すことを楽しんでいう。

(10・10朝日)

アジア、アフリカの

政府関係女性、研修に來日

エジプト、韓国、ラオス、マレーシア、バングラデシュ、インドネシア、フィリピン、スリランカ、インドなど、アジア・アフリカ地域の政府機関で働く女性九人が、婦人関係行政セミナー研修員として來日。

日本の婦人団体の代表者と婦人問題を話し合う会を東京・中野で開き、各国が抱えている問題を出し合った。

各国に共通している問題は、

①全体に文盲率が高いが、特に

女性はその比率が高い ②人口

が多いので家族計画を推し進め

ている ③失業者が多い。特に、

教育を受けた女性の就職先がな

い、など。

(12・11朝日)

〔韓国〕

「家族計画教育」を

女子高校生の教科書に

来年度から実施の予定。「大家族主義の弊害」「核家族の増大」「男子の出産を喜ぶ不合理性」「母体保護と健康のための家族計画」の四項目が含まれる。中学校以上になると共学が少なく韓国では、今後さらに高校男子、中学女子、中学男子へと広げる方針。(7・2朝日)

未婚の母が急増

一九六二年、ソウルにキリスト教養子縁組紹介所が設立されたが、ここを訪れる未婚の母がこの数年急激に増えている。

しかし養子を迎えたい希望者が、招かれざる赤ちゃんの数はどは増えず、関係者を戸惑わせている。

ここに來た未婚の母は、一九

七〇年には三八四人だったが、七一年には五五〇人、七二年には六九三人と上昇、その六割が十九歳―二十一歳、ほとんどが地方出身者。(7・21朝日)

産児制限は夫の側で

「出産は女性、産児制限は男性」のスローガンで、避妊に、もっと男性の協力を求めようという決議が、ソウルで開かれた〈全国婦人会〉主催の「家族ゼミナール」で採択された。

最近の調査では、すすんで避妊に協力している夫は二割しかない。韓国は世界でも家族計画に最も成功している国の一つだが、古くから、男の子が生まれるのを非常に歓迎し、男の子が出来るまで避妊をさしひかえる場合がいまだに多いという。

人口増加率は、一九六二年は三%、一九七二年は一・六%と下がった。政府は一九八一年までに一・三%にしようと、長期

的なキャンペーンを実施中。

(9・1朝日)

韓国の婦人労働者

労働人口の三八%に

韓国では近年、外へ働きに出る女性が急増しているが、工場労働者として雇われるケースが特に多く、一九七二年末には三十四万人となり、男性労働者三十六万人に追いつく勢いを見せている。

しかし、現在工場働く女性の平均月収は一万四千七百七十六ウォン(約九千九百円)で、男性の半分以下。(11・8朝日)

〔中国〕

計画出産は男女平等論から

「時代は変わった。男女はみな同じである」―中国全土で、いま計画出産の重要さが訴えられている。

「子が多ければ幸多し」とい

う古い思想をほうっておけば、中国の人口はすぐに八億を超えてしまう。各地で計画出産運動を繰り広げているが、人口約十二万の揚州市では昨年の人口自然増加率が大幅に低下し、〇・四％前後となった。

(1・28朝日)

晩婚の奨励と産児制限で

人口増加率下がる

男性は二十五歳、女性は二十三歳までは結婚しないよう奨励また、さまざまな避妊法も研究され、利用されている。

早婚、大家族一度重なる出産は、婦人の学習・労働から多大の時間と労力をマイナスする、というもの。(3・6毎日)

〔ベトナム〕

戦争の記録を織る

ベトナム中央山地に住むバーナ族の女性は、古くから周辺

に起こる出来事を巧みに布地に織り込むことで知られているが、最近では近代戦争を記録したものが目立ってきた。

彼女らのほとんどは文盲だが、そのデザインは非常に写実的。木綿糸を樹皮や根・草などで染め、約一か月かかって幅九十センチ、長さ五・二メートルの布を仕上げる。(6・6朝日)

〔インドネシア〕

国連主催のセミナーに

アジアから二十か国参加

アジア地域では初めての国連主催のセミナー「婦人の地位と家族計画」が、ジョクジャカルタ市で開かれた。

近ごろ大きな問題になりつつある世界の人口増加と食糧不足を反映して、アジア二十か国の代表が集まり、国連食糧農業機関(FOA)や世界保健機関(WHO)の専門家も出席。

日本からは正式代表が送られず、各国から非難された。(7・10朝日)

男女平等への道遠し

一夫一婦制度の確立へ努力

国会議員総数の中で占める女性議員の割合という点では、インドネシアはアジアで一番進歩的な国かもしれないが、過去二十年間、この国の婦人運動家が一夫一婦制度の確立を目ざして婚姻法改正のため努力を重ねているにもかかわらず、結婚における男女平等への道はけわしい。(10・6朝日)

〔インド〕

インドの高学歴層の男女

一流紙に求婚広告

見合い・婚約・結婚などの手続きはこれまでどおりの慣習に従うが、配偶者の選択範囲を広げるため、大都市で一流紙に広告を出すケースが増えている。広告主はふつう花嫁か花婿の父親。

また過去五年間、仕事のために引越しをする人が急増しており、大家族主義もくずれつつ

〔ネパール〕

エベレストにリブ女性

「日本人と結婚したい」と

セティ・アヤさん(一九)は、

エベレストの南西三十キロにあるシェルバの里、ナムチエバザールに住む。

古い因習が根強い土地で、彼女は階級制度と闘い、日本人と結婚したいという女闘士。自力でお茶屋を始め、外人観光客にチャン(濁酒)やお茶を売り、

暇さえあれば英語と日本語の勉強をしている。彼女の姉は現地で日本人の大工と結婚し、夫の実家の長野県で幸せにくらしていると。(11・13朝日)

ある。(7・24朝日)

「バキスタン」

悲惨なバキスタン捕虜の妻

一昨年の印パ戦争の結果、現在九万三千人がインドに捕虜として抑留されているが、厳しい回教の戒律のため、夫のいない妻たちは隣人から無視され、友人から電話もなく、喪に服する未亡人のように自宅に引きこもっている。

貧しい階級や農村社会での捕虜の妻の生活は悲惨で、子どもをかかえた母親のつらさは言語に絶するという。(8・14朝日)

「オーストラリア」

のどかな国にも 痴漢続出

警察当局が先ごろ発表した統計によると、痴漢の届け出件数は、一九六五年からの五年間に六二％も増加している。

その自衛策として、次の点を守るよう呼びかけている。例えば、独身者や女だけの世帯は、そのことを他人にしゃべらない。

ドアには必ずクサリをかける。

数分間の外出でもカギをかけ、必要な番犬を飼う。地下に共同洗たく場がある場合など、夜一人での使用は絶対に避ける、など。(3・13朝日)

女性議員、上院にたった一人

マーガレット・ウィットラム夫人は、昨年十二月首相官邸に入るやいなや「酒とタバコを許すなら大麻だっていいはず」「妊娠中絶は合法化すべし、産む・産まないは本人が決めるべき、夫もこれに賛成する」などと言っていた。

オーストラリアは下院には婦人議員がゼロ。かろうじて一人、上院にいる女性議員に労働党リブの女性闘士たちの期待の目が集まっている。(5・7朝日)

「ニュージーランド」

「離婚は考え直せ」

ーだが、和解は六分の一
ニュージーランドでは、離婚の法的裁決を求める前に、結婚指導官による努力が法律で求められている。

離婚を希望する二人は、まず一人ずつ、次には二人一緒に指導官に会い、和解を試みなければならぬ。いくら長く続いても無料だが、和解に至るのは六分の一という。(11・10朝日)

「イスラエル」

リブ運動 ようやく活発化

女性首相ゴルダ・メイヤが活躍する国。しかし大臣や次官などの高官には、女性ゼロ。重要な委員会の委員長や市長に選出された女性もこれまで皆無。

このごろの集会やデモの中身

は「美人コンテスト反対」「墮胎罪の撤廃」「古い宗教戒律にもとづいた婚姻法の改正」など。

また、この国のウーマンリブ運動家が、現在、性差別として挙げているものには、女性の平均年収が男性の四二％一六七％しかないこと、などがある。

(7・9朝日)

「トルコ」

結婚式でも男女の席は別

トルコでは、映画館でも会食の席でも、男女の場がはっきり分かれている。映画館では、男性席は一階、女性席は二階で、食事も、男女別々の部屋に分かれてとる。男性の間で給仕をするのは、その家の主人か息子の役。

また、村にあるチャイ・ハネ(茶屋)は、男性たちがお茶やコーヒーを飲み、トランプをしたり世間話を楽しむ男性の社交

の場になっていて、女性には絶対に入れない。結婚式やお祭りでも、男女の場所は別々。

これは、イスラムの教えのためで、女性の社会的地位が低いということではない。財産の相続は女性にも均等、家庭内での発言もかなり強いとのことである。

(7・5朝日)

〔リ 連〕

母の死のショックで

二十年の植物人間、覚める

約二十年間、死人同様にこん睡状態を続けていた女性が、母親が老衰で死亡したのをきっかけに、突然涙を流し、翌朝「ママ」と叫んで目をさました。

ずっと以前から、人の話し声は聞こえていた、と彼女は語っている。

これを医学的に説明しようと、二人の専門医が科学のメスを入れている。

(11・21朝日)

ソ連紙の身の上相談

恋愛・離婚の悩み目立つ

ソ連の新聞に時々現れる法律相談の記事には、恋愛・結婚・離婚の問題が目立って多い。

ソ連社会が市民の恋愛・離婚等の権利にきわめて寛大で、そのためトラブルが生じ、裁判ざたになったりするが、こうした問題を解決するには、結局、市民の自覚にまつしかない、これらの記事は訴えているようである。

(11・21朝日)

〔チェコスロバキア〕

世界の「働く婦人の産休」

チェコの婦人紙が紹介

『ブラスタ』紙は、出産のために職場を一時的に離れる婦人の特典について、各国の様子を紹介。それによると、有給の産休は、チェコとスウェーデンの二十六週間が最高。次いでハンガリーの二十週、東独とイギリ

スの十八週、ブルガリアの十七週、ソ連とポーランドの十六週、ユーゴの十五週、ベルギー・フランス・西独の十四週、オランダとオーストリアの十二週。

なお、日本の労基法では十二週である。

(2・22朝日)

ここでも子捨て

生まれたばかりの子を捨てる事件が起きた。『ブラスタ』紙は、いろいろな原因を追及したのち、社会主義社会ではこのような事態は必ず避けられるはずだと言い、三七・三八％に及ぶ人工妊娠中絶も減らすことが必要だと説いている。

未婚の母の権利は十分に保護され、招かれざる子どもが生まれた場合も施設が完備していて、最悪の事態は避けられるはず、という。

(3・1朝日)

〔フィンランド〕

好評の「ヘカギツ子クラブ」

フィンランドでも働く母親が年々増え、カギツ子問題が多くなってきたが、こんど小学生を対象とするデイクラブを三か所開設。このクラブは、一人の先生を囲んで、温かい家庭に代わる雰囲気があるのが特長。子どもたちはクラブ生活を楽しみ、親も安心、と、一石二鳥。

費用は全額市町村の負担。将来にわたって、多額の予算が計上されている。

(3・8朝日)

「育児は女だけの仕事か」

フィンランドの近況

女性の社会進出では「先進国」と言われるフィンランドの実情を調べるため、神戸市の婦人問題研究家・伊地知優子さんが、二週間にわたってヘルシンキやタンペレなどを訪ねた。いま、



この国で話題になっているのは「男性にも育児休暇を」という運動だという。(11・21朝日)

「ノルウェー」

育児も立派な職業

〈女性会議〉が減税要求

幼児がいて、家庭で家事労働を強いられている主婦が、もし何かの都合で子どもの面倒をみるのができなければ、社会や他の人が面倒を見ることになり、その場合にはそれが職業とみなされる。

しかし母親の場合は、仕事とみなされないばかりか課税までされるのは不合理だというのが「ノルウェー女性会議」の税法改正の主張。

国はもっと保育所を増やし、子どもがいる母親も安心して仕事につける社会にすべきだ、と、同会議は政府に強く要請している。

(7・14朝日)

「スウェーデン」

結婚も離婚もインスタント化

婚姻法改正案提出

「夫婦が別れたくなったら、やっかいな手続きをとらなくても二人の合意だけで離婚が成立する」バルメ政権は、このほど「国の実情に応じて」結婚も離婚も大幅なインスタント化を目指した婚姻法改正案を国会に提出した。

(1・3朝日)

女性のアル中は重症

スウェーデンのアル中の男女比率は二十三対一と、女のほうがぐんと少ないが、これは女のほうが男より酒に強いいためアル中症状を現すまでには相当な量を飲んでいることになる。それだけに重症が多く、治療をむずかしくしている。

アル中になるまで飲む理由は、男より女のほうがはつきりして

おり、離婚・死別・破産等の苦しい経験から。またアル中の父親に感化された場合も多いという。

(1・9朝日)

父親でも産休四か月

スウェーデンでは一月に法律が改正され、父親も四か月の産休がとれることになった。母親はこれまで六か月の産休が認められていたが、この改正で、両親のうち新生児の世話をする者が産後休暇をとってよいことになり、産前休暇六十日を引いた残りは、父親でも認められる。なお、この期間中、給料の九〇%が支払われる。産休は両親が交互にとってもよい。

(2・1毎日)

「夜の姫君」労組結成

お役所側は無視

百人を超えるスウェーデンの「夜の姫君」たちは「私たちの利益を守ろう」と、ひそかに集

まってえんえん数時間の話し合いの末、朝方に組合結成の結論を出した。

全国的に組合員を集めるらしいが、お役所側はまったく相手にするつもりはなさそうとか。

(2・19朝日)

母乳が不足がち

〈母乳センター〉

スウェーデンにも母乳買い上げ制度がある。指定の容器にしばって、近所の指定のスーパーなどに持って行くと、〈母乳センター〉が未熟児用として産院に供給する仕組みだ。しかしここでも、母乳は不足がち。

九百九十人の乳児を対象に調査したところ、生まれて三か月もすると、母乳を飲んでいいる赤ちゃんは一五%に減り、若い母親はどミルクに切り換える時期が早い、という。やはり、スタイル優先のためか。

(3・3朝日)

「子どもを返して」

身障者は世話できぬ」と裁判所
リッセルさん夫婦には二歳と
五歳の子ともがいるが、児童保
護委員会は、父親が子どもをな
ぐったとの理由で、子どもたち
を養育所に預けてしまった。し
かし検診の結果、子どもには暴
行されたあとがない。

両親は子どもを返してくれる
よう頼んだが、裁判所の判決で、
身体に障害のある両親に子ども
の世話はできない、と、返して
くれない。

母親は「家にヘルパーを派遣
してくれるとか、他の処置を
とってくればいいのに」と嘆
いている。(6・22朝日)

ベルイマン監督、育児責任で

母親たちと大論争

テレビ番組で討論が育児に及
んだ時、ベルイマン監督が「働
く母親たちはいつも、時間がな
くて子どもの面倒を見てやれな

いとこぼしているが、自治体に
文句を言う代わりに、女性自身
が社会に責任を持って、政治に
加わるべきだ」と発言。

これに対して母親たちは「子
どもの責任は父親だって持つべ
きだ。子どもに責任を感じてい
たら、こんな封建的なことは言
わないはず」(8・23朝日)

〔デンマーク〕

主婦が食品値上げに抗議

デンマークでは、このところ
食品が異常な値上がり。「もう
がまんならない」と主婦代表六
人が一万五千人の署名をたずさ
えて、ヨルゲン首相に直訴した。

(2・12朝日)

人工中絶を合法化

デンマーク議会は、妊娠十二
週間以内の人工中絶を、賛成九
十五票、反対五十六票で採択し
た。(5・25朝日)

〔西ドイツ〕

史上初の女性下院議長

アンネマリ・レンガーさん
(五三)は、ミセスだが「ミス
連邦議会」と呼ばれて、二十年
間、西独ウーマンリブの先頭に
立ってきた。ブランド首相の社
会民主党(SPD)が総選挙で
大勝したあとを受けて、昨年十
二月十三日、連邦議会(下院)
の議長に選ばれた。ドイツ議会
史上初めての女性議長である。

(1・17朝日)

「完全機械ママ」出現

設計をしたのはバイエルン州
南部に住むギュンターさんとイ
リ・ベルツイッヒさん。「ベビー
・センター」と名づけられたこ
の装置には、モーターでゆるる
自動ゆりかご、子守歌を吹き込
んだテープレコーダー、天井に
は太陽灯、おむつから温かい哺

乳ビンまで用意され、まさに至
れり尽くせり。(1・28朝日)

国際結婚妻の組織を結成

差別と偏見に対抗

外国人と結婚したドイツ人女
性たちが、役人の差別と偏見に
対抗しようと、このほどIAF
という団体を結成した。

ミュンヘンオリンピックのテ
ロ事件後、一連のドイツ在住ア
ラブ人の本国送還をきっかけに、
この団体は組織され、法的に結
ばれた結婚が憲法で保障されて
いることを外国人局に認識させ、
男女差別を撤廃するよう働きか
けるといふ。(2・6朝日)

母親に授乳補助金

ハンブルクでは市当局が先頭
に立って「わが子を母乳で育て
よう」のキャンペーンを始めた。
「母乳にまさる人工栄養はま
だない」と呼びかける一方、補
助金を二か月から四か月に延ば

しても、この運動を進めたい、とのこと。
(3・3朝日)

二五%が「契約婚」を肯定

アレンスバッハの統計研究所が、契約婚に対する意識調査を行なった。

「期限つき、更新 possible の契約婚が認められたら、あなたはこれに賛成しますか」という質問に対して、反対六一%、賛成二五%、無回答一四%と出た。男女の差はないが、概して離婚者(五〇%)と独身者(三五%)に多く、既婚者(二二%)には少ない。
(4・8朝日)

女性首相の出現には批判的

女性の連邦議会議長は結構だが、首相にすることは望ましくない、というのが、ドイツ人の女性に対する政治意識だという調査結果が出た。

連邦議会議長に女性が就任することについての賛成は、女性

が七〇%、男性は四九%。

一方、首相にすることに對しての男女支持者は三一%と少なくなる。女性首相は、想像の域を出ないのが一因という見方もある。
(7・17朝日)

女性労働者が減少

政治家が音頭をとっても、ドイツの女性就業者は減る一方、と、『経済と統計』誌の調査結果。女性に働く意欲がなくなっている職種が、ベルトコンベヤーでの流れ作業など単純労働にすぎないことと、長時間勤務が敬遠され、いわゆる女性的な仕事とパートタイムが望まれて

いる。
(8・21朝日)

過激派リーダーに
あやうく脳手術計画

西独で逮捕されていた過激左翼組織の元女性リーダー、ウルク・マインホフ夫人に「彼女

が粗暴なのは脳腫瘍のせい」と、脳手術を試みようとする検察陣に對し、知識人グループが非難の声をあげた。国際ペンクラブ会長ハインリヒ・ベル氏も「容疑者の人権を守れ」と立ち上るなど、世論の強い抗議に屈して、検察側は脳手術を中止することにした。
(8・30朝日)

「オランダ」

農家の主婦 連勝

スピードスケート世界選手権

オランダのケレンデルストラ

選手は、八歳をかしらに三児を持つ農家の主婦(三四)。育児と農作業の合間に練習を重ね、第三十一回世界女子スピードスケート選手権で二連勝し、三度目の総合優勝を飾った。ヌクヌクと育っているスポーツ選手の多い中で、コーチもなしでがんばる彼女こそ、真のアマチュアチャンピオン。(2・27朝日)

「フランス」

国力減退させる? 男性用ビル

最近フランスで「男性専用避妊ビル」が医学界の話題になっている。現在数か所の薬局で売られているが、体質によって肥満したり、ある種の食べものを受けつけなくなる、などの副作用が認められ、医学界、教会、フランス・オリンピック委員会などから、反対の声があがっている。
(1・6朝日)

「預金不足」母乳銀行

フランス南部のマルマンド市は、二十年前から母乳銀行があり、毎年六万人もの未熟児を救ってきたが、年々授乳する母親のお乳の出は悪くなるばかり。

同銀行では「母乳一リットルに千二百円一千三百円を支払います。血液銀行は寄付ですが、こちらは買い上げです」とPR

している。(3・3朝日)

堕胎禁止法の改正を約束

「手術公開」の爆弾声明で

「いまなお人工流産を犯罪と

する政府に抗議するため、公開

手術を行なう」婦人解放グ

ループの爆弾声明に、フランス

政府はとうとう五十三年間も続

いた堕胎禁止法の改正を約束。

家族計画の推進運動を主唱し

てきたフェレーマルタン医師は

〈家族計画センター〉では五百

回以上の手術が行なわれたこと

を発表。(5・12朝日)

大規模デモを予定

―中絶自由化を求めて

このデモを主宰するのは〈妊

娠中絶と避妊の自由運動(ML

AC)〉というグループ。十一

日にはグルノーブルで、男にだ

まされて妊娠した十七歳の少女

に中絶手術を施した医師が起訴

されたことに抗議して、約一万

人が大規模なデモ行進を行なっ
たが、今週のデモは「全国中絶
デー」と銘うって、フランス各
地で「中絶展示会」を催そうと
いうもの。(5・14朝日)

ジャン・コクトー賞

二十歳の女性に

詩人ジャン・コクトーが死ん

で十年。フランスでは、コクトー

をしのぶ記念出版物が目白押し。

また、新人の詩人に贈られる

「ジャン・コクトー賞」の審査

も行なわれた。

受賞したのはエレヌ・セベ

ストルさん。アルゼンチン生ま

れの二十歳の女性で、昨年『野

生の詩』という詩集を出したば

かり。(9・11朝日)

「リヒテンシュタイン」

婦人参政権お預け

スイスとオーストリアの国境

にある小国リヒテンシュタイン

で、このほど、女性に参政権を
与えるための憲法改正案が国民
投票にかけられたが、予想に反
して、あっさり否決された。

(2・13朝日)

「イタリア」

主婦の価値は一日四千リラ

ジェノバ法廷

交通事故で死亡したある母親

の賠償請求で、イタリアのジェ

ノバ法廷は先ごろ、主婦の家事

労働の価値を一日四千リラ(約

二千二百円)と評価。過去の同種

の判決から見れば多少値上がり

はしているが、低すぎるという

のがおかたの意見。

(2・17朝日)

婦人警官の人気上々

昨年をはじめ女性の警察官が

採用されて好評だったので、今

年は約四十人が採用され、訓練

を終えてローマなどの街に登場

した。平均年齢二十五歳、白い
上着、白い帽子にミニスカート。
去年はこの魅力的な婦人警官
の交通整理に、車は完全に渋滞。

今年はまだ華やかな顔立ちで

なく、しかも体の丈夫な人を選

んだとのこと。(9・25朝日)

中絶権の獲得に

女性がデモや座りこみ

カトリック教が隠然たる勢力

を持つイタリアの法律では「堕

胎は五年の刑」と厳しい。

最近ようやく、中絶権獲得の

ため婦人団体が立ち上がり、小

規模ながらデモや座りこみを実

施している。(12・31朝日)

「ギリシャ」

「銃剣の下に自由はない」

フレミング夫人訴え続ける

アマリア・フレミング夫人は、

アレキサンダー・フレミング博

士(ペニシリンを発明した英国

の偉大な科学者)の未亡人としてより、ギリシャのパパドプロス軍政権と闘ってきた女性として知られる。

アテネ生まれ、医学を学び、戦後ロンドンを訪れてフレミング博士の研究所へ。やがて結婚したが、夫の死とともに再びギリシャ国籍に。六七年に軍事クーデター、パパドプロス前大統領暗殺計画の首謀者を獄中から奪回しようとして十六か月の禁固刑。七一年国外追放。いまロンドンに住む。

「銃剣と戦車は人間の自由を圧殺するものだと言えるだけ」と彼女は訴え続ける。ヨーロッパからアメリカへ、軍政権告発の行脚は続く。(11・28朝日)

〔イギリス〕

強きものは女性の齒

二児の母で体重四十四キロのマリー・マカードさんは元日、

ロンドン・ベッドフォードの目抜き通りで、重さ十二トンのトラックに二本のロープをゆわえつけ、歯でくわえて引つ張って見せた。観衆の拍手のうちに、車は約四十五メートル動いた。

「女でもこれぐらいのことはやってのける、と証明したかっただけ」 (1・3朝日)

世論が抗議

サリドマイド補償に不満
英国のサリドマイド児救済運動は、サリドマイドを英国内で製造・発売したウイスキー・メーカーのデイスチラーズ社が提示した補償金を不満として、同社のウイスキーのボイコット騒ぎに発展した。(1・4毎日)

「てんかん薬で奇形児」

医学雑誌に警告記事

妊婦がてんかんの発作抑制剤「フェニトイン」を服用すると奇形児を産む原因になり得ると

の警告が、英国の医学雑誌「ランセット」最新号に出された。

(1・5朝日)

妊婦は胸部にもX線禁止

英国保健省は五日、全英の医師および病院に、妊婦の胸部レントゲン照射を、例外的なケースを除き全面禁止するよう指示したことを明らかにした。

妊婦の腹部にX線をかけることは控えられてきたが、万一の影響を重視し、胸部照射も禁止した。

(1・7朝日)

外国人の妊娠中絶に赤信号

出産天国のイギリスは、また中絶天国でもあるらしいが、最近、この中絶に赤信号が出され

た。

「タイムス」紙によると保守

派の弁護士会が「外国人女性には、今後イギリスで簡単に中絶手術を施すべきでない」と発表

した。

(1・11朝日)

女性が支える洗たく産業

英国で最近クリーニング産業が急成長。昨年は総額十億ポンドに達し、英国経済の中でも有望株。ところでこの洗たく業、女性のパートタイムが多く、クリーニング人口約十万人の四分の三を女性が占めている。

(1・25朝日)

最大の公害は女性差別よ

二日、ロンドンで約五百人の女性が、議会や首相官邸に「ウーマンリブ」のロウソクデモ。

労働党が提案した「性による苦情処理局設置法案」が審議打ち切りになったため、女性の怒りが爆発。

(2・4朝日)

「豊胸手術はタダに」と提案

「胸の薄さが気になる女性を心理的な障害から救うため、豊胸手術を無料に」と、有名な整形外科医トーマス・フォークナー氏が提案。

(2・14朝日)

「差別禁止法案」委員会審議へ
英国議會では十四日、かねて
ウーマンリブが要求してきた、
男女の差別を違法とする法案が
実質的成立を意味する第二議會
を通過し、委員会審議に付託さ
れることになった。

六七年以来六度目に目の目を
見たものであるが、これは、今
世紀初頭の婦人参政権獲得以来
の勝利とされる。

法案が成立すれば、女性には道
路人夫でも脳外科医でも、ほと
んどあらゆる職業に進出できる
が、女性議員たちはこれを押し
広げ、企業の重役などにも女性
がつけるようにしようと、手ぐ
すねひいている。(2・16朝日)

「老嬢」でなく「独身」に
イギリスでは昔から、未婚の
女性はどんなに若くても「スピ
ンスター」(未婚女性、一般に
老嬢)という、いかにも耳ざわ
りな呼び名をつけられてきた。

結婚登録のときも、「スピン
スター」「未亡人」「結婚解消」
「結婚破棄」のいずれかの項目
に入らなければならなかったが、
今回「スピンスター」の代わり
に「独身」と書くことができる
ようになった。(8・18朝日)

スーパード勤務の女性勝訴
「凍結された賃金払え」

ヒース政権が賃金凍結令を宣
言したため、生協スーパードに勤
務する五十四歳の女性は、支払
われるべき週一ポンドのペア分
を要求していたが、賃金が凍結
された。そこで地方裁判所に提
訴、四日の判決で勝訴となった。
(9・5朝日)

女性の地位また一歩向上

政府が就職差別撤廃法案を
政府は十七日、男女の性別に
よって職業や賃金に格差をつけ
る雇用者を違法とする法案を発
表した。

英国で、性による就職・収入
の完全平等が法律で決められた
のは初めて。(9・22朝日)

空港周辺では

乳児死亡率が年々増加
ロンドン郊外ヒースロー空港

付近の乳児死亡率が明らかに上
昇している、と婦人科医が発表。
『ザ・タイムス』紙によると、
死亡率が年々下がっている今日、
同地区では一九六五年以来、七
〇年と七二年を除いて、毎年死
亡率が上がっている。

乳児の死亡率は社会全体の健
康状態を最もよく反映するもの
と言われ、空港との距離の関係
についてさらにくわしい調査が
進められている。世界的に心配
されているこの問題の正体を明
らかにしたい、と同医師は報告
している。(9・25毎日)

女生徒に接する手引き

イギリスの中学校教師三万

八千人に「教師の手引」が配ら
れた。男性教師が女生徒に騎士
道精神を発揮しないようにとい
う忠告が狙い、と『ザ・タイム
ス』紙は伝えている。

女生徒が、男生徒より優美で
か弱い、というのは全くの神話。
女生徒の前で男性的魅力を過度
に振り回さないようになど、で
きる限り男生徒と同じに女生徒
を扱いなさいというもの。なお、
女性を小間使的に考えること
は絶対に許されない、としてい
る。(10・2朝日)

私たちが料理長に

大学卒の若い女性たち

伝統的に男性の職場であった
ホテルやレストランのシェフの
座を求めて、大学出の若い女性
たちが闊歩している。

彼女たちは、卒業してもホテ
ルの壁が厚く、大半は断念して
どこかの社員食堂に入るか、そ
れとも全く方向を変えることを

余儀なくされている。

最近、女性第一号を入れた
アールトン・タワの元料理人
長は「最近に労働時間も短縮さ
れ、昔ほど厳しい労働ではな
くなった。おいおい女性のシェ
フも出るだろう」と。(11・26朝日)

母親の五分の二は勤労女性

『シカゴ トリビューン』紙
がロンドン発で伝えるところ
によると、イギリスの母親の五
人に二人は勤労女性。また、子
どものない人も含めて、働く主
婦の数は五百五十万人。夫より
高度の専門職についていて収入
の多い主婦が一八%(二年前の国
勢調査で)。(12・13朝日)

老人扶養の独身女性に

社会保障を

老年の親や親類をかかえた独
身女性、英国全体で三十九万
九千人。その三分の二近くは、
老人の世話のため、自分の職業

も結婚も棒に振っている。彼女

たちは、現在収入がないばかり
か、自分が老いても、退職年金
も失業保険もない。〈独身女性
と扶養家族全国協議会〉では、

①親族の世話をするために退
職する人には、看護費として、
現在の基準失業保険額に相当す
る額が支給されること。

②親族の世話も立派な職業と
認め、第一級社会保険金を得ら
れるようにするなどを要求。

(12・24朝日)

「リビア」

不義の男女は石責めで死刑

千四百年昔の法律復活?

カダフィ革命評議会議長の下
に熱烈なアラブ主義を奉じるリ
ビアで、不義をした男女を、む
ち打ちの刑か石責めによる死刑
にする、という千四百年前の法
律が復活した。

しかし手首切断の判決が実行

されたという報告はなく、「不
義は死刑」の復活も実行される
ものか。(10・5朝日)

「アメリカ」

燃えさかる女権拡張運動

差別待遇と言えば、黒人問題
と相場が決まっていたが、この
ごろは女性の差別問題がそれを
しのぐ勢いで論議されている。

「結婚は合法化された売春で
ある」といった勇ましいウーマ
ンリブは下火になっているが、
代わりに、立法、訴訟、政府へ
の圧力など、さまざまなかたち
のキャンペーンで、女権は次第
に拡張中。(1・6朝日)

年々悪化 男女の賃金格差

全米産業評議会が九日発表し
た「産業別賃金実態調査」によ
ると、一九七〇年における、パー
トタイムを除く女性一人当たり
の年収は平均五千四百四十ドル

で、男子の九千百八十ドルより
四一%も低い。(1・10朝日)

海軍に女性パイロット

戦闘任務は禁止

米海軍は十日、米軍史上初の
女性飛行士第一号を任命した。

二十四歳のジュディス・ニュー
ファート中尉で、あと三人の女性
がパイロットに任命される予定。

全軍を通じて、女性に戦闘任
務だけは禁じているため、彼女
らは空母に乗り組むことはな
く、補給機か輸送機だろう。

(1・11サンケイほか)

医師や弁護士も男より女

一般の主婦にも好評

ここ数年、政治意識に目ざめ
た女性グループやウーマンリブ
の会合に出席すると、互いにす
ぐれた同性の弁護士や開業医を
紹介しあうのが常だったが、最
近では普通の主婦にも、女同士
のほうがずっと相談しやすく、

しかも親身になって問題解決や治療に当たってくれるという意見がふえている。(1・13朝日)

経口避妊薬

高血圧の人には危険

急死の原因でトップを占める心臓マヒが最近女性にも目立って多くなり「高血圧の人は、経口避妊薬をのむとますます血圧が高くなつて危険」という報告が心臓学会で発表された。

(1・16朝日)

離婚保険を議員立法で

結婚と同時に新郎・新婦を離婚保険に強制加入させる米国内で初めての離婚保険をニューヨーク州で議員立法により実現させようと、婦人団体などが署名運動。

(1・17朝日)

幼児向け リブの歌

「男女平等の精神は 字の読

めない子ども時代から」と、「めざめの歌」「自由に生きよう、あなたとわたし」十八曲のレコードが発売された、一枚五ドル九十五セント。(1・18朝日)

中絶自由化へー最高裁判決

近年ウーマンリブの諸団体に よつて墮胎罪の撤廃がうまく叫ばれていたが、米最高裁は二十二日、「妊娠三か月以内の妊婦は、担当医が承認すれば、自由に墮胎手術することができろ。

各州政府は、これを禁ずることはできない」という歴史的判決を下した。(1・23読売)

民間機にも女性パイロット登場

米国のフロンティア航空は十一日、エミリー・ハウエルさん(三三)を、同社のボーイング七三七型ジェット旅客機の第三操縦士として採用。米国の民間航空史上初の女性パイロットが誕生した。(1・13サンケイ)

グリム童話は男女差別助長

「おとぎ話は子どもの精神教育に有害なものが多い。ほとんどが男女不平等、男性上位社会を伝える福音書である」一コネチカット大学英語学助教授のマーシア・リーバーマンさんが論文を発表。(2・1朝日)

キープ・ハワイ・グリーン

ホノルルに、緑化運動グループ「ヘアウトドア・サークル」が、六十年の実績をもつて活動。三千五百人の会員のほとんどがミセス。(2・3毎日)

「Ms (ミズ)」公認語に

米政府出版局は、今月末発行される『政府刊行物用語集』改定版に、女性の呼称の略語として「Ms (ミズ)」を加える。ミスでもミセスでもない、婚姻関係を表さない呼称。

(2・8朝日)

「人形の家」はイヤ

家出主婦が急増

私立探偵社トレイサーズ(本社ニューヨーク)は昨年中に蒸発した主婦七百八十三人の捜査依頼を受けたが、これは夫の蒸発数の約半分に相当し、数年前は、主婦の家出率が夫の三百分の一だったのに比べると、うなぎのぼり。(2・17日経ほか)

閣僚級へ また女性

バージニア・H・ナウアー女史は、一九六九年から消費問題担当の大統領特別補佐官として実力を発揮したが、閣僚級のポストである大統領顧問にアン・アームストロング女史(四六)が起用され、国務省に女性スポークスマンが生まれた。

(2・17朝日)

第一回全米女性政治協議会

ウーマンリブの闘士千二百人が集まって、第一回全米女性政

治協議会全国大会が開かれた。

同協議会は、一年前、女性の権利獲得のため政治に働きかける団体として、五十州に誕生。党派を超えて糾合した女性運動家たちは、三日間の討議の末、

今後の全国大会に、投票権は持たないが、メンバーとして男性の参加を認めることを可決。

(2・18毎日)

男性解放も必要

ウーマンリブ運動の創始者フリーダ・ダニエルは、ワシントンで開かれた全米女性機構(NOW)の会合で「女性は、男性が伝統的な『男性の役割』のワクから自己解放しようとするのを助けなければならない」と「男性解放」の理論をぶった。

「ウーマンリブ運動はこの十年間『偉大な革命』を引き起こし、女性は十分強力になった。いまや女性は男性に對し、ともに前進することを呼びかけるべ

きであり、そのためには世間も男性を「人間的存在」として扱うようにしなければいけない」と。

(2・21朝日)

母乳運動もビューティフルに

「わが子を 母乳で」の運動がここ数年盛り上がりを見せているアメリカで、最近は大衆の面前で堂々と赤ちゃんに乳房を含ませる母親が目立ってきた。

一般の反応は「母乳主義は結構。でも授乳は家庭内にとどめるべきだ」とする意見がまだかなりあり、概して若者と老人は好感をもっているが、中年は複雑な表情。

(2・22朝日)

主婦の蒸発 激増

刺激の少ない主婦業にいや気がさし、夫や子どもに見切りをつけて蒸発する妻が急増している。東部のある大都会では、十年前は百人に一人ぐらいだったが、今や三人に一人。

行方不明の主婦の七五・八〇％は居所をつきとめられ、そのうちの八五％は元の家庭に戻っている。

(3・6朝日)

「事後避妊薬」を条件つき許可

米国食品医薬品局は、近く、問題のDES(ダイエチルスチルベスツール)の使用を、婦女暴行など不幸な事件のあった非常の場合にのみ、事後避妊薬として許可する予定だと発表。

DESは過去三十年間、産婦人科の治療には使われているが、ガン誘発の疑いがあり、避妊の目的で使うことは禁止されていた。

(3・20朝日)

女性のための電話相談

ヘシカゴ・ウーマン・リブ連盟が昨年十一月、男性の暴行にあった女性を助けるための電話相談を始めたが、電話のベルは連日鳴りっぱなし。

応答するのは、約一か月の

訓練を受けた八人の奉仕者たち。平均三十分くらい涙の訴えを聞いた上で、必要があれば病院や弁護士、精神科医へ、電話の主を連れて行く。(6・16朝日)

教科書に性差別

全米で使われている小学生用教科書百三十四種の中で、男の子が主人公として描かれている比率は、女の子より二・五倍も高く、男性は百四十七種の職業で活躍しているのに、女性のほうはたった二十六種。しかも女性には教養も冒険心もなく、外で働いた経験を持たないため、狭いものの考え方しかできない人物として描かれている。

「黒人団体からの抗議はすぐ営業成績に響くので急いで改定版を作ったが、男女の性差別は、それほどさし迫った問題には進展していない」と、ある大手出版社。

(6・30朝日)

差別に抵抗して

ブルーカラーに転向

差別待遇がいやで、教師・看護婦・秘書といった職を捨ててブルーカラーに転向する女性がシカゴ市内で増えている。

大学で教育学を専攻したS嬢(二四)もその一人。トラック

の運転手として一時間六ドルをかせぐ。また、考古学を修めたM嬢(二六)は、一年前から郵便配達を。このような動きを受けて大会社が、工場の高いポストに女性を配置するような傾向を示してきた。(8・14朝日)

テニス賞金を男女同権に

全米オープン・テニス選手権大会の優勝賞金は、男女間に大きな格差があったが、初めて同額となった。(9・21朝日)

やっぱり女性が強かった

「女と男の闘い」と名づけられた賞金十万ドルのテニス試合が

二十日行なわれ、ウーマンリブ派でウィンブルドンの三冠王、

キング夫人(二九)が、男性至上主義者ニ元ウィンブルドンチャンピオン、リッグス氏(五五)をストレートで破って「女性の誇り」を防衛。応援のリブ連中も大よろこび。(9・21朝日)

まだ大きい賃金差別

女性全体の賃金の平均は男性の六三%。女性のサラリーが低いのは、結婚・出産・育児という役割を背負っているため、職業経験が短いか、中断されてしまうから、と判断されるという。

労働時間は、男性の七三%だが、かなりの知識水準を必要とする職種すべての条件が同じ場合でも、一〇%—二〇%の差がある。また不思議なことに、女性の職種になっているポストに男性が就くと、彼は従来のサラリーより五%の減給を余儀なくされている。(9・29朝日)

あなどれぬリブ

編集関係で百二十人も女性が働いているのに、海外特派員や編集局幹部に一人も登用されないのは不当だ—AP通信社に働く女性たちが全米通信記者労組を通じて連邦雇用平等化委員会に訴えた。(10・6朝日)

避妊技術でも進む米・中交流

アメリカ・中国間で避妊技術を交換し、相互にサンプルを試用して、その結果を報告し合うという約束が出来た。中国内で米国製避妊薬テストが許可されるのは初めて。(10・13朝日)

秘書不足—ウーマンリブの影響?

イギリスと同様、秘書が払底、諸会社は獲得に大わらわ。

不足の理由はいろいろだが、ウーマンリブ以来、女性がよりよい職を求めて移って行く、秘書が再教育のため大学等に行く、など。(10・18朝日)

男性の職場へ進出目立つ

米国の「タイム」誌がまとめた「働く婦人」によると、伝統的に男性の職場と考えられていた分野—技術者やバス運転手なども、多くの女性が占められそうな情勢であるという。60—70年の十年間に、新規求人のうち六五・三%が女性で充足された。また、婦人雇用総数に占める既婚婦人の割合は七八%、既婚者の約半数は家庭に十八歳未満の子どもがあり、六歳未満の子どもを持つ婦人労働者は一八・一%で、主婦の再就職が大きな傾向を示している。(10・25毎日)

物価高にオールドパワー団結

シカゴ市内に住むおばあさん四百人は、一食料品店を相手に老人に限って食品の二割引販売を要求する大会を開いた。シカゴ市内の老人の六四%がこの店で買っているが、その九五・四%が同店で買うことを拒否す

る。店の代表者は、二割引きは無理だが、老人に発行されているスタンプを提示した人には5%の購買税を免除させていた

く、と、大汗。(11・26朝日)

女性の情緒不安定の理由

ニュージャージー州の牧師、ボルスルーパー博士(四九)は、過去十六年間に「なぜ女性には情緒不安定が多いか」について調査と研究を続けてきたが、四百人の女性に面接の結果、職業は何であれ、幸福だと感じている層は、みな、体を動かしている人だ、という理論を、新刊『女であることのゲーム』で発表。

情緒的な問題をかかえているグループは、自分はデリケートだから試合や競争に適しないという生き方しかしないので、気持ちやエネルギーを発散させる機会がないせいとか、いじわるな行動に出たり、時には非常に攻撃的になったりする人が多いが、

職業に就いていていつも体を動かしている人は、情緒が安定している。(11・28朝日)

パートタイム定着

一九六二年に週三十五時間以下の非常勤として働いたアメリカ人は五百万人であったが、一九七二年には六百五十万人になり、増加した百五十万人の八〇%が女性。二人合わせて一人分の仕事をする「パート・デイ職」を設けた会社や、一週間おきに出勤する従業員の数を増やす予定の会社も出てきている。(12・10朝日)

女性坑内夫 誕生

「女性には禍いのもと」と、これまでどの炭鉱も女性の入坑はご法度だったが、このほどケンタッキー州ケーニークリーク炭鉱に、二人の女性が入坑した。二人は病院勤めだったが、収入のよい石炭掘りを希望し、

ウーマンリブの強い支持もあって転職したもの。作業は男性と同じくハード。(12・29朝日)

離婚した前妻へ

前夫からの扶養費は無用
米ジョージア州のウォットフォード判事は、離婚訴訟で「離婚した前夫が前妻に扶養費を支払うのは、男女平等をうたった憲法に違反する」という判決を下した。(12・31朝日)

「ブラジル」

南米移住女性の生活を視察

一世と三世の間に断絶

現在、日本国籍をもつブラジル移住者は十四万六千人。日系二世・三世は五十四万三千人も移住十三年目の一女性「夫とともに生活するため、否応なしに協力して働いてきた」と言う。「妻の働きのおかげ」と夫たちも心から思っているという。

最大の悩みは教育。子どもたちは、ポルトガル語は上手だが日本語がややしく、親たちはその逆。そのため、一世と三世の間に断絶が起きる。「絵本と子どもの本がほしい」という希望をあちこちで聞いたという。横浜市の山本若菜さん(海外移住婦人ホーム)理事)の帰国報告。(11・13朝日)

「ウルグアイ」

赤ん坊販売、妊娠中絶の

医師・助産婦を逮捕

首都モンテビデオでは八日、赤ちゃん売りとはしのあつせんや妊娠中絶をしていたアルゼンチン生まれの医師が逮捕された。モンテビデオには、法律違反の妊娠中絶専門医院が少なくとも二つあり、一日約五十人に中絶をし、また、新生児が一人五百ドルで売られているという。八人の助産婦と看護婦二人も逮捕された。(10・10朝日)

1974



年初ASEAN五か国歴訪の田中首相は、「経済侵略反対」のデモや焼き打ちの嵐に遭う。国内ではオイルショック以降の構造不況が深刻化、国を挙げての「省エネ」にも物価暴騰と物不足はやまず、女たちは国会に買い占め企業の「証人喚問」を要請、隠匿物資を摘発、独禁法違反で訴えて大奮闘、デモや集会も大規模化し、政治の刷新を叫ぶ声が高まる。参院選は自民党の史上最悪金権選挙を制して保革伯仲に。市川房枝は「理想選挙」で全国区第二位。金脈問題「曝露で、田中政権もついに倒れる」。

米国でもウォーターゲートで、ニクソン辞任。韓国では大統領暗殺未遂で夫人が死亡。国民の反対を押し切って出港した原子力船「むつ」は五日後に放射能漏れ事故で頓挫。三十年ぶり帰国の小野田少尉は天皇ご生存に驚く。

地裁判事、高裁判長に初の女性登用。八年ごしの女子三十歳定年制訴訟に違憲判決。優生保護法改正案は廃案に。刑法改悪反対・家庭科共修等々をへ推進する会も続々誕生。有害添加物AF2は女たちの粘り強い運動で全面使用禁止。雇用保険法成立。へ女を泣き寝入りさせないへピンクヘルがエリート社員のキモを冷やすが、不況によるパート、女子労働者の切り捨ても、公然化。

「国際婦人年」を次年に控え、スウェーデンで中絶自由化、仏に「女性の地位相」、米国で初のフェミニスト世界会議。世界女性会議の準備は着々と進められていたが、日本は情報のカヤの外に置かれ、女性国会議員が、その取組みを政府に追求した十二月、政府は「そういう集いがあるのか」と問い返すお粗末さだった。

〔ブーム〕便乗値上げ、オカルト、ベルバラ、ゴルフ、愛国駅から
幸福駅行き切符（半年で300万枚）

〔ことば〕天の半分は女が支える、ピンクヘル、産直、省エネ、節約は美德、最低ネ、トサカにくる、五当四落

〔賞〕市川房枝・マグサイサイ賞、石坂照子・朝日賞、吉原幸子・高見順賞、三戸サワエ・吉川英治文化賞、宮城まり子・森田たまパイオニア賞、中津燎子・大宅荘一ノンフィクション賞、富岡多恵子・女流文学賞、田村俊子賞、朝海さち子・太宰治賞、森下洋子・国際バレエコンクール金賞

〔本〕石牟礼道子『天の病む』 もろさわようこ『おんな・部落・沖縄』 市川房枝『市川房枝自伝』 有吉佐和子『複合汚染』 『真砂屋お峰』 河野信子、橋本真理『母の思想』 エブリン・リード『性の神話』 山川菊栄『幕末の水戸藩』 牧瀬菊枝『土着するかあちゃんたち』 来栖玲子『女が外で働くとき』 藤井治枝『現代家庭教育論』 一番ヶ瀬康子『東京都立養育院百年史』 曾野綾子『虚構の家』 宇野千代『雨の音』 白洲正子『明恵上人』 草の実会『轍』 『老い』 あごろ『子殺しを考える』 『働く女と主婦の接点を求めて』 『運動をすすめよう』 リチャード・バック『かもめのジョナサン』 五島勉『ノストラダムスの大予言』

〔TV〕刑事コロンボ、パンチDEデート

〔歌〕襟裳岬、くちなしの花

〔映画〕ねむの木の詩、エクソシスト、エマニエル夫人、華麗なる一族

〔物価〕食糧品・高熱費等30～40%アップ、アンパン50円、新聞（朝刊）50円、岩波新書 230円、米 10キロ 2,100円

〔雇用者の平均月収〕男 180,686円、女 97,392円

〔女子の平均勤続年数、平均年齢〕 5.0年、32.5歳

〔月間平均労働時間〕 163.9 時間

〔雇用者中の女子の比率〕 32.4%、うち有配偶者50.2%

〔物故〕林りり子(1.21) 深尾須磨子(3.13) 泉園子(4.2) 吉田史子(6.7) 南部あき(7.12) いわさきちひろ(8.8) 石渡満子(8.27) 阿部静江(8.31)

1974年の主な出来事

1. 1 石油公示価格一斉値上げ
- 5 日中貿易協定調印, 山谷の失職者, 生活保護手当を獲得
- 7 田中首相, 東南アジア5か国歴訪に出発
- " 電力節約で民放各社, 深夜放送を中止
- 14*厚生省, 乳幼児・妊婦の医療別無料化制度を推進せずと発表
- 16 石油・電力の第二次消費規制・NHKも放送時間短縮
- 17*自民党「物価を安定させる」集会で女性議員が抗議
- 19*名古屋市長保育園の保母さん 600人, 大幅増員要求の全日スト
- 22*法制審議会, 堕胎罪は現行法どおり採択
- 26 <ベ平連>, 解散集会
- " * <家庭科の男女共修をすすめる会>発足
- 28*鹿児島市の主婦値上げ商品不買運動開始
- *京都橋女子学園倒産
- 29*婦人団体, 石油連盟に抗議
- 31 外務省機密漏洩事件東京地裁判決, 西山無罪, 蓮見有罪

この月*秋田県由利郡に主婦20人が「母親牧場」を。

2. 1 労働省, 勤労女性の電話相談「ポスト1313」発足
- 3 名古屋で新幹線公害訴訟団結成
- 5 公取委, 元売り12社にヤミ協定破棄を勧告
- " *政府, ビルは避妊薬として認めないと公表
- 6 便乗値上げ石油大手の指令文を衆院で責任追求
- 8*K子さん最高裁で再び敗訴, わが子奪回は違法と
- 19 公取委, 石油連盟と12社を独禁法違反で告発
- 21* <売春問題ととりくむ会>キーセン観光反対集会
- 25 衆院予算委, 物価高騰で集中審議
- 27 大阪地裁, 大阪空港公害で深夜の飛行禁止と1億1200万円の賠償判決, 環境権は不適用

この月 消費者物価暴騰, 昨年同月比26.3%。

- *大阪に御大阪保育センター誕生。
- *朝日賞に石坂照子(医学)／高見順賞に吉原幸子
- *女性税理士会, 二分二乗法を提案
- * <女性の法的地位を守る会>発足

1. 2 タス通信, ソルジェニツィン『収容所列島』を非難
 - 9 バンコクで田中訪タイ反日学生デモ
 - 14 鄧小平, 政治局員昇格が明らかに
 - 15 ジャカルタで田中訪問反対反日暴動
 - 18 イスラエルとエジプト兵力引離し協定に調印
 - 21*米最高裁, 無給妊娠休暇の強制は違憲の判決
 - 27*試験管ベビー第1号は本年中に誕生と英紙発表
 - 31 日本赤軍とPFLP, シンガポールのシェル石油精製所タンクを爆破
- この月*クウェートの女性活動家たち, 女性の選挙権を要求, 差別・一夫多妻撤廃を国会に請願
- *チェコスロバキア出産休暇が2週に
 - *パチカン, 初の女性大使を認める(ウガンダ大使)
 - *ニューヨーク市立大職員, 男女差別賃金差別を連邦裁判所に提訴

2. 4 *英国に初の女性党首(保守党, サッチャー女史)
 - 7 米, パナマ運河委譲宣言に調印
 - 10 イラン・イラク国境で武力衝突
 - 11 ワシントンで石油消費国会議
 - 13 ソ連政府, ソルジェニツィン追放
 - 24 イスラム諸国会議ラホール宣言採択(第三世界の連帯, 天然資源の恒久主権)
 - 27 エチオピアでクーデター(9.12皇帝廃止)
 - 28 英総選挙, 労働党と政権交替
 - " 米とエジプト, 7年ぶりに国交回復
- この月*ウガンダで女性外相誕生(12月に解任)

3. 1 *宮城まり子『ねむの木』上映開始
 3～5 *第10回内職大会「内職パートの時給を 300円以上に」
 8 *国際婦人デー中央大会開催(5,000人参加)
 10 小野田寛郎元陸軍少尉、ルバング島で救出(12日帰国)
 12 *主婦7人大阪空港判決に怒り、大阪高裁に訴訟
 13 *深尾須磨子没(78歳)
 20 *国立がんセンター看護婦 190人ががん告知の研究発表
 27 *西友下請会社の女子パート解雇に抗議 撤回させる
 28 *教え子暴行の青学大春木教授に懲役3年の判決
 29 *総理府<婦人に関する諸問題調査会議>妻の相続分引上げ、差別苦情処理機関設置などを提言

30 福岡地裁、密入国韓国人被爆者手帳申請却下は違法と判決
 この月 知恵遅れの子の家<富士学園>閉鎖

- *岐阜県美濃市に全国最年少の女性市議(25歳)誕生
- *<看護婦のオヤジの会>呼びかけ

4. 1 *上野高校通信教育制に全国初の記児所
 4 *クルマ公害に怒る小金井の主婦50人、市道を実力で阻止
 11 春闘ゼネストに81単産参加、600万人一斉スト
 ” 総理府に同和对策室。同和对策協議会発足
 15 * (東京・福岡) 高裁に初の女性判事、地裁に初の女性裁判長(東京)
 ” *ボストンマラソンで美智子ゴーマン優勝
 ” *第26回全国婦人会議「日本を考える物と心」
 16 *日本女子大で初の教職員スト、賃上げ要求
 18 *15婦人団体、靖国法案撤回要求
 20 日中航空協定調印
 23 *福田紡績大隈工場主婦工具“工場労組”を新設。無期限スト。
 24 K C I A 「民青学連事件」で日本人2人逮捕
 25 * <森永ミルク被害者救済の会>訴訟取下げ
 26 *日本学術会議「保母養成は大学で」「保父も認めよ」と決議
 28 *甲山学園保母、証拠不十分で釈放

この月 *婦人総合調査結果発表

- *洗濯機の脱水機で指切り事故続きメーカーに改善要求
- 全国初の重症心疾患児保育施設<こぐま園>開園
- *中津娘子に大宅壮一ノンフィクション賞/富岡多恵子に田村俊子賞/里中満智子に講談社出版文化賞/三戸ナツエに吉川英治文化賞

3. 1 米連邦大陪審、ウォーターゲートでニクソン側近7人を起訴
 2 ビルマ、軍政から民政に移行
 4～8 *ベトナム婦人連合会、12年ぶりにハノイで大会開催
 8 *サンフランシスコで第三世界の女たち、国際婦人デー集会
 13 O P E C対米禁輸解除(除シリア、リビア)
 16 ソ連 ソルジェニツィンの全作品破棄
 22 バルト沿岸7か国、多国間公海汚染防止条約に調印

この月 *英国労働党内閣に女性2閣僚復活

4. 3 学生の反政府デモに韓国大統領措置
 4号発令
 9 国連資源特別総会開く
 18 サダト大統領、今後ソ連の武器援助に依存しないと発表
 20～24 * I L O婦人労働問題コンサルタント会議(於 ジュネーブ20か国) 日本からは多田とよ子ほか参加
 25 ポルトガルで無血クーデター、総選挙を公約
 27 ワシントンでニクソン弾劾デモに1万人参加

5. 4 堀江謙一、単独無寄港世界一周に成功(275日の新記録)

〃*日本女性隊、マナスル登頂に成功

7*東京電力の値上げ公聴会に15倍もの希望者殺到

8*<婦人>女性解放の視点をさぐる7時間集会(500人)

9 伊豆半島地震 M 6.9

10 足尾銅山鉱毒事件で補償金15億5000万円を双方受諾、100年公害に和解成立

〃*<刑法改悪に反対する婦人会議>発足

15*<日本食品衛生学会>で主婦代表が初の発表

18 <日本消費者連盟>結成

18*<草の実会>20周年集会と護権デモ

23*「主婦の怒りを国会へ」集会(紀平さんを東京地方区に)

24 大気汚染防止法成立、総量規制を導入

〃*優生保護法一部改正案(経済的理由での中絶を認めない)、衆院本会議に(会期切れて廃案)

27 教頭法制化法(学校教育法改悪)衆院本会議で強行可決

29*市川房枝、<勝手に推薦する会>に推され立候補宣言

この月*朝海さち子に太宰治賞/女エロス2号発行(反結婚)

6. 1 9電力一斉値上げ(家庭用平均28.6%)家庭用灯油の標準価格廃止、生協連等反対運動

4 一部上場 261社は33%賃上げと労働省発表

11*東京の主婦、朝日麦酒に団交、マンション建設計画を撤回させる

13 アジア人会議で、日本企業のタイ女工搾取を告発

14 ミッドウェー乗組員、待遇改善で帰郷拒否

19 横浜地裁、日立製作所の在日韓国人採用内定取消し無効の判決

〃 物価安定政策会議、新聞代値上案は大幅すぎると警告

22*厚生省、全母乳からPCB検出と発表

26 国土庁発足

この月*5~6月で電化製品10~25%、清酒10~20%等値上げ

<旧料金で電気代を支払う会>結成 東京の主婦、物価暴騰にベビーカーを連れて抗議

*<欠陥プレハブ住宅に抗議する会>発足

*女子バレー実業団チームに初の既婚選手

5. 1 国連資源特別総会、新国際経済秩序樹立を宣言

12*イタリアの離婚法、国民投票で存続決定(僅差)

15 イスラエルをゲリラが襲撃、16日報復襲撃

18 インド、地下核実験に成功

29*スウェーデンの国会で堕胎自由化法案可決

この月*英国保健省で16歳以下の少女にもピル解禁

*英国旅券局Ms.(ミス)の呼称を正式に許可

*フランスで性差別禁止法制定を目指し女性ストライキ計画

6. 27 ニクソン訪ソ、ブレジネフと会談。SALT IIは暗礁のまま

30 キング牧師の母、暗殺される

この月*サンフランシスコで看護婦4,000人カー斉スト

7. 1 *主婦12人、東京地裁にAF 2製造中止の提訴
 - ” バリ国際医学会で大高節子、石油タンパク反対アピール
 - 2 笹ヶ谷鉱山砒素中毒、公害病に認定さる
 - 3 栃木・群馬・埼玉に酸性雨
 - 4 東京・神奈川にも酸性雨
 - 6 台風8号、関東以西の死者・不明 155人
 - 7 第10回参院選、与野党伯仲、市川房枝は全国区第2位。
 - 12 三木副総理、首相の政治姿勢を批判して辞任
 - 16 福田蔵相、保利官房庁長官も辞任
 - ” 家永裁判で東京地裁、教科書検定は合憲と判決
 - 22 *第6回国民の健康を守る看護大会(1,000人の看護婦が社会的地位向上を求め結集) 岩波新書 180円が 230円に
 - 24 北の湖、史上最年少の横綱に(21歳2か月)
 - 25 資源エネルギー庁発足
7. 11 韓国非常軍法会議、民青学連事件7人に死刑
- 13 韓国の詩人金芝河らにも死刑判決
- 23 ギリシャの軍事政権崩壊
- この月 *フランスに「女性の地位」担当閣外相新設(フランソワーズ・ジルー)
8. 10 *第20回日本母親大会開催(22,000人)「母親運動の原点に帰ろう!」
- 12 経団連、政治資金の企業割当て廃止
- 13 *第18回国際大学婦人連盟国際会議開催
- 18 *大学婦人連盟国際会議(京都で1,000人)「学問、政治に女性の進出を!」
- 19 *中ビ連<女を泣き寝入りさせない会>赤羽の自動車会社に押しかける
- 20 政府、今月中にAF-2全面禁止と発表
- 26 原子力船むつ、漁民反対の中で大澳を出港
- 28 平塚市の団地母子3人ピアノ騒音で殺傷さる
- ” 全国PTA研究大会母親部会「女性も会長に!」
- 29 宝塚歌劇、ベルサイユのバラ、ブームに
- 30 三菱重工ビル前で時限爆弾爆発、死者8、重軽傷 385人
- この月 *市川房枝・マグサイサイ賞、森下洋子・国際バレーコンクール金賞
8. 8 ニクソン大統領、ウォーターゲート事件で辞任
- 15 朴大統領、独立記念式典で狙撃され、夫人が死亡(犯人は在日韓国人、文世光)
- 19 国連第3回世界人口会議始まる
- ” *第8回世界社会学会議(於トロント、50日間、75か国、3,000人)日本からは鶴見和子ら参加、性役割分化作業部会も設けられた
- <有職婦人クラブ>国際会議(於ブエノスアイレス、56か国、1,000人)日本からは市川房枝ら30人参加、地位向上を決議
- この月 *スペイン政府35年ぶりに女性闘牛士を復活
- *米国政府、8月26日を「女性平等の日」に

9. 1 原子力船むつ、洋上試験中に放射線もれ事故
13 日本赤軍3人、ハーグの仏大使館を占拠、パリの拘留者を奪還、人質を解放して出国
22~23*第9回学童保育研究集会(吹田)
28*主婦たちインフレ反対デー、エブロンデモを。
29*インフレ阻止国民集会に35,000人集合
30*名古屋高裁、名古屋放送女子30歳定年は違法と判決
” 国鉄32%アップのため、売上は1日で130億。長蛇の列。
” *子どもの環境権を守る連帯集会(主婦100人)
この月*日航に初の女性次長。スチュワーデス結婚退職制廃止
*多摩動物園に初の女性病院長
*富岡多恵子、女流文学賞

10. 1 家庭用品規制法施行(安全確保)
2*列国議会同盟(於東京)で全女性議員を接待委員に。
女性差別と女性たち議長に抗議
7 繊維不況深刻化、東洋紡希望退職3,300人募集
8 佐藤栄作、ノーベル平和賞受賞決定
” *政府、国際婦人年参加計画を発表
9*ピンクヘル第3回目の抗議、霞が関ビルへ
13 サリドマイド和解成立
14 三井物産本社で時限爆弾爆発、21人重軽傷
21*〈忍草母の会〉基地返還を首相に直訴
この月 コメ・国鉄・地下鉄・バス・郵便等の大幅値上げ
*衆院社労委で、田中美智子、公務員の男女差別追求
*高島屋1年間の有給育休(労基法)を認める

9. 4~17*国連婦人問題セミナー(婦人の開発への参加促進と男女差別撤廃国際組織について)オタワで30か国、50人参加、日本からは森山婦人少年局長
4 米、東独と国交樹立
7 ポルトガル、モザンビーク独立協定に調印
12 第225代エチオピア皇帝ハイレ・セラシエ1世、罵声の中で退位
14 インド、パキスタン国交正常化

10. 6 米議会でラロック退役海軍少将、米艦の日本への核持込みを証言
19 避妊技術に関する国際シンポジウム(ニューデリー)
26 モロッコでアラブ首脳会議、ヨルダン西岸地区にPLO国家建設を認める

11. 7 *第13回全国消費者大会企業を鋭く告発(4,000人)

9 日本最大のLPG石油タンカー東京湾で貨物船と衝突

13 ユニチカ3工場閉鎖 希望退職 1,000人(2月以来の
繊維不況退職1万人以上に)

16* <ゼンセン同盟>独身中高年婦人のつらい

18 フォード米大統領来日

25 日野市の帝人中央研究所で時限爆弾爆発<狼> 犯行声明

26 田中首相辞意表明

” *名古屋の主婦<勤労市民生協>を設立

29*合成洗剤追放全国集会 東京で開催

30*九段会館で「やっちゃんフェスティバル」

この月 香川・滋賀県にも革新知事誕生

*ILOと労働省の共催で婦人労働行政アジア会議(16か
国参加) 保育所と職業訓練施設不足が課題に

*女性史つきダイアリー日本で初めて発売

12. 4 自民党総裁に三木武夫(推名副総裁の裁定で)

7 *東京<中野婦人懇談会>インフレに怒りをぶちまける集
会

8 *全国唯一の女性町長8選(松野氏)

9 田中内閣総辞職 三木内閣成立(副総理福田 蔵相大平)

10 大成建設本社ビルで時限爆弾爆発 9人負傷

12 通産省危険家電製品追放の省令施行

14* <婦選獲得同盟>創立50年記念大会(100人)

16 この年の実質経済成長率マイナス 1.2%

18 三菱石油水島製油所から重油流出 瀬戸内海漁業に壊滅
的打撃

21*江東区の保育改善を訴え、区役所前に 400人デモ

25 インドネシアのモロタイ島で台湾出身の元日本兵、中村
輝夫を発見

この月 *市川房枝 国会で政治資金を追求

*北海道農村花嫁連絡協 繊維不況でレイオフの織り姫を
迎えに大阪に

*山田五十鈴とアキコ・カンダに芸術祭大賞

この年 *離婚 史上最高の11万3千件

11. 5 ローマで世界食糧会議

13 PLOアラファト議長 国連で初演
説「私は必ずパレスチナに帰る」に
大拍手

22*ミスワールドコンテスト1位に未婚
の母選ばれる

23 フォード米大統領訪ソ、SALT II 促進
で合意

12. 10*国連本会議で国際婦人年計画の完全
実施を各国政府に呼びかける決議

この年 *英国、1970年に制定の男女同一賃
金法を年末までに完全実施

*カナダ軍、女性採用職種を48種か
ら82種にふやす

風 潮

女の寄席通いは増えたけど

近ごろ女性の落語ファンが増え、正月の寄席は女客の笑い声ではずんでいた。

大阪・千里繁昌亭のプロデューサー、やな・かおりさんは、「本来笑いは女性の豊かさの表現、寄席に出かけるのはリブのデモに参加するのと同じ」と言う。だが落語家には「女にはほんとうの笑いはわからない、くすぐりやおふざけにはよく反応するが、本来のおかしみにはもうひとつ態度がよくない」と言う。

(1・8朝日)

豪雪と闘うかあちゃん

夫は出かせぎ、女手一つ

ことは雪の当たり年。東北

地方の日本海側では、観測史上はじめての豪雪に見舞われた。

秋田県平鹿郡、人口六千人の山内村は積雪四メートル。もともと雪の多い所だが、ことは格別。しかも出かせぎの多い村で、除雪作業は農家のかあちゃんたち。自宅のほか、学校・公民館・駅などの公共施設の除雪もしなければならぬ。

山内村議会では、公共施設の除雪作業の人員費として千百七十万円の補正予算を認めた。ざっと四千三百人分。この三分の二は、農家のかあちゃんたちの分という。(2・12朝日)

重役もヒラも「良縁求む」

三菱グループ二十七社が基金

を積んで結婚相談所を開設以来、これまでに三十一組がめでたく結ばれた。

しかし若い人も個性的な人は少なく、平凡で無難な中流家庭のワクの中に安住することを望む人が多い。年齢では、一番多いのが女二十五歳、男二十九歳。(5・9朝日)

OLの衣服費

年間十一十五万円

あるニットメーカーが、東京都内の企業で働くOL二百七十七人の衣服費を調査したところ、一人平均一万三千八百八十一円。クツとバッグを加えると、軽く二万円。

労働省の調べによると、高卒女子の初任給は三万六千八百円(四十七年)。そのうち一か月の衣服費は五千一十万円が三八%、一万一十万円が二八%。三割以上の人はボーナス時に衣服を購入。年間十万一十五万円

を洋服代につきこむことになる。(5・13朝日)

主婦に陶芸ブーム

趣味の陶芸がブームだという。アマチュアを対象にした陶芸教室は増設に次ぐ増設。

屋下がり、主婦たちで満員の陶芸教室をみていると、「生きがい」という名の社交場を連想させる。(5・30朝日)

「いったいどうなってるの」

一都民の世相調査ー生き方は現実的で楽天的、喜びは子どもの成長、腹立たしいのは物価高。近い将来の心配事は、食糧ききんとインフレ、地震。

社会調査研究所世論調査室がまとめた都民の風俗・世相調査から、こんな診断結果が浮かんできた。

いまの世の中を流行語で言うとなれば、どれが一番ピッタリ

る」と寺内さんは心配している。
(5・27朝日)

積極的共働き十二年

するか。十の流行語の中から選んでもらった結果は「いったいどうなってるの」四〇％で一位。「大変なんですよ」一七％で二位。「最低ネ」「泣けてくる」

「とてもじゃないが」が各七％。また「何と申しましょうか」と「トサカにくる」が各五％だった。
(5・26朝日)

リングがむけない子どもたち

親の過保護や干渉で、子どもの生活能力がひどくおとろえている。世田谷区のおもちゃデザイナー寺内定夫さんがへ子供遊びと手の労働研究会の会員を通じて調査したところ、家事や掃除などのいわゆるよこれ仕事、刃物を使う仕事やひも結びのような手先の仕事ができない子が多い。「親としてはケガでもしたらということで刃物を持たせないのかもしれないが、子どもの自由な創造性や能力の発達をはばむことになるおそれがあ

早乙女勝元・直枝夫妻

早乙女勝元さん(四二)が「共働きはラクじゃないヨ」(草土文化社)という本を出した。

自称「家内兼主夫兼作家」の早乙女さんにとって「積極的共働き」の意味は「一口で言えば、わが家に小さな民主主義をつくらうと考えたのですね。ばくらは民主主義のない時代に育ったので、夫婦の間に民主主義をつくり、それが社会に普及していけば、と」

妻の直枝さんは小学校の音楽教師。二歳の愛ちゃんをおぶって自転車で出かける。勝元さんはそのあと二人の子どもを送り出し、家事を手早く片づけ、八時台には書斎に。書きものの合間を縫って、さまざまな活動も。

「フル回転、キリキリ舞いの

今の生活は大変。共働きはたしかにラクじゃないけれど、まざら捨てたものじゃない」
(6・10毎日)

経営に取り組む農村婦人

ある農業団体では毎年全国から生活記録を募集。ことしも応募数一千四百編の中から予備審査を通過した四十数編の記録が送られてきた。

この審査はもう十年になる。当然、経済の変化が暮らしを動かし、記録の内容も年ごとに異なる。

これまでの婦人の生活記録は、家計簿記帳、家族の健康管理、冠婚葬祭の簡素化など、家事的な生活改善のテーマに傾きがちだったが、今年ははつきりと、独立の営農者として経営問題に取り組む積極的な姿勢の広がりが出てきている。

厳しい生活環境、家族の変化の中で、愚痴記録にならず、き

ちゃんと事業計画から技術メンバーまで、中心的存在になって取り組んでいる。子どもたちにも母親の生きる姿勢が伝わっている。確実な歩み、その足どりを見落とすことはできない。
(丸岡秀子) (6・27毎日)

奥様スチュワードス登場

日航ではスチュワードスの結婚即引退の社内規定を改め、結婚後も乗務できるようにする。これは欧米の大航空会社の例にならったもの。(9・12朝日)

文学は女性時代

文学教室「日本女流作家考」は定員オーバー、「現代の女流文学」(全集)の売れ行きも好調。「日本の女性たちの長い闘いの結実とも言える」と遠藤周作氏。
(10・14毎日)

避妊法普及の効用

一九七〇年代の夫婦は六〇年

代より、ベッドを共にする夜が二割ぐらい多いが、避妊している人が多く、インテリ婦人、リブ活動家等に目立つ傾向とか。

(11・14朝日)

意外と弱い「女とくつ下」

パンストは物価の優等生。技術革新で生産能率が高まったおかげだが、寿命は四、五日。

戦後強くなったと言われながら、実はあまり強くないのが、女とくつ下。(12・13朝日)

「老壮の友」「明日の友」など

多彩な老人向け雑誌発行

多くの老人向け雑誌が「生きがい」問題をとりあげ、読者の投稿を重点にしているが、健康関係の実用記事も多い。老人は若者のような購買力はないが、よい雑誌と思ったら離れない。「老壮の友」は十六年も続いている。(12・20朝日)

七四年の身上相談から

若い女の、妻子ある男との関係がふえている。それも、妻が身を引くのが当然と考えるのが多いなど、女性の意識の変化が目立つ。(12・27読売)

中年婦人の交通ルール無視

北海道庁は、道内の父親・母親・老人等八百七十人を対象に交通安全意識調査をしたが、中年婦人の七割近くが交通ルールを無視していることがわかった。子どものための対策とともに、母親の交通安全教育も重要。(12・27朝日)

「物価狂乱・不況」

主婦の四二%買いだめに参加
十一月二十日から三日間、東京のベターホーム協会を訪れた主婦を対象に行なった調査によると、「買いだめ」四%、「ふ

だんより多めに買った」三八%で、半数近くが買いだめに参加していたことがわかった。

「普段より多め」の中にはトイレットペーパー四十個、灯油十かんなどもあり、「ちょっと多く買っただけ」でも、皆がそうすれば結局は買いだめと同じ結果になる。(1・8朝日)

大企業は知っていた

洗剤や紙の不足

神奈川県藤沢市の主婦(四)は去年八月に、大企業関係の主人の情報で不足することを知り、洗剤大箱五個とトイレットペーパー六十個を買いだめ。その時は得をしたと思ったが、物不足が広まると、これでいいのかという気がしてきた。そこで「政府や業者は、物不足の原因は消費者の買いだめ、などとしているが、原因は大企業がつくっているのではないか」と、新聞社に電話した。(1・24朝日)

暮らしの悩みや苦情

秋山さんに電話殺到

秋山ちえ子さんが受ける電話や手紙がぐんとふえた。先ごろ国民生活安定審議会の委員になって「みなさんの情報をもとにお役目を考えたい。不平不満のある方はどうぞ正確な情報を」と言ったからだ。

物不足と物価の悩み・苦情・意見……、それにこのごろは、

自分の家庭には不都合になるかもしれない危険を承知で、企業の秘密めいた情報も寄せられる。たとえば、夫の会社と紙関係の会社との間で「品物を押さえる。モノはないのだ、という情報を流せ、必要な金は出す」という意味のやりとりがあった、とか、車で砂糖を買い集め、夕食のとき「これでも大丈夫」と笑ったら、中一の男の子が「こんな親とは思わなかった。ばくは家を出る」と泣き出した、とか。

「このままでは、親子、夫婦、

地域社会等、いろいろな人間関係での不信が育ってしまいはしないか。今は、物のことよりもそれがこわくなってきました」と秋山さん。(1・29朝日)

タクシー値上げ、客は減少

二十九日から東京など大都市の料金が一斉値上げ。東京駅八重洲口のタクシー乗り場は、午前十時ごろ乗客は一人もなく、タクシーが広場を埋めていた。

「この前の値上げのときは二、三か月間、客がぐっと減った。回復はしているが、以前ほどではない。この値上げで、またガツクリ減るだろう。それでなくても、石油危機の不景気でヒマだったのに、こんなとき値上げしてどうなるのか」と運転手たちは不安そう。(1・29朝日)

*

「タクシーは値上げの必要

なかったのに」と女性運転手

「石油危機が解決して燃料の

価格が安定するまでがまんすべきだったのに」とタクシー料金が値上げされた二十九日、女性個人タクシー第一号の亀井としえさん(五四)は個人タクシーの行方を案じながら嘆く。亀井さんの値上げ反対論の底には「皆さんの支持で誕生した個人タクシーだから」という気持ちがある。運転手仲間は「燃料を確保せよ」と騒いだが、値上げの主張はなかった。組合はもっと運転手の声を聞くべきだったのに、と残念そう。(1・30朝日)

物不足に便乗詐欺

洗剤不足につけこんで、主婦から現金を受け取ってドロロンする事件が、東京で相次いだ。犯人はスーパーの店員で、「前金を払えば大量の洗剤を売る」ともちかけて、一箱だけ先に渡し、安心させておいて逃げたもの。

「冷静に考えたら話がうます

ぎた」と被害者。(1・30朝日)

学校費用も物価高反映

都教育庁は、都内公立学校の父母が学校に納めた負担額の四十七年度調査をまとめ発表した。調査結果によると、本来、全額公費負担すべき学校運営費などの私費負担は大幅に軽減されているが、給食費など「受益者負担分」は物価高を反映し、負担総額が前年度より一二・三%も増加している。

「受益者負担」やPTA運営費などは、インフレの強化で、今年度さらに増大することが見込まれている。(1・31朝日)

これが善政?

高い価格の洗剤あっせん

千葉県では、県内の十三市で、生後四か月未満の乳幼児のいる家庭に洗剤をあっせんすることを決めたが、この価格が、値上げ後の小売価格とほぼ同じ。県

内には、これより七十一百円も安い洗剤が出回っている。県では、メーカーの「小売店を刺激したくない」という要請をのんだと言うが、消費者側は、洗剤のダブつき気配が出ている中で、これでは、まるで業者の高値安定に県が協力するようなものと批判。(1・31朝日)

婦人用品オール一九七四円

時代に批判こめて安売りの店東京・墨田区の二つの洋品店が、ウールマークつき純毛の婦人洋品を、全部、一九七四年に合わせた一九七四円という値段で売っている。

経営者は二店とも同じ。「不況で衣料品が売れないときに固定客をがっちりつかんでしまえば、赤字が出てマインスではない。時代への批判をこめ、赤字覚悟で、続けられるだけがんばりたい」と語る。

この下町商法は日ましに人気

を集め、「デパートやスーパーの特売と違い、本当にいい品物が安く買える」と、狭い店内は毎日大にぎわい。(4・3朝日)

零細企業は経営不振

国民金融公庫の「中小企業景況調査」によると、小・零細企業は一―三ヶ月に売上の伸びが鈍り採算も悪化、経営不振を訴える声が高まっているという。

この調査は、三月十日の時点で実施したもの。売上の対前年増加率は、製造業では一四・九%増、卸売業七・七%増、小売業は一〇・〇%増にとどまり、昨年十一月の伸び率に比べ大きく後退しているだけでなく、物価上昇を差し引いて実質的に見ると、マイナスになっている可能性もある。(4・9朝日)

物価指数は低すぎる!

生活実感はもっと苦しい

田中首相は二十六日の閣議で

「メロンやイチゴなど高級品は除け」と消費者物価指数の算定方式を再検討するよう指示したが、「今でも、物価指数は低く出来すぎている」というのが庶民の率直な実感。

消費者物価は、四百二十八の消費物価とサービス料金につき、全国の百七十市町村を選んで調べる。値動きの激しい生鮮食料品は、毎月、上・中・下旬の三回調べて、その平均をとる。これらの総平均が物価指数となるが、それには商品ごとに重要度をつけなければならない。

そのモノサシになるのが、家計調査から得られる消費支出の動向だが、これは公的機関から特に依頼を受けた家庭の家計簿がネタ元。しかし、たとえば外食費の高騰は著しいが家計簿には反映せず、したがって物価指数にも反映しにくい。

その他、地域差などもあり、統計がとらえない部分のズレは

かなりあるようだ。

(4・27朝日)

卸売物価、また上昇

日本銀行発表の五月上旬の卸売物価指数(昭和四十五年一一〇〇)は一一五〇・四で、前旬比〇・五%、前年同月比三五・三%上昇、六月以降は、公共料金の値上げなどで、さらに上昇する見込み。

品目別では、金属素材や食料品などの十品目が上昇し、製材、化学製品などの三品目が下落した。また上昇寄与率では食料品が三四%で最高。(5・21朝日)

マグロの値段

六月から日本かつおまぐろ漁協連が、水揚げ港直送の安売りやテレビでのPRなどを始めた。値上がりで都会のマグロ消費がにぶってきたあおりで、水揚げ港では安値。船主の赤字を少しでも救うのがねらい。

だが、東京・名古屋・大阪などの消費地では、漁港での値段の七、八倍という高値で、食べたくても食べられない。

国会でも取り上げられた「一船買い」。船の魚を全部買い占め、相場に応じてかせぐ商法が「形を変えて根強く残っているため」と見る業者もあり、水産庁はその流通のナゾを本格的に追及するという。

(6・4朝日)

粉ミルク三〇%値上げ

明治乳業は育児用ミルクの価格を五月九日出荷分から三〇%値上げする、と、卸売り業者に通告。原材料の大幅値上がりで、品質の保持と安定供給のために値上げもやむを得ないという。トップメーカーの値上げにより、雪印・森永・和光堂などの追随値上げは避けられない見通し。

(5・7朝日)

冷蔵庫 一〇・六％値上げ

日立製作所は五月十五日、家庭用冷蔵庫の二十九全機種について、九・七―一三・二％、平均一〇・六％値上げすると発表。除湿機・水冷式クーラー・電気カミソリなど七品目二十二機種も一三―二〇％上がる。

大手家電メーカーは、一月の財界四団体による値上げ自粛宣言以来、価格改訂を控えてきたが、相次いで追随値上げに踏み切る可能性が強い。

値上げの理由は、諸資材の値段が昨年同期に比べ三五％前後上昇したと、春闘による賃上げによって採算点を割っているためと説明。(5・16朝日)

九電力の一斉値上げ認可

家庭用は平均二八・六％上げ
政府は五月二十一日の物価関係閣僚協議会で、九電力会社の電力料金値上げ申請を認可し、六月一日から実施、と決めた。

値上げ案の内容は、産業用電力と家庭用電灯を合わせて、中部電力の七・一％台(申請七七・七四％)を最高に、東京電力六・三％台(同六八・一六％)、中国電力六・〇％台(同六九・六八％)、九州電力四・八％台(同五三・三二％)、関西電力四・六％台(同五三・四％)、最低は北海道電力の四・三％台(同四八・四一％)。

九電力平均の値上げ率は、申請の六二・八九％を五六・八四％に圧縮(産業用電力七三・九％、家庭用電灯二八・六％)。

また、小口家庭用の負担をできるだけ少なくするため、ナショナル・ミニマム(国民の暮らしに最低必要な使用量で料金を割安にする)を、申請の際の百キロワット時から百二十キロワット時に引き上げる。

今回の値上げは、昨年来の石油危機、エネルギー情勢の急変に対応して、使えば使うほど割

高になる増増制度の導入など、省資源型の料金体系に切り替えたことが特色。(5・29朝日)

あつい！灯油戦争

生協連が値上げ反対運動

家庭用灯油の標準価格が六月一日から撤廃されることになったが、灯油の共同購入を実施している「日本生活協同組合連合会」は、値上げを前提とする標準価格の廃止に反発、大幅値上げ反対の運動を全国的に展開することに決めた。

また、東京で開く総会でも、灯油問題を重点的に取り上げ、今後の運動の柱にする方針。

(5・31朝日)

東芝の照明器具

平均二三％値上げ

理由は、原材料や購入部品の価格の高騰。値上げ幅は、住宅用照明器具で二五―二八％、設備で二〇―二五％(平均二三％)。

他の大手メーカーにも追隨の動きがあり、主な家電製品は軒並み値上げされることになる。

(6・7朝日)

洋酒も値上げ

洋酒メーカーの大手、ニッカウキスキーは、同社のほとんどの製品の生産者販売価格の引き上げを決めた。これに伴って小売価格も平均一〇―二〇％の値上げになる。

国税庁では、他の洋酒メーカーが追隨値上げをしないように、洋酒の卸売・小売の業者団体に、買いだめ・売り惜しみ、旧価格の在庫品を便乗値上げしないよう要請した。

(6・8朝日)

岩波新書が二百三十円に

百八十円の岩波新書が、七月二十二日から二百三十円になる。岩波書店では「カバーをはずしたりしてがっぽってみたが、

用紙・製本・印刷費がみんな上がってどうしようもなくなった。岩波文庫のほうは、星一つ七十円をもう少し守る」という。

(6・15朝日)

牛乳一本四十六円前後に

家庭に配達される牛乳が、七月から、一本(二百cc)につき五、六円値上げされる公算が大きくなった。これは、七月一日から原料生乳値上げのため。

最終的に小売価格が決まるのは二十日ごろで、五円上がれば一二%、六円ならば一五%の上げ幅となる。(6・18朝日)

新聞代値上げで意見書

物価安定政策会議(首相の諮問機関)は二十日、経済企画庁で特別部会(松隈秀雄部会長)を開き、各新聞社の購読料値上げ案は大幅すぎると意見書を提出。

意見書の中に取り上げられた

多数意見は次のとおり。

一、今回の毎日新聞の値上げ社告は抜き打ち的で、国民を十分納得させる説明に欠ける。

一、用紙の値上がりなどで新聞経営は容易でないと思えられるが、値上げが大幅で認め難い。

一、販売制度の合理化をはじめ、協議の合理化努力が必ずしも十分とは言えない。

一、従来から主要全国紙の一斉値上げは闇カルテルの疑い濃厚と警告を受けているが、今回も同じ方向。

(6・21朝日)

庶民に重(十)月

コメ(十キロ)

一、六〇〇円↓二、一〇〇円
国鉄(最低運賃三〇円区間)

五キロまで↓三キロまで

地下鉄(最低)四〇円↓六〇円
バス(一区間)四〇円↓六〇円

往診費(七割給付・二キロ以内)

一一一円↓四三〇円

郵便小包

(第一地帯)

(市内)一五〇円↓二五〇円

(市外)二〇〇円↓三五〇円

(第二地帯)二〇〇円↓四五〇円

(第三地帯)四〇〇円↓五五〇円

(9・30朝日)

ささやかな自衛策

十月一日の国鉄運賃大幅値上げを前に、定期券や回数券の窓口に、連日長い行列。コメも三二%アップで注文殺到。小荷物も二十日ごろから急増、滞貨の山。(10・1朝日/毎日)

国鉄の売上新記録

料金値上げ前日の国鉄の売上は約百三十億円。これまでの最高額の約三倍に近く、特に回数券・定期券・指定券が多い。

(10・1朝日/毎日)

出稼ぎウィドーと電話

豊かな酪農をめざす開拓地のホープだったMさんの夫も出稼ぎに。昭和四十年以後の開田ブーム、むつ湾の開発、減反補償、と、めまぐるしく変わる出荷情勢に、開拓部落はすすんで

いる。
電話で夫の声を聞いた夜は眠れない、とMさん。(11・12朝日)

ポリーナスの分割払い増える

中堅・中小企業の年末のポリーナス調査によると、物価情勢より自社の業績を重視して支給額を決定。支給率は基準月収の二・九か月で昨年と同率だが、分割払いが増加している。

女子の支給額は前年比四二・

六%増で男子の三三・一%増を上回り、賃金格差は正の徴候が見える。(12・3読売)

七五年の景気動向

OECDは、七五年の経済見

通しを発表、戦時以外では前例のないさびしい状況と指摘。

日本については、実質成長率は停滞するが、インフレ抑制がきけば、GNP四一五%、インフレ率一六%、上期失業率一・三%と見ている。(12・9朝日)

レイオフ織り姫を農村花嫁に

繊維不況でレイオフの織り姫を農村花嫁にと、北海道農村花嫁対策連絡協議会は、委員を大阪へ派遣。(12・9朝日)

国保低給付のしわ寄せ

中小・零細企業雑居による格差是正のため、これまで、国保十割給付、六十八歳以上所得制限なし、と、老人医療の無料化を実施してきた川口市は、四十三年度から国の交付金が打ち切られた。越境者が増大しており、七割給付に引き下げなければならないという。(12・12朝日)

高校卒業の夢もやぶれ！

繊維不況の折から、愛知県の大信紡績が廃業し、従業員六百人が解雇される。

県立定時制高校に通学、卒業できるというPRで全国から集められた女子工員は、転校・退学を余儀なくされて離散。

企業内高校は、しよせん行政の企業サービスにすぎなかったことが暴露されたかたち。(12・24朝日)

〔抵抗する消費者たち〕

値上げ三社へ不買運動

物価値上げ反対を唱えるだけではダメ、不買運動こそ最大の自衛かつ攻撃だ、と、鹿児島市の主婦たちが、ライオン油脂・ライオン歯磨・キッコーマン醤油の三社に対する商品不買運動に立ち上がった。

中央公民館でへ市婦人会連絡

協」とへ市生活学校連絡会」共催の「物価を語る婦人の集い」が開かれ、約三百人が出席。これまでのように説明や報告を聞くだけ、とは違った自由検討形式で活発に意見を交換。三社が値下げするまで不買運動を続け、全市、全県に運動を広げていくことを申し合わせた。

(1・29朝日)

《地婦連》の生活防衛十か条

①だれに腹をたてたらよいかはつきりさせよう②標準価格は最高価格。それ以下で買う運動を広げよう③値上げ前の旧製品は旧価格で買おう④いい店と悪い店をみんなで見きわめ、知らせ合おう⑤一人ひとりが物価Gメンになったつもりで、調査・

告発・通報作戦を⑥証拠を握るために、領収書を必ず受け取り、それを活用する作戦を考えよう⑦生活を見直す絶好のチャンス。ケチケチ作戦に徹しよう⑧ガマ

ンが一番。お互いに融通し合っ
て買い控えをしよう⑨都や区市
町村を突き上げ、もっと真剣に
物価対策に当たらせよう⑩こん
なときこそ、安全性を忘れない
ようにしよう。(1・30毎日)

狂乱の元凶「石油商法」に

消費者団体の怒り爆発

五日、公取委の調べでヤミ協
定が明らかにになり、町には怒り
の声があふれている。

ハウス栽培の保温燃料が二〇
%カットされた上、大幅に値上
げをされた農家や、一航海三千
万円だった油代が四千万円に
なった漁民など、「価格を元に
戻せ」と恨みいっぱい。

(2・6毎日)

買わなければ値は下がる

衣類、半値はザラ

デパートや小売店にはバーゲ
ンの衣類の山。

ファッション商品は長く在庫

できないという要素があるにしても、原料は値上がりしているのに……。十日前まで三万円

の正札の紳士服が、特売場で五、六千円というケースもある。

これまでコストアップを理由に、どのメーカーも一方向的に値をつり上げてきたが、「モノの値段は、最終的には消費者が決める」という単純な道理を、この投げ売りが教えた。

(2・7毎日)

生活防衛に消費者の団結を

メーカーや大商社が系列化・寡占化を進めているいま、よい品を安く買うには、全国各地に生協をつくり、具体的な手段で団結するのが一番。

「生協がなかったら昨年十二月の家計簿は、さらに数千円ふくれているだろう。ささやかな共同購入でも、こんな成果が出た」と、五年前に名古屋勤労市民生協をつくり、理事も務める

後藤好子さんは語る。

(3・17中日)

安くない？お茶の間バーゲン テレビで「市価より安い」と

宣伝して、お茶の間の主婦に電話で直接に商品を注文させるコマercialがふえているが、一日の参議院決算委員会で、野末和彦氏(ニクラブ)がこの問題をとりあげ、公正取引委員会が二重価格表示の疑いで調査していることを明らかにした。

野末氏によると「三千円以下では市価より安いものが多いが、和服、家具、毛皮、ダイヤモンドなど高価なものになると『市価』の根拠はあいまい。視聴者は、テレビ局が『安い』というのを、うのみに信用して飛びついているのが現状」

(4・2朝日)

世界一薄い日本の牛乳

飲みごたえがない、水っぽい、

と言われる日本の牛乳は、北海道産のもの以外、脂肪分やたんぱく質などの無脂肪固形分の含有率が、欧米の牛乳に比べてはるかに低い。

その上、小売値は西欧のざつと二倍もの高値。質の悪さを考えると、さらに割高な牛乳を飲まされていることになる。

(5・2朝日)

電力値上げ公聴会

傍聴希望者は十五倍

東京電力の大幅値上げ申請をめぐり、通産省主催の公聴会が五月七日に開かれ、陳述や傍聴の希望者が殺到した。

反対意見には、家庭用が高く大企業は安い料金体系の問題や、低い値上げ率の適用を「一か月の消費電力量百キロワット時以下(家庭)」だけでなく「二百キロ以下」に広げるべきだなど、家庭用電力の値上げ抑制を強調する意見が多かった。

賛成意見の側は、原油値上げのもとで電力を安定供給するには、どうしても料金の値上げが必要だと述べた。(5・7朝日)

育児用粉乳メーカー三社に

問屋支配廃止勧告

公正取引委員会は二十四日、明治・雪印・森永等大手メーカーが育児用粉ミルクの販売で採用している「一店一帳合制」などの取引制限は、値くずれ防止などに利用されており、独占禁止法にふれる不正な取引方法に当たると判断し、三社に、この制度の廃止などを勧告。

公取委がメーカーの流通支配に本格的なメスを入れたのは初めてのこと。この勧告で「価格管理に利用している」という前提条件がつけられたが、メーカーが問屋に対して小売店を指定するような制度は、家電や車など他業界でも広く行なわれており、この勧告は大きな波紋を

投じそう。

公取委では、このような不正な取引をやめさせ、小売価格でも自由な競争を行なわせて、値下げも期待したいと言っている。

一方、明治乳業の広報室長は「勧告は納得できない点が多い」と反論。
(5・25朝日)

粉ミルク、公取委の審判へ

公正取引委員会から問屋指定制度廃止の勧告を受けていた乳業三社は「勧告を受け入れられない」と拒否回答。

このため、問題は公取委の審判に持ち込まれる。
(6・8朝日)

やけっぱち牛乳

安い生産者乳価に抗議

関東周辺の酪農団体は抗議のため、板橋区の公団高島平団地で、しばらくたての原乳をタダで配った。

タンクローリー型的大型運搬車四台に、たっぷり二十六トン、二百ccの家庭用ビン十三万本分、市価なら五百二十万円なり。

(6・8朝日)

地婦連が二百五十円化粧品

「ちふれ精神」は守る

商品名は「ルネ」。値上げはしたが、使い切ってしまったら、次回からは、詰め替え用の中身だけを百円で買えばよいという仕組み。

クリーム類のほか、口紅、ファンデーション、乳液もあり、容器も「ちふれ」よりモダンな感じになった。
(6・25朝日)

主婦が「利きじょうゆ」

東京・中央区の「消費者友の会」の主婦たちが、会社名をかくして中小メーカー製のしょうゆの「あじ見」をした。

味も香りも有名メーカー品と変わらず、値段も安く、本醸造

で、合成保存料なしのものが多かった。

今後は一括購入などで広めるつもりという。
(8・23朝日)

独禁政策の公開研究集会

「日本消費者連盟」では、消費者にとって望ましい独禁政策のあり方を考える「消費者と独禁政策」という公開研究集会を開く。
(9・8毎日)

消費者運動、農村で学習

安全で健康な食生活のために、これまでの産地直送活動をこえて、農業や農家経営の実態に目を向けようと、「日本消費者連盟」へ婦人民主クラブの活動家たちが、宮城県の農民と交流した。

まだ具体的行動には至らないが、共通の課題が多いことがわかったという。
(9・12毎日)

消費者と業界の懇談会

東京・高輪の国民生活センターで開催。業界側は消費者代表の抗議を全面的に認める低姿勢だったが、メーカーから離れた公的検査機関の設置については消極的。
(9・17朝日)

インフレ阻止国民集会

東京の明治公園に二十九日、三万五千人が集合。家族連れが多く生活を守る切迫した気持ちにじみ出て、デモのプラカードも、はでではないが切実な内容。
(9・30朝日/毎日)

エプロン主婦怒る

九・二八インフレ反対デー

消費者米価をはじめもろもろの公共料金の値上げが相次ぎ、インフレの波におぼれそうになった主婦たちが「もう我慢できない」とエプロンデモに立ち上がり、許せない値上げに抗議した。
(10・25婦民)

第十三回全国消費者大会

告発で闘う消費者運動

七、八の両日、東京で開かれ、四千人が参加。一年間の狂乱物価を経験して消費者運動も陳情型から告発型に変わり、企業や役所の矛盾を追及、それなりの効果をあげた。

告発型の多くは既成の大団体に属さないゲリラ的消費者運動で、調査学習が武器。

(11・13毎日)

ママさんバワイ値上げ撃退

〈静岡県富士市消費者運動連絡会〉(会員三万二千)は、市内のデパートやスーパー等に働きかけ、食料品については「十月の最低値に価格凍結」または値下げすることを認めさせた。

(12・3朝日)

主婦の怒り爆発

「公共料金値上げ反対」「金権政治一掃」七日、東京・中野

区の杉山公園で、主婦約二百人が「狂乱物価、インフレに怒りをぶちまける集会」を開いた。

主催の〈中野婦人懇談会〉は予想以上の盛り上がりで、「主婦がいまの政治に、いかにカッカしているかを示す証拠」と。

(12・8毎日)

〈安食連〉の強さと弱さ

京阪神の主婦七千人で「安全食品連絡会」を発足させたのは四十六年四月。早くから取り組んできた合成殺菌料A F 1 2をとうとう使用禁止にまで追い込んだ。

反面、発足当時から目的だった無添加ソーセージを大手スーパー「ダイエー」と共同開発したが、思ったほど売れていない。

〈安食連〉では、国の食品衛生行政の体質を何一つ変えられなかったこと、A F 1 2の禁止理由があいまいで、安全性への

根本的問題提起を素通りしてしまったことを反省している。

(12・20毎日)

〔欠陥商品〕

煙の出るヘアカーラー

ヘアカーラー(日立HR 3 1 0 D)をコンセントに入れておいたら、そのスイッチ部分から煙が出ていた。

国民生活センターがメーカーに問い合わせたところ、「この機種は四十六年四月から一年間、七万台を生産販売した。問題になるのは、ある一日の午前中に製造した約三百台の一部と推定され、テストの結果、四台の事故品が見つかった。したがって事故のおそれのあるもののチェックは全部済ませたものとして、以後は部分的に改良。なお、この機種の生産は一年で打ち切り、現在は販売されていない」と説明。

しかし、現実にこのような事故が起きたわけで、メーカーの処理の仕方に疑問が残る。

(4・18朝日)

指をねじ切る脱水機

「洗たく機(東芝V H 1 7 6 1 0 銀河)」の脱水機で洗たく物を脱水中、異常な音がするのでふたをあけたところ、中ぶたの穴から洗たく物が押し上がっていたので指先で押し込んだところ、洗たく物が指にからみついて、指がねじ切れる状態になった。医師に診てもらったが、右手中指の第二関節から切断。

通産省工業品検査所大阪支所で調べたところ、脱水機のブレイキが故障していた。同様の事故を経験した主婦がほかに五人もあり、いずれもブレイキの故障によるものだった。

「回転中は手を触れないように」という表示は一応あるが、

使いなれた気安さもあって、思わぬ事故に発展したものと考えられる。

相談を受けた大阪市消費者センターでは「脱水機の安全に関する要望書」を作り、通産省や経済企画庁、関係各方面に改善を要望。

これを受けて各メーカーは、「脱水そうが完全に止まるまでは、危険ですから、絶対に手などを入れないで下さい。特にお子様にはご注意ください」と、脱水機の上ぶたにイラスト入りの赤字で、目につくように表示し、利用者の注意を喚起することになった。

また構造的には、今後も引き続き検討・改善することになっている。

(5・2朝日)

電子ジャーに「おとし穴」

電子ジャーで保温中にご飯のビタミンBがどんどん減ってしまふ、という研究成果を、近畿

大学農学部食品栄養学科の石井隆一郎講師らがまとめ、十五日から開かれる日本食品衛生学会で発表する。

ビタミンBは御飯だけからとっているわけではないが、石井講師は、安易な便利さに対する警告として、利用者は注意するよう呼びかけている。

(5・11朝日)

家庭用品の安全基準

十月から家庭用品の規制法が施行される。厚生省はホルムアルデヒドなど三種類の基準を決めて、安全確保に踏み出したが、まだまだ不十分。

有害物質を家庭用品に使うことを再検討する必要がある。

(9・18朝日)

安心できない身の回り品

三人に一人が被害
東京都物価局が一日発表した「消費生活用商品の安全性」に

よると、身の回りにある各種日用品によるかぶれやケガ、火災などの被害者は、三人に一人という意外な高率で発生しているという。

被害発生度のトップは家庭化学用品。次いで繊維商品・日用雑貨・電気器具などの順。

(11・2毎日)

米国の危険商品対策

障害監視システムの開発

米国では二年前に「連邦政府消費者製品安全委員会」が設立され、消費者被害救済のため、全米百十九の救急病院を選び、ナイス(NIS)全米障害監視システム」というシステムを作った。

このシステムを、消費者被害の告発のほか、商品の必要度の調査や、安全対策によるコスト上昇の問題、さらに、企業経営への配慮等にも役立てる計画だという。

(11・30朝日)

危ない家電追放へ

「感電トースター」「やけどあなか」「指食い脱水機」など危険な家庭用電気製品追放のため、通産省の省令改正案がまとまり、十二日から施行されることになった。

「新安全製品」は七五年四月ごろお目見え。(12・7朝日)

〔合成洗剤〕

合成洗剤やめて

消費者団体が請願

東京・台東区の主婦の消費者団体「台東たねまぐ会」は「健康に悪影響の恐れがある合成洗剤・中性洗剤の生産・使用の停止」を区議会に請願した。

同一趣旨の請願は、すでに中野と渋谷の区議会でも採択されており、大田区でも近く採択の見込み。

(9・15朝日)

消費者独自の粉石けんを生産

「合成洗剤は有害だ」と主張して追放運動を進めているグループが、さらに一歩進めて、消費者独自の粉石けんを生産販売することになった。

生協・労働組合などの協力で二キロ五百円以下で発売しようというもの。(11・29毎日)

伸びない粉石けん

合成洗剤有害説が叫ばれて十一年余。だが安全と言われる粉石けんは、西友、ダイエーなどスーパーの一部で売られているだけ。売れ行きも、合成洗剤のわずか一二%。

伸びなやみの原因は、製造元が中小メーカーであること、消費者側が「安さ」と「使いやすさ」のみを追求する生活に慣れたしまったことなど。

「自分のいのちと暮らしは自分で守らなければ。被害者であると同時に、加害者となること

を自覚しなければ」日本ではじめて合成洗剤を追放したグループ(新潟)の谷 美津枝さんは語る。(12・2朝日)

食品洗いに中性洗剤は危険!

大阪府衛生部が、野菜果物洗いに中性洗剤を使用する必要なしと発表。発がん性・催奇性の疑いがあるだけでなく、河川の汚染源ともなる。

便利さのみに目をうばわれ、

科学万能と思いこんでいる生活。

毒性の有無は、もとより重大

な問題だが、暮らしというものを、あらためて見つめ直すべきときである。(12・12朝日)

石けん製造再開はボーズか

合成洗剤追放の消費者運動が盛ん。ライオンと花王の両社は石けんの製造を再開するが、一株運動行動委員会と会社防衛運動のからみ合いで株主総会を混乱させられることを恐れてのボーズとも言えそう。

生産量は月産数トンとか。

(12・26朝日)

進 出

八千メートルのマナスルへ

女性十二人 初挑戦

京都周辺の山好きの女性の集まり「同人ユンクフラウ」(会員四十人)は、中部ネパールの

ヒマラヤ・マナスル(八、一五〇メートル)へ日本女性マナスル登山隊を派遣することになり、一月九日先発隊員二人が羽田を出発した。

十二人の隊員は、会社員や主婦で、うち二人は子持ち。平均年齢三十一歳、七人までがヒマラヤ、アンデス、アラスカで登山を経験している。

また、登山費用の個人負担分百万円は、大半が自分で働いてつくり出した。

女性で八千メートルの高山に到達した人は、世界にまだいない。登頂の成否以外に、空気が平地の三分の一という厳しい気象条件の壁を、女性が破れるかどうか、注目されている。(1・9朝日)

*

ウーマンパワー 山へ

最近、女性の山歩きに変化が起き、岩登りや積雪期登山と本格派がふえている。

わが国の登山界では女の実在は小さかった。しかし今井通子さんの三大北壁完登で氷壁ブームが起り、日本女性隊(黒石恒 隊長)のマナスル登頂成功

で、もっと大きな意識変化が起きつつある。

来春、別の日本女性隊がエベレスト（八、八四八メートル）に挑むという。（6・8朝日）

*

日本女性隊

マナスル登頂に成功

日本マナスル女性隊（黒石恒隊長）は、女性として世界ではじめて「八千メートルの壁」ヒマラヤのマナスル（八、一五六メートル）の頂上に立った。登頂成功の瞬間は、五月四日午後五時三十分。

実は、この劇的な登頂の約一時間前に「ニセの登頂事件」があった。先行した内田隊員とシェルパとが最高地点と思われる峰のてっぺんに到着したとき、シェルパが「ほら、頂上だよ」と日の丸の旗を出した。だが内田隊員は、一九五六年に日本山岳会登山隊（榎 有恒隊長）の初登頂記録に「ほんとうの頂上

の手前に「ニセの頂上」がある」と書かれていたことを、酸素不足の高所でも覚えていたので、シェルパと口論になり、結局、後から来た中世古隊員と二人で先に進み、ほんとうの頂上に立った。

内田隊員の冷静さと確かな記憶力がなかったら、「ニセの頂上」をつかまされていたかもしれない。（6・10朝日）

*

黒石隊長が單身帰国

女性初の八千メートル台突破をなし遂げたへ日本女性マナスル登山隊の黒石隊長が單身帰国し、六月十二日、東京着。

三隊員と一人のシェルパがマナスルの頂上に立つ栄光に輝いたが、しかしその代償に、隊員一名の貴い命を失った。

五か月ぶりに空港に下り立った黒石隊長は「すみません」とひとこと。十人の女性隊員と多数のシェルパの指揮、しかも医

者という立場から、隊員はもちろん、地元民の健康管理まで、と、多忙な登山だった。

第一の障害は、東尾根ルートから日本山岳会ルートに変更したときで、ほとんど全員が高山病を訴え、一時はどうなるかと思ったという。（6・13朝日）

国民生活安定審議会委員に

秋山ちえ子さん

「この物価高は大変。でもまた、カクレミノにされるのかな。よし、政府のやる気をたしかめてやろう、とも思いました」

「私が委員であることが消費者にとつて意味がないなら、すぐにでも辞めます」と就任の弁活躍が期待される。

（1・10朝日）

「主婦学者」

草花の新品種を発見

府中市では、失われていく武蔵野の自然を記録しようと、専

門家の調査団をつくって、市内に残る自然の調査を進めてきたが、植物の分野では、協力員の主婦たちの手によって、まったく新しい品種が八種類も発見された。

その一つ「タマノキスゲ」を発見したのは主婦の三誓松江さん（四三）。また、やはり主婦の坪沼黎子さん（四六）は「ムサシノホタルブクロ」を発見、学名には「カンタヌラ・ブンクタータ・ホルマ・ツボヌマイ」と、坪沼さんの名前が取り入れられた。

二人とも、この調査に際して市の公募に応じた協力員。これらの成果は、報告書「府中の自然」にまとめられ、四月に刊行される予定。

（1・10朝日）

職業訓練校に女性ふえる

国や都道府県で設置している職業訓練校は、全国で四百五十

三校、職種はざっと百六十。約五万人が、半年から二年間の訓練を受けている。

女性は約一五％の七千余人と少ないが、東京のように四〇％を超えるところもある。

女性が多いのは洋裁・和裁・和文タイプ・美容などが、造船製図・機械製図にも人気がある。

「従来、男性向きと言われていた職種にも女性が進出してきた。雇用者の四〇％を女性が占める今日、女性のために改善しなければならない点は多いと反省している」と労働省訓練政策課長の橋爪氏。(3・18四国)

小学校の女性校長七人増加

都教育庁は、公立の学校と幼稚園の校長・園長・一般教員の四月一日付定期異動を発表した。

校長・園長五百二人の異動のうち、女性校長は、小学校が七人ふえて五十二人、中学校は二

人減って六人になった。

(3・31朝日)

高裁に女性裁判官

今春の裁判官定期異動で、これまで「女人禁制」だった高等裁判所に初めて二人の女性判事が登場、また東京地裁民事部では全国初の女性裁判長が誕生した。

十五日付で東京高裁判事の辞令が出た野田愛子判事(四九)

前東京家裁判事、一日付で福岡高裁那覇支部判事になった太城光代判事(四一) 前那覇地裁判事、十日付で東京地裁民事一部の裁判長(総括裁判官)に昇格した寺沢光子判事(四七)

前東京地裁判事の三人。

二年前、女性裁判官の第一号として三淵嘉子判事が新潟家裁所長に起用され、いまも浦和家裁所長として活躍中だが、高裁判事や地裁の裁判長は、三淵判事も経験しなかったポスト。こ

などの人事で、女性裁判官の活動領域はさらに広がった。

女性裁判官は年々増え、「保守的体質」が指摘される裁判所

部内でも、次第に大きな勢力になりつつある。(4・15朝日)

全国最年少の婦人市議

共産党の西部和子さん

人口二万七千、まだ保守的な岐阜県美濃市に初の婦人議員が誕生した。

西部和子さん(二五)は、二年前に結婚したご主人とともに共産黨員。入党したのは「世の中を変えたいと思ったから」

一の宮市の毛織物工場で働いていたこともある。いわゆる手八丁口八丁の闘士ではなく、小柄ではっそりした、ふつうのマ

マさんタイプ。先月の市議補選で、第二位当選。

市議の平均年齢は五十九歳。

男性議員二十三人の中の貴重な紅一点。手がけたいことは、公

立保育所の新設、公立病院に小児科を常設すること、など身近な問題。(4・19読売)

再就職する中高年婦人

新しい職場になじみかけた新入社員にまじって、再就職にスタートした中高年婦人たちがいる。広島県立家政専修職業訓練校で四か月の能力再開発教育を受け、この四月から就職した三十余人。

広島公共職業安定所の佐々木幸夫・女子紹介課長は「中高年婦人は家庭が気になるせいか、職業意識が低いのが何よりのガン。本気で就職する場合は、あらかじめ講習を受けて、職業意識をしっかり身につけるのが一番」とアドバイス。

(4・27中国)

主婦、学会で異例の発表

五月十五日の日本食品衛生学会で「石油タンパク禁止を求め

る連絡会（石禁連）の代表世話人大高節子さん（四六）が「石油タンク反対の科学的根拠」を発表した。

〈石禁連〉の主婦たちは、昨年二月、製造中止を打ち出したあともメーカー側が「安全性には自信がある」と言い続けていることに不安を持ち、勉強会や専門家との直接談判を積み重ねて、この発表に至った。

消費者パワーに盲点をつかれた学会関係者は渋い顔である。

（5・16朝日）

火消しの世界に女性幹部

男の職場だった東京消防庁で中堅幹部「消防副士長」の昇任試験に二十七名の女性が合格。五倍の難関だったが、合格率は女性のほうが男性よりも高い。

（8・18朝日）

競馬中継に女性レポーター

東京のラジオ局ニッポン放送

の競馬中継の専門レポーターに河合純子さんが起用された。京都生まれの二十五歳。

（9・20毎日）

エベレストにいどむ女性隊

来年の春エベレストの登頂を目指す女性登山隊は、奈良市の主婦、久野英子さん（四一）を隊長に、隊員十五人。顔ぶれは

主婦、OL、小・中学校の先生、保育園の保母さん、スポーツ用具店の店員さん……と多彩。

エベレスト登山にいどんだ女性としては、一九七〇年、日本

山岳会エベレスト登山隊に参加した渡辺節子さんがいるが、女性ばかりの隊はこれが初めて。

（12・30毎日）

集会・活動

家庭科男女共修運動を

〈家庭科の男女共修をすすめる会〉が結成された。

家庭は生活の基本、家庭科は男女ともに学ぶべき学科、家庭科を女子だけが学ぶのはおかしい、と、家庭科教育を検討する集会などを開いてきた現場の教師や母親たちが結成。

発起人は市川房枝さん、樋口

恵子さん、東京都立戸山高校教諭の和田典子さん等。

現在共修しているのは、昨年実施にふみ切った京都府だけ。

受験優先の今の教育体制では共修は難しく、根本的に、進学校制そのものにメスを入れなければならぬようだ。

こうした動きの中で「男らしさとは何なのかを問い直す」と

いった意識改革も目指して「男のための家事教室」を開設した女性解放グループもある。

（1・14朝日）

「キーセン観光をやめよ」

参院議員会館で百五十人集会
〈地婦連〉へ日本婦人有権者同盟〉等で行くついている「売春問題」とりくむ会〉は、二十一日、運輸省や旅行業者らを呼んで「妓生（キーセン）観光に反対する集会」を開いた。
在日大韓婦人会東京支部の李順南さんらが「何を目的に観光に行くのか、よく考え、反省すべきだ」と訴えた。

（2・22毎日）

第二十六回全国婦人会議

「日本を考える物と心」をテーマに十日から始まった婦人週間の主要行事「全国婦人会議」が、十五・十六の両日、札幌市の北海道厚生年金会館で開かれ、初

日には地元の婦人約二千人が、二日目にも約千人が集まった。全国からの代議員六十人が、二日間にわたって四つの分科会で、一般参加者のとび入り発言を含め、熱心な討議を行なった。参加者に農業の人が多かったこともあり、農村での具体例を述べる主婦の発言が目立った。

(4・18朝日)

「保母養成は大学で」「障害児に就学権を」と学術会議

日本学術会議春の総会で「保母の養成は大学で行ない、男性にも保育所や幼稚園に就職の機会を与えよ」「すべての障害児に就学権を保障し、また大学・短大の建物の改造を国庫で助成して、障害者でも高等教育を受けられるようにせよ」など、勸告五、申し入れ三、声明一、申し合わせ五の合計十四件が四月二十六日、採択された。

「象牙の塔から出て国民の身近な存在になる」ことを目指している同会議(越智男一会长)の第一歩として出されたもの。

(4・27朝日)

「リブ」を論じて七時間

〈婦人民主クラブ〉主催で

戦後では最も古い歴史を持つ婦人団体の一つ〈婦人民主クラブ〉(佐多稲子委員長)が呼びかけ「女性解放の視点をさぐる」と題する集会を催した。

参加者約五百人、二十代の女性たちも姿を見せ、集会は七時間に及んだが、既成の婦人団体としては珍しい外部との交流もあった。

長い話し合いも、具体的な運動論にまでは発展しなかったが、働く女性、主婦、結婚制度に疑問を持つ若い層、それらの交流と発言が、これまでの若い層だけを中心としたリブの集会との違いを見せた。(5・9朝日)

〈草の実会〉二十周年

女性グループ〈草の実会〉が

二十周年記念総会を開き、全国各地から約二百人が参加。総会后「憲法を守ろう」とデモ行進を行なった。

〈草の実会〉は、朝日新聞家

庭面の「ひととき」欄投稿者が集まって作られた会で、機関誌

『草の実』は、この五月で百九十三号を数える。この機関誌を

中心にして、老人問題、平和問題、生活記録、登山グループな

どの研究グループや同好グループが出来た。

しかし最近では、若い人をひきつけることができず、パートで働きに出る人も多くなったことなどから、会員の固定化・老齡化を招くようになり、活動の方向にも悩みが生じてきた。

(5・19朝日)

タイで女工哀史

日本の経済侵略を非難

「日本の企業は、進出先のアジア諸国で、日本国内では考えられない『女工哀史』を再現している」と、東京・八王子市で開かれているアジア人会議本会議二日目、タイの参加者が同国の日系を中心とした繊維紡績の労働実態調査をもとに、タイの織姫たちの悲惨な状況を訴え、日本の経済侵略をきびしく非難した。

この実態調査は、バンコクの労働活動家スナン氏らの提案で、学生たちが九つの繊維工場(うち七工場は日系または日本の資本が入っており、特に従業員四千人、三千人という二つの大工場は両方とも日系)を実地に訪問し、工員に面接して集めたもの。

レポートは、タイの繊維産業は女子労働者が八・九割を占め、低賃金であること、日本では公害問題で工場建設が困難になったことなどからタイに進出して

きたことを指摘。

また、十五歳から三十歳までの女性が圧倒的に多いが、工場の労働環境はきわめて悪く、オンボロ木造建てで換気も悪く、冷房なし、非常口なし、話もできないほどの騒音。

その上賃金は出来高払いで、平均一日八バーツ(百二十円)。日本の明治・大正期の『女工哀史』そのままの実態を、くわしく暴露している。

今後、さらに大規模な調査が続く模様。反日運動で名をはせたタイの学生運動が、日系工場内部にまで目を向け、労働者と共同戦線を張って日本企業を批判している。(6・14朝日)

第二十回母親大会

一九五五年に始まって二十回目を迎えたが、参加者の中には、第一回の五五年に生まれた女性もいた。

「母親運動の原点に返ろう」

「ひとりぼっちの母親をなくそう」などの合言葉で、二万二千人が集まった。(8・12朝日/8・13毎日)

大学婦人連盟国際会議

世界中から約千人が集まって京都で開催。

「人口問題にもっと女性の発言を」とか「男性の独占である電子工学の教育を女性にも開放せよ」「女性の政治への進出が大切」などの意見が出た。(8・19朝日)

「朴」援助やめよ！

女たちが抗議集会

「朴政権と日本政府に抗議する婦人集会」が東京で開催、約三百名の婦人が参加、韓国大使館までデモをした。「日本人は何もしてくれないことが、私たちへの手伝い。もし手伝ってくれるなら、日本の政府・経済界に、現在やっていることをや

めるように言ってほしい」という発言に、会場は息をのんだように静まった。(8・23婦民)

PTAの母親役員

全国PTA研究大会母親部会が北九州市で開催された。役員の後継者難、会合の出席率の悪さ、女性の会長は単位PTAには少しあるが、府県単位ではないことなどが話題になった。(8・29毎日)

〈有職婦人クラブ〉国際会議

アルゼンチンのブエノスアイレスに、五十六か国から約千人が参集。女性が、社会的・政治的・経済的に差別を受けていることは、先進国・途上国を問わず、共通だった。

日本からは三十人が出席、市川房枝さんが選挙について話し、拍手がわいた。

総会では、地位向上、保育所設置など、十九項目を決議。

(9・3朝日/9・9毎日)

女性台頭の

第八回世界社会学会議

八月十九日から五日間、カナダのトロントで開催、七十五か国から約三千人が参加した。

同会議は国際社会学会の活動の一環として四年に一度開かれる。前回がブルガリアのバルナ、初めての社会主義国での会議として話題を呼んだが、今回目立った現象は「女性の台頭」

全体会議では、鶴見和子氏や西独のレナート・マインツ氏が報告。「セックス・ロールズ」(性別にもとづく役割分化)の作業部会が設けられ、国際社会学会の役員候補者や執行委員会のオブザーバーに女性を加えるよう、要求が出た。

(綿貫譲治・上智大教授)

(9・5毎日)

婦人学習の新しい芽

婦人の学習・運動と社会教育をテーマに、「社会教育研究全国集会」が名古屋で開かれた。受け身の聴講から自主的活動への動きが目立ち、内容も、教養だけでなく社会福祉や公害学習など多様化してきた。働く女性と専業主婦が協力できる学習や、幼児をもつ母親が参加できる運動を願う声が多かった。

(9・14朝日)

全国養護問題研究大会

全国の養護施設の保母・指導者・教師と研究者が年休をとり、手弁当で川崎市に集まった。

公的な財政措置の乏しさ、慈善事業から出発した私立施設の問題点など、政治の冷たさが話題の中心となった。(戸塚廉)

(9・20朝日)

巖本善治記念の会

自由民権や男女同権論を唱え、

明治女学校を経営、教養・文芸

の『女学雑誌』でその主張を展開した巖本善治の三十三回忌にちなみ再評価を図る会が東京・新宿の中村屋で開かれた。

(9・24朝日)

列国議会同盟(IPU)で

女性差別

十月二日から東京で開催されているが、婦人議員全員を接待委員に指名していることに対して、女性差別と非難。反対の声は事務局に伝わったが、十四年前の先例を盾に強行された。八日の日本と外国の婦人議員の会で、議長への抗議を話し合う。

(10・4朝日)

*

婦人議員のパーティは十か国十六人、日本は衆参両院二十五人中十一人が出席、市川房枝氏の挨拶で開会、来年の国際婦人年での協力を誓いあった。

(10・9朝日)

笑いのうちに学ぶ

世界各国代表議員の夫人たちは、日本の物価高に「日本人はおとなしい、ふしぎな国!」とびっくり。

(10・12朝日)

婦人労働行政アジア会議

日本政府(労働省)とILO共催のアジア会議が開かれ、十六か国の婦人労働担当官が来日した。

各国とも共通して、保育所と職業訓練施設の不足に悩んでいる。婦人労働行政の現状は、国によってさまざまだが、日本は高い評価を受けた。

(11・30朝日)



婦人参政権獲得

苦闘の歴史を回顧

〈婦選獲得同盟〉創立五十年を記念する大会が十四日午後一時から代々木の婦選会館で、当時の活動家や若い女性約百人が出席して開かれた。

この〈同盟〉は大正十三年、婦人の参政権獲得を目標に市川房枝・現参院議員らが結成、昭和十五年まで続いた婦人運動。近藤真柄さんが記念講演の中

で、当時の闘いを回顧した。

(12・15毎日)

自民党婦人部が造反

大臣や幹部にかみつく

自民党は十七日午後、東京・永田町の党本部に、東京に住む婦人党员約二百人を集め「物価をいかに安定させるか」をテーマにシンポジウムを開いた。

席上、切実な生活の悩みを訴える主婦たちの声に、答弁席に並んだ閣僚、党役員、業界代表らも、答えにつまる場面がしばしば。出席者は中年以上の人が多く、各地域で党婦人部や婦人団体を代表している人たちが。

この日の会合は、こうした保守支持層の主婦たちさえ納得させられない政府の物価対策の弱さをさらけ出す結果になった。

(1・18朝日)



がん告知の可否

看護婦さんたちが共同研究

「がん患者にがんと告げてはならない」という従来のタブーは誤りだ。これにとられず、「告げる」ことが患者のためになるかどうかを優先して考えよう」東京・国立がんセンター病院の看護婦さんたちの共同研究の成果が発表された。

患者の「安らかな死」を目ざす研究が、大病院で組織的に行なわれたのはこれが初めて。

「患者が死の絶望に耐え、そこからはい上がって来ることができるといふ見通しがつけれられたときには、患者自身が自然にがんを知ってゆく過程を邪魔しないように」というのが、この研究から出てきた結論。

(3・21朝日)

四つの家庭文庫を統合

私財で子ども図書館設立

(勸東京子ども図書館(松岡享

子理事長)が設立された。

「自分たちの手で運営できる図書館がほしい。子どもの本の質をよくするには、どうしても子どものための図書館活動を盛んにしなければ」という願いをもつ四つの家庭文庫(石井桃子さんの「かつら文庫」、土屋滋子さんの二つの「土屋文庫」、松岡さんの「杉の実文庫」)を

統合し、実験的な子どもための図書館室と大人のための研究室を兼ね備えた「子ども図書館」を作ろうと話がまとまり、児童文学者の松岡さんらが私財をなげうって、三年前から準備を進めてきた。

独立した建物と充実した蔵書を持ち、本格的に活動するには、まだあと何年もかかりそう。

「東京子供図書館」の事務局

兼図書室は中野区江原町三一

二一、富士ビル三階

電話03-九五三一九六三五

(3・28朝日)

「ねむの木の詩」一般公開

宮城まり子制作・監督・音楽の映画「ねむの木の詩」が、一日から十日まで、東京・神田の岩波ホールで公開される。

宮城まり子さんは、学園の子どもたちの生活を記録にとどめたいと思い、東宝の名カメラマン・岡崎宏三氏に頼んで、子どもたちのあるがままの生活を追った。

肢体不自由児の養護施設という、暗くてやりきれないものを予想しがちだが、「ねむの木の詩」はそんな予断をさわやかに吹きはらう。

子どもといっしょに死ぬことを考えたという父親も、映画の中のわが子の姿に、死なせなくてよかったと泣いた。

(3・30毎日)

女の園で初のスト

四月十六日午前、日本女子大構内に赤旗が立ち、労働歌が流

れた。同大で初の教職員スト。

「勤続五年で給料は六万円、大学の保育所にゼロ歳児を入れると六万円以上とられる。お給料のほうで保育料より安いなんて」と、図書館員の女子書記は嘆く。

二時間のストが、ただちに賃上げに効果があるかどうかはわからないけれど「歴史的なストができたことに満足している」と組合委員長。これから、女の園が変わるかどうか。

(4・27朝日)

保母さん全日ストで勝利

去る一月十九日、名古屋の市立保育園の保母約六百人が、大幅増員の要求に立ち上がり、日本の公立保育園史上初の全日ストを行なった。その結果、要求のほぼ半分、二百二人が増員されることになった。

保育園は、戦後すぐに作られた「児童福祉施設最低基準」に

しばられたままの状態。保母の大幅増員なしには、現在の保育要求に応えられない。

ストの朝は、とりわけ厳しい寒さだった。保母たちが自らの手で歴史を切り開く姿に私は感動して、心までふるえがとまらなかった。

(土方康夫日本福祉大助教授)
(4・28朝日)

金大中氏救出運動で

来日した文明子さん

元韓国文化放送駐米特派員。

亡命先のアメリカで反朴運動を続けている。アメリカでの金大中氏救出運動について講演のため来日したが、ビザの入国目的違反、と法務省がさしとめたため、十日夜帰米。(8・13朝日)

富士・梨ヶ原を返せ!

〈忍草母の会〉徒歩で直訴に

国際反戦デーの十月二十一日、「富士山を原子砲で汚しては

ならない」と、二人の女性が田中首相への直訴状を胸に、東京まで四日間歩き通した。

(11・1婦民)

イギリスの物価見て歩き

衆議院議員土井たか子氏(社会党)は十一月、約十日間訪英。

スーパーマーケットの实地探訪をしたり、また、女性の物価担当相シャーリー・ウィリアムスさんに会見もした。

一般に、ぜいたく品は高価。

しかし、食料品や光熱費など生活必需品の価格は極力抑制。ことし施行の価格法によって、一年ごとに価格は更新される。委員会は毎月二百品目について流通過程や労働者家庭に入って調査しているとのこと。

(12・4朝日)

女性町長、八選果たす

岐阜・穂積町

全国ただ一人の女性町長の八

選成るか、で注目された岐阜県穂積町の町長選挙は、現職の松野さん(六二)が前助役と接戦の末、八選を果たした。

八選目の町村長は、全国で四人目。(12・9朝日)

田中さん参院で代表質問

田中寿美子議員は国会で、勤労者の減税、社会的弱者救済のための補正予算修正、公取委改正案支持、不就労者対策、国際婦人年に際しての首相の決意、などの質問を行なった。

(12・18朝日)

市川さん政治資金を追及

四十九年上期の「政治資金収支報告書」について市川房枝さんは「きれいいことで信用できない」と。政治資金規正法改正の実施、寄付金は個人に限ること、(税の優遇措置も)、市民を含む検査機関の設置等、具体案を示して厳しく批判した。なお、

労組から社会党への寄付も「禁止すべきだ」との意見。

(12・25朝日)

「怒れる主婦たち」

鍋釜をもって座り込みだ

公害判決に主婦怒る

大阪空港公害訴訟の判決は被害者無視の判決だと、近在の主婦たちは強い不満を抱いている。

「裁判だけに頼ってはいられない。一万人訴訟にまでもってゆかねば」「できることなら今すぐにも、鍋釜を持って、何日でも滑走路に座り込みに行きたい」

(3・29婦民)

主婦たち、道路を閉鎖

クルマ公害に怒って

東京小金井市で「不公平な道路行政には実力行使で」と四日朝、車公害に怒りを爆発させた主婦およそ五十人が、自分たち

の町を突き抜ける市道の入口二か所を閉鎖、二時間にわたり車を締め出した。(4・4毎日)

主婦の怒り次つぎ

〈紀平さんに注文する会〉

参院選で東京地区から立候補する予定の紀平梯子さんに、

女性の立場から注文しておこうと、東京・千代田区の主婦会館で二十三日午後「主婦の怒りを国会へ」中央集会が開かれた。

参加したのは、東京を中心に首都圏の主婦・学生ら約百人。

「注文」をめぐって発言は二時間半も続いた。

物価・教育についてを中心に、その他、就職時の女性差別撤回を、売春をなくす運動の推進を、優生保護法改悪阻止を、と活発な注文が出た。

紀平さんは「注文」を受けたあと「刑法改正、電力料金値上げなど、このところ政府の高姿勢が目立つ。七月七日の投票を

通じて、抗議しよう」と。紀平さんを支援する市川房枝さんは「政治が悪いのは、選挙が悪いから。選挙が悪いのは有権者が悪いから。今度の選挙で、有権者はほんとうに目を覚まそう」

(5・24朝日)

アワ食ったマンション計画

ビールの大手メーカー、朝日麦酒が、渋谷区と中野区にまたがって建設を予定していた高級マンションの計画を白紙撤回した。

「迷惑料」を受け取って建設に同意した住民が多い中で「日照は金で買えない」と一年余り拒み続けた七人の主婦のねばり強い運動が実ったものだが、その陰に「異端」とも言える二つの団体の協力もあった。

人を介して脅したりすかしなどの補償交渉について応じなかったのは、用地のすぐ北側の佐藤清子さん(六六)宅ら七戸、

仕事で留守がちの夫に代わり、主婦が主体となって対応した。

反対の主な理由は①建物の大きさが限度いっぱい、日照を妨げる②配送センターへの出入りの車による排ガス公害の心配、の二点。「この計画は採算だけしか考えてない上、金銭での解決ばかり迫り、誠意がなさすぎる」と憤慨する。

中野区役所の環境部指導課も陰の協力をしてくれた。また、アグネ技術センターの長崎社長は調査で、環境基準を上回っていることがわかった。二か月ぶりに朝日麦酒と主婦たちが話し合った結果、朝日麦酒はあっさり「計画の白紙撤回」を約束し、住民の意向を入れて計画をつくり直すことになった。

(6・17朝日)

「主婦の運動はゴキブリ」

あの市川議員が発言
市川房枝さんは、七月二十六

日午後、東京の外人記者クラブで、外国人特派員三百人を相手に講演した。

講演後「日本の消費者運動は弱いのではないか」という質問に対し「主婦たちの運動を『ゴキブリ消費者運動』だという人がいるが、確かに台所の主婦の立場からの問題提起が、なかなか生産・流通・政治の根幹にまでメスを入れるところまで行かないのが現状」と述べた。

これを伝え聞いた「主婦連」副会長の春野鶴子さんは「大先輩として心ないことばだと思ふ。直接、きびしい批判・指導をしてくれるのならわかるが、外人相手にこのようなことばを使うと誤解を招く」と、カンカン。

(8・12毎日)

欠陥プレハブ住宅に抗議

首都圏の主婦八人が自力で、大手メーカーを相手に、欠陥プレハブの補修や建て替えを要求

して闘っている。

グループの連絡先は、千葉市登戸五一六十二中村富貴子さん。(9・4朝日)

自分たちの店

「自分たちがモノの言えるお店を」と、一人当たり出資金五千元、債券一万元で「名古屋勤労市民生協・西山店」が主婦たちの細腕を集めて誕生。二階は自分たちで運営してゆくための会議室。「物価対策のむなしさを主婦が悟った」と、同生協専務理事の田辺準也氏は語った。

(11・5朝日)

「リブも怒る」

雑誌「女・エロス」二号発行

張り切るリブのミニコミ誌ウーマン・リブのグループがいくつにも分かれて、たくさんミニコミを出しているが、そ

の中から、大手の雑誌に対抗しようとする雑誌「女・エロス」

が生まれ、苦しい財政の中からやっと二号発行にこぎつけた。編集委員会のメンバーは、そ

れぞれの勤めを持ち、ミニコミを発行してきた経験も持つ三十代の女性五人。

全国の本屋さんに出まわるように、一般雑誌と同様の流通ルートをとって、値段は七百元。

二号には創刊号の収支決算表をのせ、儲けていないことを公表している。(5・7朝日)

再びベビーカー論争

「アパートでベビーカーを締め出したのは納得できない」とウーマン・リブのメンバー約十人が再び東京消防庁を訪れた。

「子持ちの女性が困っている」

「これまで避難の障害になった例がない」とリブ側が主張。

しかし、消防庁の安全課長は「事故が起きてからでは遅い。先手

を打って締め出した」

今度はアパートを加えた三者で話し合いたいというリブの要求に、消防庁側は「何回会っても同じ」とつれない返事だったが、リブ側の座り込みで、一週間以内に連絡することになった。(6・21朝日)

離婚問題で勤め先にデモ

初老の男性が長年つれそった妻に暴力をふるい、財産を一銭も渡さずに離婚しようとしたので、妻はウーマン・リブ・グループの「中ピ連」に訴えた。「中ピ連」有志の「女を泣寝入りさせない会」が夫と交渉したがラチがあかず、勤め先にデモをした。(8・20毎日)

*

サラリーマンの妻として胸が晴れた。妻の内助は間接的に会社に貢献しており、公の場での発言権があるはず。

(主婦52歳)(8・24毎日)

*

なんとなく笑いのこみあげる
ニュースだった。日本人は、男も
女も別れ下手ではないかと思う。
別れたければ、それなりの報
いを受ける覚悟が必要で、それ
相応の謝罪の心を物質であらわ
すしかない。(瀬戸内寂聴)

(8・31朝日)

*

ピンクヘル三人目に挑戦

〈女を泣寝入りさせない会〉
はすでに二人の「女性の敵」を
降参させたが、八日、三人目を
やり玉にあげた。

これは、中年の夫が三年前か
ら他の女性と同せい、二年前に
勝手に離婚届を出してその女と
再婚していたので、妻が離婚無
効の訴訟中というケース。

(10・9毎日)

「グループ」

注文殺到無添加食品

東京・多摩地区の生活学校
新しい人工食品がどんどん増
えているが、本当に害がないか。
八年前「明るい住みよい地域
社会の建設」を目標に、福生市
の天田君子さんたちは「生活学
校グループ」を作った。

活動の目標を有害食品の追放
に定め、四十七年十一月、市内
のハム・ソーセージ会社に無添
加の製品を製造するよう注文し
た。メーカー側は、大量生産の
きかない、販売ルートにも不安
のあるこの話に迷惑そうであっ
たが、「テスト的に」と、重い
腰を上げた。

今では、多摩地区全域をはじ
め、中野区・練馬区の主婦グ
ループから注文が殺到。「みか
けは悪いが本物の味がする」と
好評。値段は市場に出ているも
のより少々高いが、「混ざりも
のがなく高級品だから、健康料
と思っている」という。

メーカーでも「注文生産だか
らできたことだが、今後は広く
市場に出すための保存性の研究
などをしていきたい」と言っ
ている。

(1・11朝日)

女の「心の歴史」に取り組む

〈名古屋女性史研究会〉

日本の女の「心の歴史」を時
代の流れの中にさぐってゆく試
みが〈名古屋女性史研究会〉の
主婦たちの手で進められている。

メンバーは三十代から六十代
までの十余人。テーマもさまざ
まだが、共通する狙いは、忍従
のなかにひそむ女の強さと、そ
の心情をとらえること。

かつて明治・大正期の「愛知
の女性史」をまとめ、四十三年
に「母の時代」として出版した
が、そこでは女性解放史の視点
から、女たちが封建的な社会の
中でどのように目ざめていった
かを描いた。

しかしさらに「女性の思想と

か行動だけでなく、感性や情緒
を掘り起こしてみたい」と考え
「日本人とは」のテーマで、二
年間読書会を続け、並行して各
人が目標を決めて勉強している。

(1・20朝日)

出稼ぎやめて、と母親牧場

秋田県由利郡仁賀保町の中心
部から二十キロメートルも山奥
の釜ヶ台地区に「母親牧場」が
誕生した。

農閑期には夫婦揃って出稼ぎ
に行くこの地区の主婦たちが、
県の「畜産振興策」に名乗りを
あげたのはちょうど三年前。準
備が終わって飼育が始まったの
が、今年の一月。いま、二メー
トル近い雪に埋まった畜舎では
牛八十頭の集団管理に忙しい。
参加した主婦二十人は、子牛
を産ませる「繁殖グループ」と、
それを育てる「肥育グループ」
に分かれ、それぞれが和牛四十
頭ずつを、責任をもって受け持

つことになっている。収入は牛が売れる来年一月までゼロだが、とりあえず前払いの形で、一月一人当たり一万五千円が借入金から支給されている。

「出稼ぎのほうの手つとり早くカネになるが、子どもを残して、夫婦で家をあけるのはつらい。これは出稼ぎ農業の大改革ですよ」と主婦たちは張り切っている。
(1・26朝日)

無公害野菜を「産直」

「農業の原点に返れ」という千葉県の生産者グループと「新鮮で清浄な野菜を食べたい」という東京の主婦グループが提携し、無公害野菜の産地直送が成果をあげている。化学肥料や病害虫予防の農薬を一切使わず、たい肥だけで育てられた野菜は「自然の香りがする」と、味の評判も上々。

この主婦グループは「安全な食物を作って食べる会」(会長

戸谷委代さん、田無市南町四一二〇―四 会員百十一人)。毎週土曜日に千葉県三芳村からトラックで、都下の会員十七人の家に配達し、そこから一般会員が供給を受けるシステムをとっている。

次には、配合飼料を使わない鶏卵の出荷も始めるという。

(4・3朝日)

主婦たちの手織り工芸師弟展

織物工芸家成沢のぶさんの作品にひかれて門をたたき、五年十年と機に向かってきた主婦たちが、その作品を新宿の小田急デパートで開かれた成沢さんの個展に出品、ユニークな「師弟展」になった。

成沢さんは、糸を自分でつむぎ、染めて、味わいのある手織りの作品を毎年発表している。かたわら、訪ねて来る主婦たちの指導にも力を入れてきた。主婦はいずれも、まったくの素人

だった人たちばかり。「主婦たちの作品は、素朴な新鮮さにあふれている」と成沢さんの評。
(4・29読売)

かあちゃん牧場満五歳

「脱零細農業」に夢も不安も

かあちゃん牧場番屋牧場は、鹿児島県坊津町泊地区にある。

はじめ三十頭だった牛は、五年間に百頭を超えた。かあちゃんたちは、相変わらずがんばっている。

昭和四十三年春、上中坊和牛生産組合が生まれたが、男たちの大半は遠洋漁業に出ていて、実際に働いているのは留守をまもる女だけ。農協や町などからの融資額二千万円。十五ヘクタール、百四十頭が現在の牧場の規模。素人ばかりだから、指導は畜産技師、経営は組合、牧場運営の実務は女たち、と、役割を分担している。

一番の問題は人間関係だった。

生活環境も考え方も違う女性集団で、感情は波立った。それを乗り越えさせたのは、「脱零細農業」を目ざして一つになった「草創期の心」だった。

夢が大きくふくらむ一方で、ふと不安がよぎる。暴騰、暴落を繰り返す不安定な市場、濃厚飼料のひどい値上がり。粗悪林だけに飼料の依存度は高い。後継者問題もある。(5・28朝日)

適正価格を大豆に聞く

東京・足立区の主婦七十人のグループが、区内農家の遊休農地を無償で借り受け、大豆の苗を植えた。自分たちの実験農場で大豆を育て、豆腐や納豆を手づくりして、市販価格が適正かどうか確かめようという試み。さらに野菜の流通機構も調べて、役所や業者の言う「適正価格」も確かめることにしているという。
(6・8朝日)

消費者自給農場づくり

茨城県八郷町の二ヘクタール近い借地に消費者自給農場が生まれた。鶏舎一むねには千七百羽のニワトリ。最初に資金として、各自一万三万円を出し合った。

「たまごの会」の会員は、消費者運動や食品公害反対運動で知り合った仲間。「会長とか代表者とかはなく、月一回の世話人会議で何もかも決めます。私も単なる連絡係で……」と語るのは和沢秀子さん(四〇)。東京の団地に住む、ごく普通の主婦。農場づくりに参加したのは「食品公害がこわいから、安全な作物をつくって食べたくて」加入の条件は「最低十人のグループ。できるだけ労働参加」(6・16朝日)

へ独身中高年婦人の

問題語る会 発足
四十五歳から五十五歳までの

独身女性は、全国に約百万人いる。戦争の犠牲者でありながら、低賃金で、税金は独身者なみ。

そこで、年金の充実、税金控除、医療保障、住宅問題の充実を目ざして、へ独身中高年婦人の問題を語る会が発足した。(11・20朝日/読売)

〔国際婦人年〕

婦人問題は世界共通

来年の国際婦人年の準備として、国連主催のセミナーがカナダで開かれ、労働省婦人少年局の森山局長が出席。

「算術的平等を固執する西欧と、実質的平等を求めるアジアとの違い、それと、スウェーデンの発言とが印象に残った。婦人問題に対する考え方は、大きく変わりつつあることを痛感」(9・28朝日)

政府、参加計画を発表

来年は国際婦人年。労働省婦人少年局は「婦人の社会参加と男女差別撤廃を柱に、記念式典、婦人の地位と役割の日米協同研究、日本の戦後の婦人の歩みと世界の婦人についての資料集発行」という政府の参加計画を発表した。(10・9朝日)

真の男女平等実現の好機

国際婦人年のわが国の行事として、政府や企業、学校、社会での男女差別の実態を提示し、婦人の地位を具体的に取り戻すべきだ。

右から左まで含んだ全日本婦人の大集会を秋ごろもちたい。(市川房枝)(11・20朝日)

女性史つきダイアリー

国際婦人年を冒頭に、右ページが日記帳、左ページに母親大会の写真やリブのデモ風景、女性に関する箴言を掲載。

アメリカのものをお手本に、今井啓子さんが作成。(11・28朝日)

主婦労働への報酬を提案

国連の経済社会理事會先ごろ「婦人の役割に関する調査報告書」が発表されたが、その中で、「家事専任の主婦にも、外で働く男性同様、その仕事に対して給料が支払われ、恩給や有給休日認められるべきだ」と提案している。(12・7朝日)

国際婦人年諮問委に

日本も参加

国連本部でも「婦人年」関係の行事や諸決議案採択が目立ってきた。

十日には、本会議での①婦人年関係計画の完全実施を各国政府に呼びかける②国際婦人年會議に、アフリカ統一機構およびアラブ連盟が承諾している解放

勢力を招請する③日本を含む二

十三か国による同会議諮問委員会を設置するこれらを内容とする第三委員会(社会・人道・文化)送付の決議案が採択された。

(12・12読売)

国際婦人年について

首相に申し入れ

超党派の衆参婦人議員懇談会の面々十六人が十八日夕、三木首相に「政府は来年の国際婦人年に、もっと力を入れるよう」要望したが、首相が国連のこの行事を「はじめて聞きました」とは……。

(12・19朝日)

労働

名古屋市の保母さんスト

名古屋市立保育園の保母とホームヘルパー約七百五十人が大幅増員や正規職員への昇格を要求して、十九日から全面スト。七十一の市立保育園はすべて休園になり、六千人の園児が影響を受けた。

大都市の公立保育園が全面ストに入ったのは例がなく、今後、

が、町の評判はよい。

内容は、職場の男女差別や高齢者の就職、パートタイマーの苦情など、予想以上に切実。相談者の約三分の一は女性という。

(3・15中日)

週休二日制産業界の主流に

週休二日制の実施は、大手の鉄鋼会社や総合商社などをはじめとして造船業界等が一斉に完全な土曜休みに移るなどによって、産業界の大きな流れになってきている。

労働省の調べでは、週休二日

制を採用する企業は年々加速度的にふえ、四十八年には、企業数では三割、適用労働者数で半数を超えた。

産業界では、今後の普及の力ギを握るのは銀行と証券取引所と見ている。全国銀行協会連合会では「銀行が週休二日になると、中小企業への影響が問題になる。まず政府が、はっきりし

た方針を決めてほしい」といっ

ているが、ほとんどの都市銀行では、すでに交替で行員が休みをとっているのが実情。

(3・27朝日)

敬遠されるバスガイド

春の観光シーズンを前に、仙台市交通局の表情はさえない。同局観光部門の「看板」であるバスガイドの新入りが一人もいないからだ。現役も二十人と、ひところの半分以上。重労働で魅力に乏しいと敬遠されたらしい。

「批判」にこたえるため同局は、いま妙案をあれこれ練っている。

(4・19河北)

ビラまきで不当解雇

撤回へ地域ぐるみで支援
西友ストアの下請け会社の一女性社員が、生理休暇を要求して組合を結成したため、突然解雇。へ婦人民主クラブ小金井支

部〕や、地域の人々、労働者らが「守る会」を結成、解雇撤回のための団交にのりだした。

団交は、職場の昼休みを利用して駆けつける「婦民」のメンバーや、アルバイトを休んで参加する人、市議など、熱い支援でふくれあがり、真夜中の一時半、ついに撤回に至った。

(4・19婦民)

保母さん立ち上がる

全国社会福祉協議会保母会と同保育協議会の園長が研究会を開き、話し合った。保母の労働条件の悪さは以前から問題になっているが、労働省の労働基準監督課は、今年から社会福祉施設の労基法違反を厳しく摘発し、園長の責任を問う方針を明らかにしている。

なぜ保母は疲れているかこれを労働時間調査で見ると、たとえば下町のT保育園の場合、三十分前後の休憩時間はあるが休

憩室はなく、交替に事務室で腰をおろしている。室内の騒音も高く、また、保育室を多目的に使うため、机の移動などの作業も多い。

とりあえず「休憩時間と休む場所の確保が必要」という判定が下った。(5・7毎日)

過疎の町に「女工哀史」

農家の主婦ら無期限スト

大隅半島の過疎の街に進出した紡績工場で、農家の婦人従業員たちが労働条件などの改善を訴えて人権闘争に立ち上がった。

問題の工場は、四十七年十月操業を始めた福田紡績の大隅工場(従業員約三百二十人)。約二百人の農家の主婦が働いている。平均年齢三十八歳、日当千四百三十千六百十円。欠勤はもとより遅刻でも日当を引かれる。工場は日曜・祭日もないフル操業で、特別有給休暇なし、生理休暇もなく、冠婚葬祭も欠勤

扱い。週一日の休日は工場側が指定する。

就労中の事故が絶えず、操業開始以来一年余りで約五十件も発生している。しかしほとんどは、監督官庁に報告されていない。福利厚生施設も不十分で、便所・更衣室も男女共用。休憩時間中に、輪番制で三十分の便所掃除をさせられ、食事は十五分そこそこで一日中立ち通しの状態。

主婦工員たちは、同盟系の本社組合とは別に、工場労働組合を結成、二百七十三人が加盟。四月二十三日から無期限ストに入っているが、この紛争をきっかけに、工場側は休憩時間中에서도従業員の外出を制限、正門にはガードマンを配置している。

(5・8朝日)

予想以上に多い「腰痛」

都の保母・看護婦さん
東京都は民生局所管の精薄・

養護・教護施設や保育所など十六か所で働く保母・指導員・看護婦等の職員三千三百人を対象に、昨年末、第一次検診を実施し、「腰痛症の疑いあり」という二百九十七人について第二次検診を続けていたが、全職員の五%強にあたる百六十八人が「腰痛要注意者」と診断された。

(5・19毎日)

大企業の初任給大幅アップ

未組織労働者との格差拡大
狂乱インフレ下の賃金アップは初任給にも及び、四月に入社した新規卒卒者の正式初任給は平均三〇・三%上昇して、大学卒男子で八万四千円、高卒女子で六万六千八百円になった。

これは財団法人労務行政研究所(猪股猛理事長)が民間の大手企業四百四十一社を調査した結果である。

業種や企業間の格差が開いたことが特色だが、中小零細企業

の未組織労働者や、日雇い、内職者等の賃金水準はこの春闘でもあまり上昇せず、狂乱インフレは賃金生活者間の格差も押し広げている。(5・23朝日)

日本女性には過保護でない

「ILOは資料不足」と反論
国連提唱の「国際婦人年」を来年に控えて、ILO（国際労働機構）の「婦人労働問題コンサルタント会議」が、世界二十か国の婦人代表を集めて先月二十日から二十四日まで、スイスのジュネーブで開かれた。討議資料としてILOの事務局が作った「変わりつつある世界の婦人労働者」と題する報告書に、「日本の女性労働者は過保護」と断定的なことが盛り込まれていたことがわかり、関係者たちは、日本の実情とは異なる、と首をかしげていた。

日本代表として参加したへ全
織同盟」婦人対策部長・多田と

よ子さんに、その間の事情や会議の様子などを聞いてみた。

多田さんは会議の第一日も発言を求めて日本の実情を伝え、資料を訂正してもらった。出所は海外向けの労働雑誌らしいが、「アジアはまだまだ遠く、ILO事務局は、正確な資料を得られない、ということをつくづく感じた」と言う。

五日間の会議は、女性労働者の機会・待遇の平等を実現するために必要な施策について話し合われ、かなり具体的な内容が来年のILO総会のための問題提起も含めて各国から出された。

「単に欧米を手本とするのではなく、農業国は農業における女性の働きの価値づけを確立するなど、各国・各地域の実情に合わせた独自性を、ということが、会議の間じゅう繰り返し言われた。欧米ばかりを追ってきた日本を顧みて、そのことが最も心に残った。」(6・4朝日)

農家の主婦工員を解雇し

低賃金の韓国に下請け工場
過疎地に誘致された中小電機工場で働く農家の主婦たちが、労組を結成して、ささやかな春闘賃上げを要求したところ、工場閉鎖と全従業員的首切りを通告されるという事件が、岩手県で起きた。

四十年代の高度成長を機に、たくさんの下請け企業が過疎の東北農村地帯に誘致されたが、最近では総需要抑制の影響を受けて、各地でこうした雇用不安が目立ってきた。

この企業の親会社は、今度はもっと賃金の安い韓国に下請け工場をつくるという。

同じ市内に、同系列の工場が四つあるが、労組のないそれらの工場はそのままにして、この工場だけ閉鎖された。

(6・21朝日)

「いま学校で」女の先生は

小・中学校の教師の五三％は女性だが、校長や教頭など管理職は少ない。退職勧奨年齢も男性に比べて若く、出産や育児の負担も重い。その上、生徒の父母、特に母親の不満や反発も大きい。

教育と教師をめぐる様々の問題を、特に女教師の視点から分析した連載記事。

(9・11・10・26朝日)

働く婦人の福祉に理解を

婦人の職場進出は、全雇用者の三三％という量的な面だけでなく、質的にも変わってきた。職域も、高度の知識や技術を要するものに広がり、管理職につく女性も増えた。

九月十五日から「働く婦人の福祉運動」が始まったが、母性保護や育児の問題など、働く婦人の悩みは尽きない。

(9・16毎日・社説)

有給育児時間かちとる

東京のデパートで

日本橋の高島屋で、出産後一年間の有給育児時間を認めさせた女性がいる。

正職員四千人の半数は女性だが、勤務体制が特殊なため、既婚者は一割、子持ちはんのわずか。そこでまず労組を説得し、やっと、一年間の有給育児時間を会社に認めさせた。

これに励まされ、銀座松坂屋でも有給育児休暇を獲得した。

(10・14赤旗)

産後は十週間の休養が必要

母乳栄養への関心が高まっているが、産後疲労度の一歩ひくい六―十週間で職場に戻らねばならない勤労婦人には、現実的に不可能。

六週間の産休は三十年も前に制定されたもので、働く婦人が増え、職場の条件も変わった今日、産後の休暇は十週間必要。

「これは、産婦の疲労回復と母乳栄養が可能になる最低基準」と産婦人科医・大村清氏は説く。

(10・24朝日)

日航スチュワーデス

差別制度の解消を要求
日航労組は「結婚など制限つき退職制度の撤廃」「現行定年制をなくせ」の二項目を要求。

会社側は結婚後の乗務を認めだが「第一子懐妊後は退職」と回答。「女性の特権を無視したもの。必ず地上勤務を認めよ」と、再交渉中。(11・16朝日)

保母・看護婦・スーパー店員

半数近くが腰痛
東京都衛生局は二十一日、従業員十一三百人の、中・小百六十八事業所で働く約二千六百人の婦人を対象に行なった健康実態アンケート調査の結果をまとめた。

たとえば腰痛経験者を職種別

に見ると、保母五四・九%、看護婦四四・九%、スーパー店員三一%。

その原因としては①人間相手の仕事なので神経を使い、疲れやすい②休憩の時間・設備に恵まれない③看護婦は勤務が変則的で、睡眠時間が少ない……など。

(11・22読売)

繊維不況と人口の推移

織り姫の町、岐阜県一宮市の十月の人口は、女が二四二人減り、男は一八〇人増えた。

女の数が減ったのは、繊維企業の人員整理で、織り姫の転出が増加したことによる。

十一月現在、同市の人口は、まだ、女のほうが七千六百六十人が多いが、繊維好況の三十五年ごろは、二万五千人も多かったのである。

(12・2朝日)



母子家庭にも首切り旋風

不況に喘ぐ北海道美唄市

市内のオーディオ工場で、従業員六十五人全員が解雇された。ほとんどが女性。

他の企業も不況で、再就職は困難。

(12・2朝日)

〔看護婦〕

豊橋市が提案

市条例に育児休暇を
看護婦さんが出産や育児のために引退するのを防ぐため、愛知県豊橋市では、市条例に育児休暇を盛りこむよう市議会に提案した。

その骨子は①一年以内の無給休職②互助会、共済年金、保険掛け金の一部貸付け③定期昇給は停止するが、休職終了後約二年で勤務良好の場合は、二年分昇給して、同期と平準化する。

(3・9中日)

西独の看護婦の待遇

日本とは大差

日本の同僚から、看護婦不足は毎年深刻化してきている、と便りがあったので、西独と日本との看護婦の諸条件を比較してみた。

専門教育はやはり三年間で、小学校卒でも女学校卒（日本の旧制度）でもよい。入学試験はなく、十八歳で学校に入る前に病院で働く。

国家試験に合格すると、初任給は三万九千一五万円。現在、西独の看護婦は約十四万人で四万人の不足。ベッド数がここ十年間に十万以上増加したのだ。夜勤手当、手術室やその他の当直は税金の対象にならない。多くの病院では、生後八週間目から就学までの子どもを預かる保育園を併設している。

看護婦問題は、国がまず原因を考え、改善を行わなければ解決できない。

人権尊重を無視する日本のやり方を他国で見ながら、つくづく残念だと思う。

（西独エッセン市看護婦上川澄子 38歳）
（5・22朝日）

看護婦さん、各党代表に叫ぶ

「社会的地位の向上を」

二十二日、東京の九段会館で開かれた、日本看護協会など主催の「第六回国民の健康を守る看護大会」で、出席した各党代表に対し「看護婦の仕事を十分理解している人が少ない」と、看護婦の社会的地位の向上を叫んだ。

この日集まった約千人の「看護職」の人たちは、基本給の大幅アップと、最低二人以上勤務で月八日以内とする夜勤体制の確立などを決議、国会へ陳情した。
（7・23毎日）

夜勤が邪魔して結婚できない

〈日本看護協会〉はこのほど

「保険婦、助産婦、看護婦の実態調査」をまとめた。

それによると、一か月平均の夜勤回数は、「月八回・二人夜勤」という人事院の勧告にもかかわらず、九回以上が過半数で、手取りの給与はやっと七万円前後。

一般女性の六九％が、二十一・二十四歳で結婚するのに、准看護を含む看護婦は、夜間勤務が邪魔して八〇・九〇％が未婚。

「看護婦絶対量の不足と夜勤体制からくる医療の質の低下は、医療過誤の招来もやむを得ない状況下にある」と調査報告書は労働条件改善を訴えている。
（8・8毎日）

〈看護婦のオヤジの会〉誕生

妻の過労は夫にも負担と看護婦の劣悪な労働条件は家族も犠牲にしており、看護婦だけの問題ではない。看護婦の夫も立ち上がろうと、青森県八戸

市の藤田健次さんの投書をきっかけに生まれた会。まず、夜勤のタクシー代の支払いを病院に要求した。
（10・1朝日／10・29毎日）

看護教育の向上が必要

看護婦不足の解消には、看護教育の整備、その質的レベルアップ、医学教育との対等化が必要。厚生省・文部省の改革のメスを期待。（11・21朝日）

妊婦の深夜勤免除法的措置で産婦人科医による看護婦二百人のアンケート調査によれば、妊娠中の看護婦が深夜勤務して約半数が切迫流早産を経験したという。

それでも看護婦不足の現状では深夜勤免除も受けられない。妊婦の深夜勤に関する法的措置が必要。
（11・22朝日）

看護婦の勤務条件の改善を

私は国立病院に勤続三年の看護婦。普通勤務は月に七日で、夜勤は十二日もあり、早出・深夜・準夜・日勤・早出……の変則的勤務の連続。国が定めた定員どおりの病院でさえ、このありさまです。

多くの人々が看護婦の実態を知って、改善に協力してもらいたい。

(11・24朝日)

子持ちでも勤務できるよう

看護婦の職場改革を

潜在看護婦の復帰が叫ばれているが、ゼロ歳児を持つ看護婦の再就職は、保育所不足などのために、きわめて困難。

妊娠・出産・育児と両立できるように、看護婦の職場の改革を願う。(主婦26歳12・6朝日)

看護制度改革への試案

看護婦不足解消のための提案。

①看護婦の名称を改めて男子

も採用し、医師と同教育同待遇

の専門職と、従来の准看に相当する職の二種類の職制とする。

②現在の三交代を四交代に改め、夜勤手当てを五倍増額。

③寄宿舎制度を廃止し、家族も同居できる社宅の建設。

(朝海さち子 慶大医学部付属厚生女子学院出身・作家)

(12・15朝日)

「内職・パート」

内職・パートの実情訴える

第十回内職大会

一個の工資が十五銭。一時間に百五十個作っても二十二円五十銭。

内職がパートをしている主婦の人口は四百万人と言われているが、五日から東京・神田駿河台の全電通会館で、総評主催の「インフレ・物価高から生活を守る第十回内職大会」が、開か

れた。

七日は「内職・パートの賃金は一時間三百円以上に」「(内職をしなくてもよいように)三万円以上の賃上げを」などのスローガンを採択の後、労働省・通産省に押しかけて労働条件の改善、インフレ阻止のための公共料金凍結など要求。

(3・7毎日)

不況しのびによる内職戦線

内職、パート戦線に暗雲がたれこめてきた。「簡単な手仕事を紹介してほしいという奥さんたちが急増している一方で、求人ばかり減り、あぶれ組が続出している」と各職安は口をそろえる。

求職の主婦たちは、これまでの「小遣いかせぎ」から「赤字家計の穴埋め」という切実なものに変わってきている。

一方、求人のは大半を占めていた零細・中小企業が、不況風を

またともに受けて人減らしをしている。

東京の港区内職公共職業補導所の所長は「新規の求職者が急増したのが最近の特色。下町のおかみさんから山の手の奥さんまでが内職を求めている」と言う。

四月中に同所を訪ねた求職者は九一四人、去年の同月より四〇%も多く、八割が新規求職者。これに対して求人は五七件、五七四人で、求職者より三四〇人も下回る。その上、大半が継続採用で、新規採用は極端に少ない。

会社の近くに住む人、歩いて往復できる人のほうが条件がいい。なぜなら石油ショック以来、内職製品を運ぶのに車が要るような遠距離の求職者は、求人側が敬遠している。そこで求人側は節約しただのと言って

(5・17朝日)

深刻さ増す内職者

昔は内職と言えば貧困家庭の女のもだったが、このごろはレジャーも兼ねると見られてきた。ところが最近の激しいインフレと不況のはさみ打ちで、家計のためにほんとうに内職が必要な肝心のときに、仕事そのものが満足にもらえない心配が出てきた。

契約は書類で、という家内労働手帳制度も、こういう状況ではあまり効力を期待できない。

最も有効なのは組織の力だが、内職者が積極的に組織づくりの一步をふみ出すことは、現実には難しい。

このインフレに工賃切り下げと失業におびやかされる内職者を守るため、内職者の苦情処理を受けている都道府県の内職相談センターと中央機関とが、もっとキメ細かく結びついて、家内労働法が実効をあげるよう、早急に手を打ってもらいたいと

思う。

(東京地方家内労働審議会委員
大羽綾子)

(5・27朝日)

パート・内職の求人が急減

不況で雇用情勢が悪化し、内職にありつけるのは一、二割、パートは昨年の半分で、求職が求人を上回った。

このため、夫のほうも操短や時間外手当のカットで減収、主婦は失業という家庭が増えていく。

(10・16朝日)

都内職安の技術講習会は満員

「少しでも収入増やしたい」

狂乱インフレ時代、少しでも条件のよい内職にありつこうと思うと、技術を身につけて、ということになる。

技術講習会の募集は二十三区の広報紙などに掲載されるが、その日の午前中で定員いっぱいになる。

ある主婦は「以前はヒマつぶしだったが、今は少しでも収入のいい仕事を見つけないと食べていけない」と真剣。

「外職時代」の主婦意識

従来の内職と異なり、家から外に出て働き、しかも特殊技能を必要としない仕事を「外職」と呼ぶ。保険勧誘員、集金人、アンケート調査員、店員などがそれ。賃金は、内職よりはまじだが低い。仕事の厳しさに耐えて最後までやり通す人は、全体のわずか三割。

外職主婦の意識が女性の地位向上に結びつくのはまだ先のことか。(金岡都) (11・19読売)

内職に冷たい不況風

物価の高騰は主婦を内職へと駆りたてるが、求人は減る一方。東京都内の内職人口は約五十万人。都労働局は求人開拓のため実態調査を開始したが、繊維や

おもちゃの不振が痛手。

(11・25朝日)

隠れた失業者

婦人の臨時工やパートタイマーは景気の調整弁。不況になると真っ先に解雇されるが、労組の支援もなく弱い立場にあるので社会的に騒がれない、隠れた失業者である。(12・19朝日)

家内労働者の救済を

下請け会社から仕事をもらい、自宅で工賃かせぎをする家内労働者は、雇用保険法が成立しても、組織労働者でないから失業保険もなく、さりとて生活保護も受けられない。

埼玉県三郷市では、生活資金を利息5%で家内労働者に貸与している。家内労働者のための制度の全国的な施行が期待される。

(12・29朝日)

法・制度・裁判

〔裁判〕

報道取材の自由を優先

蓮見元事務官は執行猶予

西山記者は無罪

国民の知る権利、報道取材の自由と行政上の秘密などをめぐって争われてきた「沖縄密約」漏えい事件の判決言い渡ししが三十一日、東京地裁で行なわれた。山本卓裁判長は、外務省の電信文の秘密性について「同電信文の記載内容はいずれも当時の国際情勢と微妙に関連するもので、実質秘性がある」とし、また取材の自由に関し「憲法」二一条の精神に照らして、取材の自由は十分尊重されなければなら

ない。西山記者の取材は、一応

“そのかし”に当たり、手段

・方法の点でも社会的非難を免れない面もあるが、取材目的が正当なものであったことなどから違法とは言えない」と判断、

国家公務員法違反で起訴されていた西山太吉記者に無罪、起訴事実を認めていた蓮見喜久子・元外務省事務官に懲役六月執行猶予一年を言い渡した。

(1・31毎日)

保育器による未熟児網膜症

「病院の手落ち」と日赤敗訴

赤ちゃんが保育器にいたるときに「未熟児網膜症」にかかって

失明した。両親が病院側の過失責任を問い、損害賠償を求めて

いた裁判で、岐阜地裁石川正夫裁判長は、原告側の主張をほぼ全面的に認め、失明した赤ちゃんに千百九十八万余円、両親にそれぞれ百六十万円、計千五百十八万余円を支払うよう、日赤に命じた。

未熟児網膜症をめぐる民事訴訟は、最近各地で起きており、この判決の影響は大きい。

(3・25朝日)

春木元教授に実刑

教え子の女子学生に研究室で乱暴したとして罪に問われていた春木青山学院大元教授に対し、東京地裁は懲役三年(求刑同四年)の実刑判決を言い渡した。

(3・28朝日)

十九年ぶりに争い決着

森永ミルク中毒事件

森永ミルク中毒被害者の恒久救済事業を行なう「働ひかり協会」が四月二十五日許可され、

正式に発足した。

これに伴い、〈森永ミルク中毒のこどもを守る会〉は、森永乳業と国(厚生省)に損害賠償を求めて係争中の民事訴訟を取り下げる方針を明らかにした。

これで三十年六月の被害発生以来十九年間にわたる被害者と森永乳業および国との争いに終止符が打たれることになった。被害者の苦しみは残るが……。

(4・26朝日)

「一生この訴訟をやりぬく」

税金訴訟に敗訴の大島教授「原告の請求を棄却」宮崎福二裁判長の声が法廷にひびいた。サラリーマンへの課税のあり方に疑問を投げかけた訴訟は敗訴。

判決後、記者会見に現れた大島教授は「これから、判決そのものによって裁かれるのは裁判官自身だと思う。国側が従来主張してきたことがそのまま判決の理由になっている。敗訴する

にしても、納得のいくものであればいいと思ったが」と、一生かけてこの訴訟の「主役」をやりぬく決意。(5・30朝日)

サリドマイド訴訟和解へ

裁判長案に両者同意

東京地裁の和解交渉で、原告団三十九家族は、先に園田治裁判長が提示した一大家族当たり二千八百一四千万円の金銭賠償を中心とした和解案を、原則として受け入れる、と回答した。

一方、被告の国(厚生省)および大日本製薬側も同様の回答。サリドマイド禍の救済は、十二年ぶりに、金銭面での補償について基本的な合意が成立した。ただ、原告団は、福祉対策、サリドマイドセンターの建設、年金問題などについての交渉を条件としており、今後、当事者間で直接交渉を積み重ねることになった。(6・16朝日)

*

サリドマイド事件和解成立

被告側である国および大日本製薬は「サリドマイド禍を生ぜしめた責任を認め」①賠償支払②福祉センター設立③年金支払などの点を確認し、被害者三十六家族と和解が成立した。

原告以外の被害者にも、申し出によって同様の適用がされる。(10・8各紙)

簡易調停で仕立代を賠償

服地を買って自分で仕立てたが、その布に付いていたのは不当表示で、実はシワが寄りやすい布地だった。店では服地の代替品を出すことにしたが「素人の仕立代」の賠償は認めない。

そこで東京・大森の簡裁へ申し立て、四万円の賠償支払いの調停が出た。

この種の裁判は日本で初めて。「集団訴訟」と並んで今後の消費者の行動の焦点になりそう。

(9・8朝日)

女子若年定年制は違憲

名古屋放送を相手に、女子若年定年制は違憲、と女子社員二人が訴えていた裁判は、名古屋地裁で原告が勝訴、会社側は名古屋高裁に控訴していたが棄却された。

(9・30朝日)

*

女子若年定年制違憲

の判決に拍手

名古屋地裁の一審判決と、これを支持した名古屋高裁に心からの敬意と賛同を表する。

私の学校にも多数の女教師がおり、ほとんどが母親であるが、男教師と対等に、同等の責任を負っている。

(小学校長56歳10・9朝日)

奪い返せる制度の実現を

石油の元売り会社を相手に、へ奪われたものを取りかえす消費者の会が損害賠償請求訴訟

を起こした。

「不公正な取引方法を用いた事業者は、損害賠償の責に任ずる」という独禁法の条文も、訴訟費用や繁雑な手間を考えれば、消費者の泣き寝入り前提とした空文。「消費者がわずかな損害でも取り返せる制度を実現しよう」と。(11・4朝日)

パートの主婦ら

「解雇は不当」と提訴
山梨県田富町で甲府三協社から、不況を理由に解雇されたパートの主婦ら十二人は「不当首切り」として、甲府地裁に地位保全の仮処分を申請した。十二人の主婦の平均給料六万円は、いずれも生活費の一部を支えているものである。

会社側は提訴を受ける構え。

(11・12朝日)



〔優生保護法〕

優生保護法改正の問題点

六月の参議院選挙が近づくにつれ、またもや優生保護法改正（悪）論議が出てきた。

今回の法改正の動きに対する反対論には、二つの立場がある。

一つは、爆発する世界人口を抑制しようとする立場から、自由な妊娠中絶の手段を残しておくべきだという反対論で、もう一つは、「産まない自由と産む権利」というスローガンをかけた、女性保護の視点に立つ反対論である。

今回のような法改正の前提としては、経済的理由（社会的問題）による人工中絶が不要な社会状況を保障する義務が国家に課せられなければならない。

具体的に言えば、最低賃金制の確立、住宅の保障、共働きの

ための保育所や教育の問題の検討と実施が優先しなければならないが、それを全く無視して強行採決しようとするのが問題である。

また、胎児の生命を尊重して中絶手術を非難するのならば、避妊の知識を含めた性教育が現在の義務教育のカリキュラムの中で確立しているか、という疑問にも、国は答えなければならぬ。

墮胎罪に、従来の懲役刑のはか罰金刑も入れるという刑法改正草案がセットになった優生保護法改正案は、女性の危険と負担において、労働人口の確保と保守的な道徳の再確認という歴史的役割を演ずることとなる。

（松村博雄産婦人科医・評論家）
（4・20朝日）

経済的理由での中絶認めず

人工妊娠中絶を認める条件の一つである「経済的理由」を削

除する優生保護法改正案が、二十三日の衆院社会労働委員会で、自民党の賛成多数により修正可決された。

二十四日の衆院本会議で可決、参院へ送られる予定だが、会期末で他の法案とのからみもあり、今国会で成立するかどうか不明。

（5・24朝日）

多数の女性が熱心に傍聴

衆院社労委での改正案審議

「産む産まないは女に決めさせて……」経済的な理由による人工妊娠中絶を認めないようしようという優生保護法「改正案」の本格的な質疑応答があったのは、昭和四十七年に初めて改正案が提出されて以来、委員会採決前日の二十二日からのこと。

そのわずか二日間のスピード審議の中で目立ったのは、傍聴の女性たちの熱心さ。

約五十人が、委員会室後方の狭い傍聴席に長時間立ったまま

で、熱心にメモをとったり、野党の婦人議員が「子どもがいるとアパートを追い出されることがある。そんな状況で子どもを産むことができるだろうか」と政府を追及するのにうなずいたりしていた。

東大の我妻堯助教授は「改正案の条文は、当事者の判断次第でいくらでも厳しく解釈できる上に、刑法の墮胎罪の存続・強化がもくろまれている今、この改正案は、中絶の取り締まり強化を意図している、と疑われても仕方がない」と語った。

（5・25朝日）

衆院本会議で

ウーマンリブの女性ら騒ぐ

優生保護法の一部改正案が上程された二十四日夜の衆院本会議で、傍聴に来ていたウーマンリブの女子学生たちが騒ぎ、監視に押し出されるというハプニングがあったが、トラブルは一

分ほどで終わった。

(5・25朝日)

「優保法改正案」廃案に

優生保護法改正案は終盤国会の話題を呼んだが、廃案の運命はまず定まった。

表面上は政府提案の形であるが、墮胎の横行を宗教的信条から追及する「生長の家」と、産婦人科医の利害を代表する「日本医師会」、この両者の妥協で改正点がまとめられ、厚生省に持ち込まれたといういきさつがある。

前国会にも提出され継続審議になったが、実際の論戦は、国会の衆院社労委で五時間ほど行なわれただけ。十分議論が尽くされたとは、とても言えない。

(6・2朝日)

〔刑法改正〕

墮胎罪、ほぼ現行どおり存続

刑法の全面改正作業を進めている法制審議会は二十二日、墮胎罪などの改正草案を、原案どおり採択した。

墮胎罪に関する改正規定は、

①墮胎した本人は一年以下の懲役または五万円以下の罰金

②本人の依頼または承諾の上で墮胎させた者は二年以下、その結果本人を死傷させた場合は五年以下の懲役③営利目的の者は五年以下、妊婦を死傷させた場合は六月以上七年以下の懲役、など。

結局、現行刑法における、医師などの業務上墮胎罪を、職業に関係なく、謝礼などを目的にした場合は適用する、ということになったほかは、ほぼ、現行法どおり。

(1・23朝日)

刑法改正反対運動

婦人や消費者団体も

刑法改正草案の作成が最終段

階を迎え、それに対する批判や反対の動きも高まってきたが、五月十一日には、婦人運動家らによる「刑法改悪に反対する婦人会議」が発足した。

同「婦人会議」は、小沢蓮子、樋口恵子さんなど婦人運動の活動家が優生保護法改正問題と取り組んでいる間に、刑法改正草案が、悪徳企業の追及や公害反対など、生活を守るための女性の活動を制約するおそれが大きいと痛感して結成することになったという。

また「婦人民主クラブ」も、八日、保安処分をめぐる、専門家を招いて学習会を開いたのを皮切りに、反対運動を始めている。そのほか、消費者運動の関係者の間で、草案にある企業秘密漏示罪や公害反対運動などを抑制する懸念があるから、反対の共闘態勢をつくっていきたいという動きなども出ている。

刑法改正答申その後

法制審議会の答申が出てから三か月、法務省では、解説書や一般用・専門家用の二種類のパンフレットを作って、熱心にPR中。

「日弁連」はビラまきや反対集会をやり、パンフレットも好評なので、詳しい「刑法改正読本」を作成中。

すでに十二の地方議会が反対を決議、今後さらに増えそう。「新聞協会」「雑誌協会」「書籍出版協会」なども反対意見書を出す。

(8・19朝日)

〔その他〕

見通し暗い「実子特例法」

戸籍の信用確保が優先「赤ちゃんあっせん事件」で話題を投げた岩手県石巻市の菊田昇医師らの提唱で「実子特例法(特別養子)」の制定を要求

(5・12朝日)

する運動が次第に広がっているが、法務省は「もらい子を実子として戸籍に記載するのは、戸籍全体の信用がくずれる危険がある上、実の兄妹がそれと気づかず結婚を望むなど、社会全体に及ぼす弊害はきわめて大きい」と反対。

いまのところ、法制定の見通しは暗い。
(1・5朝日)

「男性上位」を改めよ

遺産・給与などで提言
この提言は、家庭や社会での女性の地位の向上を目ざして、制度や行政のあり方について、約二年間にわたって検討してきた、総理府の「婦人に関する諸問題調査会議」(議長・中川善之助前金沢大学長)がまとめたもの。

「主婦の法的地位を高めるため、夫の遺産に対する妻の相続分を引き上げよ」「女性が職場で受けている賃金や昇進面での

差別扱いをなくすため、国は苦情処理機関を設け、あつせんや調停をせよ」など、男性上位の社会にとつてはかなり耳の痛い提言を、二十九日、政府に提出。女性の地位向上に積極的な手を打つことを政府に求める提言は、これが初めてで、特に家庭と職場での女性のあり方についての具体的な提言が目立つ。

(3・30朝日)

靖国法案、十五婦人団体も

採決の撤回を要求
靖国神社法案に反対する「草の実会」(主婦同盟)、「新日本婦人の会」(総評婦人対策部)、「日本キリスト教女子青年会」など、革新系、宗教関係等十五婦人団体の代表十一人は、十八日国会内で前尾衆院議長、各党国会対策委員長などに秘書を通じて、同法案の採決撤回を求める声明文を手渡した。その要旨は次のとおり。

「靖国法案は、信教の自由、政教分離の規定だけでなく、憲法の三大原則に違反。国会が暴力の場となったことに激しい怒りと憂いを感じる。自民党は責任をとり、前尾議長は採決を撤回してほしい」(4・19朝日)

女性に不利な雇用保険法案
失業保険法案が政府の手で国会に上程されている。

これは、失業者の生活保障を図ることよりも、再就職を容易にする、つまり労働力の確保へと政策が方向転換していくことを示すもの。

この法案は、労働市場での雇用の安定の方向を目ざしている点では前向きだが、女性や出稼ぎ労働者には不利に、また高齢者に再就職を促す傾向にも問題。思い切った改革だけに、摩擦も大きいのではないか。

(佐口卓・早大教授)

(4・29朝日)

田中首相、妻の相続税軽減を指示

田中首相は、五十年一度税制改正に関する大蔵省の方針の説明を求めた際、配偶者の相続税負担軽減を配慮するようにと指示した。

四十八年度税制改正で「妻の座優遇」はある程度進んだが、さらに優遇を求める声が高い。

(8・25毎日)

結婚による改姓と女性

現行民法では、夫婦は同一の姓を強制される。夫婦のどちらの姓でもよいが、実際には夫の姓が圧倒的に多く、女はカメレオンのように姓が変わる。

そこで「女性の法的地位を考える会」は、同一姓でも別姓でもよいように民法を変える運動をしている。
(8・29毎日)

尊属規定削除を急げ

尊属傷害致死罪が合憲か違憲

か争われていたが、最高裁は合憲とした。

尊属殺人重罰を違憲とした昨年の判決の根拠も「法の下の平等」ではなく「酷にすぎる」が多数意見であった。

しかし、尊属規定は、差別的「程度」ではなく、「理由」が問題。法と道徳を混同し、孝道を強制する尊属規定は、すみやかに削除すべきである。

(9・28朝日/毎日)

独禁法と消費者

公正取引委員会がこのほど発表した「独禁法改正試案」は、現行法よりも企業に対してきびしい、と、通産省や企業は反発している。

一方、消費者参加の余地はまだ不十分で、賠償額などの被害救済も弱い。

公取委の委員長を大臣にして、政府の指揮下に入れようとする動きもある。(10・9朝日)

米系混血児、

無国籍になるおそれ

日本の国籍法は「出生の時、父が日本国民であれば、子も日本国民」という男系血統主義。

一方、アメリカ合衆国移民及び国籍法は「米国外で米市民と外国人の間に生まれ、米国市民権を得た者は、市民権留保のために、十四歳から二十八歳まで、本国内に最小限二年間継続して住まなければ、国籍を失う」と定めている。

戦後、アメリカ人を父に、日本人を母に日本で生まれ育った混血児は、四三％が母子家庭。自力で米国生活ができないものも多く、約三千人の混血児が無国籍になる可能性があるが、法務省は、日本への帰化に消極的。

このほど国際社会事業団が行った調査の対象になった四千人の子どもの母親は、米国人と正式に結婚しているが、多くの場合、法的に日本国籍、夫と離

別または別居した母子家庭である。

子どもが外国籍であるため、児童扶養手当が受けられず、医療保険も何もない不遇な生活を強いられているという。

(10・11毎日/10・14朝日)

産休延長の法改正を

産休は、産前産後各六週間。労働基準法六五条のこの規定は、戦後まもない一九四七年に制定されたもの。

産後の疲労度は六週から十週にかけて最強で、産後七週目からの出勤は恐るべきこと。母乳をやめる最大の理由も母親の疲労。

産婦の疲労回復と母乳育児を

可能にするため、産後休暇を十週間に、法の改正が必要。

(10・24朝日)

契約法の知識が必要

民法七五四条では、夫婦間の結婚中の契約は、贈与の約束でも貸借でも、いつでも取り消すことができる。

夫婦は一心同体で、妻は夫の陰にかくれた存在、という発想があるのだ。

この条項はまもなく消滅するが、夫婦間でも他人同様の契約が可能になると、妻にも契約法の知識が必要になってくると思われる。

(慶大法学部教授人見康子)

(10・28毎日)



調査・統計

女らしさと女子大生

「女らしさ」っていったい何だろう。東大大学院の大浦容子さん（教育心理学専攻）が「女子大生の女らしさの自己評価」をテーマに、女子大生を対象に調査したところ、世間でいう女らしさとは「依存的、感情的で判断が狂いやすく、堂々と自己主張したりせず、仕事に打ち込まず……」と出た。そして「人間として望ましい」と女子大生自身が考えている理想とは逆、と捉えている。

そして実際の自分は「望ましい人間」と「女らしさ」の中間の、「女らしさ」寄りのところにある、と位置づけ、「望ましい人間」に意識的に近づこうと

している。

社会人として一人前に生きることを、世間が言う女らしく生きることとは逆方向にあって、

「女らしく」と抑えつけ型にはめようとすると、若い人たちにはめもな内的葛藤を与える。性別役割論には、大きな問題があると思う、と大浦さんは言う。

（3・11四国）

婦人に関する総合調査

〈婦人に関する諸問題調査会議（中川善之助議長）〉が「家庭と、仕事ないし職業との接点」を中心テーマに調査。同時に、総理府は「婦人の意識」を、労働省は「婦人の地位の実態」を、調査。このほど、報告書がまとめられた。

報告書は、女性の生き方の多様化を反映して、男女交際の場の整備や家庭婦人への社会保障の強化だけでなく、職場の男女差別撤廃や育児休職など、働く女性の権利の拡張、市民活動の拠点施設の設置など、幅広く提言している。

調査に参加した東洋大の神田道子さんは「男は職業、女は家庭」の役割分担支持者が多く、家事・育児にやりがいを見いだしている点で、女性はまだあまり変わっていないと見る。女性の意識を変えるには、行政も含む社会的援助が必要、と言う。

（4・2朝日）

*

この報告は、幅は広いが現象的で、一貫性がない。役割分担、夫婦財産、主婦の家庭内労働など、疑問が多い。

むしろこの報告で落ちている「婦人の政治への参加」を強力にすることが、女性の社会的

・経済的自立を進めるのではないだろうか。

（鍛冶千鶴子）（4・12朝日）

夫の健康を心配する

中小企業経営者の妻

夫の健康に関心を持つのは経営者の妻に多く、サラリーマンを含めた一般の主婦は、それほどでもない。夫の健康を最も心配し始めるのは、五十すぎ、つまり、夫がそろそろ定年を迎えるころになってから。朝大和ヘルス財団が全国の主婦について調べた結果である。

この調査での「経営者」とは企業者のこと。なかでも、従業員五十人程度の中小企業の経営者で、腕一本で事業を築いた人が多い。

一般の主婦にとっては、夫よりも子どもが生きがい。心配なのは夫の健康より家計のやりくり、という結果が出ている。

（4・9サンケイ）

「世界規模で人口対策を」

出生抑制を説く「人口白書」

厚相の諮問機関・人口問題審

議会（会長新居善太郎母子愛育

会理事長）は、十五年ぶりに「人

口白書」をまとめ、斎藤厚相に

提出した。

この白書は、人口爆発と呼ば

れる世界人口の激増、食糧をは

じめとした資源不安などから、

人口問題が世界的に深刻化して

きた実情を国民に訴えるねらい

でつくられたもの。

日本の人口については、人口

の老年化、若年労働力の減少な

ど、これからの問題点を指摘し

ながらも、①日本の人口はゼロ

成長の静止状態にすることが望

ましく、出生抑制に一層の努力

をすべきだ ②人口問題へ国民

的認識を深める必要がある ③

アジアで低出生率を実現したた

一つの国として人口抑制のため

の国際協力を積極的に進めるべ

きだ、など、世界的な人口爆発

に対処する当面の緊急な課題と
して、六項目の提言をしている。

（4・16朝日）

現代病「変死」目立つ

医者は休診家族は少なく

東京都内で、このところ「病

死による変死体」が目立ってい

る。

都内二十三区の変死体は都監

察医務院がまとめて扱っている

が、四十七年の病死による変死

のうち、トップが急性心臓病死

次いで多いのが頭がい内出血死。

これらの病気は、突発し、医

師の手当てが間に合わないこと

が多く、美食で動脈硬化の人が

増えていることや、開業医の休

日休診から、当然の傾向という

また核家族に伴い、孤独死

が増えてきた。（5・9朝日）

「子ども二人」賛成七割に

人口問題についての世論調査で

国連はことしを世界人口年と

定めた。八月十九日からルーマ

ニアの首都ブカレストで第三回

世界人口会議が開かれる。これ

を機に毎日新聞社人口問題調査

会と同世論調査部が協力、初の

「人口問題についての全国世

論調査」を行なった。

世界的な人口爆発に対する国

民の危機感には相当強く、国内の

人口問題に深い関心と、かなり

積極的な態度をもっていること

がわかった。（6・7毎日）

変わる主婦の意識

連帯を求める

熊本市中央婦人学級のアン

ケート調査によれば、家事労働

を「主婦の職業」だと答えた人

は約七割で三十一四十歳代に多

く、逆に五十一六十歳代では「職

業ではない」という主婦が多

かった。若い主婦の間では、主

婦業は夫の職業と同等だ、との

職業意識が定着しつつある。

余暇の利用法は、各年代とも

経済問題や趣味などの学習に関

心をよせ、特に若い世代は、消

費者運動に対する姿勢も積極的

になってきた。

般にこもって「家を守る」か

ら、外に目を向けて、他との連

帯を求めようとする主婦の動き

がわかる。（6・8熊日）

夢と現実との落差

時間に追われる生活の実態

首都圏のサラリーマンとOL

を対象に、ある時計会社「グッ

ドタイムとリアルタイム」の調

査をした。生活の中でのグッド

タイム（程よい時間、希望する

時間）とリアルタイム（実際の

時間）の違いをつかもうという

ねらい。調査の結果は

◇朝食時間「グッドタイム二十

分→リアルタイム十分」◇朝、新

聞を読む時間「三十分→十五分

◇睡眠時間「八時間→七時間

◇一週間の読書時間「六→七

時間→二→三時間。

時間に追われつづける現代サラリーマンの実態が、ほぼ予想どおりの形で出た。

両方が一致しているのは、朝のトイレと、女性の化粧時間だけだった。(6・9朝日)

東京の投票率は女性上位

東京の戦後の投票率の順位は①都知事選六六・二%②都議選六三・四%③衆院選六二・九%。

参院選挙は二十二年の第一回から二回までが五〇%台、二十八年の第三・五回までは四〇%台ときわめて低率、三十七年の第六・八回は六〇%台に上昇したが、前回は五六・五%と落ち込んだ。

男女別に見ると、初めは男性が一〇%近く高かったが、四十年の第七回から逆転、女性上位になった。この現象は全国的だが、特に東京が著しく「東京の女は選挙への関心が高い」と都

選管は見る。(6・18朝日)

売春の低年齢化目立つ

中学生、昨年の二倍に

警視庁が三日まとめた少女の売春防止法違反事件は、ことし全国で百十三件あった。保護された少女は二百五人で、このうち中・高校生が六十三人。

パターンとして一番目立つのは暴力団員の組織的な事件。次いで友達を紹介し合うなど少女たちだけのグループによる事件。静岡では、ある土建会社の社長が女高生に「小遣いをやる」と、次々に友達を紹介させていた。

特徴は、低年齢化が目立つこと。昨年十人だった中学生が、今年は二十人もいた。

(8・3毎日)

結婚の目的は「精神的安定」

独身者の意識調査より

ある会社の社内報で、二十代の独身男女二百人に結婚観のア

ンケート調査をした。

「なぜ結婚しますか」には、男女とも「精神的安定」が圧倒的。次いで男性は「身のまわりが不便だから」。女性は「おんなの幸福だから」

「子供は何人ほしいか」には、男女とも一位が三人、二位が二人。また「四人以上」というのが男性に二十人、女性に十一人もいた。

「好きなタイプ」は、男性は①八千草薫②大原麗子③小柳ミ子④浅田美代子⑤酒井和歌子。女性は、①加藤剛②高橋英樹③石原裕次郎④二谷英明⑤石坂浩二の順。

(9・10朝日)

現代OLの食生活

某レストランがOL約五百人を対象に行なったアンケート調査の結果

「朝食を必ずとる」は約六〇%。それも、出勤前のあわただ

しい時間、ゆっくり味わっているヒマはなく「十分一二十分間で」が六七%余。

「夕食を外で食べる」のは、月に「三・四回」二五%、「十一・十二回」二二%、の順で、一回分千円一二千円と、結構優雅な夜を楽しんでいる様子。

「お酒を飲みに行く」のは、「月に一・二回」が六三%もいたが、飲み代として、一か月一銭もかけていないという人が二二%も。その分は、男性が払われているらしい。

(9・12朝日)

四十歳以上の女性の三分の一

夫との死別・離別者

昭和四十五年の国勢調査によると、十五一六十四歳の人口は、男子が三、四九三万人、女子三、六三三万人。六十五歳以上の人口は男子三二三万人、女子四一一人と、いずれも女子のほうが多い。

十五歳以上の女子の人口四、

〇四四万人のうち、配偶者がいるのは六〇%の二、四四二万人。未婚者は九九九万人（二五%）で、男子より下回っている。

一方、配偶者と死別した人は五二一万人で、男子に比べ圧倒的に多い。また離別者も、女子は八四万人で、男子を上回っているが、これは男子の平均寿命が女子より短いことや、女子よりも男子のほうが再婚の機会が多いことなどによる。

四十歳以上の女子の三分の一は、夫と死別または離別している（労働省資料より）。

（10・22朝日）

女子大寮の門限に格差

男子禁制、花の女子大寮だが、その門限には、各校かなりの格差がある。

お茶の水女子大は午前零時、遅れても罰則なしという自主管理。聖心女子大は九時半で、罰

則は一週間外出禁止。

昭和女子大は七時。全国でも一、二の早さに、寮生の不満はつるばかり。（11・8毎日）

男女高校生の性意識の変化

「純潔は守るべきだ」と思う男子は三二・五%（四十年）↓二三・三%（四十六年）。女子は六〇%（四十年）↓五八・四%（四十六年）。

（12・3・12・15毎日）

離婚、新記録

厚生省の人口動態統計 四十八年は出生・死亡・離婚が前年より増えた。特に離婚は十一万三千件で史上最高。

死産と結婚だけは減った。

（12・31朝日）



〔老人問題〕

施設不足を訴える

初の「盲老人白書」

全国盲老人福祉施設協議会は、盲老人ホームに入っている人々の実態を紹介した初の「盲老人白書」を発行。十九盲老人ホームの一、〇六八人を面接調査した結果に、厚生省の「身体障害者実態調査報告」などの資料を合わせて、厚生省老人福祉専門官が分析したもので①六十歳以上の盲老人人口約十二万人に対し盲老人ホームの定員は千五百人しかなく、三千人が入所を待っている②一般の老人ホームにも約二千五百人の盲老人がいるが、目の見える老人との同居は問題も多いなどを指摘、盲老人対策への理解を呼びかけている。（発行所は東京都青梅市根ヶ布二一七二二全国盲老人福祉施設連絡協議会頒価一〇〇〇円）

（4・11朝日）

老後の不安大きい

独身の中・高年婦人

東京都民生局は、都内在住の四十歳一五十四歳の独身女性を対象に、意識と実態を面接調査。その報告によると、六四・五%は結婚歴がない。教育が高いほど独身率が高いが、平均月収は男性より低く、健康や経済、住宅など、老後の不安も大きい。

（8・21朝日）

家族の重荷、恍惚の人

東京都民生局の調査では、都内在住老人の約五%、三万人近くが「恍惚の人」で、半数は家族が一日中つきつきり。

家族の二〇%近くが施設への入所を希望するが、本人が希望するのはわずか四%。

（9・12朝日／毎日）



〔労働関係〕

女子労働者が激減

四十六、四十七年の二年続きで減っていた女子労働人口が、四十八年は五十一万人の大幅増となったが、石油ショックで、十二月は前月より一四〇万人も減少、と、総理府は四十八年労働力調査報告を発表。

内訳を見ると、男は三、二五四万人で、前年より〇・九％しか増えなかったのに、女は二・六％と大きく増加。しかし十二月には前月比一七三万人も激減、このうち一四〇万人が女子で、しかも非農林業は七四万人。

業種別では、金属機械工業・繊維工業・旅館・娯楽・クリーニングなどサービス業が主で、ほとんどが主婦。従来の記録どおり、景気の変動は女子就業者にいちばん敏感に現れているようだ。

(2・15朝日)

パートの実態 熊本職安が調査

パートで働きたいという主婦は毎月七十人から百人、求人もほぼそれを上回っている。希望する職場は「一般事務」が最も多く、「何でもよい」「店員」と続く。求人は「食堂の炊事」「雑役的な工員」「経理事務」などが多く、「店員」は少ない。給与は時給の平均が二百五十円―二百円、これに交通費を支給する企業もある。

勤務時間は九時―四時、十時―三時が最も多く、千円―千五百円ぐらいが一日分の給料の相場。労働時間が短いことは、家事と両立するとして歓迎されるが、一日千円以下では、求職希望者はいない。また税金の関係から、月収二万八千五百円止まりに労働時間を調節する主婦もいる。

不満は、長時間働いても昇給がない、期末手当もない、社会保険もない、補助的労働力とし

か見られない、など。

(3・14熊日)

週休二日は夢

都の労働条件実態調査

東京都労働局が都内の小・零細建設業・サービス業を対象に、週休二日制などの労働条件実態調査を行なった。

建設業では、毎週二日休日があるのはわずか一か所だけ。月一回の週休二日を含めても、実施率は四・一％。

それどころか、週休制もとっていないところが一八・四％もあり、国民の祝祭日でも、二八％の人が「全く休まない」。

また「就業規則がない」が五〇％もあった。大工や塗装業などは、仕事の性格から、天気や現場の遠近、工期などが影響して「労働時間がきちんと決まっていない」ところも二〇％ほどある。

従業員の三分の二が「週休二

日制」を望んでいるのに、事業主からは「二、三年のうちには実施したい」がわずかに三％で、「実施を考えていない」というのが三分の二もあった。

サービス業の場合は、「月一回実施」を含めると一八・六％と建設業より高く、「週休制を実施していない」のは八・四％で、建設業より低い。

また、「就業規則がない」ところが、建設業と同じく五〇％あり、特に、クリーニング、理容、浴場などに、条件の悪さが目立っている。(4・23朝日)

働く婦人は二〇％

尼崎市が調査

尼崎市が市内の従業員五十人以上の二百八十事業所を対象にアンケート。全雇用者中平均約二〇％が女子労働者で、大規模事業所になるほどその割合は低くなっている。産業別では、サービス業が割合が高く、女子就業

者数が最も多い製造業では一八%と低い。女子労働者中既婚者の割合は、千人未満の事業所で平均四五・四%、全国平均とはほぼ同じ割合である。

雇用形態では大規模事業所ほど常用が多く、卸売・小売業では、女子労働者の三〇%以上がパートタイマー。

定年については、三五・五%の事業所が男女別の定年制を実施しており、男女の年齢差は、平均六・三歳。

(5・28日刊工業)

「週休二日」も「定年後」も

小企業には灰色の展望

東京都労働局は、「定年制」と「週休二日制」について、都内の三千事業所、七千人の従業員の意識調査を実施し、結果を発表した(回収率四二・六%)。

「定年制」を実施しているのは七八・二%。大企業はど高率。男子の定年は、五十五歳がは

ば半数。以下、六十歳、五十七歳の順。

女子の定年は、五十一―五十五歳までが約半数、五十歳以下のところが一割以上もある。

「定年後」は定年延長制度のある会社、再雇用制度のある会社とともに約半数。延長制度のない人たち、特に年配層では、まだ働ける、生活保障のために、等の理由で延長を望む声が強い。一方、延長制度のある人たちの中には、再雇用を望まぬ声も。

「週休二日制」は約半数が実施。大企業ほど普及率が高く、五百人以上の規模の会社では七三・九%、十人以下では一二%。ただし、四割強は隔週。

週休二日制については、生活にゆとりが生まれる、等の肯定的な答えのほかに、休みが増えて出費がかさむ、と、インフレをうらむ訴えも目立つ。

適用されていない人たちのうち六六・五%は実施を希望、二

八・八%もの人はあきらめている。その理由には、客へのサービス低下を恐れる、下請けだから、など、産業構造の反映が見られる。

(6・14朝日)

生きがいは「趣味・レジャー」

大阪・泉州の織り姫たち

大阪の泉州地方は織物の町。四国や九州、北海道、東北から集団就職してきたヤング三万五千人が大小四百の工場で働いている。繊細でしなやかな手が、機械化時代の今も主戦力である。が、彼女たちの平均勤続年数は短く、三年前後。

全織同盟の意識調査で「生き

がい」を聞いたところ、女性の回答は「趣味やレジャーを楽しむとき」が三八%で、「仕事」の二倍以上を占めてトップ。

かつての女工哀史の時代に比べて、福祉施設の整備は隔世の感があるが、彼女たちの「花嫁修業」意識と、会社側の引き抜

き防止の労働力確保策が衝突しがち。新しい人権侵害が次から次へと……。

貝塚市の帯谷織布の百九人の織り姫たちが「電話の盗聴はやめて」などの要求をにかけて寮を集団脱出、高野山にたてこもった話は記憶に新しい。

「それらの紛争の原因は、女のくせに、という女性軽視の感覚。彼女たちは、仕事と私生活をドライに区別しようとしています。それなのに、経営者の感覚がそれに追いつかないのですね」と、全織同盟大阪府支部の吉田久子次長。(7・30朝日)

嘆きの看護婦さん全調査

日本看護協会が、所属者全員を対象に行なった「保健婦・助産婦・看護婦の実態調査」の結果をまとめた。賃金は全体の八七・二%が十万円以下。「夜勤が、一か月平均九回以上」は四四・五%。

医療事故は高齢になるにつれて減少する。

(8・8毎日)

恵まれぬ中小企業の女性

東京都労働局は、都内の中小企業で働く女性の就業実態調査をまとめた。

生活のために働く人が過半数で、腰かけ組は少ないのに、賃金や定年制などの労働条件は、相変わらず男女格差が大きい。女性管理職のいる企業はわずかに割強。

(8・18毎日)

小学校の女教師増加

文部省の「学校基本調査」では、小学校の女教師は一九六九年以来増加して過半数を制し、今年も、全国平均五四%、沖縄、千葉、大阪、埼玉、福岡の順に多い。少ないのは北海道、長野、鹿児島順。

中学でも増え続けているが二八・八%。高校は一六・八%

で、十年このかた変わらない。(9・26朝日/毎日)

酪農婦人に多い農夫症

農村医学会の報告では、モデル地区でも、酪農民は慢性疲労からくる農夫症におかされている。特に婦人の疲労症が目立ち、その発現率は、男性三一・三%に対して、女性は五三・六%。

酪農婦人の半数は、一日十時間以上の酪農労働に家事・育児の労働も加わる。九二・六%の婦人が、出産の陣痛開始まで農作業をしている実態も判明。

酪農地帯の医療機関の充実と予防医学の普及が急務である。

(11・12朝日)

就職の動機に男女差

「女子学生の就職動機調査」によると「自由にできる金を得る」「知識・見聞をひろめる」が群を抜いている。

男子学生を対象とした同様の

調査では、「自分の能力をためす」と「自己実現の場として」がトップ。(11・29読売)

北海道の公務員試験合格者

女子の進出目立つ

北海道の公務員採用試験は、〇・四倍の狭き門。合格者中、女性は三百五十人で、昨年より七十人増えた。(12・17朝日)

〔くらし〕

主婦の九〇%が物不足を感じる

東京・文京区が無作為抽出した三、二六七人を対象に「物不足」のアンケート調査を実施した結果、回答者一、〇七五人のうち九〇%が「生活実感として物不足を感じた」

また「品不足を感じて、どうしたか」には、「買った」または「ゆずってもらった」が四七%、「買いたくても買えなかつた」は二五%。

た」は二五%。

「買った」という人の三〇%は「先行き不足すると思った」または「もっと値上がりすると思った」と、主婦心理の一端をのぞかせている。(3・28朝日)

買いたくても買えなかつた

経企庁が主婦の意識調査
経済企画庁の「物不足・物価高下の消費者行動と意識に関する実態調査」によれば、全国の主婦の約三分の一が、物価はこの一年で二倍に高騰した、という実感を持っており、また、役所が提供する物価情報はあまり役に立っていないようだ。

今後、物不足が起きた場合には、また買いたくても買えなかつたものに走るおそれ強いという。

この調査は、昨年暮れからの物不足が一応落ち着いた三月四日から八日にかけて、人口五万人以上の都市に住む主婦千四百人を対象に行なったもの。

首都圏と阪神地区の団地の主婦四百人にも、同時に、同じ質問をして、一般家庭と比較したが、こんどの物不足さわぎは、特に団地で著しかったことがうかがえた。

「住宅に困っている」が

全世帯の三五％超す
建設省の住宅需要実態調査によると、全国の住宅困窮世帯は一、〇〇三万世帯に及び、「家が狭い」というのが、その理由の約半数を占めている。

こんどの調査は昨年十二月一日現在、全世帯の三五〇分の一に当たる約八万三千世帯を対象に行なわれたが、「住宅に困っている」が全体の三五・一％。このため同省住宅局は、五十一年度から始まる第三期住宅建設五年計画では「質の向上を伴った住宅建設に重点を置きたい」と言っている。

(5・7朝日)

九五％が生活苦訴える

消費者運動参加者は五倍に
物価上昇で、全国主要都市の主婦の九五％が生活への圧迫感を訴え、消費者運動への参加者がふえている、という「国民生活動向調査」の結果が、五月十三日発表された。

目立つのは物価急上昇の影響。家計を「かなり圧迫」が六〇・三％と、前回の調査より約二割増えている。

この一年間に何かの形で消費者運動に参加した人は一四・七％で、前回の五倍にふえている。今後、地域の消費者団体に参加したいという人も三八・六％。最近の物価高騰が、自衛策としての消費者運動を活発化していることがうかがわれる。

(5・14朝日)

沖縄では過半数が「生活苦」

復帰して二年、沖縄タイムス社が、県民の意識をさぐる調査

をした。

過半数の県民が、物価高による生活苦を訴え、復帰に対する失望感を示している。屋良知事に対する支持率は昨年よりも低下し、田中内閣支持率は一八％。また、五二％が米軍基地の縮小・返還を要求している。

(5・15朝日)

都民の物価と政治意識調査

選挙にどう影響するか
参院選をひかえた東京都民の物価・インフレへの対応策と政治関心度についての調査結果を、社会調査研究所がまとめた。

「物価高を強く感じる」のは、「食料」が八一％で圧倒的に高く、次いで「衣料」の一八％、「教育費」の七％。

「生活費」は昨年に比べ二一五割増えたと訴える人が多かった。この一か月の家計は、六％が赤字、四四％が収支トントン。「余裕がある」は一％。

「値上がりの原因」は「田中内閣の政策が悪い」がトップの

三一％、「便乗値上げ」二二％、「商社の買い占め」が二〇％で、以下「流通機構が悪い」「インフレだから」「経済の仕組みに欠陥がある」など、「政策が悪い」という回答が目立つ。

「政府に要望する物価対策」は、「とにかく安定させる政策を」の二五％を筆頭に「生活必需品を安くする」「財閥や商社に対する政策を改める」「流通機構の改革」などの意見が多いが、「政府を信用できないので望む気にもなれない」との回答が一％もあった。

約七割が安定成長を望み、田中首相の「日本列島改造論」に反対が多い。

「田中内閣の支持率」は極めて低く一三％、「美濃部東京都知事の支持率」は五〇％と安定。こうした都民の政治意識が、こんどの参院選の行方にどう影

響するかが注目される。

(5・18朝日)

水不足に関するアンケート

東京都民室が都民モニター五百人に聞いたところ、九割が節水努力の必要を感じていた。

節水の実例は「洗たく機をやめてオケで洗う」「フロの水を洗たくに、洗たく後の水をバケツで水洗便所用に」など模範的な回答。

(8・30毎日)

物価高、貯蓄を食う

全国の六千世帯(回収は四千七百)を対象に、貯蓄増強委員会が調査した。

貯蓄の種類としては、預貯金と生保・簡保が圧倒的に多い。

貯蓄目標額は、インフレで五割も増えたが、実際には、貯蓄を減らさざるを得ないとか、貯蓄できなくなった世帯が増えた。

(10・2朝日)

利益を消費者に還元せよ

女性が企業に望むこと

第一勧銀が東京・大阪・名古屋の女性一、八六三人にアンケート調査の結果、若い層ほど企業を見る目がきびしく、利益は消費者に還元すべきだと考えていることが明らかになった。

「消費者の立場を考えた企業経営が行なわれているか」には、六一・三%が「ノー」

(10・17読売)

消費者の苦情五割増加

四十八年度は十一万件も

保育・教育

〔育児・保育〕

国民生活センターに寄せられた消費者からの苦情が、前年の五割も増加して十一万件に及び、窓口始まって以来の記録。

これは、オイルショックによるモノ不足・パンクや、物価高騰の影響のほか、AF-2など食品公害問題がクローズアップされたため、と同センターでは見ている。

最も苦情が多かったのは食料品で、全体の四分の一。次が電気製品など。

(10・17毎日)

くなくなった。

妻が出産するとき、夫に休暇を与えるところも増えてきた。

平均では二・一日だが、商社会社のようにゼロときびしいところや、有給、無給、と、中身はさまざま。

〈日本母性保護医協会〉の森山豊先生は「以前は実家のお母さんが付き添うことが多かったが、今は、出産は夫婦の責任という考えになってきた。けっこうなことだ」

(5・29朝日)

通信制高校に託児所

東京でただ一つの公立通信制高校、都立上野高校通信制に、新学期から託児所が開設される。

通信制教育には、レポートの提出と、毎月開かれるスクーリング(面接授業)、そして試験があるが、一番の悩みはスクーリング。

向学心に燃えるママさん生徒たちの託児所設置運動が東京都

お産と亭主

近ごろは、産室に入って妻の出産に協力したり、カメラやテープに記録をとる男性も珍し

を動かし、実現にこぎつけたもので、学校の中の託児所は全国の公立高校では初めて、と都は言っている。

これで勉強にはげむ子連れママさんの最大の悩みが解消する。

(3・28朝日)

*

まだ専用の部屋もないけれど

上野高校の通信教育制ではこの四月の新学期から全国でも初めてという託児所を設けたが、専用の部屋はなく、まだ設備もない。

五月中は応接室、子どもの昼寝は校長室のソファや長い。六月二日は八十畳敷きの柔道場が当てられた。この柔道場も、雨の日には体育館の一部として生徒が使うため、子どもたちはジブシーのような状態で生活している。

(6・3朝日)

子殺しの風土

子殺し事件で「加害者」であ

る親たちは「被害者」でもある。

未婚の母や障害児への偏見、貧困・家庭不和・病苦・社会的孤立などが、母親たちに、重くのしかかっているのだ。

母性を失ったのは、母親ではなく、社会ではないだろうか。

(9・31朝日)

〔保育所〕

主婦ら自力で保育所づくり

東京・江戸川区では、ゼロ歳児保育を原則として認めている。「子どもは母の手で育てられるのが望ましい。施設をふやすと、母親が家庭から出て行くのを助長する」というのがその理由。

四十七年にこの区内の団地に入居した主婦たちが「働く権利を奪うものだ」と立ち上がり、近くの寺を口説いて、ついに保育所を開設したが、無許可の保

育所として認められず「保育ママさん」ということで一時しのぎしている。(1・19朝日)

電話一本で赤ちゃん預かり

外出・病氣・出産などのとき、予約電話一本でOKという「エクスベビーセンター」が東京に誕生。預かり料は一時間三百円。

(1・22朝日)

夢の前途は厳しく……

〈土と愛・子供の家〉

障害のある子も健常児と一緒に地域の中で育てたい、そんな願いで保育所を建設している横浜市内のグループ〈子供の家〉では、「認可」を受けたことで障害児保育のわくがせばまる矛盾に悩み、資金集めに必死の努力。

(1・25婦民)

働く母たちが保育センター

十年間の夢が実って

子どもが生まれても職場を辞めず、育児に苦勞してきた大阪の主婦たちが、〈大阪保育センター〉という全国でも珍しい財団法人をこのほど設立し、大阪市の繁華街ミナミに近い鉄骨ビルの二階に開いた。

事業内容は①保育についての相談②研究熱心な保育さん向けの保育学校③保育問題の実態調査④保育材料・おもちゃの研究⑤保育関係資料や本の収集・整備など。

同センターの構想は、昭和三十九年に結成された〈大阪保育所運動連絡会〉の中で生まれ、昨年五月に建設委員会を設けて資金集めに着手、昨秋、現在の場所を手に入れ、頭金だけ払い、残りは十五年間がかりで集めてゆく予定。各地の保育関係者もこのセンターの活躍に注目している。

(2・12朝日)

無認可保育所に区費で補助金

六月から月額一人一万円

園児が三十人未満で、公的な援助が受けられない無認可保育所に対して、東京・江戸川区は六月から区費で補助することを決めた。

環境整備費として、一か所月額二万円、そのほかに、不慮の事故のための賠償責任保険料も区が出す。

企業内保育所については補助を半額にする。(3・13毎日)

あなた任せ保育行政の悲劇

無認可保育所で、無資格の保育者が、むずかる赤ちゃんをせっかんして、死亡させたことに、言い知れない憤りを感じた。もちろん保育にも問題はあがあるが、国のあなた任せの無責任保育行政にこそ、最大の責任があると
思う。

未来を担う子どもたちの生活環境を整備し、落ちこぼれのな

い行政を期待する。そしてこのような悲しい事件が二度と起らないよう、切望する。

(男性教員33歳3・29毎日)

青い目の保育さん静岡に

「動く重症児施設」として有名な静岡県榛原町のへやまばと学園」に、昨年八月、アイルランドのベルファスト市からやって来たジェーン・メルドラムさん(一八)が働いている。来日の動機は「経済大国日本の福祉を勉強したかったから」。

焼津市の寄宿先からバスと自転車乗り継いで同園に通っている。大の男でも悲鳴を上げる重症児の運動訓練にも、汗みずくでぶつかっていくガンバリ屋、しかも無料奉仕。

「アイルランドでは施設でも週五日制。だから、いろいろ生活を楽しむこともできるけれど、日本人は施設の中に住んで、休みなしによく働く」とは、若い

彼女の実感。(4・22読売)

保育園・幼稚園児の病氣

隔離だけが最善か

幼い子どもにとって病氣はつきもの。特に集団生活では「感染性」と呼ばれる、ビールスや細菌によって起こる病氣をうつされやすいが、疫痢とかジフテリア、重い肺炎などがほとんどなくなった現在では、それほど病氣の伝染に血まなこになる必要はなく、かえって、あまりにも嚴重にしすぎるための弊害が大きい。

あまり病氣にかからせないようにしていると、からだのはたらきが鍛えられず、感染症に対する抵抗力や免疫が得られないので、丈夫には育たない。第一、感染症のすべてを防ごうというのは、できない相談だ。

「隔離」という古典的な方法だけに固執するのはやめて、一人ひとりの子どもの様子によっ

て、登園させるかどうかを決めるのがよい。病状が軽くて元気な場合は、本人の好きなようにさせてやるべきだ。

病氣というものは、生活が安定し、気分が楽しければ、早くよくなるものだから。

(毛利子来小児科医)

(4・25朝日)

心臓病児と保育

ぜひ必要な集団生活

身体障害の中でも、心臓病ほど誤って認識されている病氣はないのではないか。先天性心臓病には種類が多く、また軽症・重症の程度もいろいろなのに、一様にガラス細工のようにこわれやすく危険なものと思われている。

心臓病児が保育施設への入園を希望すると、重症はむろんのこと、軽症でほとんど保育に支障のない者まで拒まれる。どんなに説明しても保育施設の壁は厚く固い。

心臓病は外科の発達によって、手術の可能な、治り得る病気になるてきているが、手術の結果治った子がまず第一に困るのは、それまで社会的訓練を受けていなかったことである。

身障児も、本来なら健常児とともに保育されるのが望ましいが、多くの困難があることは想像に難くない。それならせめてとり残された子どもたちのための保育施設は作れないものだろうか。(中尾聡子 小児科医)

(4・29朝日)

保母として社会復帰する私
できれば社会福祉の現場へ戻りたいと思いつながら、さまざま理由から果たせなかった私が、いよいよ明日から保育園へお手伝いに行くことになった。独身時代得た保母資格証明書は、一度も使われないままだった。

保母は、母親として子どもを何人育てても経験年数には入ら

ない。保母の社会的地位が低く、経済的にも教師や看護婦に劣るのは、専門職として確立していないだけでなく、子育ての価値が正当な評価を得ていないからではないだろうか。

願わくは、母親が外で働く姿を通して、男である三人の子どもたちに、何かを感じとってもらいたい。

(主婦40歳) (5・26朝日)

重症心臓病児の保育園開設

全国初の重症心疾患児保育施設「こぐま園」が開園、四月から二十人の子が週二回通園している。

(8・16毎日)

保育時間延長のため

保母と保護者の共闘を

長野県山ノ内町で開かれた第六回保育団体合同研究会「保育時間」分科会で、保育時間の延長をめぐる討論された。

大都市では通勤時間は長くな

る一方。五時に勤務が終わって

さえも、保育園に着くのは六時半というのも珍しくはない。しかし保育時間や保母数などの基準は、厚生省が以前に決めたまま。保母と保護者が条件改善に共闘しようという呼びかけが、参加者の共感を呼んだ。

(8・16赤旗)

障害児を

健常児と共に保育しよう

心身障害児は健康児との交流の中で成長し、健康児も、障害児との触れあいの中で成長するのだが、現状では切り離されている。

第一回「障害児教育報告会」

が東京で開かれ、「自閉児とともに育つ子供たち」をテーマに、小児精神科の医師、小学校教諭、保育園保母、母親が報告。

この報告会は、情緒障害児全般について、継続的に開かれる予定。

(9・2朝日/9・6毎日)

母親たちが連帯集会

公害で苦しむ東京都内五か所の保育園・幼稚園の父母たち約百人が、主婦会館で「子どもの環境権を守る連帯集会」を開いた。「大きな声を出せない子どもたちの立場を考えよう」と、〈建築公害対策市民連合〉が呼びかけたもの。

周辺に十階前後の中・高層マンションが建てられてしまったり建築中であつたりという五か所の園の父母たちは、自宅では日が当たらない、せめて子どもが太陽を奪うな、と「子どもの論理」を主張、「子どもたちの手に太陽を取り戻す決議」を全員一致で採択した。

(10・1毎日)

無認可保育所に公的な援助を産休明けから預かる認可保育所や公立保育所はほとんどない。八か月以上の子は預かるが、定員が極端に少ない。

国や自治体は、無許可保育所に保育浪人を押しつけながら、

財政援助はしない。やむを得ず、園長や保育の給料を削り、バザーや、自治体の補助金のわずかな値上げなどによって、やっと運営しているのが実情だというの。

産休明けから公立保育所に入るのが本当だが、すぐには実現できないから、当面は国が無認可保育所に援助して、より良い環境で保育することを関係者は熱望している。

(10・14・17毎日)

保育改善を訴える

全国の公・私立保育所、幼稚園の保育や母親六百名を集めて第五回保育大学を開催。

保母からは薄給・過労の訴えが、また母親からは保育時間への不満が述べられた。

公立保育所の増設、保育料の引き下げに、父親も含めてみん

なでがんばろうと呼びかけた。

(11・5朝日)

母親を対象に保育研修会

保母不足解消のために東京・葛飾区では、私立保育園長会主催で、母親対象の保育研修会を開いた。母親に保母の資格をとってもらい、地元の保育園で働いてもらおうという策。

(11・13朝日)

自前の幼児教室急増

私立は値上げ、公立は少ない。入園難対策に「自主保育熱」が各団地で高まっている。団地自治会が中心になって「一刻も早く公立幼稚園を」の運動も進められている。

(11・16毎日)

「夜間保育」の実態

北海道の夜間保育調査によると、回答者の半数は子どもを同居の家族に預け、残りの半数は託児所や知人・親せきに頼んで

いる。

託児費用は、企業内保育所が確立している看護婦の場合は月額五千円以下だが、ホステスの八割は二万円以上。

自治体は、回収率の低かったこの調査報告に基づいて夜間保育所問題に取り組むべきかを検討中。

(12・2朝日)

保母の定員増要求デモ

保母さんの定員確保と、ゼロ歳児保育の完全実施を求め「江東区の豊かな保育と責任ある保育行政をすすめる総決起集会」が行なわれた。

東京・江東区には二十五の保育園があり、約三千人の園児がいるが、保母はわずかに四百十五人。「ゼロ歳児三人に保母一人、

一歳児五人に保母一人」の都の基準に従うと九十人も不足している。「都内でも最低」と実情を訴え、改善を呼びかけた。

(12・22毎日)

保母と母親の連帯が必要

労働条件の悪さで敬遠され、いま保母は求人難。保母不足のため、新設しても開園できない保育園さえ出ている。中でも行政の手が届かない無認可保育所の保母たちの訴えは切実。保母の人手不足は底辺へとシワ寄せされる。

東京・調布市では財政不足のため、保育は午後五時で打ち切られ、働く母親たちは二重保育など新たな負担を負うことになった。

保母も働く母親も、同じ婦人労働者である。両者が連帯しないかぎり、保育行政の無策は変えられないのではないか。

(安東美佐子記者)(12・28毎日)

*

シワ寄せは底辺に

保育関係者には暗いニュースばかりだった七四年。「労基法が守れる職場にするために保母を増やして」と、今年も同じ要

求の繰り返し。しかし保母は求人難、しかも永続しない。無認可保育所ともなると、事態はいつそう深刻な様相。

(12・28毎日)

〔富士学園〕

知恵遅れの子の家

〈富士学園〉力尽きて廃園

東京・国立市の〈富士学園〉は、昭和三十五年に草島園長が知人の会社社長の応援で開園。

経営は、その社長から贈られる年間五百万円と園児からの教育費一人分月一万二千円ですべてをまかっていた。

しかし昨年からの物価高騰で、食事代・人件費・運営費等、すべての経費が上がり、教育費を月四万三千元にしたものの、追いつかなかった。

その上、今年になって保母さんらが一斉に「三月に辞める」

と言いだしたこともあり、すべての進路をふさがれての決断となった。

厚生省の調べによると、重度の知恵遅れの子の施設は、全国に百十一か所あるが、どの施設でも、その経営者たちはほとんどみな、草島園長と同じ悩みを持っていてという。

(4・22毎日)

「辞めません」と保母さん

〈富士学園〉へ支援の声

急騰する物価に力尽きて、ついに廃園したことが、二十二日、明るみに出されたが、「なんとかして園を続けたい」という保母さんたちの訴えで、福祉施設に働く人たちが、存続支援の運動を広げ始めた。(4・23毎日)

〈富士学園〉再建させて

都庁前で保母さんら集会
十二日正午から、保母さん三人と支援者たちが「決起集会」

を開いた。

三月の突然の開鎖で、当時収容されていた十三人は、ほとんど皆、施設から出されてしまい、自宅に閉じこもったり、転院したり、という不安定な生活を送っている。

集会のあと代表者たちは東京都民生・衛生両局に行き①富士学園再建のため、学園所有者を説得してほしい②富士学園再建の運営費を支給してほしい、と要望した。(8・23毎日)

〔教育〕

家庭科「男女共修」運動

四十八年度から高校の教育課程が変わり、女子の家庭科四単位必修が完全実施となった。これを契機に「中・高校の家庭科が女子だけの必修とすることは、男女の差別を助長し、教育の本質をゆがめる」との批判が高ま

り、家庭科の男女共修を進める運動が広がってきている。参議院議員の市川房枝さんらも加わって、市民運動として広く社会に呼びかけを続けていくという。共修に賛否の代表的な意見は次のようなものである。

賛成(和田典子・都立戸山高
校教諭) Ⅱ家庭科は生命と生活にかかわる科目で、これについての基礎的認識は男女にかかわらず必要。

反対(小笠原ゆり・文部省教科調査官) Ⅱ男は男らしく、女は女らしくという教育は、非難されるものではないと思う。男子も必修にすれば、主婦の家庭経営能力を育てるという家庭科の独自性が失われる。

(4・16西日本)

*

家庭科の男女共修、

先生はほとんど賛成
〈家庭科の男女共修をすすめる会〉は、二十日、都内の家庭

科教師からまとめたアンケートと、地方の家庭科指導主事からまとめたアンケート調査の報告会を開いた。

それによると、都内の公立中学・高校の家庭科教師約七百人は、家庭科は男女共修にすべきだという意見に、賛成六六％、反対四％。

共修をすすめるについての難点と考えられるのは、男子の技術科との関係をどうするか、父母の反対が多い、教える内容に自信がもてない、などが挙げられた。

地方の小・中・高校の家庭科指導主事についての調査では、回答率約五〇％で、共修に賛成六県、反対一県、条件つき賛成十三県となっている。

(4・23サンケイ)

中学の社会科の成績

男女差が目立つ

中学校社会科のペーパーテスト

トの点数を見ると、かなり男女差が目立ち、女子が劣る。

原因ははっきりわからないが、歴史に限って考えると、教科への興味・関心に男女の「性差」が強く見られる。時代別に見ると、男子は近代・現代史に関心が強く、女子は原始・古代を好み、分野別では、男子が政治・経済・社会、女子が文化史……となっている。

しかし指導要領などではこれらの性差についての考慮はもちろん払われていない。

したがって、女子の成績不振の原因の一つは、現在の歴史教育が、男子中心のものになっているからではないか、という仮説が成り立つ。

このように性差が著しい場合には、むしろ男女別学で、教科書も違ったものであるほうが、より男女平等の精神にかなうのではないだろうか。

(中学教諭40歳)(4・25朝日)

教育ママ自認

川崎市の会社員の妻A子さん(四二)が五日、頭からビニールをかぶり、窒息死した。

A子さんは日ごろから、中学三年の一人息子の成績が思うように向上しないのを苦にしており、最近の成績の結果が悪かったことなどから、これを苦に自殺したらしい。息子にあてた走り書きの遺書が残されていた。

(6・6朝日)

学童保育

第九回学童保育研究集会が二十二、三の両日、大阪の吹田市で開催。京都や埼玉県草加など、市条例化されている自治体の報告等があり、東京・新宿百人町の全国学童保育連絡協議会をセンターとして運動することなどを申し合わせた。

(9・30朝日/10・1毎日)

私が受けた教育

性欲は女にはないというのはウソッパチ。生理が始まると体の内側から変になる。性教育は、避妊も、性欲も、マスターベーションも教えないくては……など、田中美津さんほか、二十代の若い女性たちが語る教育論シリーズ。(10・20・1・26毎日)

看護教育を考える会

看護学校の複雑多岐にわたること、その志願者の激減など、看護教育の問題点は多い。

この際、問題意識を持つ市民と、教師・看護学生などの連帯を深める「看護者養成を考える会」の発足を期待する。

(高校進路指導者)(12・25朝日)



からだ

幼児のひざ硬直症

親たちが全国組織

幼児の太腿への乱注射などが原因で、ひざが曲がらなくなる太腿四頭筋短縮症の子を持つ全国各地の親たちが、二十六日、甲府市の県民会館で「太腿四頭筋短縮症児を守る全国連絡会」を開いた。同じ悩みを持つ全国の親たちが手を取り合い、国や医療機関へ治療方法の確立などを要求して行こうと、全国の患者の親に呼びかけた。

連絡会では①治療方法の早期確立②治療費の全額公費負担③原因の究明と責任の明確化④生涯補償の確立⑤潜在患者の発見と予防対策の確立、などを要求した声明文を採択、これを国や都

道府県、医師会などに送ることになった。

(5・27朝日)

ひざ硬直症

*

小児科学会も本格対策へ
全国各地で問題化してきた幼児の大腿四頭筋短縮症に対し、日本小児科学会でも積極的に取り組み始めた。過去二回の理事会で注射の安全性などを検討したのをはじめ、注射の場所、回数、注射液濃度を取り上げ、どのようにに注射すべきかを話した。

また機会あるごとに、医師に対して「注射の危険」を訴え、研究のためのプロジェクトチーム編成を、日本医師会に要請す

る方針。小児科学会の坂上会長は、専門家による研究班づくりを考えているという。

この症例は外国にもあるが、千例を超すのは、注射を乱用する日本だけ。日本医師会の武見太郎会長は「日本小児科学会から正式な提案があれば十分考えたい」と語った。(6・22朝日)

塩ビモノマー使用の殺虫剤

販売停止と回収を厚生省指示
肝臓がんの原因になるとして問題になっていた塩化ビニールモノマー(単量体)を噴射剤としたスプレー式殺虫剤、殺蟻(ぎアリ)剤について、厚生省は六月一日、中央薬事審議会副作

用調査会の最終結論に従い、販売の停止と製品の回収を決定した。
(6・2朝日)

*

体と協議した結果、各小売店で引きとるようになった。

返品に際して、換金、または代替品と交換するかどうかは、各メーカーの判断にゆだねられている。
(6・7朝日)

母乳PCB なお要注意

厚生省は昨年七月八月に、全国で、出産後一か月以上四か月未満の授乳中の産婦とその乳児を対象に、PCBによる母乳汚染を調査した。

その後一年以上経ったが、母乳中のPCB濃度はほとんど改善されず、地域別に見ると、瀬戸内海付近の汚染が特にひどかった。

「かつてPCBを製造あるいは大量に使用していた工場周辺の海域などで、PCB含有ヘド口を取り除くなど、積極的な対策に一層力を入れなければならない」と、厚生省調査班長・林路彰・母性小児衛生学部長と、

東京齒科大の上田喜一教授の両氏は指摘する。(6・23朝日)

AF12 訴状提出

食品添加物の安全性が問われている合成殺菌料AF12について、十二人の主婦が消費者として、メーカーの上野製薬を相手に「AF12の製造・販売の差し止め請求訴訟」の訴状を東京地裁に提出した。

(7・2毎日)

*

「AF12使用中止」の声次々厚生省の研究機関である国立予防衛生研究所で、一日、研究者の集まりである学友会幹事会主催の講演会が開かれた。

約百人の出席者からも、AF12の使用中止を望む声が強くなり出された。(7・2毎日)

*

AF12 全面禁止

国立予防衛生研究所が発がん性を実証したため、厚生省では

やっと、今月中に使用禁止措置をとることに決定した。

(8・21毎日)

危険！ 赤色104号

別名「フロキシン」

日本消費者連盟は、AF12に次ぐ危険なタール系の着色料「赤色104号」の全面禁止を厚生省に申し入れた。

駄菓子類、カマボコ、一部医薬品などの赤色づけに、年間三千五百キロ使われているが、国立遺伝学研究所の実験によると、高い確率で突然変異が起ることという。(10・8毎日)

石油たんばく、

「SCP」の名で再び

発がん物質が含まれているため安全性が問題となつて、飼料化が中止された石油たんばくが、SCP(微生物たんばく)と名を変えて、再びクローズアップされだし、消費者団体が反対に

立ち上がっている。

農林省は、世界的食糧不足を背景に、家畜飼料として、新たなばくの開発に期待している。

しかし、その安全性はもとより、農政の基本姿勢をめぐって、反対運動との間に、激しいやりとりが始まりそう。

(11・27毎日)

〔妊娠・中絶・出産〕

乳幼児・妊婦の医療費

無料化を国は推進せず

医療費の公費負担制度が自治体の間で広がっているが、厚生省は、国は推進しないとの方針を固めた。

また、すでに国が実施している老人医療費の無料化や小児難病対策を医療保険制度に吸収・統合すべきだとの考えも打ち出した。

これらは厚生省の各担当課長

による「医療保険と公益費負担について」のプロジェクトチームが、斎藤厚相に中間報告として提出したもの。(1・14朝日)

今年中にも試験管ベビー

公表は抑える方針

英国の大衆紙「ニューズ・オブ・ザ・ワールド」は、二十七日、五年前に発表された「試験管ベビー」の受胎実験で、不妊に悩む二百人の主婦が手術を受けており、うまくいけば今年中にも第一号ベビー誕生かと報じた。しかしスチプトル医師らは樂觀していない。生まれきたベビーが生産第一号と騒がれることなく、平穏な人生が送れるよう、少なくとも数人が無事誕生するまでは、公表を抑える方針という。(1・28毎日)

ピルは「解禁しない」

政府、重ねて見解

須原昭二参院議員が、先月、

「経口避妊薬を正式に承認すべきだと考えるが、どうか」と、昨年十二月に続き、再び質問趣意書を提出した。

須原氏は、その論拠として、

① わが国は 人口調節に成功している国として評価されているが、大部分が妊娠中絶に依存しているのは問題 ② 副作用の心配については、国際家族計画連盟中央医学委員会、英国医薬品安全性委員会が否定している、などを挙げた。

これに対し政府は、五日の答弁書で ① 女性ホルモン剤を経口避妊薬として長期間連用すると、血栓性静脈炎や肺動脈塞栓症などの重い副作用が起る恐れがある ② 国際家族計画連盟の報告は、まれではあるが血栓症発生の恐れがある、と注意を喚起している。また英国医薬品安全性委員会の発ガン性試験報告も、検討継続の必要があるとしている、等を理由に、現

段階ではピルを避妊薬としては認めない、と明確な考え方を打ち出した。(2・5朝日)

赤ちゃんに有害

母親のタバコの煙

「タバコをのむ母親の赤ちゃんは、生後数か月間、病院での処理を必要とすることが比較的多い」ーイスラエルのヘブライ大学の研究者らが英国の医学専門誌『ランセット』に発表したところによると、一万人以上の母親を調べた結果、喫煙する母親の赤ちゃんは、三〇%が病院のやっかいになっており、中でも気管支炎と肺炎が多かった。母親の吸うタバコの煙が、生まれたばかりの赤ちゃんに害を及ぼすためか。(4・14朝日)

母乳の大切さ、再認識を

国立岡山病院の山内逸郎小児科医長は、昨年の日本新生児学会総会で、同病院の母乳栄養新

生児(生後四週間まで)三千二百人を対象にした臨床結果を報告。

母乳だけで育った赤ちゃんには、下痢・脳膜炎・敗血症・肺炎など、病原性大腸菌等による病気が一例もなかったことを立証し、反響を呼んだ。(4・23毎日)

母乳の赤ちゃんは頭が良い

国立栄養研究所は、このほど「栄養と頭脳発育 研究班」をスタートさせた。目的は「母乳が赤ちゃんの頭をよくする」ことを実証するため。

人間の赤ちゃんは、出生時から脳形成の一番活発な最中であるから、こんなとき、胎内で補給を受けていたのと同じ栄養の母乳を与えず、人工乳に切り替えると、脳形成への影響はまぬがれないだろうというわけで、研究することにした。

来年八月に京都で開かれる第十回国際栄養学会で成果を発表

する予定。(6・26毎日)

未熟児出産も防げる場合が：

タバコや過労に注意

努力や注意によって、未熟児出産を防げる場合も多い。

たとえば妊婦の喫煙。アメリカ

カの学者が調べたところでは、喫煙する妊婦からの未熟児出生率(一一・一%)は、非喫煙妊婦群(六・四%)をはるかに上回る。

また、労働や運動の過剰で流早産してしまうこともある。

日本の団地は、五階以下ならエレベータをつけなくてもいいことになっているが、階段の昇降が激しいのか、団地の上層部に住んでいる妊婦ほど、未熟児を産む確率が高い。なお、精神の安定も大切。(4・25毎日)

ワクチン注射による避妊法

全インド医学研究所が発表
ニューデリーで開かれている「避妊技術に関する 国際シン

ボジウム」で、十九日、全インド医学研究所が「ワクチン注射による避妊法」を発表。これは免疫によって妊娠を防ぐものでHCG（じゅう毛性性腺刺激ホルモン）という、妊娠した女性の胎盤から出るホルモンを、妊娠していない女性に注射して、体内に抗体をつくり、避妊の効果をおける方法。

今年の三月から三人のインド女性について臨床実験を続け、今のところ副作用はなく、月経も正常。だが実用化にはまだ時間がかかりそう。（10・22毎日）

妊娠促進剤で六つ子

カリフォルニア州で、男四人、女二人の六つ子誕生。五人は経過が良いが、六人目の男子は重体。母親は妊娠促進剤を飲んでた。（12・8読売）

精神安定剤で異常児

精神安定剤 メプロバメート、

クロルジゼアポキシンドのいずれかを、妊娠六週間以内に飲むと、全く飲まなかった場合に比べて約六倍の率で先天性異常児を産んだという調査結果が、米国で発表された。妊娠に気づかない時期の服薬が問題になる。（12・12朝日）

意見・投書

〔女の気持ち〕

ゆっくり寝てもいられない

インフルエンザで三日床にたった。食事は店屋もので間に合わせたが、家の中の片付けは誰かがやらねばならない。主人は洗たく物を取りこんでくれても、部屋の中の半がわきのものも一緒に積み重ね、その上をふんで歩く。汚れものも投げ出してあって区別がつかない。「石油を足しておかないとストーブ

のシンがだめになる」と言っても、そのまま二時間、シンはもえつきた……等々。

三十年近くも前、母が「たった一日でいいから、ゆっくり寝てみたいわ」と言っていたが、三十年後も、きつと女の、この願いは同じだろう。

「病気の時くらいはゆっくり寝るよ、娘のうちにね」と娘に言いかけながら、床に就くような病気はしたくないと思った。（主婦41歳 1・8朝日）



夫と別居して得た自由 一年四か月の娘を連れて別居した。暴力や罵声のない毎日、母子してビクビクしていたことがウソのよう。

このアパートには、離婚訴訟中の若い奥さんがいる。五か月の赤ちゃんをかかえて飛び出してきたらしい。

「今の若い人はがまんが足りない」と言われるが、悪い女房で苦労している男の話を聞いたことがない。夫のきげんをうかがいながら、気がねしながら生きる生活。私には我慢できない。（主婦28歳）（1・10毎日）

なぜ胸はれぬ、離婚女性

電話の名義の改姓をしてもらいに公社へ出かけたが「女が世帯主であるはずがない」と戸籍謄本の提出を要求された。また引越先では、警察への届けを要求された。子どもたちと違う姓を並べて書いて、ご近所に届け

た。そっとしておいてほしいのに、と心でつぶやきながら……。

男にとって、離婚は新しい人生へのパスポートであるのに、女にとっては何なのだろうか。

(主婦43歳) (2・14朝日)

主婦休暇にゼロ回答

月一回の主婦業の休暇を申し入れて、夫と冷戦が続く。

主婦業をサラリーマンと比較すると、「勤務時間二十四時間(仮眠少々付き)、給与・諸手当・賞与・年次休暇・休み時間・慰安旅行なし」

母親として、月一回の休暇を要求することはそれほど不当なことだろうか。父親は外で働いているから、母親と同じだけ子どもを見るのは無理だが、育児に関しては母親と同じに責任を持ち、できるだけ協力する態度がほしい。

(主婦26歳) (4・12朝日)

*

夫がくれた「主婦休暇」

「主婦業休暇」の投書を読んで、十年前を思い出した。おむつのとれない二人の子どもに悪戦苦闘する私を見て、「家の中どこを見ても、主婦業としては落第だが、一日も休みがないのはかわいそうだから、月一回休暇をやろう。朝食がすんだら何もしないでさっさと出て行け。そして夕食までに帰って来い」と夫が言ってくれた。おかげでゆっくり映画も観た。クラス会にも出席、デパート歩きもした。この休暇は今もってありがたい、忘れられない。

(主婦41歳) (4・17朝日)

図書館をもっと利用しよう

幼いときから読書が好きで、文学少女気どりでいたのに、結婚後は月に一冊の単行本さえ読んでいない自分に気づき、本屋へ行ってみたら、知らぬ間にすごい値上がり。

そこで、子どもを母に預けて図書館へ出かけ、読書を楽しんでいる。ところが、図書館で主婦らしい人の姿を見ることがない。買い物ついでに、また暇なとき、主婦も図書館に立ち寄ってみるといい。

(主婦28歳) (4・18サンケイ)

当世娘気質にドッキリ

経済的に自立していない母親は中三の娘とその同級生たちの会話に驚いた、と知人が言うには、「もしも両親が離婚することになったら、という話が出たら、みんなが、お父さんと暮らしたいと言ったのよ。父親のほうが経済的に安定している。家

事の手伝いも、父親とだったら新しい母親にみんな押しつけることができるって」

しかし、こういう彼女たちを打算的と言う前に、ドキンとしてしまった。私は「安心してお母さんについていらっしゃい」と言えるだろうか。

経済的に自立していない母親は、離婚の自由もないのだ。男の人は、離婚しようと結婚しようと思われないのに。

(主婦40歳) (4・29朝日)

女に生まれて損

私は女に生まれて悲しい。祖父はいつも「女だから」と言うのだ。

人間に生まれたからには、同じように扱われなくてはいいと思うのに。

(中学生14歳) (9・10毎日)

四歳児の女意識

自転車の練習をしていた四歳

の娘が「私は女だから、すぐにはうまくならないはずだ」と言う。そのほか、喫煙や洋裁のことでもいろいろ言う。

女だからといって、甘えることも卑屈になることもない、と教えたけれど、どれだけわかったらうか。

(主婦30歳) (9・12朝日)

女性の生命保険金を安く

生命保険の掛金は死亡率を基礎に計算されている。男女の平均余命が違うのに、掛金が同一とおかしいのではないか。

(無職30歳) (9・22毎日)

*

安くなっています 女性の掛金

当社では、厚生省の簡易生命表ではなく「経験生命表」をもとに女性保険料制度を採用しています。ほかにもこれを採用している社があります。

(東京生命 企画課長)

(10・2毎日)

共働き家庭のしつけ

互いに協力し合おう

共働き家庭では子どものしつけが十分できず、不安に思う。他人の子でも注意し合い、しつけの協力が必要ではないか。また、母親の真剣に働く姿や考えを子に知らせ、話し合うことも。

(商業32歳) (10・22毎日)

言葉でもイライラ蓄積

家庭婦人は日常会話の中で、よく、「ですから」「だから」で始まる話をする。恐らく、言うことを聞かない子どもや亭主に対する不満の蓄積の結果であるが、聞き手を不愉快にする。

ダカラⅡデスカラ語の追放を提唱する。

(糸川光樹 フェリス女学院大学 助教授) (11・5毎日)

オバアサンと呼ばないで!

年とった女性を呼ぶとき「オバアサン」「オバサン」「オッ

カサン」なんて呼ばずに「奥さん」と呼んで下さい。呼びかけの言葉がよければ、あとに続く言葉にも親しみと礼儀が含まれるのでは。 (11・16朝日)

タコつぼ主婦

主婦にはタコつぼの中の自由しかない。育児期の主婦は家事や育児に忙殺され、文化的生活もままならない。その後、何か始めようとしても身につかない。

自分の生き方を持つため母親は、子どもを支配し、子どもの生活時間を管理し、わが子の将来まで管理する管理ママとなる。

(藤井治枝) (12・10読売)

主婦でもできる

十五年間 家庭にあった私が、物価高対策で、スーパーの経理事務員に。十五年のブランクの後、仕事を覚え込む苦労、辞めようと思ったのも再三。八か月経った今、店主にも感謝され、

社会に必要とされる誇りも持てた。(主婦40歳) (12・23読売)

「女に生まれて損」と娘

「女だから」と三年生のとき父の命令でトイレ掃除をさせられた。兄弟は遊びほうけているのに。くやしかったから、私は娘に「女だから」とか「女のくせに」とは決して言わないことにし、男女の差をつけぬよう育てたつもり。

しかしかせて寝込んだ私に買物を頼まれた娘、「あたしにばかり用を」。女に生まれて損」と。(主婦37歳) (12・25朝日)

女と山歩き

私の山仲間五十六人は、この数年、十二月もおしつまってから忘年登山をしている。私は家事や仕事の忙しいときほど、月に二度三度と山へ行く。

家事に忙しい主婦たちが山を歩きまわるのは、日常のくらし

に自分をしぼり、自分をつなぎとめようとするもろもろのきずなを、その一ときだけでも断ち切りたいと思うからだ。

(田中澄江) (12・31朝日)

〔産むこと〕

墮胎罪存続は適正か

有名無実化している墮胎罪を存続させることに疑問を感じる。

現実に処罰する意思のない行為を可罰的だと宣言するためだけの法律を残すことが、法治国家としてとるべき態度か。

不同意墮胎とその致死傷、優生保護法指定医以外による業務上墮胎だけの処罰規定を残して削除するか、あるいは優生保護法の適当事由を真正面から刑法に掲げ、その違法阻却性を明示して処罰するほうが、より妥当と考える。

(1・23毎日「社説」)

墮胎罪なくせ

法制審議会で墮胎罪の存続が決まったと聞いた。戦後、不敬罪やかん通罪とともに廃止されたと思っていた墮胎罪が生き続けようとしていることを知り、憤らざるを得ない。

中絶は年間二百万件、出生数を上回っているというのに存続させようとするのは、性道德の維持、家族制度の維持にあることは明らか。

処罰によって女の性_{II}生を締めあげるのではなく、安全で確実な避妊の開発、女が安心して産み育てられる条件づくりに力を注ぐべきではないか。

(事務員22歳) (2・12朝日)

ピル解禁を望む

政府は、ピル解禁の意図はないことを重ねて明らかにしたが、何万人、いや何十万人に一人の血栓性静脈炎を心配してくれる、ような親切な政府であらうか。

サリドマイドを市販させなかったアメリカで、ピルは広く使われている。日本の産業界は、安い労働力の供給を絶やさないために産児制限に反対だと言うが、子殺しに手を貸していることにはならないか。

(主婦43歳) (2・12朝日)

赤ちゃんのミルク品切れ

赤ちゃんのミルクを買いに行ったら、どこにもなかった。やっと見つかったら、なんと喫茶店のコーヒー二杯分も値上がりしていた。

悪いのは、のんびりしていた私なのか、それとも、この国の政治屋さんなのか、ミルク屋さんなのか、なくなるまでホイホイと売ってしまう薬局のおやじさんか、たくさん買い占めたお母さんか……。

とにかく、ぐらしにくい世の中。もう一人子どもを、と思うが。(主婦26歳) (5・13朝日)

男の子の誕生を待つ夫

世間では、女子が生まれるよりも男子出産を喜ぶ風潮が多分にあるのではないか。

昔からわが国は男尊女卑であったし、女の子は嫁に行ってしまうが、男の子は家の跡をつぐという習慣から、男子が生まれると、ひとしおの喜びを覚えるのであろうか。

三人の子どもが全部女だった友人の夫は「今度、男を産まなかったら離婚するぞ」と言ったという。

現代は男女平等をうたわれ、昨今では、女性上位、ウーマンリブなどと言われているが、誕生というスタートラインから、女性比男性に比べて軽視されるのだから悲しい。

(主婦37歳) (5・20朝日)

経済的理由

「勤めの帰りに自分のアパートを眺めると、箱詰めの中身を

棧で区切ってきちんと納めた菓子箱を思い出す」と、都内のある公団アパートに住んでいる友人が言った。「しかし、この形態は、経済的理由になるはずではないか」

友人はつまり「経済的理由」

を削除した優生保護法改正案なものに触れて言ったのだ。

「夫婦間のことにまで政府が干渉するみたいで不愉快。この法案に、ご婦人たちも大いに反対して下さい」産むことを女だけのものとする見方には不満だが、友人のことはには実感が感じられた。棧で区切った箱詰めの菓子の連想も切実に聞こえた。

(佐多稲子) (6・5朝日)

人口抑制策と性別分業

妊娠中絶手術、IUD、ピルなど、人口抑制策は女性のみに重荷を負わせがちであり、男性のパイプカットを奨励すべきだという意見はもっともだと思う。

中絶やピルの禁止が女性の苦痛をふやすのは事実だが、女性解放運動はパイプカット推進といった視点もとり入れるべきではないだろうか。

(松田道雄) (9・10毎日)

男性優位の医学界

大学卒の女性が増えたが、若いときは結婚・育児で、仕事をするのは中年のパートや内職が大多数。しかし医師のような専門職では全員が職をもつ。日本の女医は男医の約一〇%と少数。女子教育を考えなおしては。

(川上武 医師) (10・5朝日)

女性の地位向上と人口抑制

女性の地位向上は、男と女の差別を撤廃する上で重要なだけでなく、人口抑制策などの実行段階で、出産の直接当事者として、その意見が重要。

教育水準が高く、有利な職業をもつ女性の出生率が低い事実

から、強制的な人口政策の前に、女性の地位向上は、それ自体のメリットとともに間接的な人口政策として有望。

(村松稔 国立公衆衛生院衛生人口学部長) (11・8毎日)

〔働くこと〕

訴えたい母子世帯の苦しみ

狂乱物価は母子世帯に深刻な影響を与えている。

ことし中学に入る子をもつある母親は、生活扶助料三万一千四百円の中から、制服など二万六千九百円、運動着七千円、カバン・文房具に一万円を支払い、働くことを禁じられている病身で、皿洗いに通っていたが、やはり倒れ、いま青い顔で寝込んでいる。この現実を、怒りをこめて訴える。

(母子寮長60歳) (2・14朝日)

「過保護」とはだれの声か

労働基準法改正の動きの中で、深夜勤の制限や生理休暇の権利などで、働く女性は保護されすぎているという声が聞かれるが、婦人労働問題を一律に論じることに問題がある。

戦後の女性の職種とか職場とかは飛躍的に拡大して、婦人労働の内容はきわめて多様化している。ところがこれらを十把ひとからげにして婦人労働を論じているため、多くの重大な誤りや混乱を生んでいるように思う。たとえば深夜労働にしても、機械のドレイとして一瞬も緊張をゆるめられぬ労働と、地球の反対側からの宇宙中継を、自ら望んで同時通訳する女性の場合とを同列において、女性の深夜業の可否を論じるのはおかしい。エリート女性の立場や状況だけを見て婦人労働が論じられ、それが一般化されると、多数の婦人労働者を、きわめてひどい

労働条件に追い込む危険がある。

(塩沢美代子) (4・13朝日)

税の配分受けない独身婦人

サラリーマン重税を違憲とした大島教授の訴えを、京都地裁は八年近くもかかって棄却した。不合理な課税をいまいましく思っている私たちは、氏の今後の行動に心から声援を送りたい。独身婦人も、納めた税の配分については大いに不満。国の婦人関係予算の中には、三十年余

働き、多額の税金を払い続けている独身婦人に対する還元はゼロ。私たちは自らの将来に対し計り知れない経済的・精神的不安をもつ。(藤沢市会議員 大久保さわ子) (6・4朝日)

中年女性にもっと働く場を

友人が来て、小学生の子の担任が病欠し、産休補助員の先生に受け持たれたときの話をした。その補助員の先生は、年配の

女性らしいゆきとどいた配慮で、生徒たちと父母の信頼を得ていた。担任の先生は病欠のまま休

職となり、新しい先生が来ることになった。子どもたちも父母も、補助員の先生がそのまま担任になるよう熱望したが、正規教員の採用は四十歳までという制限があつて実現せず、その先生は、また新しい学校の補助教員として移って行かれたのだそう。

中年女性が仕事を持つとすると、まずぶつかるのは年齢制限という厚い壁である。年齢だけで一律に資格を制限しないで、せめて学力・技術・人物試験などによって、その門戸を開くことはできないものか。

(主婦) (6・5朝日)

中小企業をまず救つて

私はベビー服専門縫製の内職をしている。受けた仕事に絶対の責任を持てば委託者は大切に

してくれるが、物価高の影響で仕事が減る一方。委託者の苦勞

を見るにつけても不安でならない。「労働法」や「内職手帳」もさることながら、まず中小企業を救ってほしい。中小企業がよくなれば私たちも良くなるはず。(主婦50歳) (6・13朝日)

新男女分業論

自分が人と比べて得意な仕事に専念するのが、社会全体の利益である。これは国家についてもあてはまる。

世界的に増えている女子労働力と男女の分業という視点で見ると、力の要る仕事は男がやり、頭の要る仕事に、より多くの女を向けるのがよい。

(佐野陽子) (6・17朝日)

『女工哀史』五十年

『女工哀史』の出版から五十年、繊維産業は、日本経済の中核の座を重工業に譲ったが、今

度は東南アジアに進出して、五十年前の女工哀史の実態を輸出している。

日本人として、『女工哀史』を書物の古典にとどめず、今日の思想を行動の火種にしたい。(渋谷定輔) (8・15朝日)

「思いやり」以外は省いて

協力を共働きの夫から東京都労働局の調査では、共働きの家庭でも、夫は家事を手伝わないという。

私は共働きをしているが、戦場のような毎日だ。掃除など省けるものは省いて、思いやりとやさしさだけは省かないこと。すべて二分というケチな考えでなく、やれる条件の中で、努力・協力し合うといい。

(早乙女勝元) (8・15朝日)

共働き家庭の炊事

夕食づくりは、共働き女性の重荷。わが家では週二回、夫や

子どもも分担して材料を買う。

前日の後片付けのとき、翌朝と夕食の下ごしらえをし、帰宅後わずかの時間と手間ですむようにしている。

夫が台所のことを知っていることや、急場には子どもだけでも食べられる訓練も大切だと思う。かんづめ、冷凍食品も常備している。

それにしても、安くて栄養的に安心な勤労者用レストランは、家事の社会化指向の第一歩ではないだろうか。

(柴田悦子大阪市大助教授)
(8・29赤旗)

外から見た日本女性の地位

ニューヨーク在住の日本人商社員たちは、毎日遅くまで働き、夜はピアノ、休日はゴルフの生活。しかし妻たちは、家に閉じこもり、子どもだけを相手に暮らしている。

こうした生活は、一般のアメ

リカ女性には、日本の女の社会的地位の低さと見えるらしいのだ。日本の女性はデモの中でも男の後ろにつき従っているのだろうか、という疑問が、日本の女性問題に関心を持つきっかけになったという女性たちも多かった。

(小沢遼子) (9・3朝日)

目に見えない責任

転職しようとしたが、二十四歳前後の女はほとんど求人の対象外。低賃金で、失業保険や厚生年金など社会保障のない臨時職やパートへ追いやられる。

(臨時職員24歳) (9・6毎日)

主婦にも年金や有給休暇を

国連経済社会理事會

「主婦の仕事は週給百六十ドル(約四万八千円)に相当する」と、国連経済社会理事會は「女性の役割」で報告。「政府は専業主婦に年金や有給休暇を与え

るべきだ」と主張している。

(11・19朝日)

「からゆきさん」の墓

からゆきさんの墓石は、実際に日本に背を向けているが、裏切られた祖国というこだわりではなく、淡々と、海に向けて墓を建てたと思われる。日本への関心の薄れた彼女たちの心境そのものが、すでに日本に背を向けたことを意味する。

(熊井啓)

(11・28朝日)

新しい男女関係はどうなるか

男女の同権・平等論議が華やか。言葉の上でも男女同権の傾向が強く、米国では「ミス」や「ミセス」に代わって「ミズ」という呼び名が流行している。女性の特権さえ放棄しでの平等の追求が成功したとき、新しい男女の関係は、いったいどうなるのか。

(高橋博)

(12・7朝日)

〔運動〕

婦人の力で金力選挙打破を

戦後、婦人にも選挙権は与えられたが、はたして真の民意が表現されたか。婦人議員があまりにも少数ではないか。今こそ婦人の力で、公然と横行する金力選挙を解消しよう。

(男性70歳) (1・10朝日)

現地との交流、女性も役割を

友人が、タイ人の妻となったために、現地で日本人仲間から異端者扱いを受けているとのこと。

日本の奥様方はそれぞれのグループでかたまっていて現地の方々ととけ合おうとせず、夫の地位を自分の地位と錯覚し、現地人を見くろんだした態度がとても悲しいという。

現地での人間と人間とのふれ

あいは、まず女性同士からと思うのだが。

(主婦49歳) (1・25朝日)

女性の怒り、行動で示せ

パワーを結集しよう

国民生活センターの「庶民生活活動向調査の結果によれば、主婦は十人に九人が「物価値上げで生活が圧迫されている」と感じ、四人に一人が「商品の質やアフターサービスに不満」を抱いているが、消費者運動に参加しているのは、百人にわずか三人という。

物価問題解決のカギは、女性の一挙手一投足にある。家庭のカラにこもらず、パワーの結集を期待したい。

(男性56歳) (2・6朝日)

福田須磨子の忌明け

四月二日に亡くなった福田須磨子の遺族からのあいさつ状に、香典(こうでん)返しに代えて、

被爆者救援の一部として寄付した、とあった。「生活保護を受けていた彼女には、四月分として、生きていた日だけ、すなわち二日間の日割計算で、手当てが支給された」と、姉のレイ子さんが書いています。

がんで死亡した人の遺族が香典返しをがん研究に寄付するなどの例とは違い、遺族の同じ行為には、複雑に質の違うものを感ずる。

(佐多稲子) (6・4朝日)

女のたたかい

八十歳になる母親と、長男の妻との三人が、忙しい職業の合い間にトラックで売りに来る安い野菜を、誘いあってはまとめ買いして、配分している。

それが今日の高値に対する女のたたかいだと娘は言う。

「近所の八百屋さんにやっばり少しひびくでしょうね」と嫁さんは言う。「だから気の毒で、

裏通りを帰ってくる」と母。この同情も、横町の店をおもえば尋常な生活感情。

小さな周辺の実感で、私は何だか腹が立ってきた。

(佐多稲子) (6・6朝日)

母親大会二十年に思う

二十年前の六月、東京・豊島公会堂に集まった母親は二千人だった。今年は二万五千人が集まると聞く。

オドオドしながら発言していた当時と比べ、整然としてきた発言は何となく面白がなくなつたし、長いあいだには試行錯誤もあつたろう。だがそれでも、二十年も続き、全国の市町村にまで根を張ったのは、いったい何だったのか。それこそ母親一人ひとりの変幻自在な力だつたと言える。

二十年経つたいま「生命を産み、育て、守ることを望む」から「産み、育て、守る権利があ

る」と書き変えてもよいのではないだろうか。

権利というと、ため息が出るほど重いものになる。育てる母親の権利は、育てられる子どもの権利でもあり、また母性という性を持った一人の人間の権利でもある。

そう考えると、この運動は婦人史の力強い一側面であることはまちがいない。

(丸岡秀子) (6・17朝日)

アメリカを先達に消費者運動をラルフ・ネーダーは十五万ドル(約四千五百万円)の私費を投じ、あらゆる層の人々千人以上を動員して、議会が憲法の精神に即して実際に機能しているかどうか点検した。ウォーターゲート事件発覚の半年以上も前のことだった。

議会にも、消費者利益を代表し、「議会監視」の名のロビイスト・システムが誕生。議会外

では「一般市民の利益を守る訴訟グループ」が、主として政府を相手に年間二十五件の訴訟を提起した。

アメリカ同様の社会的・国家的問題を持つ日本でも、オバマあと追い陳情型を脱皮し、ダイナミックで構造的な運動にしたい。（消費者問題研究家野村かつ子）（8・15毎日）

消費者運動を市民運動に

東電が政治献金をやめ、他社にも波及しそう。このゲリラ戦の成功は、従来の消費者運動の反省にもつながる。

これまでは失敗を恐れる傾向があったが、実行できる人が、できることから始めなければ運動は進まない。

主婦だけではなく、法律家などの専門家も参加して、市民運動としての質が向上したことも大きな前進だ。

（野村かつ子）（8・17朝日）

出色の婦人問題講座

小金井市の「現代に生きる女たち」連続市民講座は、講師も内容も抜群で感心した。革新市政下、市民グループの自由企画と聞いて、なるほどと思った。他市も見習ってほしい。

（10・20社会新報）

生産者と消費者の合意を

生協と生産者団体主催の「食糧の生産と消費を考えるシンポジウム」に出席した。

もはや、完全に安全な食品を見つけるのが至難である現在、消費者サイドからの一方的な要求運動ではなく、消費者と生産者の合意の上で、より安全な食品を、双方が納得のいく価格で需給するという姿勢が必要ではないだろうか。

（主婦35歳）（12・6朝日）

〔育児〕

赤ちゃんにも家を貸して

無認可保育園に乳児を預けて働いているが、借りている家を追い立てられている。

不動産屋を歩き回っても「子ども不可」の物件があまりに多く、保育園にするなどもってのほか。このままでは、周囲の人の善意だけで育てあげられた八年の保育園の歴史の灯も消えてしまう。

（看護婦32歳）（2・1朝日）

「母の日」の反省

子どもが母親へカーネーションなどを贈って感謝することに、だれも反対はするまい。しかし、「母の日」は、このところ商業主義に利用されすぎるくらいがある。

最近の若い母親たちを見てみると、感謝されるほどの資格があるのか疑い欲しくなってしまう。一つの現れとして、子どもを育てることに自信をなくしてし

まった母親の増加が目立つ。彼女たちに通じる共通点は、母親である前に、一人の女としての幸福を追求しようという姿勢である。それはあまりにも物質的なものに限られ、自己中心的であり過ぎるのだ。

仕事を持つことそれ自体は結構だが、きびしい職業意識を欠き、小遣いかせぎや暇つぶしのためでは、あまり評価できない。

一方では「子どもべったり」の母親もいる。数にしたらこのほうが多いだろう。だが、底を流れるのは、やはり自己中心主義だ。こうした態度は、いずれ子供に批判され、断絶や離反につながってゆくことを忘れてはならない。「母の日」を、母親自身の反省の日ともしたいものだ。（5・12朝日「社説」）

働く女性にとって

保育費用は「必要経費」
夫を日本に残し、小さい子を

連れてアメリカに行ったある女性が、大学の研究員としての勉強と仕事をするために、子どもを保育園にあずけた。

彼女の所得税は給料から天引きされていたが、後日申告をしたら、税金が全額返って来たという。申告には、かなり高い保育料の領収証を添え、妻が働く場合の必要経費だという主張をしたのである。

この女性は帰国後、ふたたび夫と同居の生活に戻り、保育園に子どもを預けて仕事を続けた。そこで、日本の税務署にも同様の問い合わせをしてみたが、日本では、保育料を必要経費と見なす定めはない、と冷たく言われたという。

働く女性が増えているいま、妻が外で働くために人を頼む家事や育児の費用は「必要経費」として認められてもいいのではないだろうか。

(佐野陽子 慶大商学部教授)

(5・20朝日)

扶養手当で申請にも男女差別

四月に第一子、長女を出産した。私は公立学校の教員、夫は農林省に勤務。私たちは将来のことも考えて、長女を私の被扶養者にし、扶養手当を申請したが、教育事務所で認められなかった。

理由は、社会通念上、夫側が扶養手当を申請するのが建て前で、夫の所得が生計を維持できる額なので、私の申請は認められないと言う。

社会通念という言葉で、男女平等がいつか不平等になっていくことが腹立たしい。

(教員33歳) (5・17朝日)

幼児期の服装に性別なし

保母の職に十五年就いている

が、幼児にとって最良の服装は、男女を問わず、全身運動の妨げにならないもの。言葉遣いと服

装が無関係とは言えないが、それは大人の場合。幼児期には性別服装を決めることは不要。

(保母39歳) (10・26朝日)

赤ちゃんが泣かぬよう

睡眠剤をのませるとは

アパート暮らしの二十代の未婚の母、夕方からスナック勤めに出る。そのため、五時ごろ夕食とともに子どもに睡眠薬を与えるという。夜、大声で泣いて近所から苦情を言われるのを恐れてとか。ペット犬のなき声を小さくする手術に似た現代の悲劇。(会社員47歳) (12・3読売)

子どもの家事手伝い

このごろの子どもは一般に、料理、お使い、留守番などはするけれど、手の汚れる仕事はいやがる。

私は、自分が留守にする間、子どもに家事を一任している。責任感や、家への手伝い意識、

家族の連帯感が養われて、たいへんよかったと思っている。

(主婦40歳) (12・7毎日)

私立幼稚園へ大助成金を

教育のあり方再検討を望む

来年入園の子を持つ者が、私立と公立で、あまりにも費用が違い過ぎる。

幼児教育の重要性から、入園率は年々高まっている。長期的視野に立って、教育のあり方の再検討を望むとともに、自治体は私立幼稚園へ大助成金を出し、保育料の実質的引き下げを望む。

(主婦31歳) (12・4朝日)

子どもは素足で

息子の通う保育園の上ぐつ使用の理由は、「板敷きの部屋で冬の素足は寒すぎる。しかし、運動、食事、睡眠を同一の部屋でさせるので、じゅうたんを使うと不衛生になるし、くつ下は

する」と。

素足で遊べる機会の少ない昨今、室内ぐらい素足にさせたい

相 談

この愛貴くべきか

三十歳の主婦。子どもの家庭教師の大学生と深い仲に。相手は大学をやめて働くから夫と別れてくれと言う。悪い女と思いつつ、どうしても、どちらとも別れられない。(栃木・〇子)

〔答〕恋愛経験豊富で男性を手玉にとるようなタイプなら、好きなようになさいと言うところだが、思い出をそっと胸に、彼と別れるのが、あなたのためでは。(戸川エマ) (1・10読売)

夫の浮気が本気に

セールスマンの夫との念願か

が、意見を乞う。

(研究員30歳) (12・4朝日)

なって、間もなく待望のマイホーム購入と思っていた矢先、

夫が社員旅行の旅先で女性との遊びを覚え、すっかり夢中になってしまった。一人になって思う存分遊びたいから、別れてほしいと言ひ出したのだが。

(東京・K子)

〔答〕新婚の夫婦にとって大切なのは、物質的なものより、情緒的なさやかな心づくしの積み重ね。マイホーム建設のため働き続けたご主人に、あなたのいたわりや思いやりが欠けているのでは。

(平岩弓枝) (1・24読売)

離婚言い出しかねて

四十四歳の妻。夫がたまらなくいやになり、離婚したいと思っている。

しかしこの気持ちを夫に告げれば彼が傷つくので、黙って家を出ようと思うが、決行となると迷って。(北海道・Y子)

〔答〕思っていることをご主人と話し合ってみたら。

どうしてもいやなのなら、離婚するほかないかもしれないが、離婚して、あなたは、ひとりで生活していく力があるのか。ないとするば、食べていくためにはどうしたらよいか、現実にはどうして、具体的に考えてみなければ。

(平岩弓枝) (2・20読売)

独身中年の岐路

四十三歳の独身女性。妻子ある男性から求婚されているが、他人の家庭を破壊してまで一緒に

なる勇氣はない。断っても

断っても求婚してくるが、どうしたらよいか。(東京・K子)

〔答〕他人の家庭を破壊することとはよくない。あなた自身の手で本当の幸せをつかんでほしい。

(平岩弓枝) (2・28読売)

外に女性が出来た夫

夫四十四歳、二十三歳と十九歳の娘のいる家庭。夫が年上の未亡人と深い仲。帰宅は月に一、二日。二十五年も過ごしてきたのに。慰謝料を請求したい。また、二人を別れさせるにはどうすればよいか。(千葉・Y江)

〔答〕離婚もせず、その意思もなく、慰謝料請求とは勝手。別れさせる方法については、少し落ち着いて、自分でも一つや二つ考えてみては。夫の浮気は許しがたいことだが、そこへ追いやった原因は、あなたの方ではない。性格がわがわがしいのでは。(小山いと子) (3・1読売)

夫に愛人別れたいが不安

三十七歳、二児の母親。十年

前から夫がバーのホステスと深い関係になり、あまり家に帰らない。夫は、いやなら出て行ってもよいが金はやらない、と言う。私には一人で自活して子どもを育てる自信はないので、何か特殊な技術を身につけようと考えている。(東京・H子)

〔答〕本当に離婚を決意して家裁に申し立てをすれば、慰謝料も、財産分与も、子どもの養育料も請求できるが、ご主人とは無関係な自分の世界を持ち、そこに心の張りを見いだしたら。

(小糸のぶ) (3・2読売)

つらい後妻の十二年

後妻として商家に嫁ぎ十二年になる四十五歳の主婦。一児をもうけたが、先妻の娘たちは私を「お母さん」と呼んでくれたこともなく、夫は自分の親と子どもには優しいので、私はねた

みと憎らしさで、ますますひねくれた人間になっていく。夫から「おれが死んでも、お前には一銭もやらぬ」と言われ、離婚して母子で暮らそうかと考えているが、無一文では心細く、思い悩んでいる。(東京・T子)

〔答〕「ねたみと憎らしさでひねくれていくあなた」が、ご主人には腹立たしいのではないか。その点を反省し、もう一度やりなおしてみたら。

(小糸のぶ) (3・9読売)

養育費が目減り

離婚して三歳の子を育てている。子どもが成人するまで養育料として月二万円仕送りを受けることになっているが、養育料も物価に応じてスライド制にならないか。増額の要求はどうしたらよいか。(静岡・Y子)

〔答〕養育費を物価変動にに応じてスライドさせるやり方は現実問題として困難。一定額を決め、

それが不合理になった段階で、家裁に変更を求めるほかない。(鍛冶千鶴子) (3・26読売)

男性に縁のない私

友人に恵まれ、レジャーにも仕事にも張りのある毎日を通り過ぎてきたが、まわりの友人や妹たちが次々に結婚、身辺がさびしく、自信を失った。会社を辞めて女ひとりで生きられる職に就きたいが、両親は「今は結婚に向かって全力投球すべき時」と言う。(千葉・R子)

〔答〕あなたは青春の楽しみを十分に味わったのだから、今こそ「内気で、きまじめ」な特徴を生かして、わが道を行くべきでは。

急がば回れで、それが結婚への早道でもある。(小山いと子) (4・4読売)

夫がイヤ、一度は自殺も

以前つきあっていた男性と破

談になり、親戚すじに当たるいまの夫と結婚した。

しかし、主人の食べる音、歩く音、何から何までイヤで、自殺をはかったが死にきれず、実家に帰ったら連れ戻された。

(英城・M子)

〔答〕肝心なときには自分の意志をはっきり表明しなければだめ。ご主人は、果たしてあなたが考えているほどつまらない人なのか。

自殺騒ぎまで起こす女を、何も言わずに迎え入れたご主人を、もう一度見つめなおしては。

(平岩弓枝) (4・6読売)

気が荒くて粗野な夫

表具師の夫は気が荒く、何かといえば「バカヤロー」を連発。夫を見ると情けなくてイライラして、むなしくなる。別れるべきか。(千葉・Y子)

〔答〕すべてに協調しようとしていない妻を持ち、浮気もせずにい

るには、せめてそのくらいのおうぶん晴らしが要るのではないだろうか。

(小山いと子) (5・10読売)

不倫の借金三百万円

三十一歳の人妻。二年前、妻ある男と深い仲になった。

私の名義で三十万円高利貸しから借りたが返済できず、利息がついて三百万に。男に返済させたのだが。(埼玉・日子)

〔答〕くだらない男にひっかかり、今さら、だまされたの、薄情だのと恨むのは筋が正しいというものでは。

(小山いと子) (6・7読売)

やさしい相手だが

見合いの末にプロポーズされたが、いまひとつピンと来ない。いい人だとは思いますが、友人以上の関係になると思うとゾッとする。

(神奈川・M子)

〔答〕あなたの心が燃え上がら

ないのなら断ったほうがよい。ゾットするような気分では、将来もあまり見込みがなさそう。

(戸川エマ) (7・4読売)

養父母への恩返し

私生子の私を引き取ってくれた両親だが、結婚後も家業を手伝わせられたり、お金を貸してくれといった来たりする。思は十分感じているが、どこまで尽

くせばよいのだろうか。

(岩手・T子)

〔答〕両親があなたを引き取ったのは、将来、自分たちの老後を見てもらいたかったからではないか。

これ以上は無理だと思ふなら、誰か、しかるべき人に話してもらってはいかが。

(小糸のぶ) (7・13読売)

人

内職のうたを詠み続ける

辰己みゆきさん

手摺(ず)れせし内職の機に今年また／初油さす／わが手老いにし

奈良県の辰己さんは、二十五年間も靴下の先がかりを内職にしてきた。

六十円になった。

しかし、まったく何の保障もなく、責任だけが問われる家庭内職の本質は少しも変わっていない、と、辰己さんは静かに語る。

(1・15朝日)

日本女子プロゴルフ協会

初代理事長に二瓶綾子さん

昭和四十二年に出来た「日本プロゴルフ協会女子部」から宿願の独立、圧倒的多数で初代理事長に。

十九歳で、郷里福島市郊外に出来たゴルフ場のキャディーになり、ゴルフ場をわたり歩いて、現在、天城ゴルフ倶楽部に所属。「終生ゴルフをやりたい。年をとってもできるんだという見本になりたい」と、夢は大きい。

(1・18朝日)

保母さんストのリーダー

藤井かず子さん

「お母さん方のはとんどが支

持してくれた。これが何よりうれしかった……」

正職員への昇格を要求する名古屋市嘱託のホームヘルパー百五人とともに、増員要求などで一日ストをした私立保育園の保母七百人のリーダー。「ほんものの福祉を子どもの世界に求めて……」と、保育に若さと情熱を傾ける二十四歳の明るい娘さん。徹夜で市側と渡り合ったり、座り込みをしたり、市内の全六万戸にビラを配ったりして、やっと、保母の大幅増員と、ヘルパーの正職員化を獲得した。「結婚してからもクビになるまで保母は続けます」

(1・28朝日)

初対面のダリから日本での代理権を贈られた安西慶子さん
奇行で知られる画家、サルバドル・ダリが、初対面の安西さん(三七)に、展覧会、作品の販売、なんでもやれ、と、ポ

ンと契約書をくれた。

奇抜な、異色の前衛的ファッションデザイナー・安西さんは「ダリなら、私の作品をわかってくれるはず」と、ダリを探し求め、OKをとりつけたというのだ。気に入らない人は寄せつけもしないというダリのこの優遇に、日本の美術界もびっくり。「ダリは安西さんのヘア・スタイルや行動も含めた『作品』を面白と思ったのだろう」と評している。

(1・28朝日)

女囚と人形作りを楽しむ

山口アイさん

札幌市で創作千代紙人形教室を開いている五十四歳。札幌刑務所にも出張して、女囚に教えている。

「人形づくりを通じて精神的な解放感を与えてあげられたらと思って……。罪の意識を表わさず、せせと作っている姿に教えられる面が多い」と言ってい

る。(3・4 北海タイムス)

『柿本人麻呂用字考』を

出版した竹尾正子さん

福岡教育大国語科教授。長崎市生まれ、六十一歳のアララギ歌人。

女学生ころから万葉文学の美しさに魅せられていた。国語を専攻して多数の私註、全註書、註訳書などに親しんで以来、四十年間研究を続け、九大教授の万葉集研究家にも師事、『柿本人麻呂用字考』を完成した。A5判・三三〇ページ桜楓社発行
著書には、ほかに『土用芽』がある。

(3・18 西日本)

「がん宣告のタブー」の

共同研究指導者池田節子さん

国立がんセンター病院の開院と同時に勤めて十一年、「数えきれないほど」の死を見てきた。現在同病院看護婦長。がんを知らせるべきかどうか

について、医学会のシンポジウムでは、知らせないほうが患者に幸せ、と一応の結論が出ているが、「画的にタブーになっているのがいまいことかどうか、現場の看護婦には大きな悩み」と、共同研究。

素材になったのは、若い二年生看護婦が一人の患者に二回インタビューしてとった一時間半の録音テープ。奥さんから「がんと知られる前後の心の闘い、そして、現在の生への喜びが語られている。

「知らされたことがよかったという実例もあり、反対に、自殺した例もあります。だから患者の個性や環境なども考えて、受けとめ方がどういう段階にあるか、動揺しても立ち直れるかどうか、十分に見通さないと……」

こんどの共同研究は「まだ、ほんの手がかり。入り口に立つたばかり」と言う。長崎県生ま

れの四十三歳。(3・27朝日)

前チリ大統領夫人来日

軍事クーデターで死去した故アジェンデ前チリ大統領の夫人オルテンシア・ブッシ・アジェンデさん(五九)と娘のマリア・イザベルさん(二九)は、婦団連などの招待で来日、軍事政権の圧政を日本各地で訴え続ける。国連の人権委員会にも特別出席し、欧州各国などを訪問した。

五日間の滞在後、アジア、欧州へ出発。世界中の人々に訴え続けてゆく。(3・29朝日)

*

「世界の母親が手を結ぼう」

アジェンデさん母娘は、一日、宿舎のホテルで次のように語った。

「軍事政権はアジェンデ大統領の連合政権下で少しずつ築きあげた婦人の地位を無残にも崩壊させた。婦人運動、母の会」

のあらゆる活動が禁止されている。また、アジェンデ政権下の運動にかかわりあった者すべての職を奪っている」

今のチリではイデオロギーを超越することはむずかしいが、「すべての子どもと乳幼児は、イデオロギーにかかわらず幸福にならねばならない。そのために学校と保育所の建設を」と繰り返した。(4・5毎日)

献血おばちゃん定年退職

佐伯やよ江さん

「貴い命を守るため愛の献血にご協力を」仙台市で九年間も街頭献血を呼びかけてきた六十三歳の「献血おばちゃん」、宮城県赤十字血液センター業務課主事が、一日付けで定年退職した。

最初は一人だった街頭呼びかけに、市内の日赤奉仕団も協力、献血者はぐんと増えた。佐伯さんは退職前日も「あなたの血で、貴い命が救われます。献血に協

力をお願いします」と最後の呼びかけをした。(4・1河北)

女流アマ囲碁日本一

十二歳の佐野久仁子ちゃん

大阪府の小学校六年生。全国から百二十人が参加して開かれた「第十六回全日本女流アマ囲碁選手権大会」で優勝し、最年少の記録をつくった。

久仁子ちゃんは「碁一家」の長女。この優勝で、三段から女性アマチュア棋士最高位の五段に昇格し、自称「碁きち」の父親、敬さんの四段を追いぬいてしまった。

好きな学科は社会科、きらいなのは「走りでもいつもビリになるから」体操。「成績はまあ普通」とはにかむ。碁歴約三年、碁は趣味以上、将来の希望はプロ棋士という。(4・2朝日)

日本の女子教育に献身

米女性宣教師帰国

半生を日本の女子教育にささげたアメリカ人女性宣教師、大阪女学院短大教授アリス・クリスティン・グループさん(六五)が、四月四日、帰国する。

英語を教えるかたわら、「人に甘えてはいけない。男性に負けない思想性を持つように」と女性の自覚を促し続けてきた。

昭和七年に来日して同女学院の英語教諭になった。戦争中、警察に五か月も留置された後、米国へ送還されたが、戦後すぐ日本へ戻り、焼け跡の教壇に。

「女の人も男性のように進んだ思想を持つてほしい。日本の女性は、知識はあっても身についた判断力がなく、よく失望させられた。」

しかしこれは日本の社会の状況と関係がある。日本の社会は女の人をもっと大事にしなければならぬし、女性に期待してほしい」(4・2毎日)

「交通おばあちゃん」

横山トメさん表彰

春の交通安全運動を前に、五日、ことしの交通安全功労者として全国で八人と二団体の表彰が決まった。宮城県からは「交通おばあちゃん」と親しまれている六十八歳。

「特別なことをしたのではなく、母親たちに安全運動を呼びかけたり、街を歩いていて気がつき次第注意してきただけ」とトメさんはすっかり恐縮している。
(4・6 河北)

難病の深戸愛子さん、同病者に生きる勇気を与える歌集を進行性筋萎縮症と診断されて二十五年、岐阜県郡上郡和良村下洞の深戸さん(四六)が、難病と闘いながら詠み続けた短歌を処女歌集「未知」にまとめた。

発病の翌々年、「人間の生きる目的は、表現できないもののために歌うこと」というリルケ

の言葉に心を奪われて短歌をつくり始め、近くの郡上八幡町を中心に発行されている短歌同人誌「きたみの」に毎号欠かさず投稿、昭和二十八年に宮修二主宰の「コスモス」が創刊されると、さっそく同人になった。

歌をやることで自分を取り戻すことが大切、と作った歌約八百首の中の二百首が「未知」に収められる。(4・9 毎日)

英国のテレビが選んだ

「日本女性」船曳由美さん

欧州以外の六か国を、それぞれ一人の女性を通して、ドキュメント風にカラーで描き出そうという、英国BBC放送の企画に、インド、メキシコなど、各国から代表女性が選ばれ、日本の女性としては船曳さんが。

平凡社に入社後間もなく創刊され、応募して「名付け親」になった雑誌「太陽」の編集に従事。「十年間、日本の文化を問

い直したいと作業してきたつもり」という彼女はクリスチャンだが、仏教にも、さらに素朴な原初信仰にも魅せられ「私ってまだふらついている」

東洋的な精神のたゆたいたいも、外国人には興味があったのかも
しれない。(4・10 毎日)

水俣病センターを足場に

医療活動する堀田静穂さん

オカッパ頭にジープ、三十四歳の元看護婦さんの声価が、いま、水俣病患者の間で高まっている。

「生活に根ざした医療は医師でなくとも」と、この半年間バイクで、子どもの発熱から水俣病認定申請の仕方まで、よろず生活相談」に応じながら、百軒を超える患者家庭を診て回った。

全国からのカンパで七日落成した「水俣病センター相思社」の医療担当になっても、その姿勢は変わらない。

「患者の将来を考えると今の知識では足りない」と、古い歴史を持つ島田療育園に再度転出していたが、昨年の夏水俣に戻り、今度は「水俣に移動診療所を」という運動のリーダーとして、日本版「はだしの医者」を実現してきた。

「医療する側の便利さでなく、受ける側の便利さを考えたい」というこの人に、底辺の患者の期待は大きい。(4・10 中国)

OLやめて手話通訳者に

羽田式子さん

札幌市内に千八百人いる聴力障害者の「灯台」となる、市の手話通訳者が誕生した。

札幌市身体障害者更生相談所の非常勤嘱託職員として活動するもので、聴力障害者の悩みごとを聞いたり、就職相談のために飛び回っている。

手話のボランティアグループで活躍していたが、会社勤めを

辞め「ろうあ者のため全力を」と、二十二歳の情熱を燃やしている。
(4・12 北海道)

築き上げた一億円を老人福祉に

病床の大町満寿子さん

中学を中退後、呉服店にでっち奉公した大町さんと結ばれ、行商を手始めに努力して、名古屋市中区で呉服店を営むまでになった。しかし子どもに恵まれないこともあって、何か社会のためにと、夫婦で毎年寄付を続けてきた。

満寿子さん(六九)は、つましい生活の中から自分名義の貯金一億円をためたが、最近、肝臓を患って入院。面会謝絶の危篤状態が続く中で、「ゼロからスタートした私が、最後にゼロになるのは当たり前。貯金を全部老人福祉に役立ててほしい」と希望した。(4・16 西日本)

一九〇〇円パーマの

反骨美容師諸橋満千子さん

東京・渋谷区で美容院を経営しているが、四月はじめ、パーマ代(セツトを含む)を五千五百円から約三分の一の千九百円に値下げした。

「女性の虚栄心を巧みに利用して料金を釣り上げる、いまの美容院経営は間違っている。この料金でも経営が成り立つことを奥様方に知らせ、値下げのきっかけになれば」とがんばる。だが、業者で組織する組合は「そんなに安くしてやっていけるはずがない。美容は高度な技術を伴う芸術」と、ひやかか。

(4・25 朝日)

PTAで自己変革

吉川艶子さん

「戦後、女性はPTAという解放区によって社会参加の場を得た。しかしそれを足場にして個人が変革を果たしたという例

はめつたにない」朝日新聞に連載の「いま学校で」には、こんな反響がたくさん届けられた。

奈良市の吉川さん(四五)は、

長男と長女の中学卒業まで十二年間、ずっとPTAに関係してきた。もうPTAは卒業したが、

いまでも週三日、精薄児の集団訓練や臨床心理学など「子ども」と関係のある仕事をしている。

「それまで主婦業しかなかった私に、社会人としての道を歩ませてくれたのはPTAでした。PTAを通じて、一人ひとりの人間を生かすことの尊さ、相手の心を理解することの大切さを感じました」と言う。

PTAが、女性の単なる「自己変革」の場でないことはもちろんだが、このようなPTA・OBが少なくも事実だ。

(4・29 朝日)

養護施設へ匿名の送金

十一年間に八十三回も

東京・調布市の養護施設「二葉学園」に「相生の少女」の名で、中学二年の少女から二百

円が送られてきたのは十一年前のこと。以来、送金は八十三回も続き、七万七千四百円にもなった。

学園の図書室に「ひまわり文庫」と名づけられた本だに、この送金で購入した本が並ぶ。子どもたちは少女を「ひまわりのお姉さん」と呼んでいる。

このほど、八十四回目のお金一万円が届いた。「私も結婚することになりました。この幸せを皆さんと分かち合いたくて」という手紙といっしょに。

おめでとう、ひまわりのお姉さん。どうぞ幸せに。

(5・4 朝日)

「言語楽器」を完成

作曲家田中未知子さん

文字を、その性格にあった音に変えたらどうなるか、そんな

試みに挑戦して、オルガン用の「言語楽器」を完成した。二十八歳。東京・銀座のソニービル四階で六月初めまで実演・披露する。

一オクターブを三十二の音に分けてカナ文字を当てはめ、いっしょに使われる頻度の高い文字は、音としても和音になるようになど、コンピュータで組み合わせ方を計算して鍵盤を配列、言葉をたたいていけば音楽ができる仕組み。

自作のヒット曲「時には母のない子のように」をたたいてくれたが、「『母』の音が、どうもよくない」と言っている。

(5・5朝日)

宮沢明子さん、モーツァルトの

ピアノ・ソナタ全曲を録音

全部で十七曲という大きな仕事で、日本人では最初、世界でも六人目。女性ではリリー・クラウス、イングリット・ヘプラーに次いで三人目。録音は昨

年九、十月、東京・青山タワーホールで。使用楽器はベーゼンドルファー。「演奏は聴く人の評価にまかせますが、録音は世界で一番よい音だと思っている」と言っている。(5・16朝日)

がんに倒れた服部孝子さんの

詩集「白い木馬」、夫の手で乳がんと闘って、今年の一月二十八歳の生を終えた若い女性の遺稿詩集が出版される。

夫のドイツ青年、ヨハネス・ブッシュさん(二七)は、愛する人の死をも予期しながら結婚し、献身的な看病で、短い生と詩心を支えた。この詩集には、死期迫る五か月間の闘病中に、ほとぼしるように生まれた九十一編のうち八十一編を収める。ブッシュさんが再び来日する七月ごろ出版の予定。(5・20朝日)

三味線組歌全曲を五線譜に

久保田敏子さん

日本最古の三味線音楽であり、近世邦楽の原点といわれる三味線組歌が、竜谷短大講師の久保田さん(三一)によって全曲五線譜化された。演奏家のためばかりでなく、日本音楽の研究者にとっても重要な文献資料として注目されている。

三味線組曲は、上方の「はやり歌」に三味線の伴奏がついたもので、室町末期に出来たと言われ、全部で三十二曲ある。いくつかの流儀があったが、現在全曲が残っているのは、大阪の菊原初子さんが伝承する野川流だけ。(5・28朝日)

市川房枝さんを

参院選に推す動き

「五億円」当「三落」とも言われる参院選が批判をあびているが、こうした金のかかる風潮を排撃しようというグループが、市川房枝さんを全国区へ立候補させようと、活発な動きをしている。

ご当人は辞退を続けてきたが、各方面からの強い要請の前に、一両日中に「立候補宣言」を求められている。

市川さんの心を動かしたのは、最近へ市川さんを勝手に推薦する青年グループ(世話人＝菅直人・田上等氏ら)が、一口千円で、供託金六十万円をカンパしようという運動を始めたこと。

選挙運動を市民の手に取り戻すために、理想選挙の代表をぶつけて、金をかけない選挙を現実にし、政界の刷新を図るのが目的という。(5・28朝日)

*

市川さん参院選へ立候補宣言

市川さんは五月二十九日、東京・代々木の婦選会館で記者会見し、参院全国区に立候補することを宣言。

選挙費用はカンパに頼り、法定費用の三分の一ぐらいで理想選挙を果たしたい、と関係者は約束した。(5・30朝日)

藤原道子さん国会を去る

参院選の迫ったあわただしい動きの中で、藤原道子さんは静かに国会を去る。

社会福祉政策ひとすじに二十六年の議員生活を送った彼女に、参議院労働委員会は三十日、超党派で異例の感謝状を贈った。

藤原さんの長く、重い「女の一生」の中で、それはもうひとつの「別れ」だった。

(5・30朝日)

*

「主権者の自覚を」

藤原道子さんの回想

戦前の社会運動は大変だった。私自身、貧乏で学校へも行けず苦勞したし、貧しい人たちの暮らしを見てきた。だから議員になって、どうしても社会保障の問題をやりたいかった。

はじめのころは社会保障についての世間の認識は薄く、「そんなものは夢物語、できるわけがない」と攻撃された。それが

まがりなりにも、政府も社会保障を主張するようになり、社会保障一本やりの議員生活を送ってきたかいがあった。もちろん内容は不十分。

それにしても婦人議員の数は少なすぎる。せめて議席数の一割はどうしても必要。最近はいぶよくなってきたが、それでも男は家庭の生活を知らない。たとえば優生保護法改正にしても、これは男性にも責任がある問題なのに、男性議員は理解不足。

婦人が主権者としての自覚を持つことが、清潔でカネのかからない政治につながり、そのことが、婦人議員の進出をも容易にするのではないかと藤原さんは語る。

(6・12朝日)

労働省婦人少年局長に

森山真弓さん

戦後の男女平等の象徴の一つ、労働省婦人少年局長に、昭和生ま

れ、四十六歳の局長が誕生した。東大法学部在学中に結婚した夫は森山欽司・科学技術庁長官。国際労働課長から一足とび、二十五年入省組として異例のばってきである。

昭和二十二年に労働省新設以来、婦人少年局長はどちらかといえば日陰の存在と言われる。そこから多少なりとも脱皮できるかどうか、五代目局長の手腕を、省内でも注視している。

(6・4各紙)

バレエ実業団チームに

奥さん選手鈴木三枝子さん

女子バレエボールでトップクラスの力を持つ実業団チームに、初めての奥さん選手。「東洋紡守口」の鈴木選手(二三)は、旧姓小林、岡山・美作高校出身。チームワーク第一の団体競技で、奥さん選手は珍しい。

「結婚した人を選手に加える」とチームの雰囲気がかわれる」

と、奥さん選手反対論もあるが、鈴木選手を加えたチームにそんな心配はない。(6・11朝日)

日航に初の女性次長

滝田あゆみさん

日航の九月の人事異動で、広報室課長から国際業務室次長に昇進。次長は、役員以外の最高ポストである部長に次いで高い役職。「ウーマンリブ運動は肯定するが、自分は、権利の主張ではなく、実績を示していきたい」と言っている。一九五五年東太

法学部卒。

(9・3朝日/毎日9・11毎日)

三つ子を撮って十年

渡辺みどりさん

三つ子の成長記録を十年間撮り続けている日本テレビのディレクター。この蓄積の成果が、最近放映され、見る人の胸をうった。(9・3毎日)

女流棋士欧州で活躍

十九歳の小林千寿さん

囲碁三段。小学校入学と同時に木谷九段に弟子入りし、高二で初段、三年で二段。

欧州囲碁選手権に日本棋院から派遣、七月九日から五十日で十六都市へ。一度に五、六人相手に対局した。(9・3毎日)

エールフランスに勝訴

スチュワード高橋秀子さん
パリ転勤を拒否、解雇通告を受けたが、仮処分ではね返し、高裁で勝訴。しかし、エールフランス側は依然として乗務を認めない。(9・6毎日)

盲人用テープの朗読で表彰

主婦・杉谷文子さん

鉄道弘済会が関係団体と共催で「第四回全国表彰者」を選考、その一人に選ばれた。五十八歳。上野寛永寺貴主兼輪王寺門跡夫人の忙しい生活の中で、読み

手の少ない時代小説を録音し続けてきた。(9・9毎日)

横浜・寿地区の天使

保健婦渡辺幸子さん

横浜市の簡易旅館街、寿地区を担当して五年、町の人は彼女の訪問を心待ちにしている。肩書はらずして、勤務時間外でもまた、身銭を切っても、地区の人と対等につきあってきた。

どんなに疲れても、翌日は新しい気持ちで訪問するという。(9・11朝日)

身障者喫茶店へ車いす」開店

下半身不随の土屋都子さん

六月中旬、甲府市に、身障者の喫茶店へ車いす」を開店。顔なじみの客もふえて、着実に前進している。(9・13朝日)

羽生瑞枝さん金婚式記念に

歌集「水畔」を自費出版

江戸川べりで生まれ、生きて

きた羽生さん(七十二)が、ふるさとの川、江戸川の歌四百首をまとめて。(9・13朝日)

性映画のシナリオを書いた

お母さんいえき・ひさこさん

撮影中の映画『恋は緑の風の中』(家城プロ)のシナリオを執筆。中学二年、思春期の男女の純愛と、その世代が直面するセックスを中心に、家族や学校とのかかわりをメルヘン的に。監督は夫の己代治氏。早ければ十月中に封切り。(9・13毎日)

*

「性のこと」話し合いたい

中学生の「性のめざめ」をテーマにした映画『恋は緑の風の中』への様々な反響の中で、若い人びとに共通した声は、彼らが映画の主人公の家庭を理想的だとし、とりわけ母親にたいへん共感をもったことだった。ザック

balan で、陽気で素直な母親のいる家庭の雰囲気に興味を示し

たのである。

親だって何もかも答えることができるわけではないが、いっしょになって考えることはできる。ところが大人の中には、その話し合いまで「しらじらしい、無意味だ」と否定する人がいるが、それは「シラケ」を安易に口実にして逃げているに過ぎない。子どもたちは、心底話し合える家庭を強く望んでいるのだ。(12・30毎日)

動物園病院の院長に

増井光子さん

新装成った東京・多摩動物公園動物病院院長。「生まれ変わることであれば、何度でもこの仕事をやる」と言う動物好き。大阪出身、三十七歳の獣医学博士。(9・20朝日)

沖縄の売春を調査

弁護士・金城清子さん

沖縄の売春について、十九人

の弁護士とともに現地調査し、レポート『売春と前借金』をまとめた。沖縄では、婦人の人権問題は米軍の人権侵害のかげに隠れていた。働く女性が多いのに、国会議員も県議もゼロ、市町村議員もわずか。今でも、売春に前借金制度がある。

(9・22朝日)

重度身障児に私設図書館

小樽市の小村志津江さん

東京では岩波書店の児童図書編集者で、自宅に三千冊の児童文庫を作っていた。北海道移転後は、重度身障児用文庫に変えたが、辺地の子には郵送するしかない。短大講師などの収入のすべてを文庫に注入する小村さんには郵送費が出せず、盲人用同様の無料を訴えているが、役所は非情で、十月からは逆に値上げになる。(9・23毎日)

衆院で男女差別を追及

田中美智子さん

衆議院の社会労働委員会で公務員の待遇の男女差別をとり上げた。女性は係長相当の五等級への昇格がむずかしく、一定年齢以上の女性がたたくさん、六等級にたまっている。

田中さんはこれまでも、女子の若年定年制や民間企業の性差別賃金などをとりあげ、即、解決につながった例が幾つかある。

「これまで、女の問題は国会での市民権さえなかったが、人類の半分は女だから、これがかちとるのは私の大きな役割だと思う」と言っている。

(10・15朝日)

幅広い時代小説で活躍

杉本苑子さん

吉川英治の数少ない弟子の一人。時代考証は丹念で、想像力を駆使して思い切り時代離れも歴史を多面的にとらえている

若者には古く感じられる作風かもしれないが、ファンも多い。

(10・18朝日)

車イスで小学校入学許可を陳情

岩橋恵美子さん

「漢字を覚えたい。身障者を見つめる子ども目を変えさせたい」と、二十三歳の岩橋さんが、小学校入学許可を東京・府中市に訴えて十か月。

だが市教委は「認める義務はない」と冷たい。埼玉・川口市には、三十三歳で六年生の身障者もいるのに。(10・18朝日)

学校給食を輸送する

菊池咲子さん

室蘭市学校給食センターの輸送係になって四年。昭和四十三年に免許取得以来、ハンドルを離れたことがない。子どもたちに「給食のおばさん」とかけ寄られると、運転の疲れも吹き飛ぶとか。(10・25朝日)

浮浪児の母二十二年

矢内代子さん(六〇) 叙勲

勲七等瑞宝章。終戦直後から夫とともに、教護施設、浮浪児の収容施設、養護施設などで、教母として、恵まれぬ子どもたちのために尽力を続けてきた。

(11・3朝日)

「とらわれない心で」

七十九歳の画家小倉遊亀さん、作品のみずみずしい感覚が、

観る人の心をとらえる院展作家。

「人生の師は小林法蓮。悩むときにお題目を唱えるのはよいが、無になろうと思っただけではいかん。無になろうと思っただけでは有になる。絵も師も法も捨ててしまえ、と教えられたしあわせ」を語る。

(11・18毎日)

「沖田」「土方」を小説に

大内美予子さん
小学四年で終戦。兄のように

慕った従兄はじめ多くの若者の死を見、同じような目で新撰組を見つめた。三十九歳。その目の鋭さとあたたかさが感動を呼んでいる。

(11・18毎日)

独身中高年婦人問題に取り組む

末吉ユキエさん

青春を戦中戦後の犠牲になった独身女性の老後を、国がはっておくのはおかしい、と、その生活擁護を推進するため、公営住宅の門戸開放、高額税金の控除、職業訓練所の拡充などを、議会、政府に要望。

全職同盟で二十二年間、婦人問題に取り組んできたベテランの婦人政策担当部長である。

(11・30朝日)

国連大学担当官に伊勢桃代さん
日本から一億ドルの基金をきよ出している国連大学の水先案内、国連大学担当官としてニューヨークの国連本部から派

遣されてきた唯一の日本人。

「人類のための大学」を象牙の塔にはしてはならない、と、帝国ホテルの仮事務所を抱負を語る。

(12・5読売)

女流棋士第一期名人

蛸島彰子さん

将棋Ⅱ勝負Ⅱ男、という觀念にとらわれてPR不足だったという反省もあって、日本将棋連盟は、今回五人の女性棋士をプロとして認定、女流プロ名人戦を設定し、二十八歳の蛸島三段が第一期名人の座についた。高柳八段門下。

(12・6毎日)

「厭世観は私の隠し子」

佐多稲子さん

作家歴四十六年、第一線を守りぬき、かといって男まきでもない。あふれんばかりの女らしい、はなやいだやさしさがある。「理想を胸に、闘いながら生きる」ということは、人間全体に

連なっている自分があるということ。私がケラケラしている顔になったのも、そういうことだ

と思う」と。(12・6朝日)

*

逆境にあっても、大地に足を踏みしめているしたたかな実在

感、事物を受けとめるたしかな感受性。これを通して描かれる小説の天性のうまさに、読者は率直に心をとらえられる。

同時に、マルキシズムをバックボーンとする彼女が、政治・文化運動を、もちまへの感受性でどうとらえてゆくか、そこにこの作家の文学上の困難がある。

(12・30毎日)

住民サイドの保健婦さん

熊本二三江さん

北海道で初の開業保健婦。短時間で数だけこなす検診では、住民の要望に応えられない、と、ヨーロッパの保健施設との格差

を嘆き、市保健指導係長のいすを捨てて、理想の実現へ。

現在二十か町村で保健婦活動のアドバイスに当たっている。

(12・7朝日)

女先生アフリカを行く

善積智さん

ケニア国境近くの中学に化学教師として赴任。三十八歳。一番近い町まで三十キロ、飲料水にも事欠く生活であるが、「思いきり金もうけを考えないぜいなく」を堪能している。

ひたすら教えることが生きがいだが、ここ、ケニアでも、子どもが国家試験が教育のバロメーターにされている。

(12・7朝日)

飽くなき挑戦森英恵さん

年商百億。世界のハナエ・モリ。モレーツ営業マンの夫君に

取り残され「何かしたい」と洋裁店を始めたのがきっかけ。

今は、化粧品からインテリア、文具、寝具にまで進出。

(12・9毎日)

新しい日本像を海外へ

賀陽(かや)美智子さん

「国際教育情報センター」発足当初からの常務理事。

「人力車、箱まくら」式の日本紹介を改めるため、女性ばかりのセンターで奮闘中。

(12・9朝日)

五十歳の女性熔接工

高橋とよさん

「仕事では男も女もありません」戦中戦後、日本鋼業に勤めたが、夫が病気で倒れてから、室蘭日鋼で、男たちにまじり熔接棒を握って六年。船の部品熔接に取り組み、工場の人気者。

(12・10朝日)

唯一の女性町長八選

松野友さん

岐阜県穂積町長。夫、松野幸

泰代議士(自民)の身代わりで立ち、三十四歳で初当選。それ以来ずっと女性町長の地位を保持し、七選目には全国初のモテル建築規制条例を制定した。六十二歳。

八選目の町村長は、全国で四人目。

(12・11朝日)

「新宿の母」十六年

街頭易者栗原すみ子さん

「恋愛関係なら百パーセント当たる」と、OLや女子大生が安心を求めて列をなす。地方出身の孤独な娘たちの易を見ながら、親身になって人生相談にも。「いまの子、もう少しやさしさがあったら……」(12・13朝日)

アイヌ民芸への夢を

小嶋慧子さん

支笏湖のほとりに、アツシや食器、神器など貴重なアイヌ民芸の私設博物館をつくった。

昔、オロッコ族の織物に心を

打たれ、自分でも詩を書いたり木彫りをしていたが、「アイヌの魂の美しさを後世に伝えたくて」十四年前から、ここに居を構えている。

(12・17朝日)

車イス世界に飛ぶ

堤愛子さん

〈空飛ぶ車イスの会〉を作り、重度障害者とともに旅をする人の参加を呼びかけている。

自身の両足の障害をもものともせず、重度障害者のヘルパーをボランティアで努めている。また「働く身障者訪問ルポ」を機関紙に連載し、さらにアルバイト……と、文字どおり東奔西走する二十歳。武蔵大学のスーパー学生。卒業後は、言語治療士になることを目ざしている。

(12・17毎日)

人間の死と季節の関連を追究

初山政子さん

気象研究所応用気象研究部の主任研究官。「死亡の季節変動の変遷」や、病氣と気象の関係を研究してきた。

人間の死は、医療・食事・衣類の問題とも関係するが、エネルギーの消費密度とも関連しているという。死亡の脱季節化や死亡率の減少もエネルギー次第。

「石油ショックが深刻化すれば、昔のように死にやすい時代が来るかもしれません」

(12・21毎日)

『東京都立養育院百年史』完成

一番ヶ瀬康子日本女子大教授「日本の歴史には暮らしの歴史、庶民の福祉が無視されてきた」と、養育院に泊まり込みの実体験をして同書を編さん。

幼時、台湾で植民地政策の差別を痛感。社会福祉の研究ひとすじ。

(12・22朝日)



「上野の鐘守」を継ぐ

山平真子さん

二十五年間にわたり、上野・寛永寺の鐘守を続けた父親の道香さんが亡くなったため、あとを継ぐ。四十九歳。

この「時の鐘」は、季節にかかわりなく、午前六時、正午、午後六時と一日三回、鐘守の手によって撞かれる。三百六十五日、雨の日も風の日も、欠かさず撞木をつくのは想像以上にたいへんな労働である。

(12・27毎日)

チェス世界選手権予選に

日本女性で初の中川笑子さん

三菱金属に勤務の三十三歳。

チェスを始めてから五年。「第一期全日本女流チェス選手権」では第三位。

一月にオーストラリアで開かれる「世界選手権第十ゾーン予選」に、日本女性として初出場の予定。趣味は、読書・音楽・

手芸。

(12・28朝日)

【賞】

アレルギー抗体の世界的大発見

朝日賞の石坂照子さん

アレルギーを起こす抗体は血清の中にごく微量しかない未知のたんぱく質、免疫グロブリンEであることをつきとめ、夫君公成氏とともに受賞。

「百回に三回ぐらいいしか実験が当たりませんでした。でも、いちいち悲観せず、明るくねばり続けるのが私たちの仕事……」

研究室に一人息子の写真を飾る四十七歳の母親研究者。米ジョン・ホプキンス大学助教教授。

(1・8朝日)

第四回高見順賞は

詩人吉原幸子さんに

受賞作は第三詩集『オンディーヌ』（思想社）と第四詩

集『昼顔』（サンリオ出版）。

「自分のことばがといたで、きこえたぞって感じ。素直にうれしい。でも、つらく、重いことです」と。

『歷程』同人四十一歳。昭和三十九年には第一詩集『幼年連禱』で第四回室生犀星賞を受賞。

(1・29朝日)

第一回日本婦人放送者懇談会賞

藤本ゆう子さんに

朝日放送特別報道部ディレクター、二児の母、四十一歳。

「一日六本の牛乳だけで生命を保っている森永ミルク中毒患者（一八）を描いた報道番組『六本の牛乳』など一連の制作についてたゆまぬ努力と、たくみな表現」に対して。

この会は、放送界の女性専門職員たちが五年前に結成、いま会員四十五人。賞は女性に限らず、放送界でよい仕事をした人に毎年贈られる。今回はその第

一回、満場一致で藤本さんに決定した。

「テレビは、半分以上女の人が見ているのに、主婦向けの番組でさえ男性が作っているのです。報道番組に女のつくり手がほとんどいなくなってしまうので、がんばれという意味の賞だと思っています」

(2・4朝日)

第九回香川菊池寛賞

新井小菊さん（七二）に

授賞式が六日開かれた。二十四編の応募作品の中から新井さんの「大楠ものがたり」が。

幕末、東讃の商家に生まれ、明治・大正・昭和と、大家族制度のもとで複雑な人間関係に悩みながら生き抜く女の一生を描いた五百七十枚の長編。

(3・6四国)

第二回森田たまパイオニア賞

宮城まり子さんに

映画「ねむの木の子」を制作

して、心身障害児問題に関する社会の関心を高め、独力で、身体不自由児養護施設の経営にあたっている宮城さんに。

(3・6/3・14毎日)

大宅壮一ノンフィクション賞

中津燎子さんに

「なんで英語やるの？」で受賞。中津さんは戦後、九州で英語に体あたりして、進駐軍電話交換台に勤務。渡米して結婚、帰国。夫は東北の医大の教授。その彼女が主宰する英語塾の体験から形成された信念を書いたもの。

(3・15中日)

芸術選奨文部大臣新人賞

バレエ部門の小林紀子さん

バレエとの出会いは小学校三年のとき。高校卒業後、渡英してロイヤル・バレエスクールで二年半勉強。その間オペラ座に主役で出演するなど、多彩な経歴。

昨年三月、小林紀子バレエシ

アター設立。主婦としても「自分では、かなりやっているつもり」と言う。(3・16中日)

第十四回田村俊子賞

富岡多恵子さんに

「植物祭」(中央公論社刊)

に決定。富岡さんは昭和十年大阪生まれ。(3・26毎日)

第七回西日本美術展特別賞

大森キミ子さんに

美術や文学などの世界で女性の活躍が目立っているが、熊本在住の画家、大森さん(二九)がヨーロッパ留学派遣の特別賞を受けた。二児の母。夫はインテリアデザイナー、義父は油絵の坂本善三氏。

主婦は家事・育児が仕事のハンディ。周囲の温かい理解と適切な指導がなければ、せっかくの才能も開花することは難しいが。

(3・26西日本)

意欲あふれる八十一歳

島本久恵さんに芸術選奨

「明治の女性たち」をはじめ、「長流」「貴族」「江口きちの生涯」など、女性の生き方や運命をテーマとした小説・評伝の作家として、特異な存在の島本さんが、詩人の河井醉茗さんと一緒に中目黒に住みついたのは大正十二年。山あり谷ありの辺りな所だったが、いまは高級住宅に取り囲まれた中に、島本さんの家だけが、昔ながらの姿でひっそりと建っている。「家の掃除など、人間らしい暮らしをしようと思ったならなんにもできないから、いっさいを放棄して、ものを書いたり読んだりに専念している」と言う。

いま書いているのは、大正初めごろの東京市民像のようなもの。「まず初めに竹久夢二さん、それから羽仁もと子さんですね。一人一人バラバラに書くのではなくて、いろいろな人を、ある

一点から見渡して、その接触を書いていくつもり」

若いころ、羽仁もと子が創刊した「婦人の友」の記者を九年間していた。そのころ竹久夢二も、婦人の友社から出していた「新少女」という雑誌の絵画主任を二、三年間していたという。生き残りとしての島本さんの証言が、創作の上で期待される。

(4・2毎日)

講談社出版文化賞に

児童まんがの里中満智子さん

高校一年のとき、新人募集に応募した「ピアの肖像」でデビュー。高校を三年で中退、大阪から上京し、児童まんがが家として立つ。

受賞作は、少女雑誌に一年連載した「あした輝く」。旧満洲引き揚げの母とその娘が主人公。「ストーリーまんがって映画でいえば脚本・監督・出演・効果：を、全部自分で選択できる。

紙と絵の具さえあれば……」

自由奔放に表現できるのが、
たまらなく楽しそうな二十六歳。
キャリア十年。

「読者に迎合するというのが、
はなく、自分の主義主張を作品
に盛り込む。いつも読者の期待
を上回るようにしないと、長続
きしないように思う」と語って
いる。

(4・10朝日)

第八回吉川英治文化賞

サルと二十六年の三戸さんに
宮崎県・日南海岸の突端にあ
る串間市木の幸島。昭和二十三
年五月から京大の野性グルーブ
がここで調査をしてきた。その
グルーブとともに、サルを相手
に二十六年も暮らしてきた女性、
京大霊長類研究所付属幸島野外
観察施設教務補佐の三戸サツエ
さん(五九)。

「最近いたるところで猿害と
さわぎたて、捕獲しろとか殺せ
とかいう騒ぎがある。

もともとサルは、森林で木の
実や葉、こん虫を食べて、人間
の生活圏を侵すことなく、ひっ
そりと生活してきたが、最近急
速に進んだ森林の伐採で食糧危
機に見舞われ、観光用にと餌づ
けされたサルが、盗みをおぼえ
てしまったのだ。

人間のエゴイズムによってサ
ルの生活圏はひどくおびやかさ
れている。動物と人間が共存共
栄できる自然と豊かな心を、も
う一度とりもどしたい」と言っ
ている。

(4・19毎日)

第十回太宰治賞に

朝海さち子さん

「谷間の生霊たち」で受賞。

一九三八年北海道生まれ。昭和
女子大中退、無職。副賞は三十
万円。(5・23朝日)

市川房枝さんにマグサイサイ賞
七四年度ラモン・マグサイサイ
イ賞。(8・3朝日/毎日)

森下洋子さん、金賞

ブルガリアの国際バレエ・コ
ンクールで、見事に金賞。

(8・17朝日)

富岡多恵子さんに女流文学賞

「冥土の家族」で第十三回女
流文学賞。(9・5朝日/毎日)

今井俊子さん、二位

第一回ブッチーニ国際コン
クールで。(9・6毎日)

現代俳句協会賞は

小檜繁子さん

(10・29毎日)

紫綬褒賞の赤坂小梅さん

「今の時代、昭和のはじめこ
ろと着る物が同じ、景気も悪
かった。この際トシは忘れて勉
強を」と。

(11・5朝日)

平田マキさんに特別賞

十五歳で、第三回「シャンソ

ン・ド・パリ国際グランプリ」
審査員特別賞。(12・2朝日)

芸術祭大賞は山田五十鈴さんと
アキコ・カンダさんに

(12・10朝日)

江口満子さんほか二十人に

三越親切な看護婦さん賞
(12・12朝日)

〔訃報〕

林リリ子さん肺しゅようのため、
二十日午後一時十分死去。四十
九歳。東京交響楽団、日本フィ
ルハーモニーの元首席フルート
奏者。本名、阿部璃々子さん。
(1・21朝日)

深尾須磨子さん三月三十一日、
胃がんとがん性腹膜炎のため死
去。七十八歳。

兵庫県出身。大正九年、夫の

遺稿集「天の鍵」に自作の詩をのせたのがきっかけで詩壇にデビュー、与謝野晶子に師事した。

最近も活発な詩作を続け、『斑猫』『深尾須磨子詩集』『列島おんなのうた』など、行動ある詩をめざして活躍。婦人運動、平和運動の活動家としても知られていた。
(4・1朝日)

*
深尾さんにはいろいろの思い出がある。長い交友だった。病院の見舞いの花束が見事だったことで何かを想像できなかった自分を、残念に思っている。

(神近市子)
(4・4中国)

大谷絢子さん四月一日、急性肺炎のため死去。八十一歳。

浄土真宗本願寺派大裏方、西本願寺仏教婦人会連合本部総裁、京都女子学園・相愛学園・武蔵野女学院などの名誉校長をつとめた。
(4・2朝日)

福田須磨子さん四月二日、紅斑症のため死去。五十二歳。

「原爆に／みより死なしめ／その日より／わが魂に／やすらぎのなし」―原爆症に苦しみながら、原爆への怒りを詩に表現し続けた。二十年八月、勤務先の長崎男子師範学校で被爆、三十三年、その体験「原子野」を発表、四十四年「われなお生きてあり」で田村俊子賞受賞。三十年から入退院をくり返しながら「ドロまみれになって生きてきた私の生活から、原爆のおそろしさをわかってほしい」とミミズがはうような字で詩をつづっていた。
(4・3朝日)

*

彼女の死の日、新聞記事は、同年同月生まれの二人の男女の明暗をはっきりうし出した。同じように二十九年間、戦争の重荷を引きずってきた小野田少尉のためには最良の病室が提供されているとき、彼女は大部屋

に、物体のように横たわっていた……。

一方に対しては、種々の慰謝料が考慮され、他方には被爆者葬送料一万六千円が支給されるだけという。
(4・15朝日)

津村紀三子さん観世流能楽師(本名大内しげ)。心筋こうそくのため十二日死去、七十一歳。昭和十三年に、女性で初めて観世流能楽の師範となり、女流師範の草分けとして「鸚鵡小町(おおむこまち)」など、おもに老女ものを演じた。
(4・12朝日)

泉園子さん四月二十一日、急性肺炎で死去。八十一歳。

クッキーで知られる泉屋東京店、同京都店会長。

京都市でホームメードクッキーの小さな店を開いていたが昭和四年上京、泉屋東京店の基礎をつくった。

身障者や脳性マヒ児に関心を寄せ、昭和四十一年から「脳脳性マヒ児を守る会」理事長。また「世界連邦建設同盟」副会長「国連東京婦人会」副会長などを務め、社会的にも活躍した。
(4・22朝日)

吉田史子さん六月七日午前二時三十七分、クモ膜下出血のため東京・お茶の水の順天堂医院で死去、四十一歳。吉本興業、ニッポン放送に勤務し、二十七歳で演劇プロデューサーとして独立。松本幸四郎の「オセロー」、

水谷八重子・芥川比呂志の「黒とかげ」など、いくつもの名舞台を制作して話題を呼んだ。
(6・8朝日)

小唄勝太郎さん「島の娘」や「東京音頭」など昭和初期の人気歌手だった。二十一日、肺がんのため死去。六十九歳。

明治三十七年新潟県生まれ。

日本橋で芸者をしていた当時から「佐渡おけさ」などを歌って名を知られるようになり、昭和六年、ビクターに入社。「島の娘」が大ヒット、「東京音頭」などで、全盛時代を作った。

(6・21朝日)

南部あきさん服飾評論家。戦後、フアッション・ライターの草分け。

リンパ肉腫のため、七月十二日、六十二歳で死去。

(7・12朝日)

いわさきちひろさん童画家。

一九七三年、イタリアのボローニャにおける第十回国際絵本展で、グラフィック賞第一席に選ばれた。

肝がんのため八月八日、五十五歳で。本名、松本知弘。

(8・9朝日)

石井梯子さんテニス界の草分け。第一回(一九二四年)、第二回の全日本選手権シングルス優勝

者。肺がんのため、八月三日死去。六十八歳。

(8・15朝日)

石渡満子さん女性判事第一号。

一九四九年、東京地裁判事補。

一九七〇年に定年退職後は弁護士。結腸がんで八月二十七日死去。六十九歳。(8・27朝日)

去。六十九歳。(8・27朝日)

本

「ママの作る子ども服」

樋口とし江著

「物価高で手作りの子ども服への要求が急に高まっているのを感じます」

ママ・デザインナーの樋口とし

江さんが、二児を育てながら工夫した幼児服のあれこれを、一冊の本にまとめたもの。今回は『幼稚園時代編』。

(鎌倉書房刊一、二〇〇円)

阿部静枝さん歌人。歌集『箱の道』がある。脳出血のため、八月三十一日、六十九歳で。

(9・1朝日)

渡鏡子さん音楽評論家。十一月

二十日、心不全。五十八歳。本名夏目鏡子。(11・21毎日)

(1・8朝日)

育児歌集「アンカー」

早川ゆき著

たしかなるいのちの証し腹壁を／けりつつ力増しゆく胎児

京都に住む二男二女の母親早

川ゆきさん(四三)が短歌集を。

ゆきさんは、二十五年に結婚し、次々と三人の子どもに恵まれ、ほとんど育児に追われる生活の中で、何か心の支えになる

ものを持ちたいと短歌の道に。

「眠りたい」と訴える歌や「PCB」と題した五首、公害や交通事故故への不安、怒り、ベトナムの子らの歌など、ピカリと光る歌が多い。

「子どもを育てた母としてベトナムのことは他人事と思えない」と、ゆきさん。

(初音書房一、五〇〇円)

(1・11朝日)

「楽しい老年を」

主婦たちの話しあい」

「女の気持ペン・グループ」でつき合い始めた主婦と、大阪府下の養護老人ホームの寮母さんら二十四人がまとめたもの。それぞれの看病体験がもとになって、具体的。

「しもの世話になるのだけはいや」と、歯をくいしばってリハビリを受け、とうとう、手すりにつかまらなくても歩けるようになったおばあさんの奮闘記

も紹介されている。

(1・11毎日)

『0歳児保育』青木きみ著

保育園の園長として、零歳児の発達の特徴を、医学と栄養学の立場から眺め、さらに保育の特質を説いた「理論編」と、保育実践記録に「考えるヒント」を添えた「展開編」とから成る。

小児科医の見解も載っていて、保母志願者だけでなく、零歳児を保育所にあずける母親にとっても、現在の保育の実態を知ることができ、双方の理解と交流を深めるのに役立つだろう。

(全国社会福祉協議会
一、〇〇〇円) (1・24朝日)

『土着するかあちゃんたち』

牧瀬菊枝著

かあちゃん、ばあちゃんに代表される三里塚農民の七年越しの闘いを、二年がかりで集めた聞き書き。

政府、公団のオドシにもたじろがぬ「かあちゃんたち」の強さの根源に何があるのか。また、

しゃにむに進められてきた空港建設がどういうことであるのかも考えさせられる。

(太平出版九〇〇円)
(2・4朝日)

『あの雲がほしい』

一 身障の子とともに十八年

本多洋一・礼子著

札幌市の主婦、本田礼子さん(四一)は、このほど長男・洋一君(一八)と札幌西高三年との生活日記をまとめて、自費で出版した。

生まれてまもなく先天性小児マヒであることがわかり、悲しみのどん底に突き落とされたが、それでも、今では「アメリカに留学したい」と夢を抱くまでに成長した洋一君の姿を、母親の目でしっかりと捉えている。

(らいいらっく書房三八〇円)

(3・3北海タイムス)

『人間讃歌』古在由重著

哲学者の随想集という形であるが、思想の原点をつねに人間のなかにさぐろうとする著者の姿勢が一貫している。

父母を中心に書かれた部分が多いが、父は足尾銅毒事件で活躍した農芸化学者で東大総長も務めた古在氏、母は明治期の女権論者で作家の清水紫琴氏であるから、日本の学界史、女性史の上で資料的価値も持つと同時に、自伝的要素もある。

一方、現在の著者の最大関心事であるベトナム問題への訴えが、いくつかの文章や行間にあふれている。本書全体がその訴えに集約されているとも言える。

(岩波書店一、二〇〇円)
(3・15朝日)

『雨の音』宇野千代著

生まれて初めての「書き下し

小説」で「自分のながい一生の間のこと」をいろいろ考えた、と「あとがき」のなかで作者は言っている。二十八の断章から成り、ほぼ六十年にわたって、

作者の似姿らしきひとりの女性の身辺に生起した多様な事件がひとこまずつ丹念に物語られている。(文芸春秋社九五〇円)
(3・25朝日)

『一自閉症児の成長記録』

勸角嘉代・山松質文共著

母親の十五年間にわたる手記を中心に、発病、異常行動の発生、音楽療法による回復の過程をありのままに記録したもの。自閉症児を含む身体障害児全般の養護、教育指導のあり方について方向を示唆する。

(蒼樹書房九八〇円)
(3・25朝日)

『地面の底がぬけたんです』

藤本とし著

五十余年間、ハンセン氏病患者としての生活の中で書きつづった随筆に、友人に語った彼女の半生をつけ加えたもの。

書名は、著者が十八歳のとき初めて知らされた瞬間のショックをあらわした言葉。著者のゆるがない明るさの秘密が、随筆と自伝を読み進むにつれて理解できる。

(思想の科学社
一、二〇〇円) (4・1朝日)

『狐の大旅行』正・続

桂ゆき著・装丁
さまざまな随筆百十編が、気のきいた編集をされている。

画家である著者の絵や写真入りで、世界各国の旅に関する文章の間に「間奏曲」と題して、幼時の思い出や種々の随筆がはさまれている。

(創樹社
〔正〕八二〇円〔続〕七八〇円)

(4・1朝日)



『日本夫婦げんか考』

永井路子著

古代から江戸時代までの歴史上の夫婦げんかが、ユーモアと風刺を含んだ筆でつづられている。

愛情の相剋図は、昔も今も変わらない。神話のイザナギ、イザナミの夫婦げんかにはじまって、大石良雄と妻りくとの偽装離婚まで二十組の例を時代順に並べてある。それぞれ歴史的な背景や個人的な事情は異なるが、各夫婦のからみ合いの面白さに満ちている。

(中央公論社
八五〇円) (4・8河北)

『現在満洲国没有』

小林すみ著

書名はシェンザイマンジュウゴメイユと読む。意味は、「いまはもう満洲国はない」

九十ページ足らずの小冊子の著者は、東京葛飾区に住む主婦、五十六歳。昭和十四年、二十一歳で「大陸の花嫁」第一期生と

して、旧北満(中国東北部の北部)の開拓団に入植、ソ連の国境侵入で二十一年に日本に引き揚げて来るまでの惨苦をまとめたもの。少しづつ書きとめておいた半生の記録が、同じ町に住む主婦たちの協力と支えによって本になった。

シベリアに抑留されていた夫と戦後東京で再会、小さな雑貨店を開き、現在は雑貨の卸と小売りを兼ねた店で、毎日忙しく働いている。

本の終わりを著者はこう結んでいる。「戦争を正しいと信じて生き、そして苦労した私は、もうどんなに正しいと言われる戦争でも、してはいけないと思うのだ」

(4・10サンケイ)

『こころの灯』―泣き込み寺のノートから広瀬善順尼著
京都嵯峨野の尼寺直指庵(じきしんあん)を訪れる尼僧志願の娘さんや、いろんな悩みをも

ちこむ若者たちは月に何十人も。五年ほど前、当庵主の広瀬善順尼(七五)が「思いのたけを書きつらねなはれ」と、ノートを庵にそなえつけた。それが千冊を超えたので、その中から抜粋して出版されたもの。

(実業の日本社六八〇円)
(4・14読売)

『ぜんそくのくるしさは、

ぼくにとってはじこです』

梶(かこい)達也君は、四十八年一月三日に死亡(当時八歳)するその数日前まで、ぜんそくの苦しみを書きつづっていた。

愛児の一冊の日記帳を元に、母、照子さんは「きれいな大気を取り戻さなくては」。達也の死をむだにしないために」と、

近く、母と子の闘病記を自費出版しようと、資金集めに奔走中。

日記の最後のページ―

『ぜんそくのくるしさはじこです。まるでしんだようにく

るしいです。どうかこれだけは
かんべんしてください」

(4・14サンケイ)

『眠る女』大原富枝著

慧という女が主人公の自伝的小説。舞台は四国、時代は太平洋戦争前、慧の童女時代の描写に甘さの目立つところもあるが、「おんなの誕生」を描く力作。四部から成る長編。(新潮社九〇〇円)

(4・15朝日)

『母の思想』

河野信子・橋本真理共著

動物の群団は母性の全面肯定を基本としているのに、人間だけが母性からさまざまなものを疎外してきた、と著者らは言う。一面では美化され、賛美されながら、他方では多くの権利を奪われ、ふみつけにされる母性。「靖国の母」も「子殺し」の母も、ともに「母性の疎外態」とする著者らは、母たちのう

めき声をくぐり抜けた地点に母性の自立と復権の可能性を見ようとする。(太平出版社九〇〇円)

(4・15朝日)

『メナム行く』玉井慶子著

タイに約四年間在住の商社マンの奥さんが、女の目で見たいを歌集にまとめ自費出版。売上金の一部はタイ国赤十字に寄付したいと言っている。

市井の生活、政変に揺れる様子を、こまやかな女の目で見つめている歌が多い。歌集の中のいくつかの歌を作曲し、タイ在住日本人のママさんコーラスグループが歌うという。(東京都杉並区高円寺南四一四三一九短歌新聞社一、五〇〇円)

(4・23朝日)

『虚構の家』曾野綾子著

ホテル経営者と大学教授の二家庭の不幸をめぐっての家庭小説。やや図式的だが、手ぎわよく

描かれている。(読売新聞社八五〇円)

(4・29朝日)

『保育相談』

小原国芳・日名子太郎監修

保育者の疑問や悩みを一问一答形式にまとめた「幼児教育ハンドブックシリーズ」の一冊。

熱意にあふれる若い保育者が勇気をもって難関を切りぬけながら育っていくような形に、問題点が選択されている。

(玉川学園出版部八〇〇円)

(4・29朝日)

随筆『ものに逢える日』

竹西寛子著

古典をめぐるものや、旧師の思い出、詩人のこと、自然のこと、表現のことなど、そのいずれにも著者の観察のこまかさ、感受性の豊かさがうかがえる随筆。平明で女性らしい優しい文章である。(新潮社七〇〇円)

(4・29朝日)

『夜になっても遊びつづける』

金井美恵子著

エッセー集。内容は青春について、まんがに関して、自分の過去をめぐってなど、多岐にわたり、なにげない中にも、著者の若さや個性があざやかに浮かんでくる。(講談社九三〇円)

(5・5朝日)

『西国巡礼』白州正子著

近畿地方にある観音の霊場三十三か所をめぐる西国巡礼の旅の本。第一番の那智から第三十三番の谷汲までを順にたどり、あまり感傷におぼれず、さらりと書いている。

十年近く前に出された本の改定版だが、新しく撮りなおされた美しい写真が豊富に入っている。(暖々堂一、六〇〇円)

(5・20朝日)

『終りの旅』瀬戸内晴美著

仏門に入る前の作者の澄んだ

心境の見える異色作品集。

淡いつきあい別れた男とロンドンのハイドパークですれちがうという小説ふうな「鐘の鳴る町」、明治・大正の東京を歩くという随筆ふうな「地図を往く」。釧路、根室へ流水を見に行く話、ドイツのロマンティッシュ・シュトラッセで旅愁と失われた愛をつづる佳作もある。未知の国へのあこがれと死後の世界への帰らぬ旅とは同じだとも言ふ。(平凡社一、一〇〇円) (5・20朝日)

『天の病む』石牟礼道子編

水俣病裁判の判決から一年余判決直後に、訴訟派と自主交渉派が台流した「東京直接交渉」で、チッソへの要求に、環境庁等のあつせんて協定が調印。

結論が出終えたのは申請後六年目。この本は自主交渉派と訴訟派を中心に、「患者たちの深奥部から発せられた言葉」を忠

実に記録。

「告発」などの運動誌のものが中心。「東京直接交渉」の部分は初めて活字になった貴重な記録。これから、会社の論理や性格をはじめ数々の重要な問題が引き出せるが、核心は、患者の求める「すべての償い」と「できる限りの」しか受け入れないチッソとの対決。(華書房一、二〇〇円) (5・20朝日)

自伝『石ころの歌』

三浦綾子著

旭川の女学校を卒業後、小学校や分教場の教師をつとめ、婚約、発病、十三年間の結核療養生活に入るまでの自伝小説。

生徒とのふれあいは感動的だが、「氷点」などより、文章はやや乱暴(角川書店八九〇円) (6・17朝日)

『明恵(みょうえ)上人』

白州正子著

親鸞と同じ承安三年(一一七三)に生まれ、十六歳で出家し、「遺教経」で開眼、修行を重ね、名僧高僧と交わり、六十歳で死んだ上人の一生を、伝記・遺訓・歌集によって追う。平明で自然な文章もたのしい。(新潮社六〇〇円) (6・17朝日)

『PTA役員ハンドブック』

西村文夫、橋本寅十著

たとえば、学級委員や地区委員の選出、総会運営、行政当局への陳情・請願方法、規約改正の方法、予算の組み方などの手引き。あいさつや司会のし方も(帝国地方行政学会一、四〇〇円) (7・6教育家庭新聞)

『おんなの現代史』

加太こうじ著

『たけくらべ』の美登利や、『金色夜叉』のお宮、『女的一生』の布引けい、『君の名は』の真知子など、明治・大正・昭和

和三代のヒロインを、明治以降の日本の歩みと対照に描く。

(現代史出版会九八〇円)

(7・8公明)

『女流作家論』奥野健男著

十六人の女流作家論に、対談と評論を添えたもの。一見、甘いが、実は鋭い。重複や、編によって軽重があるのは残念。

(第三文明社一、二〇〇円)

(8・12朝日)

『しつけ』原ひろ子・我妻洋著

題は古めかしいが、心理学的人類学という新しい方法による開拓的試み。しつけを通じて日本人の性格と文化的特質をとらえようと試みている。(弘文堂一、〇〇〇円) (8・19朝日)

『翼をはって』小柴資子著

脳性マヒの著者は苦しい訓練と努力の末、小卒の学歴で社会福祉主事の資格を得、大学へも。

社会人類学者がバプア・ニューギニアの高地人社会について書いた本。一九七三年にオーストラリアから独立し国づくりを進める高地人の側に著者は立ち、彼らへの正当な理解をわれわれに要求している。(三笠書房九八〇円)(9・9朝日)

「小梅日記」
志賀裕春、村田静子校訂
紀州藩校・学習館の督学の妻小梅の、幕末から明治にかけての日記を復刻。三分冊の第一冊。激動の時代の記録であり、家計や物価など実生活の記録でもある。(平凡社七五〇円)(9・16毎日)

「戦禍に生きた子どもたち」
小林ふく著
飛行機工場のあった群馬県太田市は、戦争中、激しい空襲を受けた。当時教師だった著者が、学校事務日誌や教師たちの手記、

回顧録、生徒の作文などによって、生徒の姿を描いている。(鳩森書房一、六〇〇円)(9・23朝日)

「覚書幕末の水戸藩」
山川菊栄著
祖父、青山延寿の遺した資料を中心に母親や古老からの聞き書きで裏つけたもの。文章の若々しさ、視点の新鮮さは、八十三歳とは思えない。今も婦人解放に情熱的な山川さんは「来年は国連の婦人解放年なのに、日本では何もしていない。労組も母性保護の一本足だけ」と鋭い。(岩波書店一、五〇〇円)(9・23毎日)

「市川房枝自伝戦前編」
愛知県の農家に生まれ、暴君の父に対する母の嘆きが、性差別への闘いの出発点であった。その闘いの日々が、正確で豊富な資料をもとに書かれ、それが

そのまま女性の権利拡張史になっている。(新宿書房二、〇〇〇円)(9・30朝日)

「三十年目の記録沖繩の声」
毎日新聞「女の気持」の投稿者と愛読者のペングループが、

沖繩の主婦の特別寄稿を中心にまとめた戦争体験文集。
日本軍は女・子ども・老人に銃口を突きつけて壕から弾雨の中に追い出し、十万以上の島民が犠牲に。復帰後もきびしい沖繩の現実を訴えながら、戦争反対を強く叫ぶ。(発行は和歌山市六十谷三五〇岡村喜美江方五五〇円)(9・30毎日)

「婦人科医にたずねるQ&A」
天神美夫著
恥ずかしさから婦人科医の受診を一日のばしにしている女性が多いが、このような女性に対し、しばしばみられる異常や疾病について、一問一答形式で最

新の話題を提供している。

(文化出版局八八〇円)

(10・2毎日)

「性の神話」
エブリン・リード著

著者は昨年来日した米国婦人運動指導者。エンゲルスの立場と人類学の成果とから、「女性」は劣った性で、家庭だけが居場所」は神話と主張。原題は「女性解放の諸問題」(拓殖書房九八〇円)(10・14朝日)

「しあわせにつながるもの」
羽仁説子著

母として、妻として、教育者として、戦前から戦後への変動期に大きい足跡をしるしてきた著者の回想録。
過去を語るだけでなく、若い世代とともに考え合おうとしている。(大和書房九五〇円)(10・20朝日)

『真砂屋お峰』有吉佐和子著

「紀の川」や「助佐衛門四代記」などで、家を盛り立てていく女たちを描いた著者が、家をつぶす女の姿を書いた。武士も商人もずさんでいく江戸を舞台に展開される話は、現代の荒廃を思わせる。（中央公論社九六〇円）（10・28毎日）

『女性の心理』

ジュディス・M・バードウィック著

今井欣次ほか訳
ミシガン大学・心理学の助教授で三児の母親である著者は、女性の立場から、男女の心理学的な相違を認めながらも、フロイトをはじめ男性偏重の性理論に反論を試みる。

女性の役割とは何か、を問われる今、「文化の差別的な価値観から生じた」心理的葛藤を科学的に解明する意欲的な書。

（原書房一、五〇〇円）

（10・28毎日）

『わたしの動物記』増井光子著

多摩動物公園の病院長・増井さんが、動物園のお医者さん十五年の経験をもとに書いた本。

一匹の動物が生まれ、育ち、死んでいくさまを愛情深く観察する目は鋭く、動物世界のダイナミズムを伝えていて感動的。（ポプラ社）（10・28毎日）

『おんな・部落・沖繩』

もろさわようこ著

つねに「おんな」という差別された場を、ごまかすことなく見すえ、歩み出そうと迫る。評論あり、紀行文あり。（未来社九八〇円）（11・1朝日）

『女優雀石工門女房

おしかの一生』十河巖著

上方の女形、三代目雀石工門の妻の苦闘史。こひいき筋との浮気にも目をつぶり、夫の不慮の死後、夢を託した息子は戦死。役者稼業の花と醜。（新読書社

一、〇〇〇円）（11・1朝日）

『私の青春ノート愛の

メッセージ』樋口恵子著

一女の母として、評論家として、若い同性への人生道しるべ。女に生まれたための損と得を分析し、自分を大切に伸ばす生き方をすすめる。（ポプラ社八五〇円）（11・5朝日）

『愛すれどいのち哀しく』

草薙紀子さんの闘病日記

「限りある日を愛に生きて」の著者の日記を、その死後、夫の実氏が一冊にまとめたもの。（立風書房七八〇円）（11・25朝日）

『母さん、がんばろうね』

交通遺児の作文集第二集

第一集から四年。悩みは深まるばかり。働き手の母親は過労で病院通い。世間は無理解。（サイマル出版会）（11・30朝日）

『体験的教育論』

栗津潔・小沢遼子ほか著

それぞれの分野でユニークな活動を続けている十四人が教育体験を語る。小沢遼子さん（浦和市議）の「教育の名において学校から与えられた屈辱」など教育に対する告発と怒りをこめた迫力ある教育論。（明治図書一、一〇〇円）（12・2朝日）

『言い寄る』田辺聖子著

好きな男に言い寄れない女の、恋の駆け引き。新感覚派的娯楽編。（文芸春秋社九五〇円）（12・13朝日）

『赤毛のエリック記』山室静著

十二、三世紀のアイスランド

の記録文学。

古代ゲルマン民族の英雄時代、コロンブスより五百年も前に北米大陸を発見したアイスランド人の話など。（冬樹社二、二〇〇円）（12・13朝日）

『民話の世界』松谷みよ子著

『竜の子太郎』で国際アンデルセン賞を受けた著者が、全国各地へ民話探訪に。

その旅をしながら、自分の血の中に民話が続いていることを、さらに、私も、そしてあなたも語り手、と悟る。

(講談社三五〇円)

(12・15朝日)

『マダム貞奴』杉本苑子著

日本ではじめての女優、貞奴の一生を描いた長編小説。

(読売新聞社八五〇円)

(12・23読売)

『野にあそぶ』斎藤たま著

豊かな自然の中での、子どもたちの遊びが消えつつあるのを残念に思う著者が、丹念に足で歩いて書きあげた子どもの遊びの記録。

昔は野の花や小鳥を相手に遊ぶことができた幸福を、あらた

めて思い起こさせる。

(平凡社一、二〇〇円)

(12・23毎日)

『楽しい老年を

主婦たちの話し合い』

兵庫県芦屋に住む老人福祉サークルへ老年を考える会への

主婦二十四人が自費出版した本。

購読希望が殺到している。

在宅老人対策の立ち遅れを訴えるだけでなく、老親の世話でくたくたになっている嫁たちに新しい連帯の場を提示した意味は大きい。(12・27毎日)

繁栄のかげに

デパートに赤ちゃんの死体

日曜日の昨日、日本橋三越本店の階段踊り場で、生後まもなく捨てられた女の赤ちゃんの死体を発見。(1・14毎日)

東十条駅コインロッカーに

死後五、六日経った男の赤ちゃんの死体が見つかった。ロッカーには十一日の日付が出ていた。(1・16毎日)

上野駅のコインロッカーに

死後四日ぐらいの男の赤ちゃんの死体を、鉄道弘済会のアルバイト学生が見つけた。(2・4毎日)

大学出の母親、

双子を窒息死させる

大学出の若い母親が、泣きやまない生後四か月の男の双子に腹をたてて窒息死させる事件が、福島市で起きた。

二十七歳のこの母親は、上智

大学を卒業した翌年、東大農学部を出た夫と結婚、昨年一月、福島市に転任して来た。

知らない土地での育児と、産後の体の具合が悪いための病院通いとに疲れ、発作的に殺害したらしい。(3・18毎日)

赤ちゃん焼殺

埼玉県岩槻市のM子(二六)は、生まれたばかりの長女をゴミ焼却用のドラムカンで焼殺

し、殺人と保護者遺棄の疑いで岩槻署に逮捕された。

M子は産後の肥立ちが悪く、精神異常の状態で発作的に長女を殺したものの。(4・19朝日)

ロッカーの扉があけてあった

赤ちゃんは無事

国鉄大阪駅構内のコインロッカーで、生まれたばかりの男の赤ちゃんを、荷物を預けに来た人が発見、無事だった。ロッカーの扉が十五センチほど開いていたので救われた。こんなことは初めて。(4・18毎日)

*

年子三人を苦にして

国鉄大阪駅のコインロッカーに捨てられていた、生後まもない男の赤ちゃんの両親がわかった。

京都に住むK・H(二六)で、二歳の長男と一歳の長女があり、さらにもう一人を育てる自信がないと思ひ悩んで、夫の留守中

に捨てたものだった。

(4・19朝日)

赤ちゃんの死体のそばに花束

阪急梅田駅構内のコインロッ

カーから、生後十日ぐらいの女

の赤ちゃんの死体が見つかった。

死後約一週間。ベビーパウダー

を使ったあとがあり、顔をガー

ゼでかくしてあった。

病死して処置に困った母親が

捨てたのか。(4・20毎日)

上野駅コインロッカーに

女の赤ちゃんの死体が、鉄道

弘済会倉庫で保管中の荷物の点

検作業中に見つかった。

上野駅のコインロッカーでは

今年二件目。昨年は七件あった。

(4・23毎日)

十九歳の父、乳児を踏み殺す

東京・石神井署は、赤ん坊の

夜泣きがうるさい、と、胸を踏

みつけて死なせた、練馬区内の

店員A(一九)を、殺人の疑いで逮捕。

Aは、生後三か月の長女がむ

ずかって泣きやまないのにカッ

となり、胸を二、三度踏みつけ

た。意識不明になったのに気づ

いて病院に運んだが、間に合わ

なかった。死因は胸部圧迫死。

Aは、昨年十月からB子さん

(一六)と同棲していた。

(5・21朝日)

立川駅ホームに乳児の死体

七日午後七時五十分ごろ、国

鉄立川駅南武線ホームの鉄柱の

たもとに、水色の紙袋に入った

乳児の死体を同駅員が見つけた。

生後間もない男の赤ちゃんで、

身長五十センチ、体重約三キロ。

死後十二日ぐらいと見られる。

(6・11朝日)

上野駅コインロッカーに

生後五日ぐらい、死後約五日

の女の赤ちゃんの死体が入れら

れていた。

同駅のコインロッカーに赤

ちゃんの死体が捨てられたのは、

ことしになって三件目。

(6・19毎日)

「子捨て時代」に無策

救われた命も施設難

ジャンボ連休に入って、赤

ちゃんの産み捨てが目立ってい

る。

生命を取りとめたA男ちゃん

の場合A男ちゃんは昨年三月八

日の午前六時半、ヘソの緒をつ

けたままバケツの中に捨てられ

ていた。

東京・広尾の日赤医療セン

ターに引き取られた時はチビ

だったが、その後グングン成長

し、六か月を過ぎるころから、

運動神経、知能ともめきんでて

発達を始めた。A男ちゃんは

連休が明けると、里親に立候補

している会社員(二六)夫婦と

顔合わせをする。

同センターの乳児院には約六十人が収容されている。そのうち二割弱が捨てられた子どもだが、里子として引き取られるのは約半分。昨年の例だと、八人が里子、七人が養護施設に送られた。

しかし、その養護施設でさえ、最近では受け入れワクをオーバーするという状況が問題になっている。二歳になって乳児院の対象年齢を超えても、そのまま施設にとどまる「養護施設浪人」が、都内だけで二百五人もいるという。(5・5毎日)

〔母子心中〕

借金を苦しむ

足摺岬で母子が投身
大晦日、高知県足摺岬の下
の岩場で発見。子どもは四歳、二歳、一歳。

借金を苦しむ、子どもを道連れ

にしたらしい。(1・1毎日)

実家へ里帰り中に

二日、東京・江東区の都営住宅十四階から母子が飛び降りた。母親は昨年暮れ、実母の死に目にあえなかったことから沈みがちだったと言われ、このことが原因と見られる。子どもは一歳の女児。(1・3毎日)

ボウリングから夫婦げんか

大阪市で会社員が、ボウリングの点数のつけ方から夫婦げんか。なぐられた妻(二二)は、そのショックから発作的に、生後四か月の赤ちゃんをガス心中した。(1・8毎日)

母子四人、車ごと飛び込む

二十七日、沼津市内の駿河湾の浅瀬に乗用車が転落していた。農業Mさんの妻(三〇)が、七歳、三歳、五か月の三人の子どもを助手席に乗せ、ガケから

飛び込んだもの。七歳の坊やは死亡、あとの三人は行方不明。胃の不調に悩み、無理心中したものらしい。(2・28毎日)

赤ちゃん道連れに自殺

東京駅京浜線ホームで、港区の主婦A子さん(三八)が、生後九か月の三男を背負い、線路に飛び込んだ。A子さんは、ノイローゼ気味で病院に通っていた。(2・28毎日)

幼児道連れ井の頭線に

井の頭線明大前駅の下りホームで、男の子を背負った女性が飛び込み、二人とも即死。調べでは、久我山に住む会社員の妻K子さん(二五)。二年前に鹿児島から上京したが、都会に慣れず「死にたい」と言っていたという。子どもは十か月の男児。(5・27毎日)

二児絞殺して夫婦飛び降り

「ガン宣告」二週間後に

三日、大分県別府のホテルの十二階から、滋賀県大津市の会社員(三三)と妻(二九)が飛び降りた。また、部屋のおとんの中には、四歳と二歳の男児が首を絞められて死んでいた。遺書には「医師の宣告で、心配していたことが現実になった。子どもとともに天国に行く」とあった。(6・3毎日)

夫の出張を苦しむ？

母子三人ガス心中

六日、横浜市の会社員(三五)宅からガスが漏れているのを、社員寮の階上の人が気づき、合のカギで部屋に入ったところ、母親(三〇)と、五歳と四歳の子ども三人がこん睡状態になっていた。近くの病院に運ばれたが、子どもは二人とも間もなく死亡、母親は重体。夫の出張が多く、母親は日ごと

ろから「私の家は母子家庭みたいなもの」と近所の人に話していたという。(6・6毎日)

子の病氣苦に心中圖る

十四日、杉並区に住む会社員の妻(二六)が、生後二か月半の女児と、ガスで。母親は命をとりとめたが重体。子どもの「斜頸」を苦に、母子心中を図ったもの。(6・15毎日)

母と幼児、心中の旅

二十一日、博多の駐車場五階屋上から女性が飛び降り死亡。二歳の次女はホテルの部屋で首を絞められて死んでいた。静岡県富士市からの旅だった。(6・22毎日)

坊やの小児ガン苦に母子三人が

二十八日、千葉県市川市で、二歳の長男の小児こうがんガンを苦にした母親(二五)が五か月の次男といっしょに風呂場で

ガス心中した。三人とも窒息死。(6・29毎日)

病弱の母親、二児と飛び降り

九日、神奈川県平塚市の市民病院四階から、左官職の妻(三四)が、七歳と四歳の男児を抱えて飛び降りた。かねて、自分の体が弱いことを悲観していたという。(7・9毎日)

母子四人、投身か

不仲を悲観して
夫との不仲を悲観した妻が幼児三人を連れて家出していたが、十三日未明、子ども一人が函館沖で見つかった。青函連絡船からカーフェリーから投身心中したらしい。(8・13毎日)

母は死に、子は重症

自身の病弱を苦に
十三日、大阪市此花区の市営住宅で七歳と二歳の子を道連れ

にガス心中。母親自身、体が弱いのを苦に、思いつめたらしい。(8・14毎日)

デパートの屋上から三児と

明るく夫婦仲もよかったのに十九日夕方、群馬県高崎市のデパートから、長男(七)と次男(四)を突き落とし、三男(二)を背負った母親が飛び降りるという悲惨な出来事があった。

近所の人たちは、「母親は明るくて頭もよく、夫婦仲もよかった」と言い、家族も「なぜ?」と、ぼう然。(8・20毎日)

舅・姑と不仲で

夫の入院中に母子心中
子ども二人を道連れに、押入でガス心中を図った。母親は重症、子どもたちは死亡。

隣に住む夫の両親との折り合いが悪く、ふさがちだった。夫は入院中。(11・13朝日)

バセドー病を苦しむ母子心中

出産後の育児疲れで病状が悪化し、赤ちゃんを道連れにガス心中。(11・24朝日)

倒産と女性問題から母子心中
会社勤めを辞めて独立した夫の事業が倒産。加えて、夫の女性問題から離婚話が持ち上がった。

「あの世で幸せに……」の遺書を残し、子ども二人を道連れに、ガス心中。(12・9読売)

母子無理心中か?

阿佐ヶ谷のマンションの一室で、六歳の女の子、五歳と三歳の男の子の三人が死に、そばで母親が苦しんでいた。隣室のガスの元せんが開かれており、無理心中らしい。夫は「心当たりはない」と。

だが、夫は前日の朝仕事に出たまま夜も勤務を続け、帰宅していなかった。(12・17朝日)

母子で鉄道に飛び込む

子どもを背負った三十歳前後の母親が、急行に飛び込んだ。身元不明。(12・30朝日)

〔世相〕

中学生の娘に売春させる母

「小遣いかせぎにやってみたらどう。楽で、もうかるよ」と母親が十四の娘やその友達に売春させていた。福岡県警少年課と福岡署は、母親(五四)を児童福祉法違反、売春防止法違反で逮捕した。

Aは相手の男から二万―四万円の料金を取り、半分を自分がピンハネしていた。

(1・8毎日)

前借金にしばられる売春芸者

東京・中野の花街で働く者が「売春せざるをえない毎日がつらい」と、着のみのまままで芸

者置屋を逃げ出した。置屋では

「金を貸していたから」と残された家具や衣類全部を押さえようとしたり。あまりかねた芸者が都の婦人相談員に訴えたことから、赤線さながらの売春組織や「前借金」制度も明るみに出た。前借金制度の復活にショックを受けた関係者は、近く日弁連の人権委員会に救済の申し立てをする。

また、売春問題と取り組む会は、潜在化した売春はますますふえる一方、と、関係機関に呼びかけている。

(5・24朝日)

こんどは男がだまされ役

交通事故で妻子を亡くし、一千万円の保険金を受け取った男をだまして、結婚をタネに三百三十万円を巻き上げたホステス(三五)が、詐欺容疑で宮崎県都城署につかまった。つかまる直前に自殺を図ったが、生命は

とりとめた。

警察では、狂言自殺の疑いもあり、回復を待つて逮捕すると言っている。(10・26朝日)

一人娘を絞殺

更年期障害からくるノイローゼと診断された母親が、一人娘を絞殺。「従業員の話、仕事の手伝い、子どもの世話が大変で死にたい」ともらしていたという。近所の評判では「教育熱心な母親」だった。

(11・28朝日)

少女らに売春強要

過去十年間、トルコ嬢をしていた女がマッサージに名を借り、少女ら二十人余りを集めて売春を強要、一年たらずの間に千五百万円の荒かせぎをしていたが、内縁の夫共々つかまった。

(12・4朝日)

単身赴任の官舎で死亡

徳島家裁所長が、ひとり住まいの官舎で死亡した。

地方へ転勤する中年サラリーマンには、本人の昇進と子どもの進学問題、住宅問題などがからみあい、不自然な単身赴任の生活を強いられている。別居生活が与える子どもへの影響が、当事者には一番深刻なようだ。

(12・7朝日)

女子高校生

米軍基地内で殺される

バイト帰りの女子高生が、自宅近くで暴行された上、殺されていた。現場は米軍基地内。

敷地の三分の一は、近くの人たちが米軍と契約して家庭菜園にされており、一般の人も出入りできる所。(12・9読売)

教師、恩をアダで返す

生徒からの植木代横領や、盗み、婦女暴行などの不祥事を重

ねた高校教師が、配置替えされ

たのを不当とし「不当配転」を

訴えていたが、これに同情して

支援活動に加わり、活動してい

た教師A子さんに暴行し、逮捕

された。(12・10朝日)

〔福祉の貧困〕

島田療育園で小林園長辞職

心身ともに疲れて

日本の重症心身障害児施設の

草分けであるこの園の小林提樹

園長(六六)が辞職した。発足

以来十三年間、政府の福祉政策

のおそまつさと格闘し続けて

「心身ともに疲れた」のが辞任

の理由という。

百七十五人の収容児の世話を

百人ちょっとした職員でしている

ため、職業病の腰痛で倒れる職

員が多い。労組も春闘に、ベア

だけでなく大幅人員増を要求し

て時限ストもした。「政府の言

う福祉は、少額の金を出すこと

だけ。あとは現場におつかぶせ

ている」と小林氏は嘆く。

後任園長は国立精神衛生研究

所の菅野重道精薄部長(五五)

に決定。(4・16朝日)

施設の危機は全国的

人手不足による施設の危機は

島田療育園だけではない。

人手不足は極限の状況である。

国公立でも、人を集めるだけの

給与ではない。学習や生活の指

導はできず、収容するだけで精

いっぱい。朝食はおかゆ、夕食

は四時半、おかずの質もよくない。

職員の腰痛・流早産が続出。

空きベッドがあっても収容で

きない施設が増えている。機能

訓練設備や、人手でなくともよ

い作業の機械化も不足している。

これが「福祉二年」の実像である。

(5・2朝日)

*

島田療育園の取材メモから

ボランティアとして働いたら

さすがにこたえたが、意外にぬ

くもりのある職場である。スキ

ンシップから生まれる、もの言

わぬ子らとの心の通い合い。腰

が痛くても、倒れるまでがんば

る職員。

彼女らは腰痛で入院しても、

子らの夢を見るという。

いかに重労働でも「療育」と

いう生きた人間相手の仕事には、

機械相手の仕事とは違う温かみ

がある。それだけに、彼女たち

が職場を去らねばならない現実

が憎い。

「夜勤回数が少なくて休日が

とれて、生活をしみながら、

当たりまえに働ける職場であれ

ば……」くやし涙にくれて病床に

伏す彼女たちからの手紙を読ん

でいると、ふと「女工と結核」

という「古典」が浮かぶ。

富国強兵日本の悲劇が、形を

変えていま、GNP大国日本で

繰り返されているのではないか。

こんどは「腰痛」の名で。

(松井やより記者)

(5・14朝日)

*

島田療育園等の民間施設に

都が大幅に補助費を増額

人手不足、腰痛、経営難など

が重なって、荒廃した福祉の現

実を見せつけている東京の重症

心身障害者施設「島田療育園」

問題について、美濃部都知事は

都庁で、同園の経営者、労組、

親の会の各代表と会い、園児に

一人当たり月二万四千円の運営

費アップなど、補助費の大幅な

増額を約束した。

これとともに緊急対策として、

同園以外の都内の民間重症心身

障害児、肢(し)体不自由児施

設六か所にも同じ補助金を認め

た。(5・30朝日)

軽費老人ホームに老女殺到

都営住宅と抱き合わせの軽費

老人ホーム「おおもり園」が大

田区に完成したが、五十人のワ
クに応募は十一倍強。

応募者の七割強が女性。「年
寄り一人だと、民間アパートも
貸してくれない」「狭い住宅に子
どもと同居して、折り合いが悪
くなった」など、老人を取り巻
く社会のきびしさを訴えていた。

(4・26朝日)

一万円でも助かるが……

府中市の出産祝金制
東京・府中市は四月から出産
祝い金一万円を支給する。

妊娠中の医療費の全面無料化
が本来の議決決議だったが、医
師会の反対で暗礁に乗り上げた。
やむを得ず一年間棚上げとし、
形を変えて市が押し切ったのが
この出産祝い金。だが、一度は
全額支払わなければならないか
ら負担は変わらない。

この問題は国の責任において
考えるべきでは、との声も。

(5・24婦民)

身障者用のタイプを開発

重症の身障者でも、まばたき
したり声を出したりできる人な
ら、タイプライターを打てるこ
う新しい装置の試作品が、東
京の育英工業高等専門学校電気
工学科の依田勝講師らによって
初公開された。(6・10朝日)

在宅身障者に介護の保障を

身障者の自由な社会生活を営
む要求が高まってきた。
〈在宅身障者の保障を考える
会〉は、施設や家族の厄介にな
るのではなく、行政による介護
人派遣を要求している。

(8・8毎日)

「寝たきり」の予防に

リハビリの「相談日」
東京・小金井市の「老後問題
研究会」が行政に働きかけて、
月一回「寝たきりにならぬため
のリハビリテーション相談日」
を設け、専門医が訓練機械も

使って、一回約十人の相談に応
じている。(9・21朝日)

家庭奉仕員の増員を

二十六年間も寝たきりの夫の
看護に疲れた妻の無理心中未遂
事件があった。

家庭奉仕員の数は少なく、低
所得者層だけが対象だが、もっ
と増員して、家族の負担を軽く
すべきだ。(10・2朝日)

脳性マヒ早期発見へ

女医さんたちが啓蒙活動
早期発見・早期療養によって
悲劇を少なくすることができ
と、東邦大学医学部系の「社会福
祉法人「鶴風会」後援会」の女医
さんグループが、いま、母親向け
の啓蒙映画作りに奔走している。

資金不足を補うため、淡谷の
り子さんが無料出演でチャリ
ティショー開催。(11・15東京)

〈福祉財団いしずえ〉発足

サリドマイド児救済のための
〈福祉財団いしずえ〉が十二月
七日発足する。(12・8朝日)

物価高に凍える福祉

軒並み三割以上値上がりの波
をまっ先にかぶるのはやはり施
設。山形県七窪恩恩園でも、豚
カツは鯨カツに化け、おやつも
さみしいものになった。

低すぎる国の基準に加えての
狂乱物価は、園児たちのささや
かなたのしみのおやつさえ奪お
うとしている。(12・8朝日)

福祉行政不在

民間に負担大きい施設
昨年八月、大阪府摂津市が国
を相手に提訴した「摂津訴訟」
は、国の福祉行政の貧困さを浮
き彫りにした。

民間施設の場合、建設費の半
分を国、四分の一を自治体、残
り四分の一を自己負担、の建て

前だが、実際は半分以上が自己負担で、それがあとあとまで経営を圧迫し、人手不足、過酷労働の悪循環の元となる。

物価安定をクナ上げて「福祉」や「弱者保護」の念仏はむなしなもの。(12・8朝日)

*

ヘナオミの会 母子寮

改築工事ストップ

建築資材の高騰、モノ不足の波をかぶり、工事ストップや計画中断に追い込まれた福祉施設が続出している。

その一つ、働く母親や母子家庭の手助けに、母子寮と保育園を運営している世田谷区の社会福祉法人「ヘナオミの会」(菊田澄江理事長)の改築工事もストップした。

もともと寄付に頼つての計画だけに、値上がり分の金はどこからも出ないとして、ガスも押し入れもないプレハブ仮小屋の母子たちは、暗く寒い正月を

迎えようとしている。

(12・24朝日)

老齢退職無保険

長年健康保険料を納めながら、病気になるがちな老齢期にさしかかるころ定年退職となる。

このため「退職者医療制度」新設の構想が、社会保障長期計画懇談会などから提言されている。

本格的な老齢化社会になってきて、定年から老人医療無料化の対象となる七十歳までの期間に問題が山積している。

(12・9/12・11朝日)

「ボランティア」

好評の

ボランティア・コーナー

東京都が十月から渋谷の児童会館に発足させたコーナーは、情報の提供、器材の貸し出し、

初心者への相談……。病院や学童児童クラブへの訪問など、実際の活動にたずさわる人も出てきた。

「ちょっとした同情では長続きしない。一見つまらないようなことでも、どのように生かされるかを知り、それに参加することで自分が高められることを認識してほしい」と助言者。

(1・8朝日)

曲がり角にきた?

東京の「母の家」

親もとを離れて、地方から東京へ働きに来る中・高卒業生は、この春八万人以上と予想される。この若い人たちに「休日には家庭の味を……。母親代わりになつて、勤労青少年の明日の活力を……」と、東京都の音頭と

りで都内に三十か所「母の家」が設けられたのは昭和四十二年、今年で満七年になる。

発足当時は休日ごとに賑やか

だった「母の家」も、最近では会員(若者)の集まりが悪くなった。一つには従業員の設定率を高めるため、零細企業さえも福祉厚生施設が充実してきたこと

もあるが、今の若者たちの心を東京のお母さんがつかみにくくなっているのではないか、という指摘もある。

その上、都からの補助、月額七千円も、最近の物価高では焼け石に水。「母の家」の負担がボランティア活動の域を超えるという深刻な悩みもある。

都労働厚生課では、この春から補助金を千円アップする予定で、どうしたら効果があげられるか検討中。(2・12朝日)

「お恵み」ではない

奉仕のこころ

仙台に住んでいる山口聖子さん(三八)は、二年ほど前にご主人の仕事の関係でサンフランシスコ市に滞在した。一年間の

滞在中、山口さんが一番驚いたのは、盛んなボランティア活動だった。山口さんが最初に接したのは、外国人のために英語を教えるボランティア。それに子どもの遊びを指導してくれるボランティア。それが一人や二人でなくいっぱいいる。不安な気持ちで渡米した山口さん一家は、おかげで楽しいアメリカ生活を送れた。

ところが、山口さんは米国とは違う日本の現実を改めて思い知らされた。

東北福祉大の花村春樹教授は「受け手を常に弱者として見る姿勢がある」と指摘する。

(4・20河北)

社会奉仕の精神

欧米では「ノブレッス・オブリージュ」(地位の高い人は公共に尽くす義務を伴う)の精神で、上流階級の人々は男女とも、その地位に相應して、社会的奉

仕をしている。特に上流夫人は積極的に奉仕活動をする義務があるとさえ言われている。

混乱している現状の日本の社会に、いま必要な「精神」かもしれない。

(10・19フジ・サンケイ)

「盲人によい新年を」

北九州市の点字グループいまへすみれ会は、盲人用カレンダー作りに大忙し。「家族の健康税と思って」と。仕事場のストープも灯油も、お茶も持ち出しで。こんなしんどい仕事で息長く続けるのは、やはり主婦とか。

(12・19毎日)

〔公害〕

第三水俣病の調査結果

熊本県は環境庁の指導で、有明海・八代海沿岸住民の健康調査を進めてきた。いわゆる水俣

病らしい病状がある者として有明海沿岸四市町の五人が報告されたが、そのうち四人は水俣病とは認められず、残る一人については「水俣病の症状が認められるが、生活歴から見て水俣湾の汚染によるものでない」との結論を出した。(6・7朝日)

水俣病百人の死者

五歳で発病、十八年間寝たきりで口もきけずに生きてきた松永久美子さん(二三)が二十五日朝、水俣市立病院で急性肺炎のため死去。(8・27朝日/毎日)

イラクで誤って水銀中毒

メチル水銀で消毒した種子麦を、誤ってパン製造に使用したため、中毒が集団発生。

しかし環境汚染のための魚貝類による水俣病とは、病状に大きな差。

日本の学者との交流が望まれる。(12・7朝日)

〔戦争の傷あと〕

小野田さん三十年ぶりに

ルバンク島で救出
フィリピンのルバンク島でかねて搜索中の小野田寛郎元陸軍少尉(五一)は十日、無事救出され、十二日、日航特別機で故国の土を踏む。昭和十九年十二月、ルバンク島に配属されて以来、約三十年ぶりの「復員」である。小野田さんは同日夜の記者会見で「命令がなかったのにジャングルにとどまり続けた」「嬉しかったことなど何もなかった」と語り、現地の新聞記者に英語で話しかけられると、初めてニッコリと笑顔を見せた。

(3・11各紙)

*

小野田さん元気に帰国

両親と感激の対面
小野田さんは十二日午後四時

二十五分、羽田空港に到着、しっかりした足どりでタラップを踏んだ。

記者会見では、「上官の命令を守っただけ。決して英雄などではない」と淡淡と語った。長いジャングル生活は「任務を遂行しようと思うだけで頭がいっぱいだった」

小野田さんが肌身離さずボマードで磨き上げていた九九式小銃・軍刀、小塚金七元一等兵の三八式小銃などの武器や、鍋などの炊事用具、火を起こすのに使った手製のレンズ、はさみ、針などの生活用品は、厚生省に保管された。（3・13各紙）

*
おはよう日本晴れ

小野田さん帰国第二日
きれいに晴れ上がった東京の空を十五階の病室から眺める小野田さん。救出一日目のルバング島の朝を思い出して「日の光が暖かく感じられ、毛布に包ま

れたように筋肉がほぐれた。平和の光とはこういうものだなと思った」 （3・13各紙）

*

小野田さん 社会に第一歩
新調の背広を着こなし小野田さんは、大勢の見送りに帽子を高く振ってあいさつしながら、十八日ぶりに国立東京第一病院を退院。（3・30各紙）

市民の戦争犠牲に国は…

片腕なくした女性が呼びかけ
東京・目黒区の主婦小暮たけ子さん（四三）は、東京空襲で右腕のひじから先を失った。

「戦争責任がまったくないのに戦傷者になった私たちに、国は何もしなくてもよいのだろっか」という思いで、国への補償要求を「団結」してやってゆこうと呼びかけた。

軍人で小暮さんのような場合は年間六十二万九千円の障害年金が支給されるが、一般市民に

対しては障害福祉年金しかない。それも、小暮さん程度の障害は「軽症」とされ、これまでは対象外。ことし三月になってはじめて月額五千元が支給されるようになった。

「もちろん、戦災による多くの死亡者にも国の償いがあるべきです。国って、国民って、いたい何なのか」小暮さんは呼びかけの中で問いかけている。（5・20毎日）

被爆女性の自殺

原爆死没者慰霊式の当日、広島に住む被爆女性（三〇）が自殺した。

また、たった一人の妹を原爆でなくした名古屋の女性（七七）が自殺した。（8・7朝日）

戦争犠牲の一般市民も救済を
戦争で負傷した軍人・軍属・動員学徒・女子挺身隊員などの犠牲者には、一応の救済策があ

る。しかし、女性が大半を占める一般市民は対象外である。

西ドイツでは、職場や国内・国外、官民の別なく平等に救済されている。（8・15朝日）

中国から三十年ぶりの里帰り

八十九家族九十八人の中国在留日本人が、中国民航特別機で里帰り。五十代の女性がほとんどで、戦前に渡航し、戦後に中国人と結婚した人が多い。敗戦の混乱で肉親にはぐれ、中国人に育てられた人も数人いる。（8・23朝日）

サハリンからの帰国

十年間の帰国運動が実って、母子三人が横浜入港のソビエト船で帰国したが、朝鮮人の夫は帰国後消息不明、洗たく婦をしながら二人の子を育てた。サハリンには、帰国を望む日本女性が、まだ百人もいるという。（8・28毎日）

「函館の正月」今やっと

日本人であるという「証明」がないため帰国できなかった、サハリン（旧カラフト）に住む婦人に、やっと帰国の道が開けた。昭和三十三年に帰国の申請を大使館に提出して以来十七年ことしになって北海道庁の見つけた古い書類の中から、この婦人が日本人であることが、ようやく確認できたためだ。

二十五日横浜港に入港するソ連船「ハバロフスク号」で、家族六人とともに帰ってくる。

（12・24毎日）

〔差別〕

「ボーイフレンド募集中」

週刊誌の見出しに留学生抗議
日本の印象や留学の感想を聞かれただけのインタビュー記事が「ボーイフレンド募集中」の見出しで『平凡パンチ』六月三

日号に掲載された。

この見出しに驚いた女子留学生四人（いずれも日本政府が奨学金を出している国費留学生）は、「故国の人が見たら、日本で不真面目な行動をしているように思われる。顔向けができない」とくやしがつた。

『平凡パンチ』側は納得のいくお詫びをしたい、と反省している。

（6・15毎日）

男児にも後始末のしつづけ

幼稚園で紙細工の共同製作をしていた。先生は、女の子だけに後片付けを命じ、男の子はそのまま外で遊ばせた。

これは家庭でもよくある光景だが、公害やインフレなど、市民生活の基盤を無視した高度成長経済の原点はここにあるのではないか。

〈家庭科の男女共修をすすめる会〉に私が参加したのも、男性を変えて、日本の現状を変え

るのがねらいなのだ。

（樋口恵子）（8・12朝日）

公害病の補償にも男女格差

中央公害対策審議会の環境部会が、公害健康被害補償法の実施細目を答申。

労災補償などに比べて一応前進はしているが、算定基準を平均賃金にしたため、男女別・年齢別の格差が大きい。

（8・13朝日／毎日）

海外

〔韓国〕

金大中氏の闘志を支える

夫人の信念と忍耐力
三月十二日、ソウル市郊外の金大中氏邸を訪ねた。

夫だけに文化勲章

共同研究の石坂照子さんは：昭和四十九年度文化勲章受賞者、石坂公成氏の夫人照子さんは、二十五年來の共同研究者。

石坂さんは、これまでに、米国、カナダ、西独からも賞を受けてきたが、いつも夫妻一緒に受賞だったのに、日本の文化勲章だけが違つて、公成氏のみ。公成氏は「一人では悪い」と寂しそう。

（10・25毎日）

健康状態がすぐれず、自宅軟禁状態が解かれたあとも、日曜日に教会に行く以外は外出しない生活。アメリカに行く望みもあまりないと言われる氏の表情には疲労の色が濃かった。

李姬鎬夫人は、アメリカの大

学で社会事業を学び、ソウル市のYWCAの書記を勤めた後、梨花女子大の教授をしていた。

金大中氏と結婚したのは、彼の民主主義への強い信念と実行力にすっかり魅せられたため。今でも、この選択は正しかったと信じている、と語った。

逆境と闘う金大中氏の闘志も、このもの静かな夫人の確固たる信念と忍耐力に支えられていることがわかった。

(吉田ルイ子 フォトジャーナリスト) (4・5中国)

貞淑な故大統領夫人

「メンドリが鳴けば家が滅びる」と言われ、女性の口出しは伝統的にタブー。

解放記念式典の場で被弾・死去した陸英修大統領夫人は、こうした伝統を厳しく守った女性、と韓国では讃えられている。

(8・16毎日)

【朝鮮民主主義

人民共和国】

アジア卓球選手権大会に來日
横浜で開催中の第二回大会に
四人の女子選手が参加。直行なら二時間のところを、国交がな
いため、北京モスクワと乗り継
いで疲れているはずだが、選手
たちのスタートは快調。真剣な
試合態度は社会主義国の戦う女
性そのもの。(4・11朝日)

女性解放は国の施策

教育費は中学まで無料

女性の四三%が働いている北
朝鮮では「家庭からの婦人の解
放」が国の三大技術革命の一つ、
国家の重要政策だ。

働く婦人の子どもたちは、生
後一年七か月から託児所に入り、
週日は全託、週末に自宅に帰る。
土曜に母親に連れられて家に帰
るときはうれしそうだが、月曜
にまた戻って来ると、もう家の

ことは気にしない生活で、のび
のびと育つ。五歳から七歳まで
は幼稚園で、これも全部公立。
学童保育の豪華版、学生少年宮
殿もすばらしい。そのほか課外
サークルで、小中学生には週二
回、あらゆる学習がある。

しかも、これらの託児所、幼
稚園、小中学校はいっさい無料。
大学だけは奨学金制度だが、実
際には無料同様だ。

(10・16朝日)

【中国】

國務院副総理も婦人

「女性の働く分野は、油田の
採油隊隊長、建築家、医師、國
務院副総理まで、ぐんと拡大し
ている。婦人解放は、民族・階
級・社会の解放をかちとって、
はじめて実現できるものです」

中国婦人代表団歓迎委員会の
招きにに応じて八年ぶりに來日し
た巴桑(パサン)女史を団長と

する中国婦人代表団の話。

なお国際婦人年は理解できる
が「平等・発展・平和」という
主題を宣伝する思想と言動は支
持しない、と。(1・30毎日)

農村にはまだ差別

全般に地位は高まったが、勞
働の報酬、進学・婚姻の自由にま
だ差がある、と宋慶齡女史が論
説。(3・11朝日)

「男尊女卑」の残滓

一掃をめざす婦人解放

日曜日の午前九時、北京市の
西単菜市場は買物客で混雑する
が、その八割方が男性。売られ
ている品物は種類が多く、安く
て、その上、調理しやすいよう
に手のかけたそうざい売場もある。

女性も働いているこの国では、
買い物に限らず、男性も家事を
分担するのが、今ではごく当た
り前のことになっている。

病児保育所も整っており、年

齡が上があれば、それにふさわしい環境が地域の連帯の中で用意されている。

しかし、婦人にまつわるすべての問題が解決されたわけではないし、歴史の逆もどりをたぐらむ反動勢力もあるという。

北京市婦人連合会の徐光副主任は「婦人はいま、反動勢力と闘い、批林批孔の活発な力になっており、これを通じて婦人の自覚が高まっている。完全な婦人解放の見込みが増している、と言ってよいでしょう」と。

(4・2毎日)

目立つ女性の台頭

中国の大農生産大隊では、かつて「鉄姑娘隊」の先頭に立って奮闘してきた弱冠二十七歳の郭風蓮さんが、陳永貴さんの跡を継いで、党支部の書記に選ばれた。文化大革命の成果を強固にし、発展させようとする批林批孔運動のさ中に現れたこの措置は、

修正主義路線に対する大きな鉄槌でもあったのだらう。大案ばかりでなく、青年や婦人層の活躍ぶりが一段と目ざましくなっていた。

(5・24朝日)

すすむ避妊

孔子の「男尊女卑」思想は農村に根強く残り、男子誕生を願った多子家庭も多く、農村の人口増加率を高めていた。

しかし国家的な産児制限策と批林批孔運動は、これを克服しつつある。男性用避妊具も普及し、詳細な図入りパンフレットもある。

(8・6朝日)

夫婦の地位は同等に

運転手や職場の幹部などに女性が目立ち進出し、男性が市場での買い物、料理、洗たくなどの家事を分担するものもごく当たり前になっている。夫も妻も相手を「愛人(アイレン)」と呼び、夫婦の地位もそれにふさ

わしく同等になった。

「婦女頂半边天」女性が天の半分を支えるという毛沢東主席の言葉から、「半边天」は女性の代名詞にもなった。

(9・8朝日)

田中首相出迎えに見る

日中の男女の差
九月末、日中航空路開設の一番機が着陸。出迎えの中国側には女性が二十四人いたが、到着した日本側は黒い背広だけ。通訳の林さんはげんな表情。日本では不思議に思う人さえ少ない、など、理解を絶するらしい。

女性の社会的進出はめざましく、それを支える全託の保育施設、カギっ子用の安い食器、洗たくやつくろいものなどの家事を社会化する組織に感心した。批林批孔も浸透し、人間の意識に根強く残る性差別をきびしく追及している。(兼松左知子)

(10・14朝日)

結婚は平等の問題

一夫一婦制、恋愛は結婚に直結という中国では、男女問題という恋愛や性ではなく、平等の問題としてとらえられる。下士官の妻たちも師団内の工場で労働に従事しており、「ムタ飯は食わない」という解放の原点が貫かれている。(樋口恵子)

(11・22―26毎日)

〔ベトナム〕

ベトナムの婦人解放運動

ベトナム婦人連合会の大会が三月四日から「国際婦人デー」の八日まで五日間、ハノイで開かれた。戦争中は各地から代表を集めることができなかったため、今回は十二年ぶりの大会となった。

「ベトナムの歴史上初めて『男女平等の実現』がスローガンとして掲げられたのは一九三〇年、

ベトナム共産党（現在のベトナム労働党）が創立されたときでした」連合会執行委員、ボー・チ・テー夫人の話である。

ベトナムの婦人運動にとって、四六年の第一回総選挙で十人の婦人議員が誕生したことは画期的だった。しかし、それから後は苦難の連続だったという。

（津田前ハノイ共同特派員）

（3・10北海タイムス）

きのうは戦士、きょう選手

十九歳。淡青色のユニホームでコートに出れば、鋭いスマッシュ。セーター姿でくつろいでいるときは、お茶目なベトナム娘。国に帰って緑の戦闘服を着ると、南ベトナム解放ゲリラ戦士の一員。

横浜で開催中の第二回アジア卓球選手権大会に参加のため初めて来日した南ベトナム臨時革命政府女子選手団キャプテン、グエン・チ・ランさんは、そんな

三種類のユニホームを持っている。

「私は、他の同じ年配の若者たちと同じように、解放軍支援隊の一員です。兵士たちの道案内、前線への食糧・弾薬の補給、負傷兵の後方輸送などが任務でした。竹やりを埋めた落とし穴の作り方も知っています。米軍機の爆撃の爆風で飛ばされてケガをしたことも……。でもみんなが経験したことです。私の家族も、友だちも……」

「日本をこの目で見、日本の人々と友好を深めるのが最大の目的。そして在日同胞の爱国心、そうした人々の心を、国に帰って母や友達に伝えるのが、いちばんのおみやげだと思っています」と言う。（4・8毎日）

大統領辞任を要求する女性群

チュー大統領の辞任を要求して、ゴ・バ・タン夫人が組織した仏教尼僧など女性約百人が、

四日朝サイゴン市場前に集合、約一キロ行進し、下院議事堂前で集会。（10・5毎日）

*

翌五日には、仏教尼僧グループ三、四十人がデモ禁止警告を無視して、チュー辞任要求の街頭デモ行進を開始し、解散させられた。（10・6毎日）

戦争ベビー

現在南ベトナムに住む混血児の数は、米国兵相手だけでも推定二万五千人。

この子たちはベトナム人の母や祖母たちに育てられているので、孤児となるものは少ないが、金髪、青い目、ちぢれ毛、はだの色等の特徴が現れるにつれて、自意識のみならず、社会からも偏見をもたれ、母親とともに生活は貧しく、問題が多い。（11・21朝日）

「シンガポール」

人口抑制に新法律発布

日本家族計画連盟理事長の寺尾琢磨氏がシンガポールの「家族計画及び人口局」を訪ねて聞いてきた報告によると、昨年八月発布された法律の内容は、ほぼ次のとおり。

- ①国立病院への分娩費は子どもの順位につれて高くする（第三児は二倍、第四児は四倍等）。
- ②第三児及び、それ以後の子の分娩には有給休暇を与えない。
- ③一九七三年八月一日以降に生まれた第四児及びそれ以後の子には所得税の減免がない。
- ④大家族には、公営住宅の割当てにおいて優先権を認めない。
- ⑤公営住宅に住む三児以内の家庭だけが、一定条件の下で室の転貸が許される。
- ⑥第四児及びそれ以後の子は、小学校の選択を後回しにされる。



ただし第四児が最後の場合、または両親のいずれかが断種した場合は、最初の三児と同じ優先権を与えられる。

⑦貧困者の患者の分娩費は、出産後に断種を受ければ減免される。さらに申請により、病室費も払い戻される。

⑧分娩後、または妊娠中絶後に断種を受けた者には、寛大な条件で医学的休暇が与えられる。

究極の目的は「子供は二人」が定着することである、という。

(9・21毎日)

〔東南アジア〕

東南アジアの女性たち

松井やよりさんの報告

朝日新聞記者の松井やよりさんは、東京YMCAなどが主催した「足で体験する東南アジアセミナー」に参加して、女性の解放・社会的進出・地位等について、各国の女性たちと語り合

い、目で見えてきて、次のような報告があった。

バンコクでは、女性解放運動と公害反対運動の闘士でもあり、タマサト大学講師のスタチップさん(二五)や、英字紙「バンコク・ポスト」の記者スマリー夫人(三五)に会った。

タイでは妊娠中絶が非法のため、ヤミ中絶の危険が大きい。結婚した女は、夫の同意なしには買物も外国旅行もできない。男女不平等の婚姻法、賃金格差など、女性差別の伝統のカベは厚い。しかし大ホテル、バス会社、船会社などの女社長もいるし、大学の講師にも女性が目立った。

インドネシアでは、一夫多妻を拒否する運動が第二次大戦前から進められていたが、不完全な形ながら、昨年末に「現在の妻の同意がなければ多妻は認めない」という法律が出来、一応の成果をおさめた。

女性の社会的進出、とくに子女皆さんの母親の活躍が目立った。六十過ぎの元労働大臣は、女性の仕事の分野拡大に奔走していたし、インドネシア女性の法的地位についての著作をまとめた法学者や、五、六千人が加盟する女性公務員組織の活動家など、各界に多彩な人材がいる。新聞・雑誌でも、女性記者が政治・経済を担当するのは珍しくない。ビジネス界でも、女社長はたくさんいる。

「日本の女性は、社会的に活動できないように抑えつけられている」と彼女らは観察。

サイゴンの町には、未婚の母や孤児、難民があふれていた。

「生きる権利を要求する婦人運動」議長のコ・バ・タン夫人(四二)は、フランスとアメリカで国際法を学んだ法学博士だが、エリートとしての地位や生活を捨て、祖国の独立と自由のために苦難の道を選んだ。

平和を叫び続けた彼女は、長くきびしい獄中生活で体重は三十キロ以下に衰弱。世界各国の婦人団体の釈放運動で出獄したが、その後も自宅は多数の警官に包囲・監視されて軟禁状態。

日本政府は、彼女たちを弾圧する現政府に五十万ドルの経済援助をして、民衆の苦しみを長びかせている。「日本政府の援助をやめさせてください」というタン夫人の悲痛な訴えが耳に残っている。

マレーシアでも「一夫一婦制婚姻法の成立」が婦人団体の最大の関心事。しかし長年の習慣をやぶるにはまだ時間が必要だという。女性の社会的進出はめざましく、外交官、弁護士、医師、建築家、電子工学者など、あらゆる分野にわたっている。

マラヤ大学教育学部副部長ファティマハカセ(四〇)は二児の母だが、ロンドンに留学した教育学者。家庭の主婦を目ざ

す古い女性教育に反対し、マレーシア婦人団体連合会副会長としても奮闘している。彼女の姉は小学校を出ただけで、十五歳で結婚、五人の子を育てながら婦人運動に入り、今は婦人代議士。「アジアの女性がどんなに変わりつつあるか、自分自身の体験からも感じる」と語る。

マレーシアでは、日本に留学し、いまは日系企業に働いている人たちに会った。

日本に対する批判はきびしい。ほかの外国系企業に比べて待遇が悪く、責任ある地位につかせない。専門を生かした仕事をさせず、通訳ばかりさせる。男女の賃金格差も持ちこんできた。企業の姿勢も、短期間に急いでもうけようと、トリックを用いて出資比率を変え、日本のものにしようとするなど、侵略的な性格が強いという。

どの国の女性活動家たちも、女性解放へのアジアの道を切り

開こうとする気迫に満ちている。日本の女性解放運動は、これまで、欧米だけに目を向けがちであつたが、もっとアジアとつながらなければならないことを教えられた。(4・3・18朝日)

〔ニューギニア〕

大石芳野カメラマンの見た

ニューギニア昨今

最近ニューギニアに約四十日間滞在、多数の写真を撮って来た。以下はその報告から。

畑にくわを入れる姿は、女性が圧倒的に多い。そして男性は道端でタバコをふかし、何もしないで座り込んでいる姿をよく見かける。文明人は、ニューギニアの女の地位がひどく低いと嘆く。

男性の主な仕事は、昔は部族間の戦争だった。今は狩りであり、ブッシュの開墾であり、家を建て、橋や道造ることだ。

さらに最近は鉱山、ダム建設、自動車修理工場などの諸産業も彼らの新しい働き場となってきた。国会議員にも女性が一人、海外留学生にも女性はいる。

かつて日本は後進国から先進国への道を、主として男性中心に歩んだが、バプア・ニューギニアでは、たとえば学校の教師にしても、最初から女教師がいる。それはまさしく、男と女が力を合わせて進もうとしている姿に見える。

日本のように男尊女卑の封建的な考えはない。彼らは男と女の違いを、人間の最も基本的なところで認識し、生活を営んでいるのではないだろうか。

(4・4毎日)

〔オーストラリア〕

好評の家庭保育園

自分の子を含め四人までの幼児を家庭に預かる母親が保母の

役をする家庭保育園を増設する試みが、オーストラリアで始まる。週一回、専門の幼稚園の先生が巡回して指導し、教材は政府が支給する。働く母親に好評。(12・3読売)

〔インド〕

「サリー」にも時代の波

長年不変の民族服として愛用されてきたが、最近ユニセックス風チューニック上着に、ハイレム・スラックスのパンジャブドレスが、若い女性の間に定着している。

ふだん着のサリーは、手織り手染めの木綿から機械染めのポリエステルに。(12・16朝日)

インドの家族計画

「産児制限の実現には、文盲の追放、道路の開発などが不可欠」とインディラ・ガンジー首相が力説。

インドでは年に千三百万人ずつ人口が増え続け、今や六億に近い。
(12・23朝日)

〔パキスタン〕

少ない女性選手

テヘランのアジア大会に参加した選手は百八十名だが、その中で女性はずか一人。中国は二百六十人中八十七人、朝鮮は四十七人の女性選手を派遣した。女性をスポーツに参加させない後進国、と思われるも仕方がない。ある女性のなげきの投書。

(9・16朝日)

〔アフガニスタン〕

大きい男女の格差

農村では男性上位。女は学校へ行く必要はない、台所さえしていればよいという考えが根強い。しかし上流階級では、学者、大臣、議員として活躍する女性

も増え、人材が豊富なのに活躍の余地の少ない日本と違って、やりがいのある場があり、無限の可能性をもっている。

老人たちは、家庭で安泰な地位を占め、大切にされている。

アフガニスタンの首都カブールから、美術研究のため十三年ぶりに里帰りしたモタメディ・達子さんの話。
(11・28毎日)

〔クウェート〕

発言権強める女性たち

「女性にも選挙権を。給与その他、男性と差別するな。一夫多妻を禁止せよ」クウェートの女性活動家たちの請願が、国会をゆさぶっている。

彼女たちの目標は、アラブ女性に対する外国人の偏見、つまりハーレムと黒衣のイメージを改めさせること。いろいろな職場に進出すること。国政に発言権を持つこと、など。

「時間はかかるでしょうが、確実に前進しています」と請願の代表者ヌリアさんは言う。

(1・9朝日)

〔ソ連〕

花嫁売ります

イスラム教徒の国、ソ連領中央アジアのトルクメンでは、法律を無視して旧時代からの「嫁売り」の風習が根強く残り、娘さんの自殺騒ぎなどの悲劇もあとを断たない。

当局は新しいモラルづくりに懸命である。
(1・27毎日)

〔チエコスロバキア〕

婦人の生活と活動

婦人の生活と活動
働く婦人は全労働人口の四七%、約三百五十万人。婦人議員は国会も地方議会も、それぞれ二五%。

最近、出産休暇二十四週が二十六週になった。また、出産補助金が倍増され、家族手当ての増加も実現した。

さらに「国際婦人年」には、婦人の労働と生活条件の改善、保育園・幼稚園の増設その他が政府で企画され、同盟も、全国規模のゼミナールや三世代交流会等を開催している。

(1・9朝日)

女性の働く動機は……

カレル大学トウチコバー女史が面接で調査した結果、働く女性にとってたいせつなのは、賃金や資格ではなくて、働きやすい環境、仲のいいグループなどということ、また潜在的意識として、いざれ仕事をよめると考えている人が多いため、偶発的動機で職業を選ぶ傾向が強いこと、さらに、賃上げを要求する理由には、自分の労働が高く評価されていることの確認や、

男子と同じ能力があることの保証として、などの要素があることが、わかった。

また、子どもを育てたことのある人は、人の和を保つていく点ですぐれている、と女史は分析している。(5・4朝日)

離婚法を平等に

婦人紙「プラスタ」に離婚法の一部改正提案が載った。長い結婚生活の後でも、離婚すると、現行法では女性保護が不十分。男は十分な給料と、若い妻との再婚があるが、老妻は、年金も少なく職もない。夫の死後の年金も新しい妻に。

無責任な離婚と女性の不平等をなくそうという主張に、賛成の投書が殺到している。

女の賃金は男の三六%

同レベルの仕事をしてもら労働社会問題研究所のフルボ
ルカ博士が格差を指摘。

伝統的に、一家の担い手として男性が優遇され、仕事の分担を決めるのは指導的地位にある男性だから。(9・9朝日)

単純作業はつらい

アンナ・ゼレーナ女史の報告によると、プレート打ちのような単純作業は、体の一部だけに負担がかかって畑仕事以上の重労働となり、慢性疲労や神経障害をひきおこすケースが多いという。

一方、四十代の家庭婦人の神経症は二十代のそれより倍も増えている。(12・9朝日)

「ルーマニア」

進出する婦人たち

全就労人口の四五%は婦人。特に、軽工業部門では七〇・九〇%、農業では約六〇%、教職では六四%、医療保健部門では七二%に及んでいる。

これはルーマニアの婦人の職業進出状況の一部を分野別に見たものであるが「家事労働との両立も大切」と、全国婦人評議会ビューロー員、マリア・グロザさんは言っている。(1・8朝日)

「東ドイツ」

離婚率が急上昇

東ドイツでは、近年急速に離婚率が高まっている。一九七〇年は二万七四〇〇組だったのが、七二年には三万四七〇〇組と、二年間に約二六%も増加。

一方、結婚のほう、は一三万七〇〇から一三万三六〇〇に増えただけで、百組の結婚に対し二十六組が離婚した計算になる。

離婚の原因としては、

相手側の浮気 二二%
意見と性格の不一致一四%

飲酒 一〇・四%
性の不一致 一〇%
暴力 九・三%
軽薄な結婚 六・五%
等が主なところ。

最近、妻のほうからの要望による離婚が確実に増加している。これは、女性の地位の向上と経済的独立によるものと見られる。

また、共働きの妻と職場の同僚との浮気による離婚も、一九六八年から増加しているが、多くは、結婚年数二一四年の若いカップルだという。(3・25朝日)

「ノルウェー」

政界でも高い女性の地位

ノルウェーの首都オスロ市では、市議会議員の過半数が女性、第二の都市トロンハイム市議会では、男性議員はわずか二名しかないのに対して、女性

議員が七十名。

中央政府でも、大臣のうち三名が、また百五十五人の代議士のうち二十五名が女性で、それぞれ活躍している。

(7・3朝日)

〔スウェーデン〕

父親でもとれる産休四か月

一月に法律が改正され、母親が働いている場合は、両親のどちらか、新生児の世話をする者が、四か月の産休をとれるようになった。

この休暇をとっている期間は給与の九〇％が支払われる。ただし、父親と母親が同時に産休をとることはできない。

この産休の改正と同時に健保法も改正されて、共働き夫婦の子どもが病気になる場合、その子が十歳以下なら、両親のどちらかが看護のため欠勤を認められるようになった。

(2・1毎日)

夫婦は独立の人格

墮胎の自由、ついに可決

墮胎するかどうかは、まったく妊娠した女性の自由判断——世界で最もリベラルな墮胎自由化法案が二十九日夜、スウェーデン国会で可決された。

この法律で、受胎後十二週間以内なら、墮胎手術を受けるかどうかは、まったく妊婦の自由に任せられる。

ただ、十二週以後十八週以内の場合には、保健省の係官と協議して、認められれば墮胎することがができる。

「フリーセックス天国」と伝わるスウェーデンだが、法案の審議をめぐって国論が割れ、立案から採決まで数年間をかけて、やっと可決された。

(5・13朝日)



不要になった「未婚の母の家」

スウェーデンの女性たちは結婚にさめきっている。未婚の母や婚外子への法的あるいは社会的な差別もなくなった。

(7・4朝日)

〔デンマーク〕

政界でも活躍

このほど、デンマークで五人目の女性市長が誕生した。すでに女性知事もいる。

中央の政界では、国会議員百七十七名中二十七名が女性で、また、大臣も二人いる。

(7・3朝日)

〔西ドイツ〕

かぎっ子センター

教育制度の改革が叫ばれて久しい西ドイツで、このほど西ベルリン市が、新しい教育構想のもとに、一億八千四百三万マル

クをかけて「子どもセンター」の建設に着手した。

この子どもセンターが完成すると、三歳—十二歳の児童を対象に、子どもを預かる保護所、遊園地、児童相談所が一所にまとめられることになる。

主として都会の過密地帯に住む児童やカギっ子を重点的に受け入れる計画とか。

(1・11朝日)

育児の分業化進む

若い母親が安心して職場に戻ることができ、同時に、深刻な保育園幼稚園不足を解消するとあって「昼間だけの母親」が各地で増えている。

スウェーデンでは五年前から、一定の職業訓練の後、給料・有給休暇・各種社会保障も定められた正式の職業として認められているが、ドイツでもこの例にならって制度化しようとして、活発な運動が進められている。

目標は、育児の経験のある母親が免許をとり、身分を保障されてから、自分の子どもを含めて、五人まで面倒をみようというもの。

育児の分業も時代の流れ、という見方が強いようだ。

(5・30朝日)

女の残忍性を否定

殺人犯に面接調査の結果
西独で、八十六人の婦人殺人犯と面接して調査の結果「女の残忍性」について否定する著書が出版された。

女性殺人犯の多くは、十分な教育を受ける機会にめぐまれず、攻撃的で思いやりのない夫を持ったりしたために、殺人以外の解決策がみつからなかったのだという。

男より重い刑を受け、更生方法も忘れられ、何と不平等なところか。

(11・28朝日)

親の知らない十七歳

十七歳の半数が性体験すみなのに、親は知らない、と、西独のある医学専門誌が、調査結果を発表した。

ちなみに、ドイツ全般の出産率は下がっているのに、十七歳未満の母が、その四割を占めている。

(12・7朝日)

子どもを産まない「婦人年」に

「国際婦人年は子どもを産まない年に！」「五月八日は家事ボイコットを！」

これは西独の婦人団体のPR台戦のスローガンの例。

この行事の主旨をめぐり、諸団体間で「女の争い」もあるとか。

(12・16朝日)

〔フランス〕

現代版「女の平和」

二十四時間ストを計画
フランスのリップ運動の中心で

ある「女性解放運動」(MLF)が五月末に「女性ストライキ」を計画している。

これは、職場における女性差別をなくするのが目的で、一九七五年の「国連婦人年」を目ざして、性差別禁止法の制定を実現させようというもの。

職場でも、学校でも、家庭でも、すべての女性は二十四時間、あらゆる活動を停止、というストライキを準備している。

(5・13朝日)

「女の仕事拒否せよ」

過激派のリップ、スト指令

フランスのウーマン・リップ運動は、このところエスカレートの一途をたどっているが、ついに全国二千七百万女性に三日間のストライキを呼びかける「過激派」まで現れた。

これは、(革命的婦人グループ)と名乗るグループで、男性支配の社会に抗議するための行

動。全女性はこの三日間、セックス、家事など、いっさいの女性の仕事を放棄するよう呼びかけている。

反対派のリップ・グループでは「三日たったら汚れたおサラの山が残るだけよ」と反撃しているが。

(6・10朝日)

女性の地位担当相誕生

ジスカールデスタン大統領は「女性の地位」担当の閣外相を新設し、ジャーナリストのジルーさんを任命した。

(7・18毎日)

署長や警部へ昇進の道開く

上級警察学校(日本の警察大学校に相当)の入学資格を女性にも開放した。

これによって、署長や警部への昇進の道が開けた。

(9・2朝日/9・4毎日)

離婚率高まる

国立統計経済研究所の調査によると、八組に一組の割合で離婚している。

また、フランス人の七七%が離婚手続きの簡素化を望んでいる。

(9・21朝日)

教科書ママとパパ

女性問題相、文部省に抗議
小学生用教科書の一節「ママは食事の支度をし、パンを焼きます。パパは新しい車を買います」にカンカンのフランソワーズ・ジル女性問題担当相は、文部省へ抗議。

同相が示した模範文は「ママはいずれ台所から出るでしょう。そしてパパが入ってくるでしょう。パパとママは一緒に車を買うに行くでしょう」

(10・19毎日)

公立託児所大モテ

フランスは伝統的に家庭第一

主義の国だが、共働きによって収入の増加を図る若夫婦のため、今や託児所は社会的に不可欠な存在。育児にも大きな変化が起

こっている。この変化は、今後とも拡大しそうな見通し。

(12・15朝日)

【イタリア】

離婚法五九%が支持

政局に波紋

イタリアの離婚法は、五月十二、十三両日の国民投票の結果、存続されることになった。

同法の「廃止反対」は有効投票の五九・一%、これに対して「廃止賛成」は四〇・九%で、五百九十万票余りの差だった。投票率は八八・一%。

この投票の結果明らかにになったのは、カトリック教徒が国民の九割以上を占めているこの国でさえ、離婚制度の否認はもはや国民多数の支持を得られなく

なった、という時代の変化であらう。

(5・14朝日)

女性の五二%が

「人生の最大使命は母親役」

イタリアには現在五十六の婦人団体がある。最も意識にめざめたグループと称される「女性解放運動協会」は四年前に発足したが、会は分裂に分裂を重ねているのが実情。

このほど、四千五百人のイタリア女性(大学卒一割を含む)を対象に意識調査を行なった結果、全体の五二%が「人生の最大使命は母親役」と考えており、母親業を疑問視したのは、わずか六%にすぎなかった。また、妻の一六%は夫が家事を手伝ってくれることを希望しているが、これに反対を唱える保守派が一八%もいる。

(5・15朝日)



婦人警官、

人気がありすぎてタイヘン

イタリアで、男の職場であった警察官にはじめて女性が採用されたのは去年のこと。今年も約四十人の婦人警官が訓練を終えて、ローマなどの大都市にさっそうと登場し、主に駐車違反のチェック、学校や公園周辺の交通整理に当たっている。

去年は、この魅力的な婦人警官の交通整理に、車は完全に渋滞してしまい、自家用車やトラック、タクシー、通行人などに取り囲まれた婦人警官の救出に、パトカーが出動する騒ぎとなった。

それにこりて、今年はあまり派手な顔立ちでなく、しかも体のがんじょうな人を選んだとのこと。

(9・25朝日)

【バチカン】

パチカンに女性大使

「女性大使お断り」の九世紀に及ぶ不文律を破り、パウロ六世は、ウガンダの女性外交官の駐パチカン大使にアグレマンを付与した。「男性優位」の法王庁に初の女性大使登場。

(1・12朝日)

*

ウガンダの女性大使は、二十三日、法王に信任状を奉呈。法王の話は、ウガンダ訪問の思い出話に終始し、女性の大使昇任には言及しなかった。

(1・25朝日)

法王が厳しい説教

「産児制限を許さず」食糧危機の解決策として中絶などのバース・コントロールを行なうことは許されないと、パウロ六世は、食糧会議の代表団など二千人に、パチカンの接見室で、調子も厳しく説教。

(11・11朝日)

〔スペイン〕

女性闘牛士復活

フランコ政権発足以来久しく、女性は闘牛ではワキ役だけ。リング上で牛と一騎討ちするマタドーラ(女性闘牛士)になれなかった。

しかし政府は、三十五年ぶりに、女性闘牛士の復活を認めることを決定した。

(8・12毎日／8・21朝日)

〔ポルトガル〕

因習的なポルト市が

IPIに女性記者を派遣
五月十三日から四日間、京都で開かれたIPI(国際新聞編集者協会)に出席したオルガ・ハウスコンセルシュさんは、ポルトワインで有名なポルト市の出身。政府給費留学生として、ブラジルで新聞記者の修行をし、

七〇年から『ジョナル・デ・ノティシアス』紙に勤務した経歴を持つ。年齢はノーコメント、独身。

伝統を重んじるポルト市での女性記者第一号であるが、最初彼女が「記者になりたい」と新聞社に飛び込んだら、編集長が目を丸くした。「記者は女性の仕事ではない」という因習的な反対を押し切って入社。記者を務めるかたわら、大学で法律を学んだ。将来の希望は判事になることだという。

クーデター以前のポルトガルでは、新聞記者がどんなに真実を書いても、政府の気に入らない記事は、検閲でチェックされた。そこで新聞記者は、表現を変え、微妙なニュアンスで真実を伝えることに苦心していた。それだけに、言論の自由を手に入れた喜びは大きい。

自由化で女性進出
(5・16朝日)

スピノラ大統領の辞任で終わった自由化クーデターから半年、映画館は一斉にピンク化し、ポルノ雑誌が氾濫。

男性に比べて女性が元氣。来春の選挙には、婦人政治家の大量進出が予想されている。

また、このほど「両性の合意による離婚の合法化」を目ざす法律改正の方針が、政府から発表された。
(11・9毎日)

〔イギリス〕

今年中にも試験管ベビー誕生
『ニューズ・オブ・ザ・ワールド』紙は、二十七日「五年前に発表された『試験管ベビー』の受胎実験がその後進展し、不妊症に悩む二百人の主婦が、現在その手術を受けている。うまくいけば、今年中に数人の試験管ベビーが英国に誕生するかもしれない」と報じた。

(1・28毎日)

初の女党首誕生か

英保守党の党首選出投票が二月四日に行なわれる。

第一回の投票で対決するのは、総選挙で三度も労働党に敗北し続け、その指導力が問われているヒース現党首と、前教育相のサッチャー女史。

どちらかが、第一回で有権者総数の過半数を獲得し、二位の候補に一五%以上の差をつけなければ、第二回、第三回まで選挙が続く。(1・29朝日)

建て前だけの同一賃金
今年いっぱいまで英国は、一九七〇年に制定した「男女同一賃金法」の完全実施に踏み切ることになっている。

しかし専門家たちは、完全に性差別をなくすまでに、法が婦人労働者を守ってくれるかどうか、疑問視している。

新刊書『一部のための平等英国女子教育史』の著者B・ター

ナー氏もその一人。

(1・29朝日)

女性の低賃金は

職種や格差から

イギリスの婦人労働人口は九百万人、全労働人口の三分の一であるが、彼女らが持ち帰る給料は、全体の五分の一に過ぎない。

その理由はいくつもあるが、まず、同じ仕事をしていても、女性は男性より給料が少ないこと。

次に、女性のほうが給料の安い職種で働いている人が多いこと。またパートタイムで働いている人が多く、しかも労働法による制約や家事の都合などで、残業する人が少ないためである、と『ザ・タイムス』紙。

(2・4朝日)

婦人の地位はむしろ後退?

法の上では男女平等が前進しているイギリスだが、女性の管理職の数は少ない。

「婦人問題評論家のワード

ジャクソン夫人の調査によると、過去十年の間に、職業をもつ婦人の地位は、むしろ後退してきている」と『ザ・タイムス』紙は伝えている。

同夫人によると、後退の理由は、社会保障制度が整ったために、家事の手伝いをする人が大幅に減って、職業婦人が家を空けにくくなったこと、また、共かせぎの収入に対する税率が高いこと、などを挙げている。

(2・11朝日)

労働党新内閣に

二人の婦人閣僚

総選挙後の労働党新政権(ウィルソン首相)は、二人の婦人閣僚を返り咲かせた。

社会保障相のバーバラ・カー
スル女史(六二)と、新しいボストの消費者保護・物価監視相のシャーリー・ウィリアムス夫人(四三)。

このように、生活に密接する分野で、女性大臣がまさに「庶民の守り神」になったところに、こんどの英国の内閣の魅力があると言えそうだ。

特に消費者保護・物価監視相というのは、そのものズバリ。消費者サイドに立った行政が期待されている。

(3・14北海タイムス)

紳士の国の性差別

英国では現在、英国人を夫とする外国人の妻の入国は認められているが、ジェンキンス内相は議会での質問に答えて「英国人を妻とする外国人の夫を、無制限に入国させる考えはない」と述べた。

人権運動の民間団体はこの発言にカンカン。さっそく、全国的規模の抗議運動を始める。

(3・31毎日)

少女にもピル解禁
ピル(経口避妊薬)が希望者

にタダで配られている英国で、保健省はこのほど、母体保護のためなら、十六歳以下の少女に對しても、ピルを処方しても違法でなく、少女の両親にその事実を知らせる必要もないという通達を、各家庭医、産婦人科医に送った。

これは、七二年の英国で、十六歳以下の少女の出産と妊娠中絶が、合わせて四千件を超えていることから、ピル解禁の必要性を認めたため。

しかし、英国では、法的に結婚を認められるのが十六歳以上であることから、この措置が議論を呼ぶことは必至と見られている。議会でも問題になりそう。

(5・17朝日)

ピルはほとんど無害

英王立一般開業医大学の学長が「ピルはほとんど無害」だと、四年間にわたる調査研究の報告を発表した。

従来から言われていた副作用（がん発病の原因になるということのほか、高血圧・精神錯乱・精神分裂症・受胎能力低下等を誘発する可能性がある）の容疑は、すべて「証拠なし」と結論。

しかし「精神的障害を訴えたのは、ピル常用者のほうが三〇%高かった」とか「血栓症にかかる率は、常用しない者の五、六倍」等々、まったくの無害ではないようだ。

が、「それならタバコと同じこと」と、人々の反響は「ピル解禁」支持。ともあれ、女性はピルに殺到するであろう。(5・22朝日)

Ms (ミズ) を公認

女性が既婚か未婚かわからないときは、ミスとかマドモアゼルというよりは、ミセスとかマダムと呼びかけたほうがいい、と教えられた。独身と思われた

い日本女性の心理とは、やや違うように思えた。

だが、この教えも古くなったらしい。

英国旅券局では、このほど、ウーマン・リブ団体の要求を受けられて、パスポートに女性が、ミセスでもミスでもないミズ(Miss)という呼称を書き込むことを正式に許可。(5・25朝日)

怒りのマイ・ホーム

ニューカッスル市に住む三人の子持ちの主婦は、その話を聞いた時、怒りで体を震わせた。「家を買う金を借りたいならまず不妊手術を受けろ、だなんて……」

彼女は、市の分譲住宅を買ううと思ったのだ。市の融資を受ければ、夫と二人の給料で返していける。

ところが市は、共かせぎの妻が四十歳以下の場合、妻の収入を返済計画に組み入れることを

認めないという。子どもが出来て収入を失う恐れがあるからだ。夫婦はついに持ち家の夢をあきらめた。

米国でも、若い夫婦が住宅ローンを申し込むと、経口避妊薬を飲んでいるか、夫婦の一方が不妊手術をしたか、と聞かれることが多い。

ローマの住宅難は十年來だが、それも限界に達したらしい。値上がりを待つて空き家のままになっている新築アパートを、家なき民が不法占拠する例が急に増えだした。

広い家が欲しい。自分の家、自分の土地に住みたいこの望みは世界共通だ。

その願いが、土地不足、政府の無策、インフレ、買い占めなどで裏切られたとき、庶民の怒りは激しく爆発する。

(5・26朝日)



「政策で物価は下がるはず」

物価・消費者保護担当相

シャーリー・ウィリアムズさん

は、労働党内閣の物価・消費者保護担当相、四十三歳。経済専門紙「フィナンシャル・タイムス」の元記者。

同相は「企業利益を抑えて食料品の価格を下げ、消費者に十分な情報を流せば、必ず物価は下降するはずだ」と主張している。

(8・12朝日)

「タイムス」に初の女性編集長

リタ・マーシャルさん、「タイムス」紙の百八十六年の歴史上、女性では初の編集長に就任した。記者歴は二十年。

(9・3毎日)

「平等賃金法」来年から

男女の賃金格差廃止を各企業に義務づける「平等賃金法」が、いよいよ来年から施行されることになった。

なお、「女性差別撤廃法案」

は今年の末、議会に提出される。

(9・8毎日)

秘書はステキ

英国では、求人十二に求職一という秘書不足。

しかし秘書という職業は、代議士やジャーナリスト、マネージャー等への格好の踏み台になる……。

マークス著『思いつきのタイプライター』は、秘書業の「うまみ」と、秘書の上手な使い方を示したものと、話題を呼んでいる。

(11・12朝日)

ミス・ワールドに未婚の母

ロンドンで二十二日行なわれたミス・ワールド・コンテストの第一位に、英国代表で「未婚の母」のヘレン・モーガンさんが選ばれた。

(11・24毎日)

*

これに不満を持つ美女たちに

つるし上げられた主催者側は、二十四日、今後は子持ちの「ミス」応募は禁止すると発表。

(11・26毎日)

*

未婚の母ヘレン・モーガンさんは、英国代表としてミス・ワールドに選ばれたが、四日後にタイトルを返上した。

これは赤ちゃんがいることとは無関係で、離婚訴訟のためだということ強調している。

(11・27朝日)

寿命も男女平等に？

英国政府の年次統計によると、今年生まれた女兒の余命は七十五歳で、同年の男児より六歳も寿命が長い。

しかし、最近、女性の生活パターンが男性に近づき、精神的にも肉体的にも男性と同じような課題や悩みを抱くようになってきた。

したがって、女性の寿命の優

位性も、今後、そう長くは続かないかもしれない、と言われている。

(12・5朝日)

「ウガンダ」

才色兼備、独身の大官

エリザベス・バガヤ外相は三十三歳。女性大臣の中でも異例の若さだ。旧ミロ族王国の元女王、加えて生来の美ぼうと、すぐれた頭脳、そして野心と社交性から、アフリカでは最高の知名度を持つ女性の一人。

英国ケンブリッジ大学に学んだ後、東アフリカで初の女性弁護士資格を獲得した。しかし王制廃止で、王族の身分を奪われて英国に亡命し、ファッション・モデルとしてデビュー、また女優として二、三の映画に出演もした。

一九七一年、アミン將軍がクーデターを起こして実権を握ったことを知って帰国、移動

大使に任命された。

七一年の国連総会では、ウガンダ代表として声明を発表したり、その他、外交舞台での活動も目立った。

七四年二月、外相に任命される。
(3・21西日本)

*

婦人外相クビ

アミン大統領はエリザベス・

バガヤ外相を、突然解任した。

理由は、国連代表として受け取った公金の半分以上を、ドレスなど、ぜいたくな私物の購入にあてたためと言われている。

また、米国や英国の情報機関と接触して、国家の安全を危うくした、などとも……。

あるアフリカ国連大使夫人はいきり立って「アミン大統領は性差別主義者よ。バガヤさんは私たちの誇りだったのに」と言った。
(12・9朝日)

〔カナダ〕

女性の入隊制限を緩和

カナダの軍隊は、女性の入隊制限を緩和し、百二十一種の軍務のうち、女性を採用できるものを、四十八種から八十二種に増やした。
(12・28朝日)

〔アメリカ合衆国〕

活躍する女性ロピイスト

『ニューヨークタイムズ』紙によると、陳情や請願をとりもったりして、議会やその他の場所、議員に働きかけることを仕事とするロピイストの正式登録者数は千五百人以上だが、女性も、現在、二十八人いる。

女性ロピイストの場合は、活動範囲が、教育、公害防止、消費、労働団体などに限定されていることが多く、運動資金も、まことにささやかなものだと言

われている。

しかし彼女たちは、政治意識に目ざめた女性グループや小党派の意見を、少しでも多く議会に反映させるために駆けまわって、地味ではあるが有意義な仕事を懸命に続けている。

(1・9朝日)

妊娠休暇の強制は違憲

おながが大きくなったら教壇に立つてはいけない、と無理やり休暇(無給)をとらせられるが、この現行規則は憲法違反と米国の女教師が四年越しに起こしていた訴訟を、二十一日、米最高裁が認めた。

(1・23朝日)

男女の不平等を解消せよ

教職員が大学当局を訴える
ニューヨーク市立大学教職員五千人が、男女の不平等をなくすには、具体的な差別を公の機関に訴える実際的な手段に出る

しかないと考え、未払い報酬および損害賠償金として、大学当局に四千万ドルを請求する訴訟を連邦裁判所に持ち込んだ。

(1・24朝日)

増えた働く母親

足りない託児所

アメリカの母親が働いている比率は四二%に達し、そのうち千三百万人は独身または未亡人、離婚した者などで、その多くは子守や家政婦を求め、または託児所を探しているという。

(2・4朝日)

第三世界の国際婦人デー

第三世界の女たちがサンフランシスコで、白人の組織とは別に自らの手で、初めて国際婦人デーを祝う集会を成功させた。
「たえず最下層におかれている」女たちの抑圧された者の叫びは胸に響いた。

長い人種差別の歴史を乗り越

え、最後に各国語で歌われたインターの合唱が印象深かった。
(上野まちこ) (4・26婦民)

女性管理職養成大学院に

十倍もの応募

ボストンのシモンズ大学は女性管理職養成の、大学院レベルの教育機関を初めて設置した。初年度は一部開校して六十人の学生を募ったところ、十倍の六百人が応募してきた。

十三課目のうち五課目は、男性

性優位社会の中にあつて女性管理職が生き抜くときの諸問題に焦点が合はされ、残りの八課目は男性の経済学部と変わらないという。
(5・13朝日)

母親同士が子守を交換する

共同組合

ベビー・シッターはアメリカのお母さんに不可欠だが、子どもがよくないむを探すのはなかなか大変。苦勞の末に生まれ

たのが、母親同士が子守を交換する「ベビー・シッター共同組合」。

規則としては、たとえば昼間なら自分の家に子どもを連れて来るが、夜は子どもの家に行く。ただし報酬は、昼夜同格に扱う。また子どもが一人でも数人でも同じこと。そして二十時間以上の借りをつくつてはならない、など定められている。
(5・15朝日)

タバコの誘惑に弱い女性

男性は減っているのに
現在、米国の喫煙人口は、二十一歳以上の成人中、男性が四割、女性が三割。

タバコは肺がんなどの原因となり、健康によくないという警告が発せられて以来、男の喫煙者は年ごとに減っているのに、女のほうは全然変わらず、しかも彼女らの喫煙本数は着実に上昇しているという。

なぜアメリカ女性は男性よりタバコの誘惑に弱いのかについて、ある社会心理学者は①やせたいという願望②タバコの広告に代表される自由でスマートな女性への願望③日常のストレスからの解放と気分転換、などを挙げている。
(5・17朝日)

警察官の採用も男女同権に

米デトロイト警察当局を、二十六歳のクライン嬢が、女性に対する雇用差別で訴えた。

連邦裁判所はとりあえず「男性と同数だけ女性を雇え」と命令した。だが、男子警官のもっぱらの意見は「外勤は女にきつすぎる」

クライン嬢の採用拒否の表向きの理由は短大を出ていないということになっている。これに対し「男は高校卒でいいのに」と彼女は反論している。

(5・18朝日)

女の子も男の子も

同じカリキュラムの託児所

ニューヨーク市イーストサイドにある教育同盟託児センターでは、ままごと遊びでパンをこねる男の子、金づちを使って箱作りで熟中する女の子などの姿が目に入る。この託児センターは、非性差別カリキュラムを採用している託児所の一つで、男女の役割に関する偏見から児童を解放し、自由に子どもの才能を育成する目的で組織された、同市の「婦人行動同盟」が運営している。

男の子は親切で思いやりのある人間を目指し、女の子はもっと活動的になり、広い視野がもてるよう教育課程が編成されている。
(5・24朝日)

女子大生、婦人問題の研究も

修学旅行の日程に

観光コースのほかに、ニューヨーク市警察の性犯罪課や、市

役所の人権擁護委員会への訪問などの日程も入れて、婦人問題の研究も兼ねた修学旅行を希望する女子大生が増えているという。

ある短大では「大都會で働く女性に関する実地調査と研修」を目的として、教授や講師とともに、二週間のニューヨーク旅行を実施したという。

(5・29朝日)

科学に強い女性を

女性の職場進出で、目立って遅れているのが、科学と技術の分野。

「ニューヨークタイムス」紙によると、先ごろMIT（マサチューセッツ工科大学）で開催された「科学と工学における女性」研究部会で、この道での女性の活躍が少ないのはなぜか、ということが討議されたが、その理由は、「性差別によるとい

うよりも、これまで、家庭や社

会が伝統的な女性像に期待をかけ、女性に対しては、数学・物理・科学などに強くなる教育をしなかったからだ」という意見が多かったという。

部会では、科学教育の面でも親や教師がもっと積極的に努力するべきだとしている。

(6・5朝日)

看護婦四千人が一斉スト

サンフランシスコ周辺で

四十か所の病院に勤務する看護婦四千人以上が七日、労働軽減と賃上げを旗じるしに、一斉ストに突入した。

このため、サンフランシスコ、オークランド両市と周辺部では公立病院を除くほとんどの医療施設で、重症患者以外の診療はいつさいできなくなった。

軽症患者は、次々に、退院を余儀なくされている。

(6・8朝日)

ボランティアは

女性の経済的自立を妨げる

ウーマン・リブの代表的組織

〈NOW〉では、「ボランティ

アは無報酬の家事育児の延長で、

女性の経済的自立を妨げるもの。

労働には、正当な報酬を要求す

べきである」と宣言し、賛成・

非難の論争が起こっている。

(7・19朝日)

〈NOW〉の要求

〈NOW〉の会議で、地方分

権が強すぎる時代遅れの離婚法

を改正することや、判事や弁護士に女性の増員を要求すること

になった。

(7・23朝日)

進出する女医

入学難の医科大学に女子学生

数が全体の二五・四％に急増、

ハーバードやコロンビアなど有名

名大学では約三分の一。

これまで、女性の専門医は、

小児科・麻酔科・精神分析科が

多かったが、最近では産婦人科医が増加している。(8・12朝日)

女性運動家に高い評価

消費者運動の先進国アメリカ

では、日本とは違って女性運動

家の実力が評価され、行政や民

間レベルで重要な地位を占めて

いる。

トップレベルの行政担当者から

草の根まで、幅広い影響力を

もって活動している女性運動家

が多い。(8・29毎日)

八月二十六日を

「女性平等の日」に決定

フォード大統領は、一九二〇

年のこの日、婦人参政権が認め

られたことを記念して、八月二

十六日を「女性平等の日」とす

る法律に署名、男女平等をう

たった憲法修正の批准を各州に

呼びかけた。

(9・2朝日)

地域に根づく奉仕活動

時間と能力を生かして無報酬で社会に奉仕する、アメリカや

カナダのボランティア活動は、①地域②病院・福祉施設③美術館・博物館④学校、等に分かれ

婦人の多くが参加している。日本政府は各地の婦人団体の指導者二十名を、ボランティア活動視察のために派遣した。

(11・21朝日)

増える暴力亭主

ニューヨーク家裁に持ちこまれる夫の暴力苦情事件は一万四千件、バート博士は「警察にカウンセラーをおくべきだ」と述べている。

(11・28朝日)

米国にも女性宇宙飛行士?

スカイラブで宇宙を飛んだアメリカ初の医学者カーウィン博士は「一九八〇年代の初めに女性科学者が宇宙を飛び、やがて大型宇宙ステーションでも女性

が飛ぶことになるだろう」と話した。

(12・3朝日)

幼児教育の男女差別撤廃

ニューヨークの「婦人行動同盟」は、現在の幼児教育の教材にも男女差別があるとして、新しい教材やおもちゃのモデルを作った。

また、白人・黒人同数の家庭セット等によって、家族に入り組む人種の問題等、社会知識の増進にも取り組んでいる。

(12・16朝日)

男女同権に男性も努力

婦人の地位改善に賛成する男性が四年前に比べると一二%も増えた。

家庭生活においても、家事育児の相互分担、仕事と家庭の両立を望む女性が多く、米国社会での女権拡張、男女同権は着実に進展を見せている。

(12・9朝日)

脱皮する家政学部

米国に、家政学部を有する大学は三百六十。

かつては夫探しの美人の集まる所と思われていたが、新時代にふさわしく、学部名を「人間生態学部」と改め、充実した一般教養と社会科学講座をもつものとした大学(コネル大やペンシルベニア州立大)もある。

(12・25朝日)

〔キューバ〕

カストロ新民法計画

カストロ首相は革命記念式典の席上、女性解放が進まなかったことを認め、女性の地位を高める新民法の制定計画を発表した。

(9・3朝日)

〔アルゼンチン〕

壁うがつ女の一念
フェノスアイレスから約七百

キロ離れたコルドバの刑務所で、

服役者二十六人がトンネルを掘って集団脱走を試みて失敗したが、壁にせつせと穴を掘った

のは全員女性だったと聞き、市民はびっくり。もっとも、同収容所の女性のほとんどが過激派ゲリラという。(1・24朝日)

〔南米〕

「成功は女房のおかげ」

と日本人移住者

「女性の権利とか保護どころじゃない。生活するために否応なく協力して働かねばなりませんから、奥さんなしでは、とても成功できない」と、南米各地の日本人移住者たちから聞いた。そして、主婦たちの座談会に妻に付き添って会場へ来る夫の姿が珍しくなかった。へ海外移住婦人ホームン理事・山本若葉さんの報告。(1・13朝日)

あーら読書室

人生を二倍に楽しむ
女の日常生活学

深尾凱子著

三笠書房

見るからに一心不乱な生き方の人が多いジャーナリストの中で、深尾さんはきわだってクールに見える。おしゃれで割り切っていて……。

そんな深尾さんを、ちょっと「遠い人」のように思っていた時期があるが、年ごとにだんだん好きになってきた。会うたびにキレイになる人。聡明。スマート。

その深尾さんの正体をさらりと披露したのがこの本である。副題は、「女性新聞記者の365日」だが、読み終わったとき「三百六十五の項目があったのでは」とフト思ったほど、簡潔でテンポのいい文章がポンポンと頭の中を走り抜けて、脳の中のゴミが一掃されたような気持ちになった。

美容法、健康法、料理、ことばづかい、取

材心得、夫選びまで、多彩で見事な実用書だが、三十三年間働き続けた二児の母が「今まで一度も仕事を辞めようとは思ったことがない」とサラリと言いつける秘密がどのページにも満ち満ちている。好奇心いっぱい、こたわらない、肩ひじ張らない、「がんばる」はキライ、「Take it easy（気楽に）」が好き、「とんでる」は大きい、「歩き続ける」、というフェミニストの、自然体フェミニズムが

いい。
(88年11月刊B6判二二七ページ九百八十円)
(斎藤千代)

「女縁」が世の中を変える

脱専業主婦のネットワーキング

上野千鶴子編
日本経済新聞社

主婦的な状況を引きずりながら、毎日、何とか「脱主婦」を試みている私を、こつも、きつちり分析されてはたまらない。

〈東海BOC〉のオフィスで、私と同じような試みをしている仲間の、松本八重子さんに「上野さんの今度の本、面白かったネ」と言ったら、「だってネあれば、ちよつとネ」と言つて言葉がとぎれてしまった。

「ちよつとネ」と言いよんだ彼女の反応に、私は、あとの言葉は補わなくてもなかだか勝手に私は八重子さんの言いたいことがわかってしまったような気がした。人は本当のことを言われると腹を立てるものだと言いたことがある。

千鶴子さんの、主婦たちへの分析は、本当を通り過ぎて、鋭く、綿密なので、ただただ敬服するばかりである。「本当」のことを言われても、不思議に腹が立たないのは彼女の鋭さ、きびしさ、いつも女性たちへのやさしさをベースにしているからだと思う。

「専業主婦は、時代に取り残された女たちというわけではない。女たちが働きに出る一方で、働きに出なかった女たちも大きく変貌をとげたのがこの十年間だった。

脱専業主婦は、兼業主婦と同じく、「外さん化」を果した出歩く主婦である。ちがうのは、出歩く先とやっていることがおカネに

なるかならないか。忙しさは変わらない。私は以前、兼業主婦を「出歩いておカネを稼いでくる主婦」、脱専業主婦を、「出歩いておカネを使ってくる主婦」と定義したことがあるが、最近、脱専業主婦も「カネにならない活動」を「カネになる活動」に変えてきているので、この境界も流動的になってきた」

千鶴子さんは、脱専業主婦たちがつくりあげているのは、脱血縁、脱地縁、脱社縁の新しい人間関係、すなわち、選択縁であるとし、女たちがつくりだした選択縁の集団を女縁と呼んで、女縁活動を生き生きとエンジョイしている彼女たちを「えんじょ（縁女）いす」と名付けている。

この「えんじょいす」との時間資源は、日本の男性労働者の長時間労働つまりは、不在がちの夫という下部構造によって支えられていると説く。

その夫の性格は、細部にこだわらない一点満足主義、「ウチのことは妻にまかせた」分業型夫婦。それに「えんじょいす」は「午後三時のシンデレラ」。子どもの帰りに合わせて簡単な腹ごしらえをさせてやり、夫の帰宅までに二度目の外出をするなどと、なかなか観察が細かい。

それに、「えんじょいす」とは、まああまの収入のある夫を持っていて、やや経済的なゆとりもあり、「わたし、ふつうのオバサンです」と名乗ったりするが、なかなかで、日展に数回入選していたりしていて、「無業の妻」であることを少しも恥じていないそう。だ。「えんじょいす」とは、「自分名義の預金口座」「手帳」「実印」「自分の机」「名刺」「住所印」を持っているとか。

もしかして、自分は「えんじょいす」との範ちゅうに入るかもしれないと思いついた方々の一読二読をおすすめしたい。

（88年9月刊四六判二二〇ページ、千二百円）
（えんじょいすともどき・高橋ますみ）

母性を問う 歴史の変遷（上）（下）

脇田晴子編

人文書院

「母性」は女の天職として位置づけられ、大昔から不変の真理のように考えられてきた。いま、それは揺らいでいる。母になることを選択しない女性、職業に自己実現を求める女性の増加が少しずつ伝統的な母性の位置づけを変えつつある。

しかし、過去の歴史において母性は果たして女の天職であったのだろうか。母性の観念は時代によって一様ではなくかなり変化をとっているのではないか。この変遷のあとをたどるために文献史学からだけではなく民俗学、文化人類学、考古学等、広いフィールドにわたる女性研究者たちの共同労作として本書は編集されている。

日本の歴史の各時代に「母性」はいかなるものとして人々は考えていたのか。日本の母と子の関係が特異とされるのも時代と関係があるのか。各時代の国家や社会が女性に求める母性と、女性に内在する母性の本質が矛盾や乖離をはらみながら現代に及ぶ歴史の変遷を多角的にとらえようとする意図が画期的であり、今日の母性を考える糸口を提供するものとして本書はすぐれた研究成果である。

第一回女性史青山賞を受賞図書でもあり女性問題に関心を持つ人々に一読をすすめるたい。

（85年10月刊、上二八九ページ 下二八六ページ、各二千円）

（福田光子）

青鞨時代

―平塚らいてうと新しい女たち

堀場清子著

岩波書店

広い屋敷の円窓のある別棟の部屋に端座して座禪をくむ一人の女性、平塚らいてうの描写からこの一冊の新書は始まる。一九一一年夏、女たちの行くてに高々と解放の旗幟をかかげて「青鞨」は産ぶ声を上げた。創刊に至るまでの平塚明（らいてう）の生い立ちと、人間としての覚醒、思惟の深まりを辿りながら、塩原事件をも含む一連のドラマを当時の新聞・雑誌の記事を駆使して詳細に描き切る。著者は「これまで青鞨が、時代を切り裂くように前に出たと考えてきた。それは現在も変わりはない。が、それと同時に、この時代の女の状況を洗えば洗うほど、むしろ時代のほうが主役であって、「時代」が「青鞨」を押し出したとさえ言いたい気持ちにしばしば駆られる」と述べている。

この本の意図も一九一一年から五年に至る当時の新聞・雑誌の記事や当時を語る証言によって時代を再現するとともに「青鞨」に拠り立つはじけるような個性の群像に光をあて

「新しい女」の時代を語る。「女の時代」のまこうかたなき上げ潮が、そこに音をたてていた、と述べているが、尾竹紅吉から伊藤野枝に至るまで、因習を打破し女の解放を求める一方、ひとりひとりがかかえる苦悩の深さが何と時代を重いものに行っていることが「新しい女」にむけられるさまざまな中傷と苦悶しつつも最盛期を迎える青鞨が、やがて幾たびかの発禁の追い打ちと青鞨社内部分の破綻の果てに息たえる。

逆風の中に敢然と立ちむかう勇氣は、らいてうの類いまれな美談として、その光芒は今もなお女たちの行く手を背後から照らすことを疑う者はいない。

幾多の新事実を沢山の資料の裏づけによって青鞨の解釈に著者の真摯な研究が、またひとつの鉦を打ちこんだことを心から喜びたい（83年3月刊新書判二六〇ページ五百三十円）

（福田光子）



アウト・オン・ア・リム

(OUT ON A LIMB)

シャーリー・マクレーン著

山川絃矢・亜希子 訳

地湧社

本の題名は訳者の言葉を借りると、果物、すなわち「真性」を得るためには枝の先まで危険を冒して登らなければならないという意味です。この本の面白さは読む人によって、どのようにしても読むことができるということとあり、アカデミー賞を獲得した女優の作品。自伝小説・告白小説・恋愛小説・オカルト小説・SF小説・人生哲学の本・宗教の本・新時代を告げる本・意識改革の本でもあります。読んでいる間に、学生時代に人生の師を求め続けて、聖書や沢田興道全集等をさまざま読んでいた頃がなつかしく、この本との出会いは眼からうるこが落ちます。己を知るとは、いったいどういうことなのか、また読んだ時にも勇氣を与えてくれるでしょう。

（86年3月刊B6判四二二ページ、千五百円）

（阪本千恵子）



女たちが変えるアメリカ

ホーン川鳴瑠子著

岩波書店

戦後日本の女性の社会進出はめざましく、生き方の多様化とともに、さまざまな変化がもたらされている。また、マイノリティーがマジョリティーに変わるとき、もろもろの問題提起がなされる。この本は女たちが抱えるアメリカの多様化に伴う諸問題をあらゆる角度から歴史の経緯をふまえて書き進められている。第二次世界大戦のあと、一九五〇年代は女性の家庭回帰を呼びかけるマイホーム主義が強調されたが、一九七〇年、ベティ・フリーダンの主張をきっかけとして、戦後衰退傾向にあった女性運動が新たな活力を経て、再出発の火つけ役となり、女性たちの強い平等要求がアメリカの社会変革を可能にした。

アメリカと日本の実状は違いこそあれ、当然その経過と諸問題を正視しなければならぬ。課題は残されているものの、溢れるようなエネルギーと複眼思考が現状認識を豊かにしてくれ、読みごたえがある。多くの問題は、日本人にとって速い雷鳴ではない。
(88年5月刊、新書判二三二ページ、四百八十円)

(阪本千恵子)

HELPから見た日本

大島静子／キャロリン・フランジス著

朝日新聞社

おもしろかった。そして情けなくなった。中流意識が多数を占めているという日本が、いかに貧しい生活者の集団であるか、差別のはびこっている社会であるかを、あらためて教えてくれたのだから。

言葉の通じないマリリンさんを助ける通りすがりの女性、エンマさんに旅館の客室係りの仕事を世話する奥さんなどのエピソードに、その人の日常生活の豊かさを思う。

日本キリスト教婦人矯風会が女のために開いた駆けこみセンター「ヘルプ」の一九八六

年四月から、ほんの二年間余の活動から、最も現在にふさわしい問題をとらえた本。
「いよいよ深刻な業者に対する政治の無力、女性と外国人への差別、抑圧された者を切り棄てる政策、閉鎖的な国内にだけ通用する法律」(二五一ページ)など、事実をつきつけられて嘆いてばかりはいられない。読んでものを考えさせ、行動しようじゃないか、と呼びかけてくる書物である。

(88年11月刊四六二・二七二ページ、千三百円)

(桑原ちあ子)



予感（ジャーナリストと天皇）

増田れい子

（女の新聞編集長）

冬の日ざしのぬくいこと。早朝から夕刻近くまで、緑さに日ざしのコンパスがまわっている。火鉢に炭火をかこい、白いほうろう引きのやかんをのせている。湯気が小さく立ちのぼっている。

静かな冬の日だ。しかし、私には予感がある。このような静かな日は、近い将来確実に破られるだろう。

天皇裕仁氏がその生涯を終わる日、いわゆるXデー到来とともに、嵐はやってくるだろう。もしかしたら私は、その嵐にしたかにもまれるのではないか。何故ならば、生来正直者なので、ウソは言えない。その上、まことにひよんなことながら、私はジャーナリストのはしくれである。言うべきことを言わねばならぬ立場にある。

人間に対する抑圧機構として作動する限りに於て、私は日本が採用してきた政治の仕掛けである“天皇制”を拒否する。

“天皇制”が、一個のまぎれもなくほろびゆくいのちである裕仁と名付けられた人間を“神”にかえ、不可侵の大権を与えたとき“天皇制”が人間の敵となったことは、日本の近代史が証明して見せたところである。“天皇制”は裕仁氏自身にとっても、実は大いなる

自己破壊の“敵”ではなかったのか。“神”であることを強要されたもつとも不遇な一個の人間と言えるのではないか。

戦後、憲法はあらためられ、天皇の地位は“神”から“象徴”に変わった。その変更、その転換の経緯、狙いを見れば、国民不在の政治的決着であったことは明らかである。しかしそのことを、戦後の日本社会は、問題にする能力を持ち合わなかった。不問に付し避けてとおるうちに菊タブーは厚くたれこめた。

戦後の日本のジャーナリズム一般が、とりわけ大新聞社が、“天皇制”について深く切り込む作業を怠っていたことは、誰の目にも明らかである。

私自身は、戦争ないし平和あるいは民主主義、女性というテーマをとりあげつつ間接的に“戦前の天皇制”ならびに“天皇制復帰”をもくろむ一部勢力を批判するという極めて姑息な手段をとってきたが、菊タブーをつくり出す勢力には太刀うち出来ていない。しかしやめるつもりはない。たとえ嵐のなかにあっても。

くれを感じてしまいました。それでも（似非）会員にかかわらず清水の舞台から飛び降りるような気持ちでこのように書きましたのも、公言することです。自らを縛り、閉塞状態から抜け出すきっかけを掴みたいと思ったからです。今後ともよろしくお願い致します。

（東京・高宮弘子）

◇いつも丁寧な編集に敬服しております。そして、よく続くことと感心しております。どれだけの固定読者があるのか、こういう出版物につく人は多いはずはないと思いますが、とにかくこの努力の賜物でしょう。どうぞお元気で頑張ってください。これ以外に道はないと思えば元氣もでるでしょう。

（東京・伊藤雅子 公務員）

〔編集後記〕

◆生きていれば、今ちょうど思春期。若いエネルギーを外にぶつけ、内に秘め、迷い悩む思春期。脂っばい額に二

キビなんかつくって、ザケンじゃねえのツッパリ盛り。

一九七三年、七十四年。都会の駅のコインロッカーの中で名前もないまま冷たくなっていた赤ちゃんたち。ふわふわのおくるみに包まれて、ガラガラや花を入れてもらっていた赤ちゃんもいたそう。

雨の日の図書館通い。縮刷版のページをめくる手を休めて外をみるとしとしと雨。鎮魂歌。東北は夏になって陽が照らず、寒い夏を過ごしました。開けない夜はない——元氣な女、ツイてない女たちと心を通わせ興奮し、苦笑しながら「こういう仕事、結構私の性に合っているみたいですよ」と、机の上の作業を楽しませていただきました。

（船）

◆切り抜きは女の運動に必要……と、繰り返される不必要論に抵抗しながら続けてきた日々のことを思い出しました。それぞれの担当者が山のような新聞紙

とたたかい、団地族は家庭争議まで起こしたことも、今はなつかしい思い出です。あの苦勞が「今」に役立ちますように。

（千）

◆二十年前の記事を読みながら、なんと今と似ていることか……と思いました。土地の高騰、インフレ、心よりもモノの時代……。人間は経験によって賢くなるはずなのに、相も変わらずおろかなこと。

（春）

◆整理しながら、この記事はあの方、これは誰……と、切り抜いたりリライトしてくださった方々のお顔を思い出しました。北海道から九州まで、たくさんの方の汗の結晶。女の今と明日に寄せる熱い思いに、読み返しながら胸がキューンとなりました。

（ま）

この号は、印刷直前になって印字が消え、思いもかけず刊行が遅くなりました。深くおわび申し上げます。

へあごらは、ギリシャ語でへひろばの意味。

女の生き方、人間の解放について話しあうへひろば。さくのないへひろばです。

経歴も年齢も性別も関係なく、同じ平場で話しあおう。ちがう価値観にも耳傾けよう。

そして、女も、男も、生き生きと、のびやかに生きられる社会を目指そう、

と、一九七二年以来、資料誌『あごら』(年二回刊)を、また一九七七年からは『月刊あごら』を発行してきました。

特定の、管理された情報は氾濫していますが、私たちのほんとうにほしい情報は手に入りにくい現状のなかで、女の側が必要とする情報を集め、資料に基づいて討論したいと願っています。

あなたの地域の、職場の、そしてあなた自身の情報を、どしどしお寄せください。全国各地のへあごら拠点にもお出かけください。

●へあごらは、どの企業、どの政党、どの宗教とも、いっさい無関係。
会費と、有志の基金と、雑誌の売上代で運営しています。

●全国各地の拠点では、それぞれ、その地域に応じた活動をしています。

●現在の主な活動は、

①拠点を軸にした勉強会や社会活動

②『月刊あごら』および『特集あごら』の発行

③女性の創造力や専門的技術を集めた創造力の銀行(BOC)の運営

④読書室の運営

⑤可能性教室(英語教室、再就職準備講座など)の運営、その他。

●会費は月額六百元(年額七千二百円)、前納制。入会金は不要。

●申し込みとお問い合わせは、

〒1160 東京都新宿区新宿一の九の六 あごら事務局(TEL 03-354-3941)へ

『あごら』136号(特集35号) 1988年12月10日発行

- 編集 浅野美和子／石黒真貴子／大島ふさ子／小川俣子／小島サカエ／
小高節世／後藤多見／斎藤千代／菅原政子／竹内全子／寺沢恵美子／
中村宏子／根井はる／前田信子／緑川仁子／三船照子／山口美穂子
- 発行所 BOC出版部〒160東京都新宿区新宿1-9-6 ●03-354-3941 ●振替東京0-5264
- 発行人 〈あごら〉運営会議 ●定価 2,500円
-

